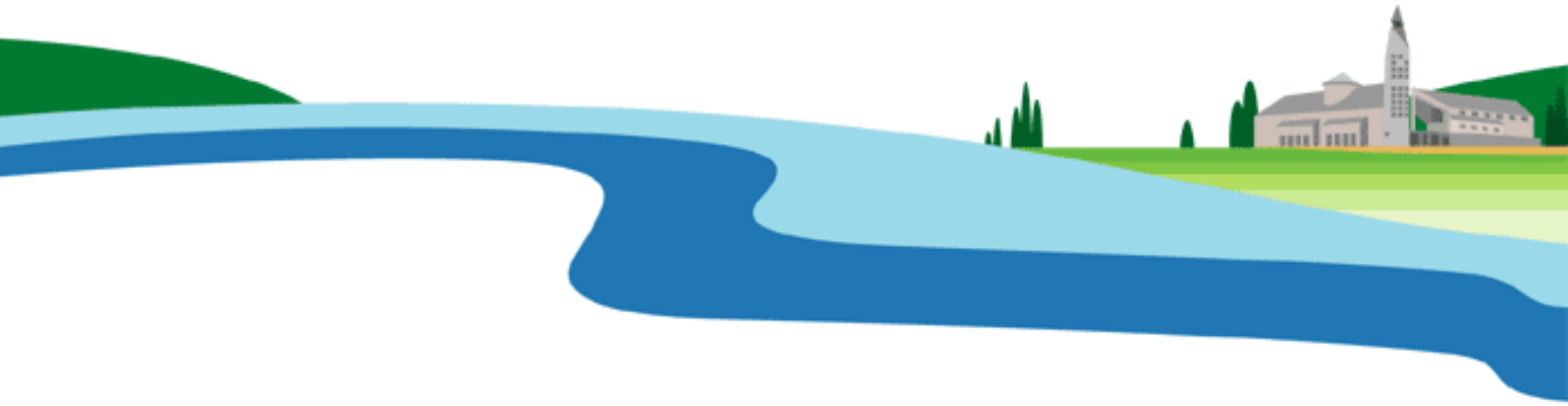
滋賀県立大学



滋賀県立大学
平成３０（２０１８）年度

講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo（https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/）で、ご確認ください。

目　　次

1110201 英語ＩＡ（活性化コース）（再履修） Armando Duarte 前期 ・・・ 1
1110202 英語ＩＢ（活性化コース）（再履修） Armando Duarte 後期 ・・・ 3
1110411 英語ⅡＡ（応用コース）（再履修） Walter Klinger 前期 ・・・ 5
1110412 英語ⅡＢ（応用コース）（再履修） Walter Klinger 後期 ・・・ 7
1110621 英語ⅢＡ（充実コース）（再履修） 菰田　真由美 前期 ・・・ 9
1110622 英語ⅢＢ（充実コース）（再履修） 菰田　真由美 後期 ・・・ 11
1110831 英語ⅣＡ（展開コース）（再履修） 神田　眞喜子 前期 ・・・ 13
1110832 英語ⅣＢ（展開コース）（再履修） 神田　眞喜子 後期 ・・・ 15
1110981 初習英語ＩＡ Armando Duarte 前期 ・・・ 17
1110982 初習英語ＩＢ 坂本　輝世 後期 ・・・ 19
1110991 初習英語ⅡＡ 神田　眞喜子 前期 ・・・ 21
1110992 初習英語ⅡＢ Walter Klinger 後期 ・・・ 23
1120011 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限） 竹内　一高※ 前期 ・・・ 25
1120012 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限） 竹内　一高※ 後期 ・・・ 27
1120021 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限） 麻生　陽子※ 前期 ・・・ 29
1120022 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限） 麻生　陽子※ 後期 ・・・ 31
1120031 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限） 竹内　一高※ 前期 ・・・ 33
1120032 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限） 竹内　一高※ 後期 ・・・ 35
1120041 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限） 麻生　陽子※ 前期 ・・・ 37
1120042 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限） 麻生　陽子※ 後期 ・・・ 39
1120051 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限） 竹内　一高※ 前期 ・・・ 41
1120052 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限） 竹内　一高※ 後期 ・・・ 43
1120056 ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限） 麻生　陽子※ 前期 ・・・ 45
1120057 ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限） 麻生　陽子※ 後期 ・・・ 47
1120061 ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 吉村　淳一 前期 ・・・ 49
1120062 ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 吉村　淳一 後期 ・・・ 51
1120071 ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 大森　智子※ 前期 ・・・ 53
1120072 ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 大森　智子※ 後期 ・・・ 55
1120091 ドイツ語ⅡＡ（中級コース）（火3限） 大森　智子※ 前期 ・・・ 57
1120092 ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火3限） 大森　智子※ 後期 ・・・ 59
1120131 フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限） 辻村　暁子※ 前期 ・・・ 61
1120132 フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限） 辻村　暁子※ 後期 ・・・ 63
1120141 フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限） 辻村　暁子※ 前期 ・・・ 65
1120142 フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限） 辻村　暁子※ 後期 ・・・ 67
1120151 フランス語ＩＡ（初級コース）（水2限） 辻村　暁子※ 前期 ・・・ 69
1120152 フランス語ＩＢ（初級コース）（水2限） 辻村　暁子※ 後期 ・・・ 71
1120161 フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限） 桂川　久※ 前期 ・・・ 73
1120162 フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限） 桂川　久※ 後期 ・・・ 75
1120171 フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限） 桂川　久※ 前期 ・・・ 77
1120172 フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限） 桂川　久※ 後期 ・・・ 79
1120191 フランス語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 桂川　久※ 前期 ・・・ 81
1120192 フランス語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 桂川　久※ 後期 ・・・ 83
1120201 フランス語ⅡＡ（中級コース）（火3限） 桂川　久※ 前期 ・・・ 85
1120202 フランス語ⅡＢ（中級コース）（火3限） 桂川　久※ 後期 ・・・ 87
1120251 中国語ＩＡ（初級コース）（水4限） 桜木　陽子※ 前期 ・・・ 89
1120252 中国語ＩＢ（初級コース）（水4限） 桜木　陽子※ 後期 ・・・ 91
1120271 中国語ＩＡ（初級コース）（水1限） 林　虹※ 前期 ・・・ 93
1120272 中国語ＩＢ（初級コース）（水1限） 林　虹※ 後期 ・・・ 95
1120281 中国語ＩＡ（初級コース）（水2限） 唐　楽寧※ 前期 ・・・ 97
1120282 中国語ＩＢ（初級コース）（水2限） 唐　楽寧※ 後期 ・・・ 99
1120291 中国語ＩＡ（初級コース）（水2限） 林　虹※ 前期 ・・・ 101
1120292 中国語ＩＢ（初級コース）（水2限） 林　虹※ 後期 ・・・ 103
1120311 中国語ＩＡ（初級コース）（水3限） 桜木　陽子※ 前期 ・・・ 105
1120312 中国語ＩＢ（初級コース）（水3限） 桜木　陽子※ 後期 ・・・ 107
1120321 中国語ＩＡ（初級コース）（水3限） 秋岡　英行※ 前期 ・・・ 109
1120322 中国語ＩＢ（初級コース）（水3限） 秋岡　英行※ 後期 ・・・ 111
1120325 中国語ＩＡ（初級コース）（水2限） 秋岡　英行※ 前期 ・・・ 113
1120327 中国語ＩＢ（初級コース）（水2限） 秋岡　英行※ 後期 ・・・ 115
1120336 中国語ⅡＡ（中級コース）（火1限） 唐　楽寧※ 前期 ・・・ 117
1120337 中国語ⅡＢ（中級コース）（火1限） 唐　楽寧※ 後期 ・・・ 119
1120346 中国語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 唐　楽寧※ 前期 ・・・ 121
1120347 中国語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 唐　楽寧※ 後期 ・・・ 123
1120351 中国語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 地蔵堂　貞二 前期 ・・・ 125
1120352 中国語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 地蔵堂　貞二 後期 ・・・ 127
1120361 中国語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 林　虹※ 前期 ・・・ 129
1120362 中国語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 林　虹※ 後期 ・・・ 131
1120406 中国語ⅡＡ（中級コース）（火3限） 林　虹※ 前期 ・・・ 133
1120407 中国語ⅡＢ（中級コース）（火3限） 林　虹※ 後期 ・・・ 135
1120411 朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水2限） 呉　賢欄※ 前期 ・・・ 137
1120412 朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水2限） 呉　賢欄※ 後期 ・・・ 139
1120421 朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水3限） 呉　賢欄※ 前期 ・・・ 141
1120422 朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水3限） 呉　賢欄※ 後期 ・・・ 143
1120431 朝鮮語ⅡＡ（中級コース）（火2限） 崔　眞善※ 前期 ・・・ 145
1120432 朝鮮語ⅡＢ（中級コース）（火2限） 崔　眞善※ 後期 ・・・ 147
1120441 朝鮮語ⅡＡ（中級コース）（火3限） 崔　眞善※ 前期 ・・・ 149

1120442 朝鮮語ⅡＢ（中級コース）（火3限） 崔　眞善※ 後期 ・・・ 151
1120461 日本語ＩＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 153
1120462 日本語ＩＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 155
1120471 日本語ⅡＡ 上野山　愛弥※ 前期 ・・・ 157
1120472 日本語ⅡＢ 上野山　愛弥※ 後期 ・・・ 159
1120481 日本語ⅢＡ 内田　孝※ 前期 ・・・ 161
1120482 日本語ⅢＢ 内田　孝※ 後期 ・・・ 163
1120491 日本語ⅣＡ メルビル　ケイコ　オオヤ※ 前期 ・・・ 165
1120492 日本語ⅣＢ メルビル　ケイコ　オオヤ※ 後期 ・・・ 167
1120620 リーディング（中級）ａ 谷口　真紀 後期 ・・・ 169
1120621 リーディング（中級）ｂ 谷口　真紀 後期 ・・・ 171
1120630 英語会話（中級）ａ/ Carl John Boland※ 前期 ・・・ 173
1120631 英語会話（中級）ｂ/ Carl John Boland※ 前期 ・・・ 175
1120632 Integrated English a Carl John Boland※ 前期 ・・・ 177
1120633 Integrated English b Carl John Boland※ 前期 ・・・ 179
1120640 リスニング（中級）ａ Graham Jones※ 前期 ・・・ 181
1120641 リスニング（中級）ｂ Graham Jones※ 前期 ・・・ 183
1120650 ディベート＆ディスカッションａ/ Martin Hawkes 前期 ・・・ 185
1120651 ディベート＆ディスカッションｂ/ Martin Hawkes 前期 ・・・ 187
1120653 Introduction to Discussion & Debate a Martin Hawkes 前期 ・・・ 189
1120654 Introduction to Discussion & Debate b Martin Hawkes 前期 ・・・ 191
1120670 エッセイ・ライティング/ John Rippey 後期 ・・・ 193
1120675 Essay Writing John Rippey 後期 ・・・ 195
1120685 留学英語対策基礎講座/ John Rippey 前期集中 ・・・ 197
1120686 Intermediate Academic English John Rippey 前期集中 ・・・ 199
1120690 留学英語対策講座Ｉ/ Martin Hawkes 後期 ・・・ 201
1120695 Advanced Academic English I Martin Hawkes 後期 ・・・ 203
1120700 留学英語対策講座Ⅱ/ John Rippey 後期 ・・・ 205
1120705 Advanced Academic English II John Rippey 後期 ・・・ 207
1120715 English for Business Fuisting Bjorn※ 前期集中 ・・・ 209
1120720 メディアの英語/ Walter Klinger 後期 ・・・ 211
1120725 English in Media Walter Klinger 後期 ・・・ 213
1120730 実用英語演習ＩＡ①（火1限） 神田　眞喜子 前期 ・・・ 215
1120731 実用英語演習ＩＡ②（火1限） 坂本　輝世 前期 ・・・ 217
1120732 実用英語演習ＩＡ③（火2限） 神田　眞喜子 前期 ・・・ 219
1120733 実用英語演習ＩＡ④（火2限） 菰田　真由美 前期 ・・・ 221
1120734 実用英語演習ＩＡ⑤（火2限） 坂本　輝世 前期 ・・・ 223
1120735 実用英語演習ＩＡ⑥（火2限） Armando Duarte 前期 ・・・ 225
1120736 実用英語演習ＩＡ⑦（火3限） Graham Jones※ 前期 ・・・ 227
1120737 実用英語演習ＩＡ⑧（火3限） Walter Klinger 前期 ・・・ 229
1120738 実用英語演習ＩＡ⑨（火3限） 菰田　真由美 前期 ・・・ 231
1120739 実用英語演習ＩＡ⑩（火3限） Armando Duarte 前期 ・・・ 233
1120740 実用英語演習ＩＢ①（火1限） 坂本　輝世 後期 ・・・ 235
1120741 実用英語演習ＩＢ②（火1限） 神田　眞喜子 後期 ・・・ 237
1120742 実用英語演習ＩＢ③（火2限） 坂本　輝世 後期 ・・・ 239
1120743 実用英語演習ＩＢ④（火2限） Armando Duarte 後期 ・・・ 241
1120744 実用英語演習ＩＢ⑤（火2限） 神田　眞喜子 後期 ・・・ 243
1120745 実用英語演習ＩＢ⑥（火2限） 菰田　真由美 後期 ・・・ 245
1120746 実用英語演習ＩＢ⑦（火3限） 菰田　真由美 後期 ・・・ 247
1120747 実用英語演習ＩＢ⑧（火3限） Armando Duarte 後期 ・・・ 249
1120748 実用英語演習ＩＢ⑨（火3限） Graham Jones※ 後期 ・・・ 251
1120749 実用英語演習ＩＢ⑩（火3限） 神田　眞喜子 後期 ・・・ 253
1120771 日本語基礎（初級）ＩＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 255
1120772 日本語基礎（初級）ＩＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 257
1120773 日本語基礎（初級）ⅡＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 259
1120774 日本語基礎（初級）ⅡＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 261
1120775 日本語基礎（初級）ⅢＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 263
1120776 日本語基礎（初級）ⅢＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 265
1120777 日本語基礎（初中級）ＩＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 267
1120778 日本語基礎（初中級）ＩＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 269
1120779 日本語基礎（初中級）ⅡＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 271
1120780 日本語基礎（初中級）ⅡＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 273
1120781 日本語基礎（初中級）ⅢＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 275
1120782 日本語基礎（初中級）ⅢＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 277
1120783 日本語基礎（初中級）ⅣＡ 上野山　愛弥※ 前期 ・・・ 279
1120784 日本語基礎（初中級）ⅣＢ 上野山　愛弥※ 後期 ・・・ 281
1120785 日本語基礎（中級）ＩＡ 柴川　真由美 前期 ・・・ 283
1120786 日本語基礎（中級）ＩＢ 柴川　真由美 後期 ・・・ 285
1120787 日本語基礎（中級）ⅡＡ 上野山　愛弥※ 前期 ・・・ 287
1120788 日本語基礎（中級）ⅡＢ 上野山　愛弥※ 後期 ・・・ 289
1120789 日本語基礎（中級）ⅢＡ 内田　孝※ 前期 ・・・ 291
1120790 日本語基礎（中級）ⅢＢ 内田　孝※ 後期 ・・・ 293
1140010 健康・体力科学Ｉ（運動処方） 中井　直也 後期 ・・・ 295
1140040 健康・体力科学Ｉ（サッカー） 中尾　泰史※ 後期 ・・・ 297
1140090 健康・体力科学Ｉ（卓球） 芳田　哲也※ 後期 ・・・ 299
1140120 健康・体力科学Ｉ（テニス） 多胡　陽介※ 後期 ・・・ 301
1140150 健康・体力科学Ｉ（ニュースポーツ） 東田　一彦 後期 ・・・ 303
1140180 健康・体力科学Ｉ（バスケット） 岩瀬　雅紀※ 後期 ・・・ 305
1140210 健康・体力科学Ｉ（バドミントン） 岩瀬　雅紀※ 後期 ・・・ 307
1140240 健康・体力科学Ⅱ（ニュースポーツ） 東田　一彦 前期 ・・・ 309

1140250 健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール） 岩瀬　雅紀※ 前期 ・・・ 311
1140260 健康・体力科学Ⅱ（バドミントン） 多胡　陽介※ 前期 ・・・ 313
1140280 健康・体力科学Ⅱ（バレーボール） 多胡　陽介※ 前期 ・・・ 315
1140290 健康・体力科学Ⅱ（運動処方） 中井　直也 前期 ・・・ 317
1140310 健康・体力科学Ⅱ（サッカー） 中尾　泰史※ 前期 ・・・ 319
1140340 健康・体力科学Ⅱ（テニス） 芳田　哲也※ 前期 ・・・ 321
1140470 健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング） 原田　圭子※ 後期 ・・・ 323
1140500 健康・体力科学Ⅱ（ボディコンディショニング） 原田　圭子※ 前期 ・・・ 325
1150005 Contemporary Japanese Culture 島田　和久 前期 ・・・ 327
1150006 Contemporary Japanese Culture 島田　和久 後期 ・・・ 329
1150011 Japan Studies Ⅰ : Influences of Geography on Culture & Society 倉茂　好匡 ・・・ 331
前期 ・・・ 333
1150012 Japan Studies II : Japanese politics and diplomacy Ⅰ 島田　和久 前期 ・・・ 335
1150013 Japan Studies III : Japanese society and culture Ⅰ 島田　和久 前期 ・・・ 337
1150014 Japan Studies Ⅳ : Japanese politics and diplomacy II 島田　和久 後期 ・・・ 339
1150015 Japan Studies Ⅴ : Japanese society and culture II 島田　和久 後期 ・・・ 341
1150016 Intensive Japanese Language and Culture (6-week) 倉茂　好匡 前期 ・・・ 343
1150017 Independent Study Ⅰ 島田　和久 前期集中 ・・・ 345
1150018 Independent Study Ⅱ 島田　和久 後期集中 ・・・ 347
1150020 異文化理解Ａ 国際交流委員会 前期集中 ・・・ 349
1150030 異文化理解Ｂ 国際交流委員会 後期集中 ・・・ 351
1150035 栄養と人間/ 小澤　惠子 後期 ・・・ 353
1150040 近江文化論/ 京樂　真帆子 後期 ・・・ 355
1150060 環境マネジメント総論/ 鵜飼　修 前期 ・・・ 357
1150090 機械技術と人間/ 山根　浩二 後期 ・・・ 359
1150110 現代経済論 鈴木　康夫※ 後期 ・・・ 361
1150112 国際環境マネジメント/ 丸尾　雅啓 後期集中 ・・・ 363
1150113 国際環境マネジメントⅠ/ 丸尾　雅啓 後期集中 ・・・ 365
1150114 国際環境マネジメントⅡ/ 丸尾　雅啓 後期集中 ・・・ 367
1150115 国際協力論 島村　一平 前期 ・・・ 369
1150116 アジア・フィールド実習Ⅰ 丸尾　雅啓 後期集中 ・・・ 371
1150117 アジア・フィールド実習Ⅱ 丸尾　雅啓 後期集中 ・・・ 373
1150130 こころのテクノロジー 細馬　宏通 後期 ・・・ 375
1150140 材料史 Balachandran Jeyadevan 前期 ・・・ 377
1150150 差別と人権（同和問題） 大脇　万起子 前期 ・・・ 379
1150180 自然科学の視点 松岡　純 後期 ・・・ 381
1150185 自然現象のしくみ 倉茂　好匡 後期 ・・・ 383
1150190 自然保護論 西田　隆義 後期 ・・・ 385
1150200 持続的農業論 泉　泰弘 後期 ・・・ 387
1150220 社会福祉論/ 富永　豊※ 後期 ・・・ 389
1150223 植物の病気 鈴木　一実 後期 ・・・ 391
1150225 生活と健康 大脇　万起子 前期 ・・・ 393
1150230 生命・人間・倫理 糸島　陽子 後期 ・・・ 395
1150260 地域探求学/ 鵜飼　修 後期集中 ・・・ 397
1150270 電子社会と人間 柳澤　淳一 後期 ・・・ 399
1150430 人間と病気 安原　治 前期 ・・・ 401
1150456 農業と環境 大久保　卓也 後期 ・・・ 403
1150460 比較住居論 藤木　庸介 前期 ・・・ 405
1150470 比較都市論 川井　操 前期 ・・・ 407
1150510 思索の視点/ 髙松　徹 前期 ・・・ 409
1150511 考えるための道具 髙松　徹 前期 ・・・ 411
1150520 機械の再発見 山根　浩二 後期 ・・・ 413
1150530 キャリアデザイン 髙松　徹 前期 ・・・ 415
1150580 キャリアデザイン特講 髙松　徹 後期 ・・・ 417
1170010 地域共生論 鵜飼　修 前期 ・・・ 419
1170040 地域診断法 鵜飼　修 後期 ・・・ 421
1170050 システム思考法 森川　稔 前期 ・・・ 423
1170060 問題解決デザイン論 鵜飼　修 後期 ・・・ 425
1170070 地域デザインＡ 鵜飼　修 前期集中 ・・・ 427
1170080 地域デザインＢ 鵜飼　修 前期集中 ・・・ 429
1170090 地域デザインＣ 上田　洋平 後期集中 ・・・ 431
1170100 地域デザインＤ 森川　稔 後期集中 ・・・ 433
1170110 近江の歴史と文化 京樂　真帆子 後期 ・・・ 435
1170120 地域社会福祉論 富永　豊※ 後期 ・・・ 437
1170130 地域コミュニケーション論 鵜飼　修 後期集中 ・・・ 439
1170140 地域づくり人材論 上田　洋平 後期 ・・・ 441
1170150 びわこ環境行政論 井手　慎司 後期 ・・・ 443
1170180 地域産業・企業から学ぶ社長講義 髙松　徹 後期 ・・・ 445
1170190 近江の暮らしとなりわい 上田　洋平 前期集中 ・・・ 447
1170200 近江の美 印南　比呂志 前期 ・・・ 449
1170210 経営学序論 西岡　孝幸 後期 ・・・ 451
1170220 地域社会と女性キャリア創生/ 上田　洋平 前期 ・・・ 453
1170225 地域社会とキャリア創生 上田　洋平 前期 ・・・ 455
1170230 地域中小企業講座 西岡　孝幸 前期 ・・・ 457
1400510 教育学概論 杉浦　由香里 前期 ・・・ 459
1400530 教育心理学 黒田　真由美※ 前期 ・・・ 461
1400540 教育制度論 杉浦　由香里 後期 ・・・ 463
1400550 教育方法の理論と技術/ 木村　裕 前期 ・・・ 465
1400555 教育方法論 木村　裕 前期 ・・・ 467
1403036 モンゴル語ＩＡ 島村　一平 前期 ・・・ 469

1403037 モンゴル語ＩＢ 島村　一平 前期 ・・・ 471
1403038 モンゴル語ⅡＡ 堀田　あゆみ※ 後期 ・・・ 473
1403039 モンゴル語ⅡＢ 島村　一平 後期 ・・・ 475
1600010 教育実習・事前事後指導（高等学校免許・4年次） 福井　雅英 前期実習 ・・・ 477
1600020 教育実習・事前事後指導（中学高校免許・3年次） 福井　雅英 後期実習 ・・・ 479
1600030 教育実習・事前事後指導（養護教諭・3年次） 伊丹　君和 後期実習 ・・・ 481
1600040 教育実習・事前事後指導（中学校免許・4年次） 福井　雅英 前期実習 ・・・ 483
1600050 教育実習・事前事後指導（養護教諭・4年次） 伊丹　君和 通年実習 ・・・ 485
1600070 教育相談・進路指導 田中　容子※ 前期集中 ・・・ 487
1600090 教科教育法Ｉ（家庭） 大塚　眞理子※ 前期集中 ・・・ 489
1600110 教科教育法Ｉ（公民） 西村　太志※ 前期集中 ・・・ 491
1600120 教科教育法Ｉ（社会） 奥村　好美※ 後期集中 ・・・ 493
1600130 教科教育法Ｉ（地理歴史） 鎌田　ユリ※ 前期 ・・・ 495
1600140 教科教育法Ｉ（農業） 森　太郎※ 前期集中 ・・・ 497
1600150 教科教育法Ｉ（理科） 石川　聡子※ 前期集中 ・・・ 499
1600151 教科教育法Ｉ（英語） 小栗　裕子※ 前期 ・・・ 501
1600160 教科教育法Ⅱ（家庭） 大塚　眞理子※ 後期集中 ・・・ 503
1600180 教科教育法Ⅱ（公民） 西村　太志※ 後期集中 ・・・ 505
1600190 教科教育法Ⅱ（社会） 小林　忠伸※ 前期 ・・・ 507
1600200 教科教育法Ⅱ（地理歴史） 未定＊ 後期集中 ・・・ 509
1600210 教科教育法Ⅱ（農業） 川﨑　四朗※ 後期 ・・・ 511
1600220 教科教育法Ⅱ（理科） 宮下　ゆたか※ 前期集中 ・・・ 513
1600221 教科教育法Ⅱ（英語） 小栗　裕子※ 後期 ・・・ 515
1600241 教科教育法Ⅲ（英語） 小熊　猛 後期 ・・・ 517
1600242 教科教育法Ⅳ（英語） 小熊　猛 前期前半 ・・・ 519
1600251 教育課程論 木村　裕 後期 ・・・ 521
1600260 教職実践演習（栄養教諭） 廣瀬　潤子 後期集中 ・・・ 523
1600270 教職実践演習（高等学校） 福井　雅英 後期集中 ・・・ 525
1600280 教職実践演習（中学校） 福井　雅英 後期集中 ・・・ 527
1600290 教職実践演習（養護教諭） 八木　利津子※ 後期集中 ・・・ 529
1600300 教職論 福井　雅英 前期 ・・・ 531
1600320 憲法 橋本　豪志※ 後期 ・・・ 533
1600360 職業指導 中島　由佳※ 前期集中 ・・・ 535
1600370 生徒指導論 福井　雅英 後期 ・・・ 537
1600390 道徳教育論 福井　雅英 前期 ・・・ 539
1600400 特別活動論 福井　雅英 後期 ・・・ 541
1600410 被服学 道明　美保子※ 前期 ・・・ 543
1600420 服飾製作実習 法月　紀江※ 前期集中 ・・・ 545
1600440 保育学/ 吉村　啓子※ 前期集中 ・・・ 547
1600441 保育学Ａ/ 吉村　啓子※ 前期集中 ・・・ 549
1600442 保育学Ｂ/ 吉村　啓子※ 前期集中 ・・・ 551
1600450 学校看護論 八木　利津子※ 前期集中 ・・・ 553
1600460 学校保健論 伊丹　君和 前期集中 ・・・ 555
1600470 家庭電気・機械/ 堀江　健二郎※ 前期 ・・・ 557
1600480 栄養教育実習・事前事後指導（4年次） 山川　佐代子※ 前期実習 ・・・ 559
1600490 栄養教育実習・事前事後指導（3年次） 山川　佐代子※ 後期実習 ・・・ 561
1600500 学校栄養指導論 平木　敦子※ 前期集中 ・・・ 563
1600551 博物館学概論 市川　秀之 前期 ・・・ 565
1600552 博物館資料論 東　幸代 前期 ・・・ 567
1600553 博物館資料保存論 野間　直彦 後期 ・・・ 569
1600554 博物館情報・メディア論 未定＊ 後期集中 ・・・ 571
1600555 博物館教育論 斎藤　修啓※ 前期集中 ・・・ 573
1600556 博物館実習 市川　秀之 前期 ・・・ 575
1601020 インターンシップＡ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 577
1601030 インターンシップＢ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 579
1601033 インターンシップＥ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 581
1601060 ボランティア活動（前期） 福井　雅英 前期集中 ・・・ 583
1601070 ボランティア活動（後期） 福井　雅英 後期集中 ・・・ 585
1901010 地域行動論/ 鵜飼　修 後期 ・・・ 587
1901021 地域実践学Ｉ/ 鵜飼　修 前期集中 ・・・ 589
1901031 地域実践学Ⅱ/ 上田　洋平 後期集中

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（再履修）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Skillful Listening & Speaking	Lida Baker & Steven Gershon	Macmillan	978-0-230-42532-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（再履修）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言
It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（再履修）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Skillful Listening & Speaking	Lida Baker & Steven Gershon	Macmillan	978-0-230-42532-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（再履修）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言
It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語ＩＩＡ（応用コース）（再履修）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110411	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as card games and TV comedy skits. Students in pairs or small groups perform one of the TV scripts studied earlier in class. Students write two pages about some events. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able to speak English with: (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery. Their English will also be (4) grammatically correct.
Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	50% Story Writing. (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students meet with the teacher individually to show and read aloud the stories they wrote from the Have You Ever? game.
レポート課題		
上記以外	50	50% Skit Performance. (Objectives 1,2,3,4 each 25%). Students in pairs or small groups perform one of the TV scripts studied earlier in class. Higher grades for memorized performances.

授業外学習

Homework 1 hour/week: Practice your skit (4 hours). Write your Have You Ever stories (4 hours). Read a movie textbook from the library and watch the movie (7 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

handouts

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＩＡ（応用コース）（再履修）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110411	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Q & A Spring card game.	Listen for information needed to answer questions.
第2回	Four of a Kind card game.	Give original answers to everyday questions.
第3回	Saturday Night Live: Cheeseburger Shop.	Read, watch and practice the dialogue from comedy TV show skits.
第4回	Saturday Night Live: Hospital Visit, France 1944.	Read, watch and practice the dialogue from comedy TV show skits.
第5回	Monty Python: Argument Lesson.	Read, watch and practice the dialogue from comedy TV show skits.
第6回	Monty Python: Cheese Shop.	Read, watch and practice the dialogue from comedy TV show skits.
第7回	Fork, Grannies, Mind, Parrot, Spam.	Read, watch and practice the dialogue from comedy TV show skits.
第8回	What Animal Am I ?	Describe animals. Decide on a TV show skit for your performance.
第9回	Have You Ever grid game.	Discover a pattern to things your classmates have done. Write short stories for some of the topics.
第10回	Top Ten game.	Ask and answer questions about things in categories. Write and show your Have You Ever stories. Rehearse your skit some more.
第11回	Kinds of Things game.	Describe and guess what objects belong in what category. Write and show your sentences/stories. Keep rehearsing your skit.
第12回	Oklahoma!	Dialogue in the movie, “Oklahoma!”.
第13回	Movie Songs: Oliver, King & I, Easter Parade.	Movie songs. Skit performances & read aloud to the teacher your corrected “Have You Ever” stories.
第14回	What's My Hobby or Sport?	Describe activities. Skit performances and read aloud your “Have You Ever” stories.
第15回	Final Answer Game.	Ask and answer questions in a quiz game. Skit Performances and read aloud your stories.

担当者から一言

講義名	英語ＩＩＢ（応用コース）（再履修）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110412	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

In some classes, students write original sentences for games and play the games. In other classes, students write more complete stories. Students can work by themselves or with a partner or in groups of 3. In Action Picture classes, students dictate stories to each other. The teacher goes around the classroom to look at students' writing and explains any mistakes. Students pay attention to the teacher during the explanations and so improve their writing ability by learning from their own mistakes.

到達目標

Objectives: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	Portfolio. Collect all your writings for each week and show them all to the teacher. The teacher will check to see that you have written all the topics and how well you wrote them, and give you a grade. *Show your writings to the teacher every week, not just in the last few weeks.(Writing Objective 1 = 25%. 2 =
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Homework: 1 hour per week. Write your original sentences and story.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

handouts

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＩＢ（応用コース）（再履修）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110412	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Q & A Card Game.	Write original sentences for a question-and-answer game.
第2回	A-Z Alphabet Game.	Write original sentences for words in categories. *Show your writing of last week to the teacher.
第3回	Childhood Cards.	Write about your childhood and school days, prompted by picture cards. *Show your writing of last week to the teacher.
第4回	Three Questions Board Game.	Write original sentences for the topics on the board. *Show your writing of last week to the teacher.
第5回	Question Spiral Board Game.	Write questions and answers using the topics on the board. *Show your writing of last week to the teacher.
第6回	Trip to Italy.	Write about a trip to Italy using picture cards for ideas about what to say. *Show your writing of last week to the teacher.
第7回	Never Ending Story.	Write a story about everyday events using picture cards. *Show your writing of last week to the teacher.
第8回	Action English Pictures A&B.	Dictation. Check your own writing. *Show your writing of last week to the teacher.
第9回	Action English Pictures C&D.	Dictation. Check your own writing. *Show your writing of last week to the teacher.
第10回	Second Look Pictures.	Find the differences in two similar pictures. Check your own answers.
第11回	Christmas songs.	Read, say, listen.
第12回	Ladders Game	Write about 10 "Final Answer" style questions. Ask your partner a question when he or she lands at the bottom or top of a ladder.
第13回	Continue writing your portfolio.	Continue writing your portfolio collection of writings. *Show your writing of last week to the teacher.
第14回	Portfolio Grading.	Show the teacher your writing portfolio. Read aloud some of your writing to the teacher.
第15回	Portfolio Grading.	Show the teacher your writing portfolio. Read aloud some of your writing to the teacher.

担当者から一言

講義名	英語IIIA（充実コース）（再履修）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110621	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、日常生活の中でよく目にしたり耳にしたりする英文素材を「読んだり」「聞いたり」できる力と、思ったことをシンプルな英語で「話したり」「書いたり」できる力をつけることを目的とする。身近な語彙の知識を増やし、発信に必要な文法を確かなものにするという２つの基礎固めをねらいとする。幅広いテーマでさまざまな素材に触れ、より実践的に英語を学んでいく。

到達目標

(1) 身近な語彙の知識を増やす。
(2) 発信に必要な文法力を確立する。
(3) 英語で発信することに対する不安を和らげ、コミュニケーションを楽しむことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	(1),(2)については、期末試験で評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	(1)については、確認テストによって(20%)、(3)については、授業中の活動への積極的な取り組み(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

テキストの音声データをダウンロードし、学習した内容を週末までに聞き、音読練習を行ってください。そうすることで、定期考査前の学習の負担が軽減されます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Make It Simple	森田和子ほか	三修社	978-4-384-33446-3 C1082
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（再履修）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110621	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Lesson1 家族	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第3回	Lesson2 キャンパス案内	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第4回	Lesson3 就職・職場	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第5回	Lesson4 日課	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第6回	Lesson5 交通	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第7回	Lesson6 アルバイト	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第8回	復習と確認テスト①	前半内容のまとめと確認テスト
第9回	Lesson 7　健康	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第10回	Lesson 8　ショッピング	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第11回	Lesson 9　休日	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第12回	Lesson 10　大学生活	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第13回	Lesson 11　世界の人々	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第14回	Lesson 12　海外旅行(1)	語彙確認、聞き取り、文法問題、応用練習
第15回	復習と確認テスト②	後半内容のまとめと確認テスト

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IIIＢ（充実コース）（再履修）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110622	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

言語を学ぶということは、単に言葉の学習だけではなく、その言葉を話す人々の思考や価値観といった文化の学習という側面を含んでいます。この授業では、伝統と新しいものが交錯するイギリスという国とそこに住む人々の文化や考えを理解し、日本との違いや共通点を学びながら、総合的な英語運用能力の向上を目指します。

到達目標

(1) 語彙の知識を増やす。
(2)総合的な英語運用能力を向上させる。
(3)イギリスについて学び、日本との共通点、相違点を理解することで、英語学習に対する関心を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	(1),(2)については、期末試験で評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	(1)については、確認テストによって(20%)、(3)については、授業中の活動への積極的な取り組み(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

授業で出てきた単語はその日のうちに復習し、付属のCDを使ってリスニングおよび音読練習を行ってください。そうすることで、定期考査に向けた学習の負担が軽減されます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Gateway to Britain	Terry O'Brienほか	南雲堂	978-4-523-17666-4
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（再履修）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110622	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Lesson2: What Will the Weather Be Like?	本文の内容理解と応用問題
第3回	Lesson3: A London without Red Buses?	本文の内容理解と応用問題
第4回	Lesson8: Pubs in Decline	本文の内容理解と応用問題
第5回	Lesson10: Afternoon Tea	本文の内容理解と応用問題
第6回	Lesson12: Football: Sport or Business?	本文の内容理解と応用問題
第7回	Lesson13: Royal Family or TV Melodrama?	本文の内容理解と応用問題
第8回	復習と確認テスト①	前半内容のまとめと確認テスト
第9回	Lesson14: Preserving Britain	本文の内容理解と応用問題
第10回	Lesson15: Britain's Special Character	本文の内容理解と応用問題
第11回	Lesson16: British Universities	本文の内容理解と応用問題
第12回	Lesson24: Mind the Gap	本文の内容理解と応用問題
第13回	Lesson25: Media Mogul	本文の内容理解と応用問題
第14回	Lesson26: Gateway to Britain	本文の内容理解と応用問題
第15回	復習と確認テスト②	後半内容のまとめと確認テスト

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVA（展開コース）（再履修）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110831	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通して実践的な活動も行います。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（4）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（再履修）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110831	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Unit 1　One Piece and the world's favorite pirates	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第3回	Unit 1　One Piece and the world's favorite pirates	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第4回	Unit 2 Japan's company culture	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。
第5回	Unit 2 Japan's company culture	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第6回	Unit 3 The genious of Japanese animation	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第7回	Unit 3 The genious of Japanese animation	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第8回	到達度確認テスト（1）	Ｕｎｉｔ 1～Ｕｎｉｔ ３までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 4 How supersitious is Japan?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第10回	Unit 4 How supersitious is Japan?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第11回	Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第12回	Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第13回	Unit 6 Why do Japanese students sleep in class?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第14回	Unit 6 Why do Japanese students sleep in class?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第15回	到達度確認テスト（2）	Ｕｎｉｔ ４～Ｕｎｉｔ ６までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	英語IVB（展開コース）（再履修）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110832	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してコミュニケーション能力を伸ばす活動をします。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（再履修）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110832	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 7 Attraction of onsen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第2回	Unit 7 Attraction of onsen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第3回	Unit 8 Virtual love	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第4回	Unit 8 Virtual love	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。
第5回	Unit 9 Otaku and proud!	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第6回	Unit 9 Otaku and proud!	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第7回	Unit 10 Similar but not the same	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第8回	到達度確認テスト（1）	Ｕｎｉｔ ７～Ｕｎｉｔ １０までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 11 The Japanese writing systmen	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。
第10回	Unit 11 The Japanese writing systmen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第11回	Unit 12 The grey area of gambling	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第12回	Unit 12 The grey area of gambling	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第13回	Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第14回	Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第15回	到達度確認テスト（2）	Ｕｎｉｔ １１～Ｕｎｉｔ １３までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	初習英語ＩＡ							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110981	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG105								

授業概要

This is an English class for overseas students studying at the University of Shiga Prefecture. We will do various reading, writing, listening, and speaking activities both in class and for homework. Our textbook will introduce us to a new country each week. We will use that as a starting point for class activities. At the end of the term, students will give a presentation about their home countries.

到達目標

Each week we will learn about the history, food, culture, etc., of various countries. We will also learn and use vocabulary words from each chapte.r

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20	There will be 5 quizzes in this class, each worth 4% of your final grade.
レポート課題	30	There will be 10 reflection writing activities for homework, each worth 3% of your final grade.
上記以外	50	Final presentation. Students will present on the topic of their home country. Students will receive a writing score and a speaking score.

Students who are absent 4 times without a valid reason will not receive credit for this class. Students who arrive 30 late or later will receive a 1/2 absence. 10% penalty for late work.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	World Adventures	Scott Berlin, Megumi Kobayashi	ISBN	9784764739079
2				
3				

Please bring your textbook to class each week.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	初習英語ＩＡ							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110981	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Class orientation, syllabus, introductions. Activities around the topic of "India".
第2回	Week 2	Activities around the theme of "Philippines".
第3回	Week 3	Activities around the theme of "Thailand".
第4回	Week 4	Activities around the theme of "Vietnam".
第5回	Week 5	Activities around the theme of "Korea".
第6回	Week 6	Activities around the theme of "France".
第7回	Week 7	Activities around the theme of "Italy".
第8回	Week 8	Activities around the theme of "Denmark".
第9回	Week 9	Activities around the theme of"Portugal".
第10回	Week 10	Activities around the theme of"Turkey".
第11回	Week 11	Activities around the theme of "Egypt".
第12回	Week 12	Activities around theme of "South Africa".
第13回	Week 13	Activities around the theme of "Brazil".
第14回	Week 14	Activities around the theme of "Peru".
第15回	Week 15	Activities around the theme of "Guatemala". Final presentation preparation.

担当者から一言
I'm excited to meet all of you and I hope we can have a fun class filled with many cultural exchanges!

講義名	初習英語ＩＢ							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110982	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG106								

授業概要

このクラスでは、英語の基本（音声、文法、構文、語彙など）を、テキストとさまざまな activities を通して学んでいきます。クラスでは、実際に英語を使ったやり取りを数多く行います。授業外学習としては、各自で英語を聞いて Listening Journal を記録したり、graded readers を読むことで、英語のインプットを多く行います。一学期を通じて、英語の音声の特徴を理解して聞き取る力、簡単な文章を読んで理解する力、自分について話したり書いたりする力の育成を目標とします。

到達目標

(1)　英語の基礎的な構文、文法を理解し、内容を読みとる力
(2)　日常的な内容について、ゆっくり話された英語を聞きとる力
(3)　日常的な内容について、簡単な英語で話し、書く力
(4)　ペア活動などを通し、協働して英語を学ぶこと
(5)　Listening Journal など授業外学習によって、日常的に英語のインプットを行い、自学自習ができるようになること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標（１）（２）について、クイズの成績を全体の50%として評価する。 到達目標（３）（４）について、毎回の授業での取り組みを全体の30%として評価する。 到達目標（５）について、毎回の課題提出を全体の20%として評価する。

正当な理由がなく全クラスの３分の１以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading in Action Basic	静 哲人	金星堂	9784764740235
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	初習英語ＩＢ							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110982	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション／Unit 1 Uniquely Japanese Hospitality	自己紹介 授業の進め方の説明
第2回	Unit 2 "Time Machine" With a Flag on Top	クイズ 予習内容の確認
第3回	Unit 3 Start and Finish Work Earlier	クイズ 予習内容の確認
第4回	Unit 4 Humanoids in the Aging Society	クイズ 予習内容の確認
第5回	Unit 5 No Longer a Man's World	クイズ 予習内容の確認
第6回	Unit 6 What Will the 2020 Games Give Us?	クイズ 予習内容の確認
第7回	Unit 7 Your Name Is Not on the List	クイズ 予習内容の確認
第8回	Unit 8 When Quakes Hit, Eruptions May follow	クイズ 予習内容の確認
第9回	Unit 9 As Young as 70 Years Old	クイズ 予習内容の確認
第10回	Unit 10 The Music Industry Needs to Change	クイズ 予習内容の確認
第11回	Unit 11 Don't Kill Lions to Prove Manhood	クイズ 予習内容の確認
第12回	Unit 12 How About a Nose Job in Malaysia?	クイズ 予習内容の確認
第13回	Unit 13 Bats Carry Ebola but Don't Get It	クイズ 予習内容の確認
第14回	Unit 14 Animals' "Human" Rights!?	クイズ 予習内容の確認
第15回	まとめ	クイズ １学期間の内容のまとめと復習

担当者から一言
クラス構成メンバーの様子を見て、シラバスの内容を適宜変更することがあります。クラスでは協働して学ぶ姿勢を期待しています。みなさんの言語レパートリーに英語が加わると、また新しい世界が広がります。ことばの学習を通して、いろいろな発見を楽しみましょう！

講義名	初習英語ＩＩＡ							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110991	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG205								

授業概要

本授業は、初めて英語を学習する人を対象としています。英語の基本（音声、文法、構文、語彙など）を、さまざまな活動を通して学んでいきます。ペアワークやグループワークを通して、コミュニケーション活動を行います。前期が終了した時点で、簡単なメッセージを聞き取る力、簡単な文章を読んで理解する力、自己紹介など自分について話したり書いたりする力の育成を目標とします。

到達目標

(1)　英語の基礎的な構文、文法を理解し、内容を読みとることができる。
(2)　日常的な内容について、ゆっくり話された英語を聞き取ることができる。
(3)　日常的な内容について、簡単な英語で話し、書くことができる。
(4)　ペアワークやグループワークを通し、コミュニケ―ション活動を積極的にできる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）（２）（３）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（１）（２）（３）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（２）（３）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（４）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English Primer	佐藤哲三他	南雲堂	978-4-523-17717-3
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	初習英語ＩＩ Ａ							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110991	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。受講者同士の自己紹介。授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	be動詞	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第3回	一般動詞（現在）	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第4回	一般動詞（過去）	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第5回	進行形	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第6回	未来形	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第7回	助動詞	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第8回	到達度確認テスト（１）	第２回から第７回までの授業のレビュークイズとフィードバック
第9回	比較	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第10回	受動態	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第11回	完了形	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第12回	不定詞	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第13回	動名詞	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第14回	関係代名詞	問題演習、英語を使ってコミュニケ―ション活動
第15回	到達度確認テスト（２）	第９回から第１４回までの授業のレビュークイズとフィードバック

担当者から一言

講義名	初習英語II B							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110992	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG206								

授業概要

In some classes, students write original sentences for games and play the games. In other classes, students write more complete stories. Students can work by themselves or with a partner or in groups of 3. In Action Picture classes, students dictate stories to each other. The teacher goes around the classroom to look at students' writing and explains any mistakes. Students pay attention to the teacher during the explanations and so improve their writing ability by learning from their own mistakes.

到達目標

Objectives: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs (with proficient use of a wide range of structures & stylistic devices) that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	Portfolio. Collect all your writings for each week and show them all to the teacher. The teacher will check to see that you have written all the topics and how well you wrote them, and give you a grade. *Show your writings to the teacher every week, not just in the last few weeks.(Writing Objective 1 = 25%. 2 =
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Homework: 1 hour per week. Write your original sentences and story.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

handouts

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	初習英語ＩＩ Ｂ							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1110992	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Q & A Card Game.	Write original sentences for a question-and-answer game.
第2回	A-Z Alphabet Game.	Write original sentences for words in categories. *Show your writing of last week to the teacher.
第3回	Childhood Cards.	Write about your childhood and school days, prompted by picture cards. *Show your writing of last week to the teacher.
第4回	Three Questions Board Game.	Write original sentences for the topics on the board. *Show your writing of last week to the teacher.
第5回	Question Spiral Board Game.	Write questions and answers using the topics on the board. *Show your writing of last week to the teacher.
第6回	Trip to Italy.	Write about a trip to Italy using picture cards for ideas about what to say. *Show your writing of last week to the teacher.
第7回	Never Ending Story.	Write a story about everyday events using picture cards. *Show your writing of last week to the teacher.
第8回	Action English Pictures A&B.	Dictation. Check your own writing. *Show your writing of last week to the teacher.
第9回	Action English Pictures C&D.	Dictation. Check your own writing. *Show your writing of last week to the teacher.
第10回	Second Look Pictures.	Find the differences in two similar pictures. Check your own answers.
第11回	Christmas songs.	Read, say, listen.
第12回	Ladders Game	Write about 10 "Final Answer" style questions. Ask your partner a question when he or she lands at the bottom or top of a ladder.
第13回	Continue writing your portfolio.	Continue writing your portfolio collection of writings. *Show your writing of last week to the teacher.
第14回	Portfolio Grading.	Show the teacher your writing portfolio. Read aloud some of your writing to the teacher.
第15回	Portfolio Grading.	Show the teacher your writing portfolio. Read aloud some of your writing to the teacher.

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120011	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

ドイツ語によるコミュニケーションができることを目標にした授業です。日常的なコミュニケーション場面を具体的に設定しながら、その場面に相応しい語彙や会話文、さらに個人発表のための文を提示します。それらを学習者自身によるアレンジと練習を経て、自らの力で表現したいことを身につけることができます。つまり、学習者自身の主体的な、あるいは自主的な、授業内外でのコミュニケーション活動への参加や学習者同士の協力によってはじめて、この科目を履修する意義が生まれます。

到達目標

(1) 挨拶やちょっとした会話場面（提案やお礼など）ですぐにドイツ語を使える。
(2) ドイツ語の会話文を聴きながら、重要な情報を聴き取ることができる。
(3) ドイツ語の会話文や文章を手がかりに、授業内で習得すべき内容を察知できる。
(4) 習得すべき内容は、学習者同士の反復練習によって身につけられることを実感する。
(5) 学習内容をまとめたプレゼンテーションを、さまざまなメディアを用いて完成させることができる。
(6) プレレゼンテーション内容を学習者同士で評価しあえる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	学習者、あるいは学習者同士のドイツ語によるプレゼンテーション
レポート課題		
上記以外	約40%	授業内活動による、筆記課題や音声ファイルの提出

授業外学習

ドイツ語学習は、毎回の練習の積み重ねによって、理解できる、あるいは表現できる内容が増えていきます。つまり、授業内では毎回ほぼ同じ活動を繰り返します。学習方法に慣れてしまって機械的に活動を処理することなく、学習者自身で毎回学習目標を見つけながら、それらを達成するとい

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120011	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	挨拶、名前、字母	場面に応じた挨拶表現を練習します。 学習者自身の名前を字母を用いて表現します。
第2回	ドイツ語の語彙、人物紹介、数詞	ドイツ語の語彙を導入します。 数詞を用いて、(架空の）座席番号を言います。
第3回	自己紹介、出身地、居住地	人物紹介文（作文形式）を理解し、同じ形式を用いて作文します。出身地や居住地を尋ねたり、答えたりします。
第4回	家族、年齢、職業	家族についての語彙や表現を学びます。 学習者自身の家系図を書いて、それについて説明します。
第5回	まとめ1	これまでのまとめとして、「学習者自身と家族」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第6回	事物	事物の語彙を導入します。 クイズ形式により、肯定や否定の表現を練習します。
第7回	事物紹介	事物紹介のうち、価格や人々の好みについて表現する方法を理解し、それを用いて会話文や紹介文を作ります。
第8回	飲食物	飲食物の語彙を用いて、好き・嫌いや価格、飲食の頻度を学習者同士で発表し合います。
第9回	会話文と説明文	会話文と説明文の違い（ことばの組み合わせ方の違い）を紹介します。
第10回	まとめ２	これまでのまとめとして、「事物と飲食物」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第11回	日常生活１、動詞フレーズ	日常生活に関する語彙を学習します。 短い文章から、学習者自身で表現できることを探します。
第12回	日常生活２、生活スタイル	日常的な活動について、曜日や頻度を含めて表現できるようになります。
第13回	日常生活３、願望・能力	日常的な活動について、願望や能力を含めて表現できるようになります。
第14回	日常生活４、義務	日常的な活動で義務で行うことを表現します。
第15回	まとめ３a	これまでのまとめとして、「学習者自身の日常生活」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。

担当者から一言
言語コミュニケーションは、けっして一人でなせるものでありません。必ず二人以上で言葉や気持ちのやり取りを行います。授業では二人以上で行う作業が多いので、困ったことがあれば、まず学習者同士で相談し合います。その上で教員に質問されることを勧めます。「授業中は常に誰かと何

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120012	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

到達目標

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。
レポート課題		
上記以外	約40%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。

授業外学習

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta？	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120012	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	レストラン、カフェ１、前期の復習	地域料理について知識を得ます。 前期に学習した内容の復習と、学習方法の再確認をします。
第2回	レストラン、カフェ２（注文、支払い）	レストランやカフェでの注文や支払いの場面での会話文を練習します。
第3回	日常生活５	日常的な活動について、許可や禁止を含めて表現できるようになります。 将来的な活動プランについても作文します。
第4回	行動と感情	絵、写真や文章から、気持ちを読み取ります。 学習者自身の行動とそのときの気持ちを表現します。
第5回	まとめ３b	前期やこれまでに学習した「日常生活」に関する表現と、感情表現とをうまく組み合わせて、プレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第6回	街と住居、数詞（大きな数）	都市に関する説明文を読み、人口の表現を練習します。 そこから、学習者自身や家族の街や住居について表現方法を学びます。
第7回	街の施設	街の施設に関する語彙を学習します。 施設の場所について説明します。
第8回	住居１	住居に関する語彙を学習します。 家具が住居のどの場所・位置にあるのかを説明します。
第9回	住居２	学習者自身の部屋のレイアウトを表現します。
第10回	まとめ４	これまでのまとめとして、「自身の街や住まい」について、学習者同士でプレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第11回	日常的な問題、健康１	日常的な問題の例を考え、特に健康に関する問題についての文章を読みます。
第12回	健康２、日付	日付（序数）の表現を学び、医療機関での予約を変更できるようななります。
第13回	健康３	健康で生活するために、学習者同士でアドヴァイスし合えるようになります。
第14回	祝祭と贈り物	ドイツ語圏の祝祭について学び、どのような贈り物が好まれるのかを学習者同士でインタヴューしてみます。
第15回	まとめ５	これまでのまとめとして、健康やプレゼントに関する話題について、学習者同士の間でメールや手紙を書く方法を学びます。

担当者から一言
ドイツ語IAの同項目を参照してください。なお、オフィスアワーはドイツ語IAと同様に、毎週水曜日16時30分以降の授業実施教室で行います。事前にわたしに声を掛けてください。

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120021	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

この授業では、発音をはじめ、会話の練習や聞き取り、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。
ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（１）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（２）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（３）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（４）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120021	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期授業への導入／あいさつ／アルファベート
第2回	Lektion1 （1）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第3回	Lektion1（2）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第4回	Lektion2 (1)	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第5回	Lektion2 (2)	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第6回	Lektion3 (1)	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第7回	Lektion3 (2)	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第8回	Lektion4（1）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第9回	Lektion4（2）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第10回	Lektion5 (1)	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第11回	Lektion5 (2)	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第12回	Lektion6 (1)	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第13回	Lektion6 (2)	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第14回	前期のまとめ（1）	前期のまとめ（1）
第15回	前期のまとめ（2）	前期のまとめ（2）

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120022	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

後期の授業では、前期の内容を復習しながら、会話や聞き取りの練習、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（1）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（2）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（3）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（4）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120022	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	前期の復習
第2回	Lektion7（１）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第3回	Lektion7（２）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第4回	Lektion8 (1)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第5回	Lektion8 (2)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第6回	Lektion8 (3)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第7回	Lektion9 (1)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第8回	Lektion9 (2)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第9回	Lektion9 (3)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第10回	Lektion10 (1)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第11回	Lektion10 (2)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第12回	Lektion10 (3)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第13回	Lektion11 (1)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第14回	Lektion11 (2)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第15回	Lektion11 (3)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120031	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

ドイツ語によるコミュニケーションができることを目標にした授業です。日常的なコミュニケーション場面を具体的に設定しながら、その場面に相応しい語彙や会話文、さらに個人発表のための文を提示します。それらを学習者自身によるアレンジと練習を経て、自らの力で表現したいことを身につけることができます。つまり、学習者自身の主体的な、あるいは自主的な、授業内外でのコミュニケーション活動への参加や学習者同士の協力によってはじめて、この科目を履修する意義が生まれます。

到達目標

(1) 挨拶やちょっとした会話場面（提案やお礼など）ですぐにドイツ語を使える。
(2) ドイツ語の会話文を聴きながら、重要な情報を聴き取ることができる。
(3) ドイツ語の会話文や文章を手がかりに、授業内で習得すべき内容を察知できる。
(4) 習得すべき内容は、学習者同士の反復練習によって身につけられることを実感する。
(5) 学習内容をまとめたプレゼンテーションを、さまざまなメディアを用いて完成させることができる。
(6) プレレゼンテーション内容を学習者同士で評価しあえる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	学習者、あるいは学習者同士のドイツ語によるプレゼンテーション
レポート課題		
上記以外	約40%	授業内活動による、筆記課題や音声ファイルの提出

授業外学習

ドイツ語学習は、毎回の練習の積み重ねによって、理解できる、あるいは表現できる内容が増えていきます。つまり、授業内では毎回ほぼ同じ活動を繰り返します。学習方法に慣れてしまって機械的に活動を処理することなく、学習者自身で毎回学習目標を見つけながら、それらを達成するとい

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120031	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	挨拶、名前、字母	場面に応じた挨拶表現を練習します。 学習者自身の名前を字母を用いて表現します。
第2回	ドイツ語の語彙、人物紹介、数詞	ドイツ語の語彙を導入します。 数詞を用いて、(架空の）座席番号を言います。
第3回	自己紹介、出身地、居住地	人物紹介文（作文形式）を理解し、同じ形式を用いて作文します。出身地や居住地を尋ねたり、答えたりします。
第4回	家族、年齢、職業	家族についての語彙や表現を学びます。 学習者自身の家系図を書いて、それについて説明します。
第5回	まとめ1	これまでのまとめとして、「学習者自身と家族」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第6回	事物	事物の語彙を導入します。 クイズ形式により、肯定や否定の表現を練習します。
第7回	事物紹介	事物紹介のうち、価格や人々の好みについて表現する方法を理解し、それを用いて会話文や紹介文を作ります。
第8回	飲食物	飲食物の語彙を用いて、好き・嫌いや価格、飲食の頻度を学習者同士で発表し合います。
第9回	会話文と説明文	会話文と説明文の違い（ことばの組み合わせ方の違い）を紹介します。
第10回	まとめ２	これまでのまとめとして、「事物と飲食物」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第11回	日常生活１、動詞フレーズ	日常生活に関する語彙を学習します。 短い文章から、学習者自身で表現できることを探します。
第12回	日常生活２、生活スタイル	日常的な活動について、曜日や頻度を含めて表現できるようになります。
第13回	日常生活３、願望・能力	日常的な活動について、願望や能力を含めて表現できるようになります。
第14回	日常生活４、義務	日常的な活動で義務で行うことを表現します。
第15回	まとめ３a	これまでのまとめとして、「学習者自身の日常生活」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。

担当者から一言
言語コミュニケーションは、けっして一人でなせるものでありません。必ず二人以上で言葉や気持ちのやり取りを行います。授業では二人以上で行う作業が多いので、困ったことがあれば、まず学習者同士で相談し合います。その上で教員に質問されることを勧めます。「授業中は常に誰かと何

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120032	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

到達目標

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。
レポート課題		
上記以外	約40%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。

授業外学習

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta？	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120032	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	レストラン、カフェ１、前期の復習	地域料理について知識を得ます。 前期に学習した内容の復習と、学習方法の再確認をします。
第2回	レストラン、カフェ２（注文、支払い）	レストランやカフェでの注文や支払いの場面での会話文を練習します。
第3回	日常生活５	日常的な活動について、許可や禁止を含めて表現できるようになります。 将来的な活動プランについても作文します。
第4回	行動と感情	絵、写真や文章から、気持ちを読み取ります。 学習者自身の行動とそのときの気持ちを表現します。
第5回	まとめ３b	前期やこれまでに学習した「日常生活」に関する表現と、感情表現とをうまく組み合わせて、プレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第6回	街と住居、数詞（大きな数）	都市に関する説明文を読み、人口の表現を練習します。 そこから、学習者自身や家族の街や住居について表現方法を学びます。
第7回	街の施設	街の施設に関する語彙を学習します。 施設の場所について説明します。
第8回	住居１	住居に関する語彙を学習します。 家具が住居のどの場所・位置にあるのかを説明します。
第9回	住居２	学習者自身の部屋のレイアウトを表現します。
第10回	まとめ４	これまでのまとめとして、「自身の街や住まい」について、学習者同士でプレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第11回	日常的な問題、健康１	日常的な問題の例を考え、特に健康に関する問題についての文章を読みます。
第12回	健康２、日付	日付（序数）の表現を学び、医療機関での予約を変更できるようななります。
第13回	健康３	健康で生活するために、学習者同士でアドヴァイスし合えるようになります。
第14回	祝祭と贈り物	ドイツ語圏の祝祭について学び、どのような贈り物が好まれるのかを学習者同士でインタヴューしてみます。
第15回	まとめ５	これまでのまとめとして、健康やプレゼントに関する話題について、学習者同士の間でメールや手紙を書く方法を学びます。

担当者から一言
ドイツ語IAの同項目を参照してください。なお、オフィスアワーはドイツ語IAと同様に、毎週水曜日16時30分以降の授業実施教室で行います。事前にわたしに声を掛けてください。

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120041	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

この授業では、発音をはじめ、会話の練習や聞き取り、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。
ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（１）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（２）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（３）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（４）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120041	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期授業への導入／あいさつ／アルファベート
第2回	Lektion1 （1）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第3回	Lektion1（2）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第4回	Lektion2 (1)	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第5回	Lektion2 (2)	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第6回	Lektion3 (1)	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第7回	Lektion3 (2)	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第8回	Lektion4（1）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第9回	Lektion4（2）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第10回	Lektion5 (1)	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第11回	Lektion5 (2)	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第12回	Lektion6 (1)	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第13回	Lektion6 (2)	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第14回	前期のまとめ（1）	前期のまとめ（1）
第15回	前期のまとめ（2）	前期のまとめ（2）

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120042	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

後期の授業では、前期の内容を復習しながら、会話や聞き取りの練習、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（1）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（2）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（3）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（4）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120042	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	前期の復習
第2回	Lektion7（１）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第3回	Lektion7（２）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第4回	Lektion8 (1)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第5回	Lektion8 (2)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第6回	Lektion8 (3)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第7回	Lektion9 (1)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第8回	Lektion9 (2)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第9回	Lektion9 (3)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第10回	Lektion10 (1)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第11回	Lektion10 (2)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第12回	Lektion10 (3)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第13回	Lektion11 (1)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第14回	Lektion11 (2)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第15回	Lektion11 (3)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120051	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

ドイツ語によるコミュニケーションができることを目標にした授業です。日常的なコミュニケーション場面を具体的に設定しながら、その場面に相応しい語彙や会話文、さらに個人発表のための文を提示します。それらを学習者自身によるアレンジと練習を経て、自らの力で表現したいことを身につけることができます。つまり、学習者自身の主体的な、あるいは自主的な、授業内外でのコミュニケーション活動への参加や学習者同士の協力によってはじめて、この科目を履修する意義が生まれます。

到達目標

(1) 挨拶やちょっとした会話場面（提案やお礼など）ですぐにドイツ語を使える。
(2) ドイツ語の会話文を聴きながら、重要な情報を聴き取ることができる。
(3) ドイツ語の会話文や文章を手がかりに、授業内で習得すべき内容を察知できる。
(4) 習得すべき内容は、学習者同士の反復練習によって身につけられることを実感する。
(5) 学習内容をまとめたプレゼンテーションを、さまざまなメディアを用いて完成させることができる。
(6) プレレゼンテーション内容を学習者同士で評価しあえる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	学習者、あるいは学習者同士のドイツ語によるプレゼンテーション
レポート課題		
上記以外	約40%	授業内活動による、筆記課題や音声ファイルの提出

授業外学習

ドイツ語学習は、毎回の練習の積み重ねによって、理解できる、あるいは表現できる内容が増えていきます。つまり、授業内では毎回ほぼ同じ活動を繰り返します。学習方法に慣れてしまって機械的に活動を処理することなく、学習者自身で毎回学習目標を見つけながら、それらを達成するとい

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120051	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	挨拶、名前、字母	場面に応じた挨拶表現を練習します。 学習者自身の名前を字母を用いて表現します。
第2回	ドイツ語の語彙、人物紹介、数詞	ドイツ語の語彙を導入します。 数詞を用いて、(架空の）座席番号を言います。
第3回	自己紹介、出身地、居住地	人物紹介文（作文形式）を理解し、同じ形式を用いて作文します。出身地や居住地を尋ねたり、答えたりします。
第4回	家族、年齢、職業	家族についての語彙や表現を学びます。 学習者自身の家系図を書いて、それについて説明します。
第5回	まとめ1	これまでのまとめとして、「学習者自身と家族」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第6回	事物	事物の語彙を導入します。 クイズ形式により、肯定や否定の表現を練習します。
第7回	事物紹介	事物紹介のうち、価格や人々の好みについて表現する方法を理解し、それを用いて会話文や紹介文を作ります。
第8回	飲食物	飲食物の語彙を用いて、好き・嫌いや価格、飲食の頻度を学習者同士で発表し合います。
第9回	会話文と説明文	会話文と説明文の違い（ことばの組み合わせ方の違い）を紹介します。
第10回	まとめ２	これまでのまとめとして、「事物と飲食物」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。
第11回	日常生活１、動詞フレーズ	日常生活に関する語彙を学習します。 短い文章から、学習者自身で表現できることを探します。
第12回	日常生活２、生活スタイル	日常的な活動について、曜日や頻度を含めて表現できるようになります。
第13回	日常生活３、願望・能力	日常的な活動について、願望や能力を含めて表現できるようになります。
第14回	日常生活４、義務	日常的な活動で義務で行うことを表現します。
第15回	まとめ３a	これまでのまとめとして、「学習者自身の日常生活」についてのプレゼンテーションをするための準備を行います。

担当者から一言
言語コミュニケーションは、けっして一人でなせるものでありません。必ず二人以上で言葉や気持ちのやり取りを行います。授業では二人以上で行う作業が多いので、困ったことがあれば、まず学習者同士で相談し合います。その上で教員に質問されることを勧めます。「授業中は常に誰かと何

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120052	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

到達目標

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	約60%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。
レポート課題		
上記以外	約40%	ドイツ語IAの同項目を参照してください。

授業外学習

ドイツ語IAの同項目を参照してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MOTIVE A1, Kursbuch	Wilfried Krenn, Herbert Puchta？	Hueber	978-3-19-001880-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	竹内　一高※
講義コード	1120052	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	レストラン、カフェ１、前期の復習	地域料理について知識を得ます。 前期に学習した内容の復習と、学習方法の再確認をします。
第2回	レストラン、カフェ２（注文、支払い）	レストランやカフェでの注文や支払いの場面での会話文を練習します。
第3回	日常生活５	日常的な活動について、許可や禁止を含めて表現できるようになります。 将来的な活動プランについても作文します。
第4回	行動と感情	絵、写真や文章から、気持ちを読み取ります。 学習者自身の行動とそのときの気持ちを表現します。
第5回	まとめ３b	前期やこれまでに学習した「日常生活」に関する表現と、感情表現とをうまく組み合わせて、プレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第6回	街と住居、数詞（大きな数）	都市に関する説明文を読み、人口の表現を練習します。 そこから、学習者自身や家族の街や住居について表現方法を学びます。
第7回	街の施設	街の施設に関する語彙を学習します。 施設の場所について説明します。
第8回	住居１	住居に関する語彙を学習します。 家具が住居のどの場所・位置にあるのかを説明します。
第9回	住居２	学習者自身の部屋のレイアウトを表現します。
第10回	まとめ４	これまでのまとめとして、「自身の街や住まい」について、学習者同士でプレゼンテーションできる形式に仕上げます。
第11回	日常的な問題、健康１	日常的な問題の例を考え、特に健康に関する問題についての文章を読みます。
第12回	健康２、日付	日付（序数）の表現を学び、医療機関での予約を変更できるようななります。
第13回	健康３	健康で生活するために、学習者同士でアドヴァイスし合えるようになります。
第14回	祝祭と贈り物	ドイツ語圏の祝祭について学び、どのような贈り物が好まれるのかを学習者同士でインタヴューしてみます。
第15回	まとめ５	これまでのまとめとして、健康やプレゼントに関する話題について、学習者同士の間でメールや手紙を書く方法を学びます。

担当者から一言
ドイツ語IAの同項目を参照してください。なお、オフィスアワーはドイツ語IAと同様に、毎週水曜日16時30分以降の授業実施教室で行います。事前にわたしに声を掛けてください。

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120056	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業概要

この授業では、発音をはじめ、会話の練習や聞き取り、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。
ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（１）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（２）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（３）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（４）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120056	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期授業への導入／あいさつ／アルファベート
第2回	Lektion1 （1）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第3回	Lektion1（2）	つづりと発音／あいさつ／数字0-12
第4回	Lektion2（1）	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第5回	Lektion2（2）	人称代名詞／sein／数字13-19／曜日／重要表現
第6回	Lektion3（1）	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第7回	Lektion3（2）	規則変化動詞／haben／月／数字20-29
第8回	Lektion4（1）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第9回	Lektion4（2）	不規則に変化する動詞／命令形／自己紹介
第10回	Lektion5（1）	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第11回	Lektion5（2）	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／疑問詞／数字30-／体の部位
第12回	Lektion6（1）	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第13回	Lektion6（2）	冠詞・冠詞類の格変化／体の不調を訴える
第14回	前期のまとめ（1）	前期のまとめ（1）
第15回	前期のまとめ（2）	前期のまとめ（2）
担当者から一言		

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120057	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業概要

後期の授業では、前期の内容を復習しながら、会話や聞き取りの練習、基本的な文法事項の説明を通して、ドイツ語を基礎から学んでいきます。ドイツ語圏の音楽や文学などにも触れながら、ドイツ語圏の人々や文化、社会にたいする理解を深めていきます。同時に、あらたな語学を通して、自分の母語にたいする意識も養っていきます。

到達目標

（1）ドイツ語の正しい発音を身につける。
（2）ドイツ語の基本的な文法知識や語彙を習得する。
（3）辞書を用いてドイツ語で書かれた平易な文章の読解力や作文をする能力を養う。
（4）平易なドイツ語の日常会話の表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０％	到達目標（２）と（３）については、筆記試験で評価します。場合によっては、口頭試験で評価します。
レポート課題		
上記以外	４０％	とくに到達目標（１）と（４）については、授業中のペア練習や小テストで評価します。

定期試験の成績と平常点をあわせて総合的に評価します。
平常点に、出席点は含まれません。
ただし、欠席や遅刻が多い場合、また授業中の態度によっては、平常点から減点します。

授業外学習

練習問題等の課題の確認をしながら授業を進めるので、かならず下調べしたうえで出席すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	とってもかんたん！ドイツ語入門	香月恵里	第三書房	978-4-8086-1193-4
2				
3				

独和辞典は毎回必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に補足資料をプリントで随時配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	麻生　陽子※
講義コード	1120057	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101FRL102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	前期の復習
第2回	Lektion7（１）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第3回	Lektion7（２）	名詞の複数形／男性弱変化名詞／非人称es／辞書の見方／数字100-
第4回	Lektion8 (1)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第5回	Lektion8 (2)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第6回	Lektion8 (3)	人称代名詞／前置詞／時刻の表現
第7回	Lektion9 (1)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第8回	Lektion9 (2)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第9回	Lektion9 (3)	形容詞と副詞の用法／比較級・最上級／人々の紹介
第10回	Lektion10 (1)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第11回	Lektion10 (2)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第12回	Lektion10 (3)	未来表現／分離動詞／1日の予定を言う／序数／道を尋ねる・教える
第13回	Lektion11 (1)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第14回	Lektion11 (2)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む
第15回	Lektion11 (3)	話法の助動詞／注文する／葉書を読む

担当者から一言

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	吉村　淳一
講義コード	1120061	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業概要

ドイツ語Ｉで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な文法の知識を身につける。この授業では、特に「話す」、「聞く」力に重点を置き、ペア練習、グループ練習、個人指導により、ドイツ語文法の基礎知識を応用できるようにする。また、実物教材やプリントを用意し、ドイツ文化の知識も深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。また文化紹介の時間を設けて、５分から１０分程度の音楽や映像を提示するので、ヨーロッパ諸国の一員であるドイツを知る手がかりにしてもらいたい。

到達目標

zu-不定詞、現在完了形、過去形、形容詞の変化などの文法の知識を身につける。具体的には、以下のことを目標とする。（１）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。（２）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（３）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（４）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（５）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	（２）と（３）に関しては筆記試験（３０％）で評価する。
レポート課題		
上記以外	70	（１）に関しては学期末の課題（模擬試験：２０％）、（３）に関しては小テスト（１０％）、（４）に関しては口述試験（３０％）、（５）に関しては会話練習（学生や教員とのペア練習：１０％）の成績により評価する。

欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。また、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

その他の宿題や小テストに関しては習熟度に合わせて適宜指示する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

会話練習用プリントを配布するのでクリアブックを用意すること。ドイツ語Ｉで使用していた教科書を持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	吉村　淳一
講義コード	1120061	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の説明＋ドイツ語Ｉの復習（１）
第2回	分離動詞・非分離動詞	文法＆表現＆会話練習＋ドイツ語Ｉの復習（２）
第3回	命令形、序数	文法＆表現＆会話練習＋ドイツ語Ｉの復習（３）
第4回	zu-不定詞（１）	文法＆表現＋ドイツ語Ｉの復習（４）
第5回	zu-不定詞（２）	会話練習
第6回	三基本形（１）	文法＆表現
第7回	三基本形（２）	文法＆表現
第8回	現在完了形（１）	文法＆表現
第9回	現在完了形（２）	会話練習
第10回	疑問詞（１）	文法＆表現＋会話練習
第11回	疑問詞（２）	会話練習
第12回	過去形、形容詞（１）	文法＆表現＋会話練習
第13回	過去形、形容詞（２）	会話練習
第14回	過去形、形容詞（３）	文法＆表現
第15回	まとめ	課題（模擬試験）＋口述試験

担当者から一言
言語を習得するのには時間がかかります。失敗を恐れずに我慢強く毎回練習を積み重ねていってください。

講義名	ドイツ語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	吉村　淳一
講義コード	1120062	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業概要

ドイツ語Ｉやドイツ語ＩＩAで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な文法の知識を身につける。この授業では、特に「話す」、「聞く」力に重点を置き、ペア練習、グループ練習、個人指導により、ドイツ語文法の基礎知識を応用できるようにする。また、実物教材やプリントを用意し、ドイツ文化の知識も深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。また文化紹介の時間を設けて、５分から１０分程度の音楽や映像を提示するので、ヨーロッパ諸国の一員であるドイツを知る手がかりにしてもらいたい。

到達目標

形容詞の比較変化、分詞、受動態、副文、関係代名詞、接続法などの文法の知識を身につける。具体的には、以下のことを目標とする。（１）授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを使って練習問題を解いたり簡単な文章を読解したりすることができる。（２）習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。（３）参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。（４）参照するものがなくても、習得した文法の知識を活用して簡単なドイツ語会話であればできる。（５）参照するものがあれば、正しい発音や簡単なドイツ語会話ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	（２）と（３）に関しては筆記試験（３０％）で評価する。
レポート課題		
上記以外	70	（１）に関しては学期末の課題（模擬試験：２０％）、（３）に関しては小テスト（１０％）、（４）に関しては口述試験（３０％）、（５）に関しては会話練習（学生や教員とのペア練習：１０％）の成績により評価する。

欠席や遅刻などがある場合には全体の評点から減点していくこととする。また3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

宿題や小テストに関しては習熟度に合わせて適宜指示する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

会話練習用プリントを配布するのでクリアブックを用意すること。ドイツ語Ｉで使用した教科書も持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	吉村　淳一
講義コード	1120062	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ドイツ語Ｉ＋ドイツ語ＩＩAの復習	文法＆表現＋会話練習
第2回	形容詞の比較変化（１）	文法＆表現
第3回	形容詞の比較変化（２）	会話練習
第4回	再帰代名詞＋再帰動詞	文法＆表現
第5回	非人称表現	文法＆表現
第6回	分詞	文法＆表現
第7回	受動態	文法＆表現
第8回	副文（１）	文法＆表現
第9回	副文（２）	会話練習
第10回	指示代名詞	文法＆表現
第11回	関係代名詞（１）	文法＆表現
第12回	関係代名詞（２）	文法＆表現
第13回	接続法（１）	文法＆表現
第14回	接続法（２）	文法＆表現＋会話練習
第15回	まとめ	課題（模擬試験）＋口述試験

担当者から一言
言語を習得するのには時間がかかります。失敗を恐れずに我慢強く毎回練習を積み重ねていってください。

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120071	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業概要

German Ⅰで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を読む機会も作り、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章を読めるようになる。
この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセンテンスや重要な語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために口述テストを行っていく。更に、自宅でも学習する機会が増えるよう、宿題として読み物に目を通す機会も作る。
その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介も、毎回5分から10分程度設ける予定にしている。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。

到達目標

規則動詞、不規則動詞の現在人称変化、名詞や人称代名詞の格変化、形容詞の格変化、前置詞や話法の助動詞、再帰動詞などの文法の知識を身につける。
話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とする。
具体的には、以下を目標とする。
⑴　授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを参照して練習問題を解いたり、簡単な文章を読解することができる。
⑵　習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。
⑶　参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	習得した文法の知識や語彙を活用して、参照するものなしに簡単な文法の問題を解くことができる。簡単な文章を作ることができる。 また辞書を使用して読み物を正しく読解できる。
レポート課題	10%	辞書を使用して、読み物を正しく読解できる。
上記以外	60%	記述式の小テスト　30% 参照するものなしに、学習した重要な文法事項や表現を記述することができる。

授業外学習

「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」のために授業外での準備はある程度必要となる。また読解練習を宿題とすることもあるが、学習したことを復習するためで、負担になるほど課すことはない。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi	Elisabeth Schmidt	郁文堂	978-4-261-01217-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に文化紹介や、教科書を補う形でプリントを配布する予定。配布されたプリントは、当日の授業で終えられない場合もあるので、終えるまで

前提学力等

German Ⅰの復習も兼ねながら新しい表現を習得していくので、しっかり確認するつもりで新たに臨んでほしい。

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120071	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	German Ⅰの復習	発音とつづり字の読み方、あいさつ、数字などを復習する。
第2回	Lektion 1.　挨拶	(大学で)人と知り合いになる際のやりとりと、第3者について説明する表現を習得する。
第3回	Lektion 1.　挨拶	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、人称代名詞や規則動詞の現在人称変化、不規則動詞 sein の現在人称変化、疑問詞や語順などについて確認する。
第4回	Lektion 2.　飲食	カフェやレストランで飲食をする際に必要な表現を習得する。
第5回	Lektion 2.　飲食	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、不規則動詞 haben の現在人称変化や定冠詞、不定冠詞、否定冠詞などについて確認する。
第6回	Lektion 3.　紹介	公園を散歩しながら自分の行動を説明したり、出会った人について紹介する表現を習得する。
第7回	Lektion 3.　紹介	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、前置詞や、その前置詞と結びつく名詞の格を覚える。
第8回	Lektion 3.　紹介	前回に引き続き、再帰動詞や不規則動詞の現在人称変化など必要な文法事項を学習し、Lektion 3 で習得した表現を文法の視点からも理解する。国名や国民、国語に関する語彙も覚える。
第9回	Lektion 4.　散策	(原宿で)買い物をする際に必要な表現を習得する。また、その際に必要な文法知識として、指示代名詞や不規則動詞の現在人称変化を確認する。
第10回	Lektion 4.　散策	自分の嗜好を述べたり、道案内をするのに必要な表現を習得する。文法知識としては、命令形を学習する。
第11回	Lektion 4.　散策	前回に引き続き、所有冠詞など必要な文法事項を学習し、Lektion 4 で習得した表現を文法の視点からも理解する。
第12回	Lektion 5.　旅行	(京都)観光する際に使用するであろう表現を習得する。
第13回	Lektion 5.　旅行	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、話法の助動詞や形容詞の格変化を学習する。
第14回	Lektion 5.　旅行	前回に引き続き、名詞の複数形など必要な文法事項を学習し、Lektion 5 で習得した表現を文法の視点からも理解する。
第15回	復習	Lektion 1〜5 全体を復習する。

担当者から一言
度重なる欠席が「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」を受ける機会を失わせ、評価を下げる原因になるので注意してほしい。また授業中は授業に集中し、余裕をもって合格してほしい。

講義名	ドイツ語ⅡB（中級コース）（火2限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120072	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業概要

German Ⅰと German ⅡA で学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を読む機会も作り、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章を読めるようになる。
この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセンテンスや重要な語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために口述テストを行っていく。更に、自宅でも学習する機会が増えるよう、宿題として読み物に目を通す機会も作る。
その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介も、毎回5分から10分程度設ける予定にしている。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。

到達目標

動詞の3基本形、現在完了形、過去形、形式上の es 、形容詞・副詞の比較級・最上級、副文、接続法第Ⅱ式、分離動詞・非分離動詞、受動文などの文法の知識を身につけ、各課に出てきた語彙を習得する。
話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とする。
具体的には、以下を目標とする。
⑴　授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを参照して練習問題を解いたり、簡単な文章を読解することができる。
⑵　習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。
⑶　参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	習得した文法の知識や語彙を活用して、参照するものなしに簡単な文法の問題を解くことができる。簡単な文章を作ることができる。 また辞書を使用して読み物を正しく読解できる。
レポート課題	10%	辞書を使用して、読み物を正しく読解できる。
上記以外	60%	記述式の小テスト　30% 参照するものなしに、学習した重要な文法事項や表現を記述することができる。

授業外学習

「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」のために授業外での準備はある程度必要となる。また読解練習を宿題とすることもあるが、学習したことを復習するためで、負担になるほど課すことはない。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi	Elisabeth Schmidt	郁文堂	978-4-261-01217-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に文化紹介や、教科書を補う形でプリントを配布する予定。配布されたプリントは、当日の授業で終えられない場合もあるので、終えるまで

前提学力等

German Ⅰや German ⅡA の復習も兼ねながら新しい表現を習得していくので、しっかり確認するつもりで授業に臨んでほしい。

履修資格

講義名	ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120072	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Lektion 6.　旅の思い出A	(京都)旅行で何をしたか説明する表現を習得する。また動詞の3基本形と現在完了形を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第2回	Lektion 6.　旅の思い出	(京都)旅行について手紙を書けるようになる。ドイツでは特に何が素晴らしいか説明する表現を習得する。また複数形の名詞を修飾する形容詞の格変化を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解
第3回	Lektion 6.　旅の思い出	どこへ行っていたのか説明する表現を習得する。また過去形を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第4回	Lektion 7.　買い物	天気に関する表現を習得する。また形式上の es を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第5回	Lektion 7.　買い物	(スーパーマーケットで)買い物する際に品物を比較する表現を習得する。また形容詞・副詞の比較級・最上級を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第6回	Lektion 7.　買い物	買った物について、購入した理由を説明できるようになる。また副文を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第7回	Lektion 7.　買い物	副文を使って希望を述べる表現を習得する。
第8回	Lektion 8.　招待	迎えに来てもらう約束ができるようになる。また序数や日付の言い方、時刻の言い方、月・曜日・季節に関する語彙を学習する。
第9回	Lektion 8.　招待	家族に関する表現を習得する。また接続法第Ⅱ式を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解し、更に職業・身分に関する語彙を習得する。
第10回	Lektion 8.　招待	家や部屋に関する表現を学習する。西暦年数の読み方も学ぶ。
第11回	Lektion 9.　出発	別れに際して、1年間日本に滞在した感想を言えるようになる。また再帰動詞を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第12回	Lektion 9.　出発	帰国する際のタイムスケジュールを説明できるようになる。また分離動詞と非分離動詞を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第13回	Lektion 9.　出発	帰国する飛行機内で上演される映画について言えるようになる。別れの挨拶を習得する。また受動文を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第14回	Lektion 9.　出発	帰国した友人にEメールを書いてみる。
第15回	復習	Lektion 6〜9 全体を復習する。

担当者から一言
度重なる欠席が「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」を受ける機会を失わせ、評価を下げる原因になるので注意してほしい。また授業中は授業に集中し、余裕をもって合格してほしい。

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120091	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業概要

German Ⅰで学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を読む機会も作り、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章を読めるようになる。
この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセンテンスや重要な語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために口述テストを行っていく。更に、自宅でも学習する機会が増えるよう、宿題として読み物に目を通す機会も作る。
その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介も、毎回5分から10分程度設ける予定にしている。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。

到達目標

規則動詞、不規則動詞の現在人称変化、名詞や人称代名詞の格変化、形容詞の格変化、前置詞や話法の助動詞、再帰動詞などの文法の知識を身につける。
話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とする。
具体的には、以下を目標とする。
⑴　授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを参照して練習問題を解いたり、簡単な文章を読解することができる。
⑵　習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。
⑶　参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	習得した文法の知識や語彙を活用して、参照するものなしに簡単な文法の問題を解くことができる。簡単な文章を作ることができる。 また辞書を使用して読み物を正しく読解できる。
レポート課題	10%	辞書を使用して、読み物を正しく読解できる。
上記以外	60%	記述式の小テスト　30% 参照するものなしに、学習した重要な文法事項や表現を記述することができる。

授業外学習

「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」のために授業外での準備はある程度必要となる。また読解練習を宿題とすることもあるが、学習したことを復習するためで、負担になるほど課すことはない。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi	Elisabeth Schmidt	郁文堂	978-4-261-01217-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に文化紹介や、教科書を補う形でプリントを配布する予定。配布されたプリントは、当日の授業で終えられない場合もあるので、終えるまで

前提学力等

German Ⅰの復習も兼ねながら新しい表現を習得していくので、しっかり確認するつもりで新たに臨んでほしい。

履修資格

講義名	ドイツ語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120091	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	German Ⅰの復習	発音とつづり字の読み方、あいさつ、数字などを復習する。
第2回	Lektion 1.　挨拶	(大学で)人と知り合いになる際のやりとりと、第3者について説明する表現を習得する。
第3回	Lektion 1.　挨拶	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、人称代名詞や規則動詞の現在人称変化、不規則動詞 sein の現在人称変化、疑問詞や語順などについて確認する。
第4回	Lektion 2.　飲食	カフェやレストランで飲食をする際に必要な表現を習得する。
第5回	Lektion 2.　飲食	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、不規則動詞 haben の現在人称変化や定冠詞、不定冠詞、否定冠詞などについて確認する。
第6回	Lektion 3.　紹介	公園を散歩しながら自分の行動を説明したり、出会った人について紹介する表現を習得する。
第7回	Lektion 3.　紹介	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、前置詞や、その前置詞と結びつく名詞の格を覚える。
第8回	Lektion 3.　紹介	前回に引き続き、再帰動詞や不規則動詞の現在人称変化など必要な文法事項を学習し、Lektion 3 で習得した表現を文法の視点からも理解する。国名や国民、国語に関する語彙も覚える。
第9回	Lektion 4.　散策	(原宿で)買い物をする際に必要な表現を習得する。また、その際に必要な文法知識として、指示代名詞や不規則動詞の現在人称変化を確認する。
第10回	Lektion 4.　散策	自分の嗜好を述べたり、道案内をするのに必要な表現を習得する。文法知識としては、命令形を学習する。
第11回	Lektion 4.　散策	前回に引き続き、所有冠詞など必要な文法事項を学習し、Lektion 4 で習得した表現を文法の視点からも理解する。
第12回	Lektion 5.　旅行	(京都)観光する際に使用するであろう表現を習得する。
第13回	Lektion 5.　旅行	前回の授業で習得した表現に必要な文法知識として、話法の助動詞や形容詞の格変化を学習する。
第14回	Lektion 5.　旅行	前回に引き続き、名詞の複数形など必要な文法事項を学習し、Lektion 5 で習得した表現を文法の視点からも理解する。
第15回	復習	Lektion 1〜5 全体を復習する。

担当者から一言
度重なる欠席が「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」を受ける機会を失わせ、評価を下げる原因になるので注意してほしい。また授業中は授業に集中し、余裕をもって合格してほしい。

講義名	ドイツ語ⅡB（中級コース）（火3限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120092	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業概要

German Ⅰと German ⅡA で学習した表現や基礎文法を復習しながら、ドイツ語の実用的な会話能力を身につける。また短い読み物を読む機会も作り、辞書さえあれば平易なドイツ語の文章を読めるようになる。
この授業では、日常的な会話表現をペアワークで覚えていきながら、キーセンテンスや重要な語彙、文法を定着させていく。重要な文法事項や表現については、復習をした上で記述式の小テストを行い、会話表現については、正しく発音や理解がなされているか確認するために口述テストを行っていく。更に、自宅でも学習する機会が増えるよう、宿題として読み物に目を通す機会も作る。
その他、視聴覚資料を用いたドイツ語圏の文化紹介も、毎回5分から10分程度設ける予定にしている。ドイツ語の社会的・文化的背景に関する知識は、語学力を必ず補ってくれるからである。

到達目標

動詞の3基本形、現在完了形、過去形、形式上の es 、形容詞・副詞の比較級・最上級、副文、接続法第Ⅱ式、分離動詞・非分離動詞、受動文などの文法の知識を身につけ、各課に出てきた語彙を習得する。
話し言葉では、基本的な会話表現を習得することを目標とする。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とする。
具体的には、以下を目標とする。
⑴　授業で取り扱った文法を理解し、辞書などを参照して練習問題を解いたり、簡単な文章を読解することができる。
⑵　習得した文法の知識を文章の読解や作文に活用することができる。
⑶　参照するものがなくても、簡単な文法の問題であれば解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	習得した文法の知識や語彙を活用して、参照するものなしに簡単な文法の問題を解くことができる。簡単な文章を作ることができる。 また辞書を使用して読み物を正しく読解できる。
レポート課題	10%	辞書を使用して、読み物を正しく読解できる。
上記以外	60%	記述式の小テスト　30% 参照するものなしに、学習した重要な文法事項や表現を記述することができる。

授業外学習

「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」のために授業外での準備はある程度必要となる。また読解練習を宿題とすることもあるが、学習したことを復習するためで、負担になるほど課すことはない。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめようドイツ語 Unterwegs mit Tobi	Elisabeth Schmidt	郁文堂	978-4-261-01217-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に文化紹介や、教科書を補う形でプリントを配布する予定。配布されたプリントは、当日の授業で終えられない場合もあるので、終えるまで

前提学力等

German Ⅰや German ⅡA の復習も兼ねながら新しい表現を習得していくので、しっかり確認するつもりで授業に臨んでほしい。

履修資格

講義名	ドイツ語ⅡＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	大森　智子※
講義コード	1120092	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Lektion 6.　旅の思い出A	(京都)旅行で何をしたか説明する表現を習得する。また動詞の3基本形と現在完了形を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第2回	Lektion 6.　旅の思い出	(京都)旅行について手紙を書けるようになる。ドイツでは特に何が素晴らしいか説明する表現を習得する。また複数形の名詞を修飾する形容詞の格変化を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解
第3回	Lektion 6.　旅の思い出	どこへ行っていたのか説明する表現を習得する。また過去形を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第4回	Lektion 7.　買い物	天気に関する表現を習得する。また形式上の es を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第5回	Lektion 7.　買い物	(スーパーマーケットで)買い物する際に品物を比較する表現を習得する。また形容詞・副詞の比較級・最上級を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第6回	Lektion 7.　買い物	買った物について、購入した理由を説明できるようになる。また副文を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第7回	Lektion 7.　買い物	副文を使って希望を述べる表現を習得する。
第8回	Lektion 8.　招待	迎えに来てもらう約束ができるようになる。また序数や日付の言い方、時刻の言い方、月・曜日・季節に関する語彙を学習する。
第9回	Lektion 8.　招待	家族に関する表現を習得する。また接続法第Ⅱ式を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解し、更に職業・身分に関する語彙を習得する。
第10回	Lektion 8.　招待	家や部屋に関する表現を学習する。西暦年数の読み方も学ぶ。
第11回	Lektion 9.　出発	別れに際して、1年間日本に滞在した感想を言えるようになる。また再帰動詞を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第12回	Lektion 9.　出発	帰国する際のタイムスケジュールを説明できるようになる。また分離動詞と非分離動詞を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第13回	Lektion 9.　出発	帰国する飛行機内で上演される映画について言えるようになる。別れの挨拶を習得する。また受動文を学習し、文法の視点からも習得した表現を理解する。
第14回	Lektion 9.　出発	帰国した友人にEメールを書いてみる。
第15回	復習	Lektion 6〜9 全体を復習する。

担当者から一言
度重なる欠席が「記述式の小テスト」や「会話文の暗唱テスト」を受ける機会を失わせ、評価を下げる原因になるので注意してほしい。また授業中は授業に集中し、余裕をもって合格してほしい。

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	一課ごとに文法の基礎知識と語彙力を試す小テストを行う。 また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アミカルマン＜プリュス＞	澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学	駿河台出版社	978-4-411-01127-5
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	導入１	挨拶表現、アルファベとつづり字記号
第2回	導入２	綴り字の読み方、リエゾン・エリジョン・アンシェヌマン
第3回	第１課　会話１、文法	名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞
第4回	第１課　会話２、文法	主語人称代名詞、動詞être
第5回	第１課　練習問題、文化紹介１	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの国土）
第6回	第２課　会話１、文法	動詞avoir、疑問文のつくり方、形容詞
第7回	第２課　会話２、文法	否定文のつくり方
第8回	第２課　練習問題、文化紹介２	文法の復習とロールプレイ、文化紹介(首都パリ)
第9回	第３課　会話１、文法	第一群規則動詞、指示形容詞
第10回	第３課　会話２、文法	第二群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
第11回	第３課　練習問題、文化紹介３	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（カフェ）
第12回	第４課　会話１、文法	動詞aller, venir, faireと近接未来・近接過去
第13回	第４課　会話２、文法	動詞prendre,、命令法、時間の表現
第14回	第４課　練習問題、文化紹介４	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの大学）
第15回	まとめ	全体のまとめと補足

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	一課ごとに文法の基礎知識と語彙力を試す小テストを行う。 また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アミカルマン＜プリュス＞	澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学	駿河台出版社	978-4-411-01127-5
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第５課　会話１、文法	人称代名詞（１）、比較級
第2回	第５課　会話２、文法	人称代名詞（２）、最上級
第3回	第５課　練習問題、文化紹介５	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの食文化）
第4回	第６課　会話１、文法	代名動詞
第5回	第６課　会話２、文法	動詞pouvoir, vouloir, devoir
第6回	第６課　練習問題、文化紹介６	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（ブルターニュ地方）
第7回	第７課　会話１、文法	複合過去（１）
第8回	第７課　会話２、文法	複合過去（２）
第9回	第７課　練習問題、文化紹介７	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（プロヴァンス地方）
第10回	第８課　会話１、文法	半過去、関係代名詞
第11回	第８課　会話２、文法	受動態、接続詞queを使った表現
第12回	第８課　練習問題、文化紹介８	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（アルザス地方）
第13回	第９課　会話１、文法	単純未来
第14回	第９課　会話２、文法	ジェロンディフ、中性代名詞
第15回	第9課　練習問題、全体のまとめ	文法の復習とロールプレイ、全体のまとめと補足

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	一課ごとに文法の基礎知識と語彙力を試す小テストを行う。 また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アミカルマン＜プリュス＞	澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学	駿河台出版社	978-4-411-01127-5
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	導入１	挨拶表現、アルファベとつづり字記号
第2回	導入２	綴り字の読み方、リエゾン・エリジョン・アンシェヌマン
第3回	第１課　会話１、文法	名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞
第4回	第１課　会話２、文法	主語人称代名詞、動詞être
第5回	第１課　練習問題、文化紹介１	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの国土）
第6回	第２課　会話１、文法	動詞avoir、疑問文のつくり方、形容詞
第7回	第２課　会話２、文法	否定文のつくり方
第8回	第２課　練習問題、文化紹介２	文法の復習とロールプレイ、文化紹介(首都パリ)
第9回	第３課　会話１、文法	第一群規則動詞、指示形容詞
第10回	第３課　会話２、文法	第二群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
第11回	第３課　練習問題、文化紹介３	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（カフェ）
第12回	第４課　会話１、文法	動詞aller, venir, faireと近接未来・近接過去
第13回	第４課　会話２、文法	動詞prendre,、命令法、時間の表現
第14回	第４課　練習問題、文化紹介４	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの大学）
第15回	まとめ	全体のまとめと補足

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	一課ごとに文法の基礎知識と語彙力を試す小テストを行う。 また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アミカルマン＜プリュス＞	澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学	駿河台出版社	978-4-411-01127-5
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第５課　会話１、文法	人称代名詞（１）、比較級
第2回	第５課　会話２、文法	人称代名詞（２）、最上級
第3回	第５課　練習問題、文化紹介５	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（フランスの食文化）
第4回	第６課　会話１、文法	代名動詞
第5回	第６課　会話２、文法	動詞pouvoir, vouloir, devoir
第6回	第６課　練習問題、文化紹介６	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（ブルターニュ地方）
第7回	第７課　会話１、文法	複合過去（１）
第8回	第７課　会話２、文法	複合過去（２）
第9回	第７課　練習問題、文化紹介７	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（プロヴァンス地方）
第10回	第８課　会話１、文法	半過去、関係代名詞
第11回	第８課　会話２、文法	受動態、接続詞queを使った表現
第12回	第８課　練習問題、文化紹介８	文法の復習とロールプレイ、文化紹介（アルザス地方）
第13回	第９課　会話１、文法	単純未来
第14回	第９課　会話２、文法	ジェロンディフ、中性代名詞
第15回	第９課　練習問題、全体のまとめ	文法の復習とロール・プレイ、全体のまとめと補足

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	学期半ばに到達度確認試験を行う。また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	タルト・タタン	藤田裕二、東海麻衣子	駿河台出版社	978-4-411-01120-6
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	導入	アルファベとつづり字記号、つづり字の読み方を学ぶ
第2回	第１課　文法と会話１	基本のあいさつ表現、主語人称代名詞、動詞être、国籍の言い方を学ぶ
第3回	第１課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第4回	第２課　文法と会話１	名詞と不定冠詞、形容詞の性・数一致について学ぶ
第5回	第２課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第6回	第３課　文法と会話１	第一群規則動詞、定冠詞、疑問文の作り方を学ぶ
第7回	第３課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第8回	到達度確認試験、前半のまとめ	到達度確認試験、前半のまとめと補足
第9回	第４課　文法と会話１	動詞avoir、形容詞の使い方、否定文の作り方を学ぶ
第10回	第４課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第11回	第５課　文法と会話１	動詞allerとfaire、近接未来の文を学ぶ
第12回	第５課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第13回	第６課　文法と会話１	動詞pouvoir、所有形容詞、疑問形容詞の使い方を学ぶ
第14回	第６課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第15回	まとめと文化紹介	全体のまとめおよびフランス文化の紹介

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業概要

フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。

到達目標

(1)フランス語におけるつづり字の読み方の規則をマスターし、フランス語を正確に読み、聞くことができるようになる。
(2)文法の理解に基づき、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法知識、応用力、聞き取りの力を問う記述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50	学期半ばに到達度確認試験を行う。また、授業中の課題への取り組み等により、各自が「到達目標」に向けて十分な努力をしているかを、平常点として評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業中に学んだモデル会話や練習問題が録音された音源を積極的に利用して、フランス語を聞き、発音することに慣れるよう努力してもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	タルト・タタン	藤田裕二、東海麻衣子	駿河台出版社	978-4-411-01120-6
2				
3				

辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しなくてよい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校卒業程度の英語力を前提とする。

履修資格

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	辻村　暁子※
講義コード	1120152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	前期に学んだ内容の復習
第2回	第７課　文法と会話１	疑問代名詞、定冠詞の縮約を学ぶ
第3回	第７課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第4回	第８課　文法と会話１	動詞vouloir、prendre、部分冠詞を学ぶ
第5回	第８課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第6回	第９課　文法と会話１	動詞venirと近接過去の文、第二群規則動詞、補語人称代名詞について学ぶ
第7回	第９課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第8回	到達度確認試験、前半のまとめ	到達度確認試験、前半のまとめと補足
第9回	第１０課　文法と会話１	複合過去、中性代名詞を学ぶ
第10回	第１０課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第11回	第１１課　文法と会話１	半過去、動詞savoirとconnaîtreを学ぶ
第12回	第１１課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第13回	第１２課　文法と会話１	非人称構文、代名動詞、感嘆文を学ぶ
第14回	第１２課　会話２と練習問題	文法の復習および聞き取り問題、作文、ロールプレイを行う
第15回	まとめと文化紹介	全体のまとめ、およびフランス文化の紹介

担当者から一言

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業概要

発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Moi，je... コミュニケーション	ブリュノ・バニュウヴェンヌウィズ，他	アルマ出版	9784905343035
2				
3				

「付属ブックレット」あり

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2				
3				

1．上記参考書は，フランス語の文法をより詳しく理解して身に付けたい人のために．

前提学力等

履修資格

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	教科書，授業運営，成績評価などについての説明 アンケート
第2回	第１課：自己紹介をする	発音：主語人称代名詞など ポイント１：あなたは日本人ですか
第3回	第１課：自己紹介をする	ポイント２：私もです・私は… 会話練習
第4回	第２課：今住んでいるところや出身地について話す	発音：動詞habiterの活用など ポイント１：東京に住んでいますか？
第5回	第２課：今住んでいるところや出身地について話す	ポイント２：東京の出身ですか？ 会話練習
第6回	第３課：交通手段について話す	発音：動詞venirの活用など ポイント１：疑問視を使った疑問文と，はい・いいえで答える疑問文
第7回	第３課：交通手段について話す	ポイント２：どうやってここに来ますか？ 会話練習
第8回	第４課：アルバイトについて話す	発音：動詞travaillerの活用など ポイント１：アルバイトをしていますか？
第9回	第４課：アルバイトについて話す	ポイント２：どうですか？ 会話練習
第10回	第５課：ペットなどについて話す	発音：動詞avoirの活用など ポイント１：犬を飼っていますか？
第11回	第５課：ペットなどについて話す	ポイント２：どんな…を～ですか？ 会話練習
第12回	第６課：科目・先生について話す	発音：動詞aimerの活用など ポイント１：数学の先生は好きですか？
第13回	第６課：科目・先生について話す	ポイント２：はい，彼は感じがいいです 会話練習
第14回	第７課：食べ物について話す	発音：動詞mangerの活用など ポイント１：朝は何を食べますか？
第15回	第７課：食べ物について話す	ポイント２：パンが好きです 会話練習

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業概要

発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Moi，je... コミュニケーション	ブリュノ・バニュウヴェンヌウィズ，他	アルマ出版	9784905343035
2				
3				

「付属ブックレット」あり

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2				
3				

上記参考書は，フランス語の文法をより詳しく理解して身に付けたい人のために．

前提学力等

履修資格

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業運営，成績評価などについての説明
第2回	第８課：家事について話す	発音：動詞faireの活用など ポイント１：あなたの家では誰が料理をしますか？
第3回	第８課：家事について話す	ポイント２：料理をするのは私です． 会話練習
第4回	第９課：家族について話す	発音：数字1-20など ポイント１：お兄さんは何歳ですか？
第5回	第９課：家族について話す	ポイント２：基本的な動詞のまとめ 会話練習
第6回	第１０課：クラブ活動について話す	発音：動詞faireの活用など ポイント１：課外活動をしていますか？
第7回	第１０課：クラブ活動について話す	ポイント２：私は演劇部のメンバーです． 会話練習
第8回	第１１課：習慣について話す	発音：頻度の副詞など ポイント１：よく肉を食べますか？
第9回	第１１課：習慣について話す	ポイント２：それを食べます．それが好きです． 会話練習
第10回	第１２課：週末の過ごし方について話す	発音：動詞allerの活用など ポイント１：今週末は働くつもりですか？
第11回	第１２課：週末の過ごし方について話す	ポイント２：早く寝るつもりです． 会話練習
第12回	第１３課：時間について話す	発音：動詞partirの活用など ポイント１：何時ですか？
第13回	第１３課：時間について話す	ポイント２：月曜日は何時に起きますか？ 会話練習
第14回	第１４課：休暇中の活動について	発音：動詞travaillerの複合過去の活用など ポイント１：休みの間に何をしましたか？
第15回	第１４課：休暇中の活動について	ポイント２：それはどうでしたか？ 会話練習

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120171	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業概要

発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Moi，je... コミュニケーション	ブリュノ・バニュウヴェンヌウィズ，他	アルマ出版	9784905343035
2				
3				

「付属ブックレット」あり

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2				
3				

1．上記参考書は，フランス語の文法をより詳しく理解して身に付けたい人のために．

前提学力等

履修資格

講義名	フランス語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120171	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	教科書，授業運営，成績評価などについての説明 アンケート
第2回	第１課：自己紹介をする	発音：主語人称代名詞など ポイント１：あなたは日本人ですか
第3回	第１課：自己紹介をする	ポイント２：私もです・私は… 会話練習
第4回	第２課：今住んでいるところや出身地について話す	発音：動詞habiterの活用など ポイント１：東京に住んでいますか？
第5回	第２課：今住んでいるところや出身地について話す	ポイント２：東京の出身ですか？ 会話練習
第6回	第３課：交通手段について話す	発音：動詞venirの活用など ポイント１：疑問視を使った疑問文と，はい・いいえで答える疑問文
第7回	第３課：交通手段について話す	ポイント２：どうやってここに来ますか？ 会話練習
第8回	第４課：アルバイトについて話す	発音：動詞travaillerの活用など ポイント１：アルバイトをしていますか？
第9回	第４課：アルバイトについて話す	ポイント２：どうですか？ 会話練習
第10回	第５課：ペットなどについて話す	発音：動詞avoirの活用など ポイント１：犬を飼っていますか？
第11回	第５課：ペットなどについて話す	ポイント２：どんな…を～ですか？ 会話練習
第12回	第６課：科目・先生について話す	発音：動詞aimerの活用など ポイント１：数学の先生は好きですか？
第13回	第６課：科目・先生について話す	ポイント２：はい，彼は感じがいいです 会話練習
第14回	第７課：食べ物について話す	発音：動詞mangerの活用など ポイント１：朝は何を食べますか？
第15回	第７課：食べ物について話す	ポイント２：パンが好きです 会話練習

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120172	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業概要

発音，文法，会話，リスニングなど，できるだけバランス良く，フランス語の基礎を学ぶ．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Moi，je... コミュニケーション	ブリュノ・バニュウヴェンヌウィズ，他	アルマ出版	9784905343035
2				
3				

「付属ブックレット」あり

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2				
3				

上記参考書は，フランス語の文法をより詳しく理解して身に付けたい人のために．

前提学力等

履修資格

講義名	フランス語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120172	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業運営，成績評価などについての説明
第2回	第８課：家事について話す	発音：動詞faireの活用など ポイント１：あなたの家では誰が料理をしますか？
第3回	第８課：家事について話す	ポイント２：料理をするのは私です． 会話練習
第4回	第９課：家族について話す	発音：数字1-20など ポイント１：お兄さんは何歳ですか？
第5回	第９課：家族について話す	ポイント２：基本的な動詞のまとめ 会話練習
第6回	第１０課：クラブ活動について話す	発音：動詞faireの活用など ポイント１：課外活動をしていますか？
第7回	第１０課：クラブ活動について話す	ポイント２：私は演劇部のメンバーです． 会話練習
第8回	第１１課：習慣について話す	発音：頻度の副詞など ポイント１：よく肉を食べますか？
第9回	第１１課：習慣について話す	ポイント２：それを食べます．それが好きです． 会話練習
第10回	第１２課：週末の過ごし方について話す	発音：動詞allerの活用など ポイント１：今週末は働くつもりですか？
第11回	第１２課：週末の過ごし方について話す	ポイント２：早く寝るつもりです． 会話練習
第12回	第１３課：時間について話す	発音：動詞partirの活用など ポイント１：何時ですか？
第13回	第１３課：時間について話す	ポイント２：月曜日は何時に起きますか？ 会話練習
第14回	第１４課：休暇中の活動について	発音：動詞travaillerの複合過去の活用など ポイント１：休みの間に何をしましたか？
第15回	第１４課：休暇中の活動について	ポイント２：それはどうでしたか？ 会話練習

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120191	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL211								

授業概要

フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「星の王子さま」と学ぼう！はじめてのフランス語	山﨑庸一郎，他	第三書房	9784808602451
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2	「星の王子さま」物語	稲垣直樹	平凡社	9784582855845
3				

1.上記「新・リュミエール」は文法の詳しい参考書．

前提学力等

フランス語IA，IBの単位を取得済みであること．

履修資格

講義名	フランス語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120191	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL211								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	教科書，授業運営，成績評価などの説明 アンケート
第2回	「文字と発音」と第６課(1)	アルファベ・綴り字記号・主な発音の規則 命令形
第3回	「文字と発音」と第６課(2)	単母音字の読み方・複母音字の読み方・鼻母音の読み方 目的語人称代名詞
第4回	「文字と発音」と第６課(3)	子音字の読み方・その他の注意すべき綴り・語群を発音する際の決まり 疑問形容詞
第5回	第１課(1)と第６課(4)	名詞の性と数・不定冠詞と定冠詞 練習問題
第6回	第１課(2)と第２課(1)と第７課(1)	練習問題 動詞の性質
第7回	第２課(2)と第７課(2)	動詞êtreの活用・形容詞 関係代名詞
第8回	第２課(3)と第７課(3)	動詞の否定形・練習問題 練習問題
第9回	第３課(1)と第８課(1)	動詞avoirの活用・部分冠詞 直説法複合過去(2)
第10回	第３課(2)と第８課(2)	指示形容詞・否定文での冠詞de 比較の表現・最上級の表現
第11回	第３課(3)と第４課(1)と第８課(3)	練習問題 第１群規則動詞の活用
第12回	第４課(2)と第９課(1)	所有形容詞・疑問文 直説法半過去
第13回	第４課(3)と第５課(1)と第９課(2)	練習問題 動詞aller，venirの活用
第14回	第５課(2)と第９課(3)	強勢形人称代名詞・前置詞＋定冠詞 受動態
第15回	第５課(3)と第９課(4)	疑問代名詞que・練習問題 練習問題

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120192	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL212								

授業概要

フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「星の王子さま」と学ぼう！はじめてのフランス語	山﨑庸一郎，他	第三書房	9784808602451
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2	「星の王子さま」物語	稲垣直樹	平凡社	9784582855845
3				

1.上記「新・リュミエール」は文法の詳しい参考書．

前提学力等

フランス語IA，IBの単位を取得済みであること．

履修資格

講義名	フランス語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120192	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL212								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業運営，成績評価などの説明
第2回	第１０課(1)	代名動詞
第3回	第１０課(2)	非人称表現・練習問題
第4回	第１１課(1)	直説法単純未来・疑問代名詞qui
第5回	第１１課(2)	様々な疑問副詞・練習問題
第6回	第１２課(1)	直説法単純過去・指示代名詞ce
第7回	第１２課(2)	男性単数形を２つ持つ形容詞・関係代名詞où，dont・練習問題
第8回	第１３課(1)	現在分詞・ジェロンディフ
第9回	第１３課(2)	指示代名詞celui・練習問題
第10回	第１４課(1)	条件法
第11回	第１４課(2)	代名詞en，y・練習問題
第12回	第１５課(1)	接続法
第13回	第１５課(2)	所有代名詞・練習問題
第14回	第１６課(1)	代名動詞の直説法複合過去・時制の一致
第15回	第１６課(2)	中性代名詞le・練習問題

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL211								

授業概要

フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「星の王子さま」と学ぼう！はじめてのフランス語	山﨑庸一郎，他	第三書房	9784808602451
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2	「星の王子さま」物語	稲垣直樹	平凡社	9784582855845
3				

1.上記「新・リュミエール」は文法の詳しい参考書．

前提学力等

フランス語IA，IBの単位を取得済みであること．

履修資格

講義名	フランス語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL211								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	教科書，授業運営，成績評価などの説明 アンケート
第2回	「文字と発音」と第６課(1)	アルファベ・綴り字記号・主な発音の規則 命令形
第3回	「文字と発音」と第６課(2)	単母音字の読み方・複母音字の読み方・鼻母音の読み方 目的語人称代名詞
第4回	「文字と発音」と第６課(3)	子音字の読み方・その他の注意すべき綴り・語群を発音する際の決まり 疑問形容詞
第5回	第１課(1)と第６課(4)	名詞の性と数・不定冠詞と定冠詞 練習問題
第6回	第１課(2)と第２課(1)と第７課(1)	練習問題 動詞の性質
第7回	第２課(2)と第７課(2)	動詞êtreの活用・形容詞 関係代名詞
第8回	第２課(3)と第７課(3)	動詞の否定形・練習問題 練習問題
第9回	第３課(1)と第８課(1)	動詞avoirの活用・部分冠詞 直説法複合過去(2)
第10回	第３課(2)と第８課(2)	指示形容詞・否定文での冠詞de 比較の表現・最上級の表現
第11回	第３課(3)と第４課(1)と第８課(3)	練習問題 第１群規則動詞の活用
第12回	第４課(2)と第９課(1)	所有形容詞・疑問文 直説法半過去
第13回	第４課(3)と第５課(1)と第９課(2)	練習問題 動詞aller，venirの活用
第14回	第５課(2)と第９課(3)	強勢形人称代名詞・前置詞＋定冠詞 受動態
第15回	第５課(3)と第９課(4)	疑問代名詞que・練習問題 練習問題

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	フランス語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL212								

授業概要

フランス語による基本的なコミュニケーション能力の習得を目標に，教科書に沿って，初級コースで学んだことを復習しながら，フランス語を聞き・話し・読み・書く能力を，できるだけバランス良く伸ばすことを目標とする．

到達目標

(1) 基本的なフランス語を聞き，読み，書けるようにする．
(2) 基本的なフランス語を話せるようにする．
(3) 辞書を使いこなせるようにする．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の(1)と(3)について，リスニングを含む筆記試験を実施する．(54%) 到達目標の(2)について，口頭試験を実施する．(6%)
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標の(1)と(3)について，中間テスト(リスニングを含む筆記試験)を実施する．(20%) 到達目標の(1)と(3)について，宿題の実施を評価する．(20%)

欠席・遅刻・早退の合計が３分の１を越えた場合，評価の対象としない．

授業外学習

復習の方法：
1．重要な文法事項を理解しながらフランス語を正確に日本語に訳せるようにする．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「星の王子さま」と学ぼう！はじめてのフランス語	山﨑庸一郎，他	第三書房	9784808602451
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	増補改訂版　新リュミエール	森本英夫，他	駿河台出版社	9784411005328
2	「星の王子さま」物語	稲垣直樹	平凡社	9784582855845
3				

1.上記「新・リュミエール」は文法の詳しい参考書．

前提学力等

フランス語IA，IBの単位を取得済みであること．

履修資格

講義名	フランス語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	桂川　久※
講義コード	1120202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL212								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業運営，成績評価などの説明
第2回	第１０課(1)	代名動詞
第3回	第１０課(2)	非人称表現・練習問題
第4回	第１１課(1)	直説法単純未来・疑問代名詞qui
第5回	第１１課(2)	様々な疑問副詞・練習問題
第6回	第１２課(1)	直説法単純過去・指示代名詞ce
第7回	第１２課(2)	男性単数形を２つ持つ形容詞・関係代名詞où，dont・練習問題
第8回	第１３課(1)	現在分詞・ジェロンディフ
第9回	第１３課(2)	指示代名詞celui・練習問題
第10回	第１４課(1)	条件法
第11回	第１４課(2)	代名詞en，y・練習問題
第12回	第１５課(1)	接続法
第13回	第１５課(2)	所有代名詞・練習問題
第14回	第１６課(1)	代名動詞の直説法複合過去・時制の一致
第15回	第１６課(2)	中性代名詞le・練習問題

担当者から一言
語学を勉強するのに週１回しか授業がないというのはあまりにも不十分なので，上記のサイトなどを利用して，原則，毎日，フランス語を勉強しましょう！

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120251	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

この授業では、中国大陸で標準語として使われている「普通話」（いわゆる中国語）を学習します。

日本語の環境で育った人にとって、中国語を学習することは、漢字を一から覚えなくて良いという有利な点と、日本語にない発音を聞き取って発音しなくてはならないという不利な点があります。

皆さんは中国語が音楽のように聞こえるという体験をしたことはありませんか？　その“音楽”を意味のある“言葉”として聞き取るために、まず乗り越えなくてならない壁は、「普通話」の発音記号である「ピンイン」の読み方と、「声調」と呼ばれる漢字の発音のリズムをマスターすることで、その次に中国大陸で使われている漢字の字体「簡体字」に慣れることです。

授業では始めに声調とピンインの読み方を学習し、発音の習得につとめます。
声調とピンインの読み方を一通り学習し終わったら、次に会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。

到達目標

(1)中国語の発音の基礎を固める。特に発音記号であるピンインが読めるようになる。
(2)中国語で自分の名前が書けて、言えるようになる。
(3)中国語の挨拶言葉や簡単な会話ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	
レポート課題		
上記以外	30	出席点、平常点、小テスト等

基本的に授業の三分の二以上出席した受講生が評価の対象となります。

授業外学習

具体的には授業中に指示します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	できる！　中国語	飯塚君穂・阿部慎太郎　著	金星堂	
2				
3				

辞書等は授業中に指示します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に指示します。

前提学力等

この授業は、日本語を母語とする学生で、これまで全く中国語を学習した経験のない人を対象としています。中国語を母語とする人は受講できません。日本語や中国語以外の言語を母語としている学生の受講は可能です。

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水4限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120251	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスと声調、単母音	ガイダンス。 簡体字とピンインの説明。
第2回	複母音と子音（前半）	自分の名前の中国語の読み方と書き方の練習。 第２課と第３課　複母音と子音の練習（前半）
第3回	子音（後半）、鼻母音（前半）	第２課　子音の練習（後半）、第３課　鼻母音
第4回	第４課　軽声、声調の変化	第４課　軽声、声調の変化、、アール化、あいさつ言葉、発音のまとめ
第5回	第５課（前半）	第５課　ポイント（文法）
第6回	第５課（後半）	第５課　会話文と練習問題
第7回	第６課（前半）	第６課　ポイント
第8回	第６課（後半）	第６課　会話文と練習問題
第9回	第７課（１）	第７課　ポイント
第10回	第７課（２）	第７課　会話文
第11回	第７課（３）	第７課　練習問題
第12回	第８課（１）	第８課　ポイント
第13回	第８課（２）	第８課　会話文
第14回	第８課（３）	第８課　練習問題
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ

担当者から一言
発音練習では、恥ずかしがらずに大きな声で練習して下さい。 聴覚障害など、発音練習が困難と思われる事情がある場合は個別に考慮しますので、相談して下さい。

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120252	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

この授業では、前期に引き続いて、会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。

前期の続きからはじめます。

１年を通じて中国語の基本的な会話力を養成します。

到達目標

中国語の簡単な会話が聞き取れ、読み取れ、書き取れ、話せるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	
レポート課題		
上記以外	30	出席点、平常点、小テストなど

基本的に授業の三分の二以上出席した者が評価の対象となります。

授業外学習

具体的には授業中に指示します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	できる！　中国語	飯塚君穂・阿部慎太郎　著	金星堂	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に指示します。

前提学力等

再履修以外の受講生は、前期の授業を履修していることが望ましい。
その他は前期と同様。

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水4限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120252	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第９課（１）	第９課　ポイント
第2回	第９課（２）	第９課　会話文
第3回	第９課（３）	第９課　練習問題
第4回	第１０課（１）	第１０課　ポイント
第5回	第１０課（２）	第１０課　　会話文
第6回	第１０課（３）	第１０課　練習問題
第7回	第１１課（１）	第１１課　ポイント
第8回	第１１課（２）	第１１課　会話文
第9回	第１１課（３）	第１１課　練習問題
第10回	第１２課（１）	第１２課　ポイント
第11回	第１２課（２）	第１２課　会話文
第12回	第１２課（３）	第１２課　練習問題
第13回	特別編	文法のポイント
第14回	その他の重要なポイント	文法のポイント
第15回	後期のまとめ	後期のまとめ

担当者から一言

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水1限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120271	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	（1）文法を理解すること　40% （2）語彙を覚えること　10% （3）正確な発音を身につけること　10%
レポート課題	30%	授業中の学習態度、宿題のでき具合、小テストのでき具合、課題などを持って総合的に評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「ジョイフル中国語ーー初級編」	呉 凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水1限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120271	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　基礎発音（１）	主に四声の勉強をします。
第2回	第２回　基礎発音（２）	主に母音の勉強をします。
第3回	第３回　基礎発音（３）	主に子音の勉強をし、発音全体をまとめます。
第4回	第４回　どうぞよろしく	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第5回	第５回　人称代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第6回	第６回　花がすきですか	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第7回	第７回　指示代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第8回	第８回　だれに手紙を書くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第9回	第９回　存在表現の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第10回	第10回　本屋は何時に開くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第11回	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第12回	第12回　風邪を引いたの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第13回	第13回　過去形の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第14回	第14回　映像教材	映像を見ながら、単語や文の聞き取りの勉強をします。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水1限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120272	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	（1）文法を理解すること　40% （2）語彙を覚えること　10% （3）正確な発音を身につけること　10%
レポート課題	30%	小テスト・宿題・レポートで評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語ー初級編	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水1限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120272	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　ご家族は何人？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第2回	第２回　受け身文の勉強	受け身文、前置詞文、時間副詞などの文法知識を学習します。
第3回	第３回　勉強しているの？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第4回	第４回　進行形の勉強	中国語の進行形、経験表現、補語などの文法知識を学習します。
第5回	第５回　何科目を選んだ？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第6回	第６回　使役文の勉強	使役文、伝言表現、程度補語などの文法知識を学習します。
第7回	第７回　クイズを当てる	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第8回	第８回　動詞の重ね型の勉強	動詞の重ね型、可能補語、反復疑問文などの文法知識を学習します。
第9回	第９回　プレゼント	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第10回	第10回　願望表現、アドバイス表現	願望表現、アドバイス表現などの文法知識を学習します。
第11回	第11回　カラオケ	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第12回	第12回　可能表現の勉強	中国語の可能表現の学習をします。
第13回	第13回　一緒に日本に行こう	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第14回	第14回　慣用表現の勉強	重要日常慣用表現の学習。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120281	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教員の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教員と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	（1）文法を理解すること　40% （2）語彙を覚えること　10% （3）正確な発音を身につけること　10%
レポート課題	30	出席、宿題のでき具合、小テストのでき具合、課題などを持って総合的に評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語－初級編	呉凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120281	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　基礎発音（１）	主に四声の勉強をします。
第2回	第2回　基礎発音（２）	主に母音の勉強をします。
第3回	第3回　基礎発音（３）	主に子音の勉強をし、発音全体をまとめます。
第4回	第4回　どうぞよろしく	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第5回	第5回　人称代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第6回	第6回　花が好きですか	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第7回	第7回　指示代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第8回	第8回　だれに手紙を書くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第9回	第9回　存在表現の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第10回	第10回　本屋は何時に開くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第11回	第11回　数量表現の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第12回	第12回　風邪を引いたの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第13回	第13回　過去形の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第14回	第14回　映像教材	映像を見ながら、単語や文の聞き取りの勉強をします。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120282	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教員の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教員と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	（1）文法を理解すること （2）語彙を覚えること （3）正確な発音を身につけること
レポート課題	30	出席、宿題のでき具合、小テストのでき具合、課題などを持って総合的に評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語－初級編	呉凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120282	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　ご家族は何人？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第2回	第２回　受け身文の勉強	受け身文、前置詞文、時間副詞などの文法知識を学習します。
第3回	第３回　勉強しているの？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第4回	第４回　進行形の勉強	中国語の進行形、経験表現、補語などの文法知識を学習します。
第5回	第５回　何科目を選んだ？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第6回	第６回　使役文の勉強	使役文、伝言表現、程度補語などの文法知識を学習します。
第7回	第７回　クイズを当てる	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第8回	第８回　動詞の重ね型の勉強	動詞の重ね型、可能補語、反復疑問文などの文法知識を学習します。
第9回	第９回　プレゼント	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第10回	第10回　願望表現、アドバイス表現	願望表現、アドバイス表現などの文法知識を学習します。
第11回	第11回　カラオケ	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第12回	第12回　可能表現の勉強	中国語の可能表現の学習をします。
第13回	第13回　一緒に日本に行こう	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第14回	第14回　慣用表現の勉強	重要日常慣用表現の学習。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を復習し、まとめます。
担当者から一言		

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120291	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	（1）文法を理解すること　40% （2）語彙を覚えること　10% （3）正確な発音を身につけること　10%
レポート課題	30%	授業中の学習態度、宿題のでき具合、小テストのでき具合、課題などを持って総合的に評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「ジョイフル中国語ーー初級編」	呉 凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120291	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　基礎発音（１）	主に四声の勉強をします。
第2回	第２回　基礎発音（２）	主に母音の勉強をします。
第3回	第３回　基礎発音（３）	主に子音の勉強をし、発音全体をまとめます。
第4回	第４回　どうぞよろしく	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第5回	第５回　人称代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第6回	第６回　花がすきですか	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第7回	第７回　指示代名詞の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第8回	第８回　だれに手紙を書くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第9回	第９回　存在表現の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第10回	第10回　本屋は何時に開くの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第11回	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第12回	第12回　風邪を引いたの？	単語、本文の内容、本文の読み方の勉強をします。
第13回	第13回　過去形の勉強	本文の復習及び文法、ドリル、練習問題などの勉強をします。
第14回	第14回　映像教材	映像を見ながら、単語や文の聞き取りの勉強をします。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120292	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）正確な発音を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	（1）文法を理解すること　40% （2）語彙を覚えること　10% （3）正確な発音を身につけること　10%
レポート課題	30%	小テスト・宿題・レポートで評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語ー初級編	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01865-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120292	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第１回　ご家族は何人？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第2回	第２回　受け身文の勉強	受け身文、前置詞文、時間副詞などの文法知識を学習します。
第3回	第３回　勉強しているの？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第4回	第４回　進行形の勉強	中国語の進行形、経験表現、補語などの文法知識を学習します。
第5回	第５回　何科目を選んだ？	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第6回	第６回　使役文の勉強	使役文、伝言表現、程度補語などの文法知識を学習します。
第7回	第７回　クイズを当てる	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第8回	第８回　動詞の重ね型の勉強	動詞の重ね型、可能補語、反復疑問文などの文法知識を学習します。
第9回	第９回　プレゼント	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第10回	第10回　願望表現、アドバイス表現	願望表現、アドバイス表現などの文法知識を学習します。
第11回	第11回　カラオケ	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第12回	第12回　可能表現の勉強	中国語の可能表現の学習をします。
第13回	第13回　一緒に日本に行こう	本文の新出語句、本文の内容、本文の読みの練習などを勉強します。
第14回	第14回　慣用表現の勉強	重要日常慣用表現の学習。
第15回	第15回　まとめ	これまで勉強してきた内容を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120311	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

この授業では、中国大陸で標準語として使われている「普通話」（いわゆる中国語）を学習します。

日本語の環境で育った人にとって、中国語を学習することは、漢字を一から覚えなくて良いという有利な点と、日本語にない発音を聞き取って発音しなくてはならないという不利な点があります。

皆さんは中国語が音楽のように聞こえるという体験をしたことはありませんか？　その“音楽”を意味のある“言葉”として聞き取るために、まず乗り越えなくてならない壁は、「普通話」の発音記号である「ピンイン」の読み方と、「声調」と呼ばれる漢字の発音のリズムをマスターすることで、その次に中国大陸で使われている漢字の字体「簡体字」に慣れることです。

授業では始めに声調とピンインの読み方を学習し、発音の習得につとめます。
声調とピンインの読み方を一通り学習し終わったら、次に会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。

到達目標

(1)中国語の発音の基礎を固める。特に発音記号であるピンインが読めるようになる。
(2)中国語で自分の名前が書けて、言えるようになる。
(3)中国語の挨拶言葉や簡単な会話ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	
レポート課題		
上記以外	30	出席点、平常点、小テスト等

基本的に授業の三分の二以上出席した受講生が評価の対象となります。

授業外学習

具体的には授業中に指示します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	できる！　中国語	飯塚君穂・阿部慎太郎　著	金星堂	
2				
3				

辞書等は授業中に指示します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に指示します。

前提学力等

この授業は、日本語を母語とする学生で、これまで全く中国語を学習した経験のない人を対象としています。中国語を母語とする人は受講できません。日本語や中国語以外の言語を母語としている学生の受講は可能です。

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120311	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスと声調、単母音	ガイダンス。 簡体字とピンインの説明。
第2回	複母音と子音（前半）	自分の名前の中国語の読み方と書き方の練習。 第２課と第３課　複母音と子音の練習（前半）
第3回	子音（後半）、鼻母音（前半）	第２課　子音の練習（後半） 第３課　鼻母音
第4回	第４課　軽声、声調の変化	第４課　軽声、声調の変化、、アール化、あいさつ言葉、発音のまとめ
第5回	第５課（前半）	第５課　ポイント（文法）
第6回	第５課（後半）	第５課　会話文と練習問題
第7回	第６課（前半）	第６課　ポイント
第8回	第６課（後半）	第６課　会話文と練習問題
第9回	第７課（１）	第７課　ポイント
第10回	第７課（２）	第７課　会話文
第11回	第７課（３）	第７課　練習問題
第12回	第８課（１）	第８課　ポイント
第13回	第８課（２）	第８課　会話文
第14回	第８課（３）	第８課　練習問題
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ

担当者から一言
発音練習では、恥ずかしがらずに大きな声で練習して下さい。 聴覚障害など、発音練習が困難と思われる事情がある場合は個別に考慮しますので、相談して下さい。

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120312	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

この授業では、前期に引き続いて、会話文を中心に、中国語の基本文法を学習します。

前期の続きからはじめます。

１年を通じて中国語の基本的な会話力を養成します。

到達目標

中国語の簡単な会話が聞き取れ、読み取れ、書き取れ、話せるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	
レポート課題		
上記以外	30	出席点、平常点、小テストなど

基本的に授業の三分の二以上出席した者が評価の対象となります。

授業外学習

具体的には授業中に指示します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	できる！　中国語	飯塚君穂・阿部慎太郎　著	金星堂	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に指示します。

前提学力等

再履修以外の受講生は、前期の授業を履修していることが望ましい。
その他は前期と同様。

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	桜木　陽子※
講義コード	1120312	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第９課（１）	第９課　ポイント
第2回	第９課（２）	第９課　会話文
第3回	第９課（３）	第９課　練習問題
第4回	第１０課（１）	第１０課　ポイント
第5回	第１０課（２）	第１０課　　会話文
第6回	第１０課（３）	第１０課　練習問題
第7回	第１１課（１）	第１１課　ポイント
第8回	第１１課（２）	第１１課　会話文
第9回	第１１課（３）	第１１課　練習問題
第10回	第１２課（１）	第１２課　ポイント
第11回	第１２課（２）	第１２課　会話文
第12回	第１２課（３）	第１２課　練習問題
第13回	特別編	文法のポイント
第14回	その他の重要なポイント	文法のポイント
第15回	後期のまとめ	後期のまとめ

担当者から一言

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120321	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。

到達目標

（1）正しい発音と基礎的な文法の習得。
（2）初歩的な日常会話ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	筆記試験と聞き取り試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	学期中に２回程度、復習小テストを行う。

授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。
正当な理由のない遅刻・欠席は減点する。

授業外学習

読む、聞く、話すを繰り返し練習することが大切である。とくに教室では、大きな声で発音練習することを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生のための初級中国語24回	杉野元子・黄漢青	白帝社	978-4-86398-068-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120321	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	中国語について	簡体字、ピンインなどの解説
第2回	第１課	「声調」「単母音」「複母音」
第3回	第２課	「子音」
第4回	第３課	「鼻母音」「軽声」「人称代詞」
第5回	第４課	「声調変化」「ｒ化」「声調の組み合わせ」「あいさつ言葉」
第6回	発音の復習	ここでしっかりと、正しい発音を習得できるようにする。
第7回	第５課	「動詞〈是〉」「〈ma〉疑問文」「名前の聞き方と答え方」
第8回	第６課	「動詞述語文」「副詞〈也〉と〈都〉」「選択疑問文」
第9回	第７課	「ne疑問文」「指示代詞（１）」「〈的〉」
第10回	第８課	「疑問詞疑問文」「助動詞〈想〉」「時点（１）〈今日、今年〉など」
第11回	第９課	「形容詞述語文」「反復疑問文」「〈吧〉」
第12回	第10課	「所有を表す動詞〈有〉」「量詞」「〈几〉と〈多少〉」
第13回	第11課	「文末の〈了〉」「時点（２）〈時刻〉」「前置詞〈在〉」
第14回	第12課	「連動文」「時点（３）〈年月日、曜日〉」「疑問詞〈zenme〉」
第15回	総復習	５課～12課までの復習

担当者から一言

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120322	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。

到達目標

（1）正しい発音と基礎的な文法の習得。
（2）初歩的な日常会話ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	筆記試験と聞き取り試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	学期中に２回程度、復習小テストを行う。

授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。
正当な理由のない遅刻・欠席は減点する。

授業外学習

読む、聞く、話すを繰り返し練習することが大切である。とくに教室では、大きな声で発音練習することを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生のための初級中国語24回	杉野元子・黄漢青	白帝社	978-4-86398-068-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120322	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前学期の復習	発音と文法の復習
第2回	第13課	「指示代詞（２）〈ここ、あそこ〉」「方位詞」「存在を表す動詞〈在〉と〈有〉」
第3回	第14課	「動詞の後の〈了〉」「動詞の重ね型」「前置詞〈给〉」
第4回	第15課	「経験の〈过〉」「動作量補語」「前置詞〈跟〉」
第5回	第16課	「時間量」「時間量補語」「前置詞〈从〉〈到〉〈离〉」
第6回	第17課	「助動詞〈会〉」「助動詞〈能〉」「主述述語文」
第7回	復習	第13～17課の内容に関して
第8回	第18課	「比較」「多＋形容詞」「年齢の尋ね方」
第9回	第19課	「是～的の構文」「１００以上の数」「金額の言い方」
第10回	第20課	「状態補語」「二重目的語」「有点儿」
第11回	第21課	「方向補語」「進行の〈在〉」「禁止」
第12回	第22課	「結果補語」「処置文」「助動詞〈可以〉」
第13回	第23課	「受け身文」「使役文」「補語のまとめ」
第14回	第24課	「近い未来」「〈越来越～〉」「複文」
第15回	総復習	１８～２４課を中心に復習

担当者から一言

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120325	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業概要

中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。

到達目標

（１）正しい発音と基礎的な文法の習得。
（２）初歩的な日常会話ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	筆記試験と聞き取り試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	学期中に２回程度、復習小テストを行う。

授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。
正当な理由のない遅刻・欠席は減点する。

授業外学習

読む、聞く、話すを繰り返し練習することが大切である。とくに教室では、大きな声で発音練習することを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生のための初級中国語24回	杉野元子・黄漢青	白帝社	978-4-86398-068-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120325	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	中国語について	簡体字、ピンインなどの解説
第2回	第１課	「声調」「単母音」「複母音」
第3回	第２課	「子音」
第4回	第３課	「鼻母音」「軽声」「人称代詞」
第5回	第４課	「声調変化」「ｒ化」「声調の組み合わせ」「あいさつ言葉」
第6回	発音の復習	ここでしっかりと、正しい発音を習得できるようにする。
第7回	第５課	「動詞〈是〉」「〈ma〉疑問文」「名前の聞き方と答え方」
第8回	第６課	「動詞述語文」「副詞〈也〉と〈都〉」「選択疑問文」
第9回	第７課	「ne疑問文」「指示代詞（１）」「〈的〉」
第10回	第８課	「疑問詞疑問文」「助動詞〈想〉」「時点（１）〈今日、今年〉など」
第11回	第９課	「形容詞述語文」「反復疑問文」「〈吧〉」
第12回	第10課	「所有を表す動詞〈有〉」「量詞」「〈几〉と〈多少〉」
第13回	第11課	「文末の〈了〉」「時点（２）〈時刻〉」「前置詞〈在〉」
第14回	第12課	「連動文」「時点（３）〈年月日、曜日〉」「疑問詞〈zenme〉」
第15回	総復習	５課～12課までの復習

担当者から一言

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120327	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業概要

中国語をマスターするのに最も大切なことは、正しい発音を習得することと、基本文型を把握することである。とりわけこの授業では正しい発音を習得することに重点を置きながら、文法の学習とリスニングの練習を併せて行う。

到達目標

（１）正しい発音と基礎的な文法の習得。
（２）初歩的な日常会話ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	筆記試験と聞き取り試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	学期中に２回程度、復習小テストを行う。

授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。
正当な理由のない遅刻・欠席は減点する。

授業外学習

読む、聞く、話すを繰り返し練習することが大切である。とくに教室では、大きな声で発音練習することを求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生のための初級中国語24回	杉野元子・黄漢青	白帝社	978-4-86398-068-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜指示する

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	秋岡　英行※
講義コード	1120327	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL122								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前学期の復習	発音と文法の復習
第2回	第13課	「指示代詞（２）〈ここ、あそこ〉」「方位詞」「存在を表す動詞〈在〉と〈有〉」
第3回	第14課	「動詞の後の〈了〉」「動詞の重ね型」「前置詞〈给〉」
第4回	第15課	「経験の〈过〉」「動作量補語」「前置詞〈跟〉」
第5回	第16課	「時間量」「時間量補語」「前置詞〈从〉〈到〉〈离〉」
第6回	第17課	「助動詞〈会〉」「助動詞〈能〉」「主述述語文」
第7回	復習	第13～17課の内容に関して
第8回	第18課	「比較」「多＋形容詞」「年齢の尋ね方」
第9回	第19課	「是～的の構文」「１００以上の数」「金額の言い方」
第10回	第20課	「状態補語」「二重目的語」「有点儿」
第11回	第21課	「方向補語」「進行の〈在〉」「禁止」
第12回	第22課	「結果補語」「処置文」「助動詞〈可以〉」
第13回	第23課	「受け身文」「使役文」「補語のまとめ」
第14回	第24課	「近い未来」「〈越来越～〉」「複文」
第15回	総復習	１８～２４課を中心に復習

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火1限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120336	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業は学生が中国語ＩＡ・ＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連 性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

到達目標
（１）文法を理解すること
（２）語彙を覚えること
（３）文章の読解力を身につけること
（４）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて判断します。
レポート課題	２５％	出席、授業態度、課題提出などに基づいて評価します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語Ｉを履修されていることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火1限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120336	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	２本のロウソク	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	主語、謂語、賓語	文を構成する主語、述語、目的語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第3回	うり２つ	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	定語、状語、補語	文を構成する名詞修飾語、動詞修飾語、補語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第5回	成語故事	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	時間表現と場所表現	文を構成する時間成分、場所成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第7回	私は彼女の父親じゃない	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	同伴者、目的	文を構成する同伴成分、目的成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第9回	ハッピーニューイヤー	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	主動文、受け身文、使役文	文のパターンの視点から、主動文、受け身文、使役文の３通りに分けられます。それにつて説明します。
第11回	悲観と楽観	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	形容詞のいろいろ	中国語の形容詞についてまとめて説明します。
第13回	新婚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	「把」などの勉強	「把」を含むいくつかの慣用表現の勉強をします。
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火1限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120337	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業は学生が中国語コミュニケーションＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文 法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）文章の読解力を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて評点します。
レポート課題	２５％	出席、授業態度、課題などを総合的に評点します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語ＩＡ，ＩＢと中国語ＩＩＡを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火1限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120337	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	困難と成功	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	疑問文のいろいろ	中国語のさまざまな疑問文について勉強します。
第3回	新しい社長	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	テンス・アスペクトの勉強	中国語のテンス・アスペクトについて勉強します。
第5回	珍重な魚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	可能表現のいろいろ	中国語のさまざまな可能表現について勉強します。
第7回	箱に入ってもらえませんか	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	「要」などの使い方	中国語の「要」などの助動詞について勉強します。
第9回	愛している	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	複文のいろいろ	中国語のさまざまな複文について勉強します。
第11回	梁啓超の物語	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	敬語表現の勉強	中国語の敬語表現について勉強します。
第13回	お母さん、どこにいるの？	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	前置詞の勉強	中国語の前置詞について勉強します。
第15回	まとめ	これまでならった知識を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120346	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業は学生が中国語ＩＡ・ＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連 性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

到達目標
（１）文法を理解すること
（２）語彙を覚えること
（３）文章の読解力を身につけること
（４）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて判断します。
レポート課題	２５％	出席、授業態度、課題提出などに基づいて評価します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語Ｉを履修されていることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120346	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	２本のロウソク	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	主語、謂語、賓語	文を構成する主語、述語、目的語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第3回	うり２つ	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	定語、状語、補語	文を構成する名詞修飾語、動詞修飾語、補語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第5回	成語故事	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	時間表現と場所表現	文を構成する時間成分、場所成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第7回	私は彼女の父親じゃない	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	同伴者、目的	文を構成する同伴成分、目的成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第9回	ハッピーニューイヤー	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	主動文、受け身文、使役文	文のパターンの視点から、主動文、受け身文、使役文の３通りに分けられます。それにつて説明します。
第11回	悲観と楽観	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	形容詞のいろいろ	中国語の形容詞についてまとめて説明します。
第13回	新婚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	「把」などの勉強	「把」を含むいくつかの慣用表現の勉強をします。
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120347	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業は学生が中国語コミュニケーションＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文 法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）文章の読解力を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて評点します。
レポート課題	２５％	出席、授業態度、課題などを総合的に評点します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語ＩＡ，ＩＢと中国語ＩＩＡを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	唐　楽寧※
講義コード	1120347	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	困難と成功	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	疑問文のいろいろ	中国語のさまざまな疑問文について勉強します。
第3回	新しい社長	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	テンス・アスペクトの勉強	中国語のテンス・アスペクトについて勉強します。
第5回	珍重な魚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	可能表現のいろいろ	中国語のさまざまな可能表現について勉強します。
第7回	箱に入ってもらえませんか	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	「要」などの使い方	中国語の「要」などの助動詞について勉強します。
第9回	愛している	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	複文のいろいろ	中国語のさまざまな複文について勉強します。
第11回	梁啓超の物語	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	敬語表現の勉強	中国語の敬語表現について勉強します。
第13回	お母さん、どこにいるの？	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	前置詞の勉強	中国語の前置詞について勉強します。
第15回	まとめ	これまでならった知識を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	地蔵堂　貞二
講義コード	1120351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業概要

中国語Ｉの単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を整理・復習しながら、大量の練習問題を行うことで、初級中国語から中級中国語へと導入します。

到達目標

（1）中国語の「基本文型を復習することで、応用作文ができるようになる。
（2）簡単なコミュニケーションがはかれるようになる。
（3）中国語検定試験の4級レベルの実力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100%	到達目標（1）（2）（3）について筆記試験を行う。（100%）
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初級から中級へ　中国語作文（改訂版）	郭春貴など	白帝社	978-4-89174-483-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	地蔵堂　貞二
講義コード	1120351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	“是”字文	Ａ是Ｂ（ＡはＢである）。Ａ不是Ｂ（ＡはＢではない）。
第2回	“有”字文	(1) 所有・所属を表す“有”について (2) 存在を表す“有”について
第3回	“在”について	(1) 存在を表す動詞 (2) 動詞句にかかる介詞“在”＋場所語
第4回	復習（Ｉ）	(1) “是”“有”“在”の用法 (2) 否定形について
第5回	形容詞述語文	(1) 形容詞述語文の文法的特徴 (2) 文法的制約について
第6回	動詞述語文	(1) 動詞述語文の文法的特徴 (2) 文法的制約について
第7回	連動文	(1) Ｓ（主語）＋ＶＰ1＋ＶＰ2…。 (2) 連動文の文法的意味
第8回	名詞述語文	(1) 名詞(連語)の特徴について (2) 肯定形と否定形について
第9回	復習（ＩＩ）	(1) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文の特徴について (2) 連動文と兼語文について
第10回	疑問助詞を用いた疑問文	(1) 当否疑問文 (2) 省略疑問文
第11回	疑問詞を用い「疑問文	指定疑問文について
第12回	反復疑問文	(1) 当否疑問文との違いについて (2) 選択疑問文について
第13回	疑問数詞を用いた疑問文	疑問数詞“几”と“多少”の意味的違いと文法的違いについて
第14回	疑問（数）詞の非疑問用法	(1) 「不定（数）」用法について (2) 疑問詞＋副詞“都”/“也”＋肯定・否定形
第15回	復習（III）	疑問文の総復習

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	地蔵堂　貞二
講義コード	1120352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業概要

中国語Ｉの単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を整理・復習しながら、大量の練習問題を行うことで、初級中国語から中級中国語へと導入します。

到達目標

（1）中国語の基本文型を復習することで、応用作文ができるようになる。
（2）簡単なコミュニケーションがはかれるようになる。
（3）中国語検定試験の4級レベルの実力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100%	到達目標（1）（2）（3）について筆記試験を行う。
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初級から中級へ　中国語作文（改訂版）	郭春貴など	白帝社	978-4-89174-483-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	地蔵堂　貞二
講義コード	1120352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	動態助詞“了”	(1) 動作・行為の完了 (2) 否定副詞“没（有）”
第2回	語気助詞“了”	(1) 事態・状況の変化 (2) 否定形について
第3回	動態助詞“着”	(1) 動作の持続について (2) 状態の持続について
第4回	動態助詞“过”	(1) 経験を表す場合と表さない場合 (2) 特殊な補語“过”との違いについて
第5回	復習（Ｉ）	(1) 動態助詞“了”と語気助詞“了”の違い (2) 動作の持続と状態の持続の違い
第6回	“是～Ｖ的”構文	(1) “他昨天来了”と“他是昨天来的”の違い (2) 否定形について
第7回	構造助詞“的”“地”“得”	(1) 定語（連体修飾語）のマーカー“的” (2) 状語（連用修飾語）のマーカー“地”
第8回	復習（II）	構造助詞“的”“地”“得”の違いを練習問題を解きながら把握する。
第9回	願望の助動詞	“想”と“要” (1) 両者の違いについて
第10回	必要・義務の助動詞	“要”と“該”について
第11回	可能の助動詞（Ｉ）	“会” (1) 練習を経て得られる能力
第12回	可能の助動詞（II）	“能” (1) 性能・持ち合わせの能力
第13回	可能の助動詞（III）	“可以” (1) 条件
第14回	可能補語	可能の助動詞を用いた文との違いについて
第15回	復習（III）	可能表現全般の復習をする。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業概要

この授業は学生が中国語ＩＡ・ＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連 性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

到達目標
（１）文法を理解すること
（２）語彙を覚えること
（３）文章の読解力を身につけること
（４）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて判断します。
レポート課題	２５％	出席、授業態度、課題提出などに基づいて評価します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語Ｉを履修されていることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	２本のロウソク	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	主語、謂語、賓語	文を構成する主語、述語、目的語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第3回	うり２つ	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	定語、状語、補語	文を構成する名詞修飾語、動詞修飾語、補語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第5回	成語故事	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	時間表現と場所表現	文を構成する時間成分、場所成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第7回	私は彼女の父親じゃない	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	同伴者、目的	文を構成する同伴成分、目的成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第9回	ハッピーニューイヤー	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	主動文、受け身文、使役文	文のパターンの視点から、主動文、受け身文、使役文の３通りに分けられます。それにつて説明します。
第11回	悲観と楽観	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	形容詞のいろいろ	中国語の形容詞についてまとめて説明します。
第13回	新婚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	「把」などの勉強	「把」を含むいくつかの慣用表現の勉強をします。
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業概要

この授業は学生が中国語コミュニケーションＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文 法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）文章の読解力を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて評点します。
レポート課題	２５％	授業態度、課題などを総合的に評点します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語ＩA，ＩBと中国語ＩＩAを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	困難と成功	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	疑問文のいろいろ	中国語のさまざまな疑問文について勉強します。
第3回	新しい社長	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	テンス・アスペクトの勉強	中国語のテンス・アスペクトについて勉強します。
第5回	珍重な魚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	可能表現のいろいろ	中国語のさまざまな可能表現について勉強します。
第7回	箱に入ってもらえませんか	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	「要」などの使い方	中国語の「要」などの助動詞について勉強します。
第9回	愛している	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	複文のいろいろ	中国語のさまざまな複文について勉強します。
第11回	梁啓超の物語	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	敬語表現の勉強	中国語の敬語表現について勉強します。
第13回	お母さん、どこにいるの？	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	前置詞の勉強	中国語の前置詞について勉強します。
第15回	まとめ	これまでならった知識を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120406	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業概要

この授業は学生が中国語ＩＡ・ＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文法内容に関連 性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

到達目標
（１）文法を理解すること
（２）語彙を覚えること
（３）文章の読解力を身につけること
（４）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて判断します。
レポート課題	２５％	授業態度、課題提出などに基づいて評価します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語Ｉを履修されていることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120406	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL221								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	２本のロウソク	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	主語、謂語、賓語	文を構成する主語、述語、目的語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第3回	うり２つ	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	定語、状語、補語	文を構成する名詞修飾語、動詞修飾語、補語について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第5回	成語故事	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	時間表現と場所表現	文を構成する時間成分、場所成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第7回	私は彼女の父親じゃない	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	同伴者、目的	文を構成する同伴成分、目的成分について説明し、中国語文の構造について勉強する。
第9回	ハッピーニューイヤー	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	主動文、受け身文、使役文	文のパターンの視点から、主動文、受け身文、使役文の３通りに分けられます。それにつて説明します。
第11回	悲観と楽観	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	形容詞のいろいろ	中国語の形容詞についてまとめて説明します。
第13回	新婚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	「把」などの勉強	「把」を含むいくつかの慣用表現の勉強をします。
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を整理し、まとめます。

担当者から一言

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120407	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業概要

この授業は学生が中国語コミュニケーションＩＢを履修することを条件とします。授業は中国語の文法を最新の文法理論に基づいて、より細かく解説し、その文 法内容に関連性の強い内容を文章に選び、それをわかりやすく説明し、その説明を踏まえて、受講生同士がディスカッションを交えながら意見を述べるという流れで進めていきます。

到達目標

（1）文法を理解すること
（2）語彙を覚えること
（3）文章の読解力を身につけること
（4）宿題を提出すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	７５％	定期試験のでき具合に基づいて評点します。
レポート課題	２５％	授業態度、課題などを総合的に評点します。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジョイフル中国語	呉　凌非	郁文堂	978-4-261-01858-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中国語ＩＡ，ＩＢと中国語ＩＩＡを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	中国語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	林　虹※
講義コード	1120407	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL222								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	困難と成功	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第2回	疑問文のいろいろ	中国語のさまざまな疑問文について勉強します。
第3回	新しい社長	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第4回	テンス・アスペクトの勉強	中国語のテンス・アスペクトについて勉強します。
第5回	珍重な魚	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第6回	可能表現のいろいろ	中国語のさまざまな可能表現について勉強します。
第7回	箱に入ってもらえませんか	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第8回	「要」などの使い方	中国語の「要」などの助動詞について勉強します。
第9回	愛している	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第10回	複文のいろいろ	中国語のさまざまな複文について勉強します。
第11回	梁啓超の物語	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第12回	敬語表現の勉強	中国語の敬語表現について勉強します。
第13回	お母さん、どこにいるの？	本文の新出語句、本文の内容の読解などの内容を勉強します。
第14回	前置詞の勉強	中国語の前置詞について勉強します。
第15回	まとめ	これまでならった知識を復習し、まとめます。

担当者から一言

講義名	朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120411	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL131								

授業概要

・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。

到達目標

朝鮮語の文字や発音、基礎的な文法を習得することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	定期試験を実施する。
レポート課題	３０％	宿題および小試験を随時に行う。
上記以外	２０％	欠席一回につき２点減点を目安とする。

3分の２以上の出席を望む。

授業外学習

復習・予習を90分程度毎回続けるよう心構えてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級	木内明	国書刊行会	ISBN９７８－４－３３６－０５７５０－１
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パスポート朝鮮語小辞典	熊谷明泰編	白水社	ISBN４－５６０－０００９１－３
2				
3				

前提学力等

初めて朝鮮語を学ぶ学生のためのクラスです。

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水2限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120411	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL131								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	基本母音	テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。 第１回目から第７回目までは基礎を学習する。
第2回	基本子音	基本子音・激音・濃音を学習する。ｐ.19まで
第3回	複合母音	総合母音と簡単な単語を学習する。ｐ.23まで
第4回	パッチム	パッチムについて学習する。ｐ.29まで
第5回	発音の変化(１)	発音の変化(１)について学習する。p.31まで
第6回	発音の変化(２)	発音の変化(２)について学習する。ｐ.34まで
第7回	あいさつ	簡単な挨拶を学習する。ｐ.39まで
第8回	「～は」、「～です」	第1課：簡単な自己紹介を学習する。ｐ.45まで
第9回	「～が～ですか」	第2課：(～ですか)を学習する。ｐ.51まで
第10回	「～ではありません（か）」	第3課：否定形を学習する。ｐ.57まで
第11回	“イッスムニダ、オプスムニダ”	第4課：存在形を学習する。ｐ.63まで
第12回	“ハムニダ”、「何」	第5課：(～します・しますか)を学習する。ｐ.69まで
第13回	“ヨ体”、“イッソヨ・オプソヨ”	第6課：“ヨ体”である(～します)を学習する。ｐ.75まで
第14回	“ハムニダ体”	第7課："ハダ"動詞以外の動詞を学習する。ｐ.81まで
第15回	期末のまとめ	用言の丁寧な形などを学習する。ｐ.81まで

担当者から一言
積極的な受講態度で授業に臨むこと。

講義名	朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120412	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL132								

授業概要

文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。

到達目標

朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	定期試験を実施する。
レポート課題	３０％	宿題や小試験を随時に行う。
上記以外	２０％	欠席一回つき2点減点を目安とする。

3分の2以上の出席を望む。

授業外学習

90分程度の復習と予習を毎回続けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	改訂版　基礎から学ぶ韓国語講座　初級	木内明	国書刊行会	ISBN９７８－４－３３６－０５７５０－１
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パスポート朝鮮語小辞典	熊谷明泰編	白水社	ISBN４－５６０－０００９１－３
2				
3				

前提学力等

朝鮮語ＩＡ（初級コース）の履修者であること。

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水2限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120412	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL132								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	“ヨ体”、「～しに（行く･来る）」	朝鮮語ＩAに引き続き、テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。 第8課：“ヨ体”を学習する。p.89まで
第2回	指定詞の“ヨ体”、漢数詞	第9課：漢数字を学習する。ｐ.97まで
第3回	時間の表現、固有数詞	第10課：固有数字と時計の読み方を学習する。ｐ.105まで
第4回	尊敬語	第11課：敬語(尊敬形)を学習する。ｐ.111まで
第5回	用言の否定文、「～するといい」	第12課：用言の否定形を学習する。ｐ.117まで
第6回	過去形(１)	第13課：用言の過去形(１)を学習する。ｐ.123まで
第7回	過去形(２)	引き続き、過去形(2)や縮約ルールなどを学習する。ｐ.125まで
第8回	勧誘の表現、「何の～」	第14課：勧誘の言葉を学習する。ｐ.133まで
第9回	「～している」、「～してください」	第15課：用言の現在進行形を学習する。ｐ.139まで
第10回	可能表現	第16課：可能・不可能の表現を学習する。ｐ.147まで
第11回	「～したい」、「～してください」	第17課：(～したい)という表現を学習する。ｐ.153まで
第12回	「～してもいい」、「～しないでください	第18課：禁止の表現を学習する。ｐ.159まで
第13回	「～しなければならない」、意志の表現	第19課：義務の表現を学習する。ｐ.165まで
第14回	「～するつもりです」	第20課：意志・推量を学習する。ｐ.171まで
第15回	期末まとめ	期末まとめを行う。ｐ.202まで

担当者から一言
積極的な受講態度で授業に臨むこと。

講義名	朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120421	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL131								

授業概要

・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。

到達目標

朝鮮語の文字や発音、基礎的な文法を習得することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	定期試験を実施する。
レポート課題	３０％	宿題および小試験を随時に行う。
上記以外	２０％	欠席一回に付き２点減点を目安とする。

3分の2以上の出席を望む。

授業外学習

復習・予習を９０分程度毎回続けるよう心構えてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	改訂版　基礎から学ぶ韓国語講　初級座	木内明	国書刊行会	ISBN９７８－４－３３６－０５７５０－１
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パスポート朝鮮語小辞典	熊谷明泰編	白水社	ISBN４－５６０－０００９１－３
2				
3				

前提学力等

初めて朝鮮語を学ぶ学生のためのクラスです。

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＡ（初級コース）（水3限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120421	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL131								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	基本母音	テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。 第　1回目から第　7回目までは基礎を学習する。
第2回	基本子音	基本子音・激音・濃音を学習する。p.19まで
第3回	複合母音	複合母音と簡単な単語を学習する。p.23まで
第4回	パッチム	パッチムについて学習する。ｐ.29まで
第5回	発音の変化(１)	発音の変化(1)について学習する。p.31まで
第6回	発音の変化(２)	発音の変化(2)について学習する。ｐ.34まで
第7回	あいさつ	簡単な挨拶を学習する。ｐ.39まで
第8回	「～は」、「～です」	第1課：簡単な自己紹介を学習する。ｐ.45まで
第9回	「～が～ですか」	第2課：（～ですか)を学習する。ｐ.51まで
第10回	「～ではありません（か）」	第3課：否定形を学習する。ｐ.57まで
第11回	“イッスムニダ、オプスムニダ”	第4課：存在形を学習する。ｐ.63まで
第12回	“ハムニダ”、「何」	第5課：(～します・しますか)を学習する。ｐ.69まで
第13回	“ヨ体”、“イッソヨ・オプソヨ”	第6課：“ヨ体”である(～します)を学習する。ｐ.75まで
第14回	“ハムニダ体”	第7課：”ハダ”動詞以外の動詞を学習する。ｐ.81まで
第15回	期末まとめ	用言の丁寧な形などを学習する。ｐ.81まで

担当者から一言
積極的な受講態度で授業に臨むこと。

講義名	朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120422	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL132								

授業概要

・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。

到達目標

朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	定期試験を実施する。
レポート課題	３０％	宿題や小試験を随時に行う。
上記以外	２０％	欠席一回につき2点減点を目安とする

3分の2以上の出席を望む。

授業外学習

90分程度の復習や予習を毎回続けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	改訂版　基礎から学ぶ韓国語講　初級	木内明	国書刊行会	ISBN９７８－４－３３６－０５７５０－１
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パスポート朝鮮語小辞典	熊谷明泰編	白水社	ISBN４－５６０－０００９１－３
2				
3				

前提学力等

朝鮮語ＩＡ（初級コース）の履修者であること。

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＢ（初級コース）（水3限）							担当教員	呉　賢欄※
講義コード	1120422	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL132								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	“ヨ体”、「～しに（行く･来る）」	朝鮮語ＩAに引き続き、テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。 第8課：“ヨ体”を学習する。ｐ.89まで
第2回	指定詞の“ヨ体”、漢数詞	第9課：漢数字を学習する。ｐ.97まで
第3回	時間の表現、固有数詞	第10課：固有数字と時計の読み方を学習する。ｐ.105まで
第4回	尊敬語	第11課：敬語(尊敬形)を学習する。ｐ.111まで
第5回	用言の否定文、「～するといい」	第12課：用言の否定形を学習する。ｐ.117まで
第6回	過去形(１)	第13課：用言の過去形(１)を学習する。ｐ.123まで
第7回	過去形(２)	引き続き、過去形(２)や縮約ルールなどを学習する。ｐ.125まで
第8回	勧誘の表現、「何の～」	第14課：勧誘の言葉を学習する。ｐ.133まで
第9回	「～している」、「～してください」	第15課：用言の現在進行形を学習する。ｐ.139まで
第10回	可能表現	第16課：可能・不可能の表現を学習する。ｐ.147まで
第11回	「～したい」、「～してください」	第17課：(～したい)という表現を学習する。ｐ.153まで
第12回	「～してもいい」、「～しないでください」	第18課：禁止の表現を学習する。ｐ.159まで
第13回	「～しなければならない」、意志の表現	第19課：義務の表現を学習する。ｐ.165まで
第14回	「～するつもりです」	第20課：意志・推量を学習する。ｐ.171まで
第15回	期末まとめ	期末まとめを行う。ｐ.202まで

担当者から一言
積極的な受講態度で授業に臨むこと。

講義名	朝鮮語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120431	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL231								

授業概要

「朝鮮語Ｉ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。

到達目標

簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	各課の内容に対する理解程度や中級レベルの作文、または読解能力を評価する
レポート課題	２０％	授業内容の復習、必要な単語や慣用句などの暗記
上記以外	３０％	出席を含め、授業中の発表、単語テストなどの小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	韓国語中級１講義ノート	李昌圭	白帝社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＩＡ（中級コース）（火2限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120431	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL231								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	助詞のまとめ	初級編助詞のまとめ 中級編助詞のまとめ
第2回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第3回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第4回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第5回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第6回	復習　１,２,３課	文型復習 復習問題
第7回	復習　１,２,３課	動詞の連体形 関連文型練習
第8回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第9回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第10回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形
第11回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形練習 形容詞の連体形
第12回	노래를 불렀어요	ㄹ不規則変則
第13回	노래를 불렀어요	関連文型練習
第14回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第15回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第16回	돈을 바꿀 수 있어요?	可能に関する表現
第17回	돈을 바꿀 수 있어요?	関連文型練習
第18回	도착하면 전화할게요	仮定、完了に関する表現
第19回	도착하면 전화할게요	関連文型練習
第20回	비가 오는 것 같아요	推測に関する表現
第21回	비가 오는 것 같아요	関連文型練習
第22回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第23回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第24回	창문이 열려 있어요	状態に関する表現
第25回	창문이 열려 있어요	関連文型練習
第26回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現
第27回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現 関連文型練習
第28回	몇 시까지 가면 돼요?	助言、充足に関する表現
第29回	몇 시까지 가면 돼요?	応用表現
第30回	復習　１３,１４,１５課	文型復習 復習問題
担当者から一言		

講義名	朝鮮語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120432	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL232								

授業概要

「朝鮮語Ｉ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。

到達目標

簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	各課の内容に対する理解程度や中級レベルの作文、または読解能力を評価する
レポート課題	２０％	授業内容の復習、必要な単語や慣用句などの暗記
上記以外	３０％	出席を含め、授業中の発表、単語テストなどの小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	韓国語中級１講義ノート	李昌圭	白帝社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＩＢ（中級コース）（火2限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120432	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL232								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	助詞のまとめ	初級編助詞のまとめ 中級編助詞のまとめ
第2回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第3回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第4回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第5回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第6回	復習　１,２,３課	文型復習 復習問題
第7回	復習　１,２,３課	動詞の連体形 関連文型練習
第8回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第9回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第10回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形
第11回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形練習 形容詞の連体形
第12回	노래를 불렀어요	ㄹ不規則変則
第13回	노래를 불렀어요	関連文型練習
第14回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第15回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第16回	돈을 바꿀 수 있어요?	可能に関する表現
第17回	돈을 바꿀 수 있어요?	関連文型練習
第18回	도착하면 전화할게요	仮定、完了に関する表現
第19回	도착하면 전화할게요	関連文型練習
第20回	비가 오는 것 같아요	推測に関する表現
第21回	비가 오는 것 같아요	関連文型練習
第22回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第23回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第24回	창문이 열려 있어요	状態に関する表現
第25回	창문이 열려 있어요	関連文型練習
第26回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現
第27回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現 関連文型練習
第28回	몇 시까지 가면 돼요?	助言、充足に関する表現
第29回	몇 시까지 가면 돼요?	応用表現
第30回	復習　１３,１４,１５課	文型復習 復習問題
担当者から一言		

講義名	朝鮮語ＩＩＡ（中級コース）（火3限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120441	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL231								

授業概要

「朝鮮語Ｉ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。

到達目標

簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	各課の内容に対する理解程度や中級レベルの作文、または読解能力を評価する
レポート課題	２０％	授業内容の復習、必要な単語や慣用句などの暗記
上記以外	３０％	出席を含め、授業中の発表、単語テストなどの小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	韓国語中級１講義ノート	李昌圭	白帝社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮語ⅡA（中級コース）（火3限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120441	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL231								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	助詞のまとめ	初級編助詞のまとめ 中級編助詞のまとめ
第2回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第3回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第4回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第5回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第6回	復習　１,２,３課	文型復習 復習問題
第7回	復習　１,２,３課	動詞の連体形 関連文型練習
第8回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第9回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第10回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形
第11回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形練習 形容詞の連体形
第12回	노래를 불렀어요	ㄹ不規則変則
第13回	노래를 불렀어요	関連文型練習
第14回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第15回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第16回	돈을 바꿀 수 있어요?	可能に関する表現
第17回	돈을 바꿀 수 있어요?	関連文型練習
第18回	도착하면 전화할게요	仮定、完了に関する表現
第19回	도착하면 전화할게요	関連文型練習
第20回	비가 오는 것 같아요	推測に関する表現
第21回	비가 오는 것 같아요	関連文型練習
第22回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第23回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第24回	창문이 열려 있어요	状態に関する表現
第25回	창문이 열려 있어요	関連文型練習
第26回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現
第27回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現 関連文型練習
第28回	몇 시까지 가면 돼요?	助言、充足に関する表現
第29回	몇 시까지 가면 돼요?	応用表現
第30回	復習　１３,１４,１５課	文型復習 復習問題
担当者から一言		

講義名	朝鮮語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120442	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL232								

授業概要

「朝鮮語Ｉ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。

到達目標

簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０％	各課の内容に対する理解程度や中級レベルの作文、または読解能力を評価する
レポート課題	２０％	授業内容の復習、必要な単語や慣用句などの暗記
上記以外	３０％	出席を含め、授業中の発表、単語テストなどの小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	韓国語中級１講義ノート	李昌圭	白帝社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮語ＩＩＢ（中級コース）（火3限）							担当教員	崔　眞善※
講義コード	1120442	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201FRL232								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	助詞のまとめ	初級編助詞のまとめ 中級編助詞のまとめ
第2回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第3回	은행에 가려고 해요	予定、意図に関する表現
第4回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第5回	내일 뭐 할 거예요?	ㄷ不規則変則
第6回	復習　１,２,３課	文型復習 復習問題
第7回	復習　１,２,３課	動詞の連体形 関連文型練習
第8回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第9回	김치는 매워요	ㅂ不規則変則
第10回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形
第11回	어디서 찍은 사진이에요?	動詞の連体形練習 形容詞の連体形
第12回	노래를 불렀어요	ㄹ不規則変則
第13回	노래를 불렀어요	関連文型練習
第14回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第15回	復習　７,８,９課	文型練習 復習問題
第16回	돈을 바꿀 수 있어요?	可能に関する表現
第17回	돈을 바꿀 수 있어요?	関連文型練習
第18回	도착하면 전화할게요	仮定、完了に関する表現
第19回	도착하면 전화할게요	関連文型練習
第20回	비가 오는 것 같아요	推測に関する表現
第21回	비가 오는 것 같아요	関連文型練習
第22回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第23回	復習　９,１０,１１課	文型練習 復習問題
第24回	창문이 열려 있어요	状態に関する表現
第25回	창문이 열려 있어요	関連文型練習
第26回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現
第27回	사진을 찍어도 돼요?	許可に関する表現 関連文型練習
第28回	몇 시까지 가면 돼요?	助言、充足に関する表現
第29回	몇 시까지 가면 돼요?	応用表現
第30回	復習　１３,１４,１５課	文型復習 復習問題
担当者から一言		

講義名	日本語ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120461	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101JPN101								

授業概要

この授業では、エッセイやレポート作成に必要とされる基本的文法事項を学ぶ。特に書き言葉に焦点を絞った文法表現、いいまわしを中心に演習問題を行う。また、論拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、利点と不利な点を説明できるよう、様々な分野の情報や議論を読み、まとめる練習を行う。毎週、課題として、「日本語能力試験N1」の読解問題を解く。授業で解説、質疑応答を行い、Ｎ１レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。

到達目標

（１）簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、充分に主題を理解できる。
（２）エッセイやレポートを書く時に、根拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、さまざまな選択肢の利点と不利な点を説明できる。
（３）論拠、論点を整然と展開して、エッセイやレポートを書くことができる。重要な点や関連する補足事項の詳細を、適切に強調することができる。
（４）日本語能力試験Ｎ１レベルの文法を理解できるようになる。
（５）日本語能力試験Ｎ１合格レベルの語彙や表現を理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験　（到達目標１、２、３についてのレポート提出を課す）
レポート課題		
上記以外	60	到達確認テスト40%（到達目標４、５についての筆記試験を行う） 宿題20%（毎週到達目標４、５についての演習問題を課す）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120461	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101JPN101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	表記の仕方	読点・記号の使い方を学ぶ。
第3回	助詞の使い方	「で・に・を・が・は」などの助詞について学ぶ。
第4回	書き言葉と話し言葉	様々なテクストを読み、書き言葉と話し言葉の違いを把握する。
第5回	書き言葉	文の種類・ジャンルと文体に注目し、書き言葉の文体を学ぶ。
第6回	直接話法・間接話法	直接話法と間接話法の使い方を学び、その演習問題を行う。
第7回	書き言葉と連用中止形	文中での連用中止形の使い方を学び、その演習問題を行う。
第8回	ひらがなと漢字の使い分け	漢字表記とひらがな表記の違いを学び、演習問題を行う。
第9回	到達確認テスト	到達目標４、５に関して確認の試験を行う。
第10回	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞の表現の使い分けを学ぶ。
第11回	受身	直接受身と間接受身の意味と違いを学び、演習問題を行う。
第12回	カタカナの使い方	日本語のカタカナ表記の仕方を学び、演習問題を行う。
第13回	客観性のある文章	様々な例を比べ、客観的に述べる表現を学ぶ。
第14回	文末呼応	呼応する文末表現をまとめ、演習問題を行う。
第15回	復習、まとめ	今学期学んだ文法事項の復習を行う。

担当者から一言

講義名	日本語ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120462	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101JPN102								

授業概要

この授業では、エッセイやレポート作成に必要とされる基本的文法事項を学ぶ。特に書き言葉に焦点を絞った文法表現、いいまわしを中心に演習問題を行う。また、論拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、利点と不利な点を説明できるよう、様々な分野の情報や議論を読み、まとめる練習を行う。毎週、課題として、「日本語能力試験N1」の読解問題を解く。授業で解説、質疑応答を行い、Ｎ１レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。

到達目標

（１）簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、充分に主題を理解できる。
（２）エッセイやレポートを書く時に、根拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、さまざまな選択肢の利点と不利な点を説明できる。
（３）論拠、論点を整然と展開して、エッセイやレポートを書くことができる。重要な点や関連する補足事項の詳細を、適切に強調することができる。
（４）日本語能力試験Ｎ１レベルの文法を理解できるようになる。
（５）日本語能力試験Ｎ１合格レベルの語彙や表現を理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験　（到達目標１、２、３についてのレポート提出を課す）
レポート課題		
上記以外	60	到達確認テスト40%（到達目標４、５についての筆記試験を行う） 宿題20%（毎回到達目標４、５についての演習問題を課す）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120462	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101JPN102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	文の構造	主節・従属節を含む文章の構造を分析し、理解する。
第3回	主語と述語の関係	複雑な文章の主語・述語に注目し、演習問題を行う。
第4回	文末表現と呼応	主語と述語の呼応関係を理解し、使えるよう演習問題を行う。
第5回	修飾節	修飾語・修飾節の様々な例を参照しながら、演習問題を行う。
第6回	文の長さと簡潔さ	長い文章を接続詞を用いて、短い文章にしてまとめる練習を行う。
第7回	文の長さを読みやすさ	前後の文章の関係に注意し、接続詞を用いて分かりやすい文章を書けるよう練習を行う。
第8回	到達確認テスト	到達目標４、５に関して確認の試験を行う。
第9回	指示詞①	「こ・そ・あ」の使い分けの復習をする。
第10回	指示詞②	文中における「こ・そ・あ」の使用例を参考に、演習問題を行う。
第11回	意見文の書き方	自分の意見を表現する言い回しを学ぶ。
第12回	接続詞	接続詞の意味や文法事項を確認、復習する。
第13回	事実と意見の表現	意見と事実を述べる際によく使われる表現を紹介し、演習問題を行う。
第14回	意見文の構成と意見を述べる論拠	意見の論拠を挙げる練習を行う。
第15回	復習、まとめ	レポートの書き方の概要を説明する。一つのレポート課題を例にとってクラス全員でディスカッションをしながら、論拠をまとめる練習を行う。

担当者から一言

講義名	日本語ＩＩＡ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101JPN103								

授業概要

バランスのとれた日本語運用能力を高め、まとめる力、書く力、発表する力を身につける。また口頭発表と本格的な討論の力をつける。そのためにテーマに即したスピーチの練習をし、討論の意義およびその種類と実施方法を学ぶ。

到達目標

（１）まとめる力・書く力を磨く。
（２）発表の力を養う。
（３）聞く力を磨く。
（４）論点の明確化・論証・論駁の方法に慣れる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題	30	
上記以外	40	

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない.。

授業外学習

復習としての家庭学習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業で指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語ＩＩＡ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101JPN103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の進め方の紹介	授業の進め方の紹介をする。
第2回	ペアで行う友人紹介	友人を紹介する。
第3回	インタビューの準備	インタビューの準備をする。
第4回	インタビューの報告（１）	インタビューの報告をする。
第5回	インタビューの報告（２）	インタビューの報告をする。
第6回	新聞・雑誌の記事の要約	新聞や雑誌の記事を要約する。
第7回	スピーチの種類とその目的	スピーチの種類とその目的について理解する。
第8回	積極的な聞き方とフィードバックの方法	積極的な聞き方とフィードバックの方法について考える。
第9回	スピーチで使う表現	スピーチで使う表現を学ぶ。
第10回	スピーチの原稿の作成	スピーチの原稿を書く。
第11回	スピーチの原稿の相互添削	スピーチの原稿を相互添削する。
第12回	発表の準備と練習	発表の準備と練習をする。
第13回	スピーチの実施（１）	スピーチを実施する。
第14回	スピーチの実施（２）	スピーチを実施する。
第15回	スピーチの相互フィードバック	スピーチの相互フィードバックをする。

担当者から一言

講義名	日本語ＩＩＢ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120472	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101JPN104								

授業概要

バランスのとれた日本語運用能力を高め、まとめる力、書く力、発表する力を身につける。また口頭発表と本格的な討論の力をつける。そのためにテーマに即したスピーチの練習をし、討論の意義およびその種類と実施方法を学ぶ。

到達目標

（１）まとめる力・書く力を磨く。
（２）発表の力を養う。
（３）聞く力を磨く。
（４）論点の明確化・論証・論駁の方法に慣れる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題	30	
上記以外	40	

３分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

復習としての家庭学習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業で指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語II B							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120472	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101JPN104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	討論の種類とその目的	討論の種類とその目的を理解する。
第2回	討論の準備	討論のテーマを考え、資料を集める。
第3回	討論の実施	討論を実施する。
第4回	討論の相互フィードバック	討論の相互フィードバックをする。
第5回	ディベートの準備１	テーマを決定し、グループを編成する。
第6回	ディベートの準備２	役割分担をし、資料を収集する。
第7回	ディベートの実施１	ディベートを実施する。
第8回	ディベートの実施２	ディベートを実施する。
第9回	ディベートの相互フィードバック	ディベートの相互フィードバックをする。
第10回	プレゼンテーションに必要な表現	プレゼンテーションに必要な表現を学ぶ。
第11回	プレゼンテーションの原稿の作成	プレゼンテーションの原稿を作成する。
第12回	プレゼンテーションの準備と練習	プレゼンテーションの準備と練習をする。
第13回	プレゼンテーションの実施１	プレゼンテーションを実施する。
第14回	プレゼンテーションの実施２	プレゼンテーションを実施する。
第15回	プレゼンテーションの相互フィードバック	プレゼンテーションの相互フィードバックをする。

担当者から一言

講義名	日本語III A							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120481	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN201								

授業概要

留学生が日本の大学および社会においてレポート・論文の執筆、専門的な研究活動、その他の文章表現を行うために必要となる日本語ライティング能力の向上を目指す。
例文や練習問題を多く用いながら様々な文体・表現形式の違いおよび使い分けを理解し、特に、書き言葉が多用されている文章を読んで理解し、また、自分自身も書ける技能を習得することをねらいとしている。

到達目標

（1）日本語による文体の使い分けを理解できる。
（2）書き言葉表現が多用されている文章を読んで、理解できる。
（3）レポート・論文などの文章を適切な表現・構成によって書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標（1）～（3）について、筆記試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目に関連し、小テスト・発表を行う。

授業時間数の３分の１以上を欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

毎回、授業の内容を予習・復習し、語彙や文法項目を定着させるよう、自ら努力すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

レベル確認と既習テキスト確認をした後で、講義の中で伝えるので購入すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語III A							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120481	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、日本語レベルの確認、授業への要望があれば提出
第2回	文字・表記 1	ひらがな・カタカナ・漢字
第3回	文字・表記 2	句読点・記号の使い方
第4回	文法表現 1	主語と述語の関係
第5回	文法表現 2	助詞・用語の使い方
第6回	文法表現 3	自動詞・他動詞・受け身・使役
第7回	文法表現 4	指示語
第8回	文法表現 5	正しい構造・文末呼応
第9回	文法表現 6	接続表現
第10回	まとめ・復習	これまでのまとめ・復習
第11回	文章・文体の違い 1	話し言葉と書き言葉、です・ます体とだ・である体
第12回	文章・文体の違い 2	書き言葉の表現 1
第13回	文章・文体の違い 3	書き言葉の表現 2
第14回	文章・文体の違い 4	書き言葉の表現 3
第15回	まとめ・復習 2	これまでのまとめ・復習。

担当者から一言

講義名	日本語III B							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120482	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN202								

授業概要

留学生が日本の大学および社会においてレポート・論文の執筆、専門的な研究活動、その他の文章表現を行うために必要となる日本語ライティング能力の向上を目指す。
例文や練習問題を多く用いながら、意見文・事実文・論文・説明文などの文章を読んで理解し、また、自分自身も書ける技能を習得することをねらいとしている。
さらに、パソコンを用いて効率的に日本語文書を作成する技術を向上させる。

到達目標

（1）意見文と事実文の違い・使い分けを理解できる。
（2）レポート・論文の適切な表現・構成・書き方を理解できる。
（3）グラフ数値・データの説明ができる。
（4）パソコンを活用して日本語文章を効率的に書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標（1）～（3）について、筆記試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目に関連し、小テスト・発表を行う。

授業時間数の３分の１以上を欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

毎回、授業の内容を予習・復習し、語彙や文法項目を定着させるよう、自ら努力すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

レベル確認と既習テキスト確認をした後で、講義の中で伝えるので購入すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語III B							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120482	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、日本語レベルの確認、授業への要望があれば提出
第2回	論文・レポートの書き方 1	意見文(主観的情報)と事実文(客観的情報)の違い
第3回	論文・レポートの書き方 2	論文の構成 1
第4回	論文・レポートの書き方 3	論文の構成 2
第5回	論文・レポートの書き方 4	文のつながり、段落
第6回	論文・レポートの書き方 5	資料の引用、参考文献の表記
第7回	論文・レポートの書き方 6	図表・統計データの提示と説明表現
第8回	論文・レポートの書き方 7	アンケートの作成と説明表現
第9回	論文・レポートの書き方 8	数式や単位の表現、観察・実験の経過表現
第10回	まとめ・復習 1	これまでのまとめ・復習
第11回	パソコン 1	パソコンを用いた日本語入力・便利な機能
第12回	パソコン 2	パソコンを用いた文書作成・便利な機能
第13回	パソコン 3	パソコンを用いたレジュメ作成
第14回	パソコン 4	パソコンを用いたウェブ検索技術。公式統計資料の探し方。日本語学習に役立つウェブサイトの紹介。
第15回	まとめ・復習 2	これまでのまとめ・復習

担当者から一言

講義名	日本語IVA							担当教員	メルビル　ケイコ　オオヤ※
講義コード	1120491	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN205								

授業概要

様々な口頭発表に慣れる。またインタビューや討論を行う。
アンケートの結果を使った発表の流れを理解し、身近なテーマでアンケートを行い、結果を分析し提案を日本語で発表し、質疑応答をできるようにする。

到達目標

1. 様々な口頭発表に慣れる。
2. 自分の意見を言えるようになる。
3. アンケートを使った調査の方法を学び、発表できるようになる。
4. 分析結果と考察、結論をかけるようになる。
5. データーから表やグラフなどの図が描けるようになる。
6. 生教材（新聞記事、Web映像など）を理解できるようになる
7. クラスメイトと協働的に課題に取り組み自己内省し自律的に学ぶことに慣れる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	期末口頭発表 （講義の中で評価項目と点数の配分を提示する）
レポート課題		
上記以外	60%	課題の達成度と小テスト 20% 授業の参加度 40%

授業時間数の３分の１以上欠席した者、また期末口頭発表を欠席した者は評価対象にしない。
課題の提出日を守ること。

授業外学習

スピーチの準備をして指定された時間内で発表できるように練習してくること。
授業の前に、読み物の課題の中でわからない漢字は読めるようにしておくこと。また、わからない単語は辞書で調べて理解をしておくこと。難しい

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で適宜紹介する。

前提学力等

「実用日本語検定（J-TEST）B」程度　または　「日本語能力試験N1」合格程度が望ましい。

履修資格

講義名	日本語IVA							担当教員	メルビル　ケイコ　オオヤ※
講義コード	1120491	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自他紹介スピーチの仕方	自他紹介スピーチの仕方
第2回	２分スピーチ	出身地の紹介
第3回	４分スピーチ	好きな映画　本　　漫画　テレビ
第4回	３分スピーチ	本・映画　テレビ　漫画　好きなシーン
第5回	４分スピーチ	自分たちの読んだ本を紹介する。
第6回	2分スピーチ	意見文を読んで、筆者に反対か賛成か発表する。
第7回	３分スピーチ	自分たちの読んだ本を紹介する。
第8回	３分スピーチ	インタビューするトピックを決める。
第9回	討論の仕方	討論の仕方
第10回	討論をする	討論をする。
第11回	アンケートを使った発表の流れを学ぶ	アンケートを使った実例を見る。何についてアンケートするかを決める
第12回	設問について話し合う	アンケートの調査の目的や、結果から何を提案できるのか、設問について話し合う。
第13回	アンケート調査の経過を報告	データーから表やグラフを描く方法。
第14回	アンケート調査発表のための準備（１）	自己評価と他者評価　質疑応答の仕方
第15回	口頭発表をする。	一人６分　質疑応答４分

担当者から一言
この授業では統計は扱いません。 パワーポイントを使えるようにしておくこと。

講義名	日本語IVB							担当教員	メルビル　ケイコ　オオヤ※
講義コード	1120492	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN206								

授業概要

この授業ではクラスメイトと協働的に課題に取り組む。まずミニデベートを行い、賛成、反対などの意見の主張の仕方を学ぶ。次に社会問題をテーマとした論文の構築の仕方を学び、それを日本語で発表する。また、質疑応答を行う為に必要とされる、メモの取り方メモに基づき質問をする仕方も練習する。

到達目標

(1) デベートを通して、賛成、反対の意見の主張の仕方を学ぶ
(2) プレゼンテーションとは何か、そして流れを理解する。
(3) プレゼンテーションで使用する表現を学び、使えるようになる。
(4) スライドの作り方に慣れる。
(5) 発表を聞いてメモを取り、質疑応答の仕方を身につける。
(6) 分の自プレゼンテーションを自己評価し、改善できるようになる。
(７)クラスメイトと協働的に課題に取り組み自己内省し自律的に学ぶことに慣れる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	期末口頭発表 （講義の中で評価項目と点数の配分を提示する）
レポート課題		
上記以外	60%	課題の達成度と小テスト 20% 授業の参加度 40%

授業時間数の３分の１以上欠席した物、また期末口頭発表を欠席した者は評価対象にしない
課題の提出日を守ること。

授業外学習

適宜小テストや発表を行うので、毎回の授業の復習または発表が時間内でできるように準備しておくこと。
授業の前に、読み物の課題の中でわからない漢字は読めるようにしておくこと。また、わからない単語は辞書で調べて理解をしておくこと。難しい

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で適宜紹介する。

前提学力等

「実用日本語検定（J.TEST）準A」程度　または　「日本語能力試験N1」合格程度が望ましい。

履修資格

講義名	日本語IVB							担当教員	メルビル　ケイコ　オオヤ※
講義コード	1120492	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	201JPN206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業オリエンテーション	デベートとは何か説明、デベートと討論の違いを理解する。
第2回	ミニデベートの役割を決める。決めたトピックの反対・賛成の意見	
第3回	ミニデベートとフィードバック	
第4回	プレゼンテーションの流れを理解しテーマを決める	
第5回	テーマに関係がある資料を探し方をクラスメイトと話し合う	
第6回	集めた資料についてクラスメイトに紹介する	（最低３つ）
第7回	アウトラインをクラスメイトに説明する	発表したいことがわかりやすく、順序良く説明できるかどうか。 クラスメイト同士で見直す。
第8回	先週クラスメイトの助言を受けて改正したアウトラインをクラスメ	増やした資料について紹介・説明する。（最低３つ）
第9回	序論を書いてくる。（問題背景・問題提起・論点を言う）	クラスメイトに序論を読む：お互いに助言をしあう。
第10回	序論の書き直しと本論の１パートを書いてくる。	（論証を進める・対立点を書く：相違点と共通点） クラスメイトに序論・本論を読む：お互いに助言をしあう。
第11回	本論を全部書いてくる。	クラスメイトに本論を読む：お互いに助言をしあう。 （論証を進める・対立点を書く：相違点と共通点）
第12回	結論を書いてくる。（問題提起に答える。論点に対して自分の結論	クラスメイトに結論を読む　お互いに助言し合う。
第13回	パワーポイントを作ってくる。	クラスメイトに説明する。お互いに助言し合う。(見やすさ、順序、スライドの枚数)
第14回	２グループに分かれて、発表のリハーサルをする。	お互いに助言し合う。（文法　発音　声　姿勢　　パワーポイントの使い方）
第15回	最終発表	

担当者から一言
資料を集めるのに時間がかかるので、発表のテーマが決まり次第、資料を集めること。 パワーポイントを使えるようにしておくこと。

講義名	リーディング（中級） a							担当教員	谷口　真紀
講義コード	1120620	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG302,137ENG202								

授業概要

この科目の目的は世界を動かす考えや活動についての英文の読解能力を磨くことです。自ら使いこなせるまでに内容を理解する受信力、解釈した内容を他者に分かりやすく伝える発信力の両方に働きかけて、読解の力を養っていきます。その両方をつなぐのは教養の力です。グローバルな課題をめぐる見識を広げておくことも読解力の助けとなります。国際社会で活躍していけるよう、英文の能動的な読み手となり、情報を駆使する技術を身につけることができるようになるのが当科目の価値です。積極的に相互の学びを深めていくために、ペアワークやグループワークが中心の参加型の授業形態で進めます

到達目標

①辞書を引きながら2回以上本文に目を通し、英文の精読に不可欠な語彙を養うことができる。
②本文を1段落の英語でパラフレーズし、英文の要点の判読に不可欠な論理を養うことができる。
③本文の一部を英語の1図表で説明し、英文の読解に不可欠な思考を養うことができる。
④1段落分の英語の文脈を把握し、英文の音読に不可欠な表現を磨くことができる。
⑤本文の内容をめぐる自らの考えを200語の英語にまとめ、英文の熟読に不可欠な視野を養うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	①セルフ・スタディ・ガイドの提出(宿題）20%←到達目標①を評価 ②要約テスト（授業内小テスト）20%←到達目標②を評価 ③ソーシャル・テスティング（第7回・第14回の授業で実施）20%←到達目標③を評価

四回以上遅刻または欠席した受講生は評価の対象としません。語学は遅刻や欠席によって自分やクラスメイトの学習の効果を損なうからです。

授業外学習

YouTubeを使ったオンライン学習で本文の内容を理解しておくことが授業出席の大前提です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	21st Century Reading	Laurie Blass, Mari Vargo, Ingrid Wisniewska	National Geographic Learning / Cengage Learning	13: 978-1-305-26571-4
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リーディング（中級） a							担当教員	谷口　真紀
講義コード	1120620	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG302,137ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方の共通確認
第2回	Hidden Miracles	テキスト8-17頁 小テスト
第3回	Sleep Matters	テキスト24-33頁 小テスト
第4回	Cyborg Tech	テキスト40-49頁 小テスト
第5回	Happy Planet	テキス56-65頁 小テスト
第6回	Career Paths	テキスト72-81頁 小テスト
第7回	ソーシャル・テスティングと音読テスト	グループでのテスト
第8回	ビブリオ・バトル	個人発表
第9回	Text Generation	テキスト88-97頁 小テスト
第10回	Barriers and Bridges	テキスト104-113頁 小テスト
第11回	Personality Types	テキスト120-129頁 小テスト
第12回	Smart Thinking	テキスト136-145頁 小テスト
第13回	Facing Fear	テキスト152-161頁 小テスト
第14回	ソーシャル・テスティングと音読テスト	グループでのテスト
第15回	まとめ	グループ・プロジェクト発表

担当者から一言

講義名	リーディング（中級）b							担当教員	谷口　真紀
講義コード	1120621	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG302,137ENG202								

授業概要

この科目の目的は世界を動かす考えや活動についての英文の読解能力を磨くことです。自ら使いこなせるまでに内容を理解する受信力、解釈した内容を他者に分かりやすく伝える発信力の両方に働きかけて、読解の力を養っていきます。その両方をつなぐのは教養の力です。グローバルな課題をめぐる見識を広げておくことも読解力の助けとなります。国際社会で活躍していけるよう、英文の能動的な読み手となり、情報を駆使する技術を身につけることができるようになるのが当科目の価値です。積極的に相互の学びを深めていくために、ペアワークやグループワークが中心の参加型の授業形態で進めます

到達目標

①辞書を引きながら2回以上本文に目を通し、英文の精読に不可欠な語彙を養うことができる。
②本文を1段落の英語でパラフレーズし、英文の要点の判読に不可欠な論理を養うことができる。
③本文の一部を英語の1図表で説明し、英文の読解に不可欠な思考を養うことができる。
④1段落分の英語の文脈を把握し、英文の音読に不可欠な表現を磨くことができる。
⑤本文の内容をめぐる自らの考えを200語の英語にまとめ、英文の熟読に不可欠な視野を養うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	①セルフ・スタディ・ガイドの提出(宿題）20%←到達目標①を評価 ②要約テスト（授業内小テスト）20%←到達目標②を評価 ③ソーシャル・テスティング（第7回・第14回の授業で実施）20%←到達目標③を評価

四回以上遅刻または欠席した受講生は評価の対象としません。語学は遅刻や欠席によって自分やクラスメイトの学習の効果を損なうからです。

授業外学習

YouTubeを使ったオンライン学習で本文の内容を理解しておくことが授業出席の大前提です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	21st Century Reading	Laurie Blass, Mari Vargo, Ingrid Wisniewska	National Geographic Learning / Cengage Learning	13: 978-1-305-26571-4
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リーディング（中級）b							担当教員	谷口　真紀
講義コード	1120621	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG302,137ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方の共通確認
第2回	Hidden Miracles	テキスト8-17頁 小テスト
第3回	Sleep Matters	テキスト24-33頁 小テスト
第4回	Cyborg Tech	テキスト40-49頁 小テスト
第5回	Happy Planet	テキス56-65頁 小テスト
第6回	Career Paths	テキスト72-81頁 小テスト
第7回	ソーシャル・テスティングと音読テスト	グループでのテスト
第8回	ビブリオ・バトル	個人発表
第9回	Text Generation	テキスト88-97頁 小テスト
第10回	Barriers and Bridges	テキスト104-113頁 小テスト
第11回	Personality Types	テキスト120-129頁 小テスト
第12回	Smart Thinking	テキスト136-145頁 小テスト
第13回	Facing Fear	テキスト152-161頁 小テスト
第14回	ソーシャル・テスティングと音読テスト	グループでのテスト
第15回	まとめ	グループ・プロジェクト発表

担当者から一言

講義名	英語会話（中級）a /							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120630	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

This practical, multi-skills English course is designed to support students who are preparing to study abroad. The course focuses on coaching the key skills that are necessary to successfully handle the anticipated academic challenges. This includes: expressing opinions and giving reasons, note taking, making presentations and writing essays. The course aims to simulate these challenges in order to give students opportunities to acquire both practical experience and skills coaching in a supportive, situated-learning environment.

到達目標

The course objectives focus on the further development of English skills required for academic/study abroad contexts. The course aims for students to:

1. State personal opinions clearly and confidently during class discussions.

2. Write grammatically correct paragraphs and short essays.

3. Design and deliver an effective 'academic-style' presentation supported by visual aids.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Assignments: Personal Bio (10%), Essay (30%)
レポート課題	20	Group Presentation.
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete two writing assignments and a group presentation. The final test will focus on academic reading comprehension and short paragraph writing.

授業外学習

This challenging, fast-paced course is designed to test both the language and study skills of participating students. The intention is to expose individual problems that need to be addressed in preparation for a study abroad experience.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語会話（中級）a /							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120630	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Getting Started	Course Overview, Grammar Review and Practice (Past/Present/Future forms)
第2回	The Personal Bio	Writing a classmate's personal bio (mixing past/present/future tenses). Interview techniques and asking follow-up questions.
第3回	Academic Writing I	Understanding academic essay/report structures. A seven-step plan for essay writing. The essay assignment-getting started.
第4回	Discussion & Debate Skills I	Expressing opinions. Supporting opinions with reasons.
第5回	In the News I	Using English language news articles and video for self-study.
第6回	Academic Writing II	Paragraph structure: topic sentences, supporting sentences, concluding sentences and transitions. Essay assignment progress check.
第7回	Lecture Simulation	Strategies for note-taking and summarising. Asking questions to check comprehension.
第8回	Expressive Speech Workshop	Understanding and using expressive qualities of speech and communication: Rhythm, intonation, stress and gesture.
第9回	Discussion & Debate Skills II	Agreeing and Disagreeing. When and how to be 'tactful'. Argument and persuasion strategies. Molding opinions and using leading questions.
第10回	Presentation Skills Workshop	Introduction to effective techniques for academic-style presentations. Presentation structure. Useful phrases. Tips for designing visual content
第11回	In the News II	Writing techniques used by journalists for short articles. Group work exercise: 'The News Team'.
第12回	Japan Today: The Big Debate	Students will discuss and debate a selection of questions on issues facing contemporary Japanese society.
第13回	Study Abroad Workshop	Understanding Cultural Differences: Relativism, stereotypes and norms. The study abroad experience: Expectations, preparations and 'settling in'.
第14回	Group Presentations	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback.
第15回	Group Presentations/ Course Review	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback. Course Review and final questions.

担当者から一言
Students will be provided with all the materials. Students will be expected to participate actively in class discussions.

講義名	英語会話（中級）b /							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120631	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

This practical, multi-skills English course is designed to support students who are preparing to study abroad. The course focuses on coaching the key skills that are necessary to successfully handle the anticipated academic challenges. This includes: expressing opinions and giving reasons, note taking, making presentations and writing essays. The course aims to simulate these challenges in order to give students opportunities to acquire both practical experience and skills coaching in a supportive, situated-learning environment.

到達目標

The course objectives focus on the further development of English skills required for academic/study abroad contexts. The course aims for students to:

1. State personal opinions clearly and confidently during class discussions.

2. Write grammatically correct paragraphs and short essays.

3. Design and deliver an effective 'academic-style' presentation supported by visual aids.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Assignments: Personal Bio (10%), Essay (30%)
レポート課題	20	Group Presentation.
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete two writing assignments and a group presentation. The final test will focus on academic reading comprehension and short paragraph writing.

授業外学習

This challenging, fast-paced course is designed to test both the language and study skills of participating students. The intention is to expose individual problems that need to be addressed in preparation for a study abroad experience.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語会話（中級）b /							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120631	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Getting Started	Course Overview, Grammar Review and Practice (Past/Present/Future forms)
第2回	The Personal Bio	Writing a classmate's personal bio (mixing past/present/future tenses). Interview techniques and asking follow-up questions.
第3回	Academic Writing I	Understanding academic essay/report structures. A seven-step plan for essay writing. The essay assignment-getting started.
第4回	Discussion & Debate Skills I	Expressing opinions. Supporting opinions with reasons.
第5回	In the News I	Using English language news articles and video for self-study.
第6回	Academic Writing II	Paragraph structure: topic sentences, supporting sentences, concluding sentences and transitions. Essay assignment progress check.
第7回	Lecture Simulation	Strategies for note-taking and summarising. Asking questions to check comprehension.
第8回	Expressive Speech Workshop	Understanding and using expressive qualities of speech and communication: Rhythm, intonation, stress and gesture.
第9回	Discussion & Debate Skills II	Agreeing and Disagreeing. When and how to be 'tactful'. Argument and persuasion strategies. Molding opinions and using leading questions.
第10回	Presentation Skills Workshop	Introduction to effective techniques for academic-style presentations. Presentation structure. Useful phrases. Tips for designing visual content
第11回	In the News II	Writing techniques used by journalists for short articles. Group work exercise: 'The News Team'.
第12回	Japan Today: The Big Debate	Students will discuss and debate a selection of questions on issues facing contemporary Japanese society.
第13回	Study Abroad Workshop	Understanding Cultural Differences: Relativism, stereotypes and norms. The study abroad experience: Expectations, preparations and 'settling in'.
第14回	Group Presentations	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback.
第15回	Group Presentations/ Course Review	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback. Course Review and final questions.

担当者から一言
Students will be provided with all the materials. Students will be expected to participate actively in class discussions.

講義名	Integrated English a							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120632	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG303,237PEN207								

授業概要

This practical, multi-skills English course is designed to support students who are preparing to study abroad. The course focuses on coaching the key skills that are necessary to successfully handle the anticipated academic challenges. This includes: expressing opinions and giving reasons, note taking, making presentations and writing essays. The course aims to simulate these challenges in order to give students opportunities to acquire both practical experience and skills coaching in a supportive, situated-learning environment.

到達目標

The course objectives focus on the further development of English skills required for academic/study abroad contexts. The course aims for students to:

1. State personal opinions clearly and confidently during class discussions.

2. Write grammatically correct paragraphs and short essays.

3. Design and deliver an effective 'academic-style' presentation supported by visual aids.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Assignments: Personal Bio (10%), Essay (30%)
レポート課題	20	Group Presentation.
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete two writing assignments and a group presentation. The final test will focus on academic reading comprehension and short paragraph writing.

授業外学習

This challenging, fast-paced course is designed to test both the language and study skills of participating students. The intention is to expose individual problems that need to be addressed in preparation for a study abroad experience.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Integrated English a							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120632	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG303,237PEN207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Getting Started	Course Overview, Grammar Review and Practice (Past/Present/Future forms)
第2回	The Personal Bio	Writing a classmate's personal bio (mixing past/present/future tenses). Interview techniques and asking follow-up questions.
第3回	Academic Writing I	Understanding academic essay/report structures. A seven-step plan for essay writing. The essay assignment-getting started.
第4回	Discussion & Debate Skills I	Expressing opinions. Supporting opinions with reasons.
第5回	In the News I	Using English language news articles and video for self-study.
第6回	Academic Writing II	Paragraph structure: topic sentences, supporting sentences, concluding sentences and transitions. Essay assignment progress check.
第7回	Lecture Simulation	Strategies for note-taking and summarising. Asking questions to check comprehension.
第8回	Expressive Speech Workshop	Understanding and using expressive qualities of speech and communication: Rhythm, intonation, stress and gesture.
第9回	Discussion & Debate Skills II	Agreeing and Disagreeing. When and how to be 'tactful'. Argument and persuasion strategies. Molding opinions and using leading questions.
第10回	Presentation Skills Workshop	Introduction to effective techniques for academic-style presentations. Presentation structure. Useful phrases. Tips for designing visual content
第11回	In the News II	Writing techniques used by journalists for short articles. Group work exercise: 'The News Team'.
第12回	Japan Today: The Big Debate	Students will discuss and debate a selection of questions on issues facing contemporary Japanese society.
第13回	Study Abroad Workshop	Understanding Cultural Differences: Relativism, stereotypes and norms. The study abroad experience: Expectations, preparations and 'settling in'.
第14回	Group Presentations	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback.
第15回	Group Presentations/ Course Review	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback. Course Review and final questions.

担当者から一言
Students will be provided with all the materials. Students will be expected to participate actively in class discussions.

講義名	Integrated English b							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120633	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG303,237PEN207								

授業概要

This practical, multi-skills English course is designed to support students who are preparing to study abroad. The course focuses on coaching the key skills that are necessary to successfully handle the anticipated academic challenges. This includes: expressing opinions and giving reasons, note taking, making presentations and writing essays. The course aims to simulate these challenges in order to give students opportunities to acquire both practical experience and skills coaching in a supportive, situated-learning environment.

到達目標

The course objectives focus on the further development of English skills required for academic/study abroad contexts. The course aims for students to:

1. State personal opinions clearly and confidently during class discussions.

2. Write grammatically correct paragraphs and short essays.

3. Design and deliver an effective 'academic-style' presentation supported by visual aids.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Assignments: Personal Bio (10%), Essay (30%)
レポート課題	20	Group Presentation.
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete two writing assignments and a group presentation. The final test will focus on academic reading comprehension and short paragraph writing.

授業外学習

This challenging, fast-paced course is designed to test both the language and study skills of participating students. The intention is to expose individual problems that need to be addressed in preparation for a study abroad experience.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Integrated English b							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1120633	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG303,237PEN207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Getting Started	Course Overview, Grammar Review and Practice (Past/Present/Future forms)
第2回	The Personal Bio	Writing a classmate's personal bio (mixing past/present/future tenses). Interview techniques and asking follow-up questions.
第3回	Academic Writing I	Understanding academic essay/report structures. A seven-step plan for essay writing. The essay assignment-getting started.
第4回	Discussion & Debate Skills I	Expressing opinions. Supporting opinions with reasons.
第5回	In the News I	Using English language news articles and video for self-study.
第6回	Academic Writing II	Paragraph structure: topic sentences, supporting sentences, concluding sentences and transitions. Essay assignment progress check.
第7回	Lecture Simulation	Strategies for note-taking and summarising. Asking questions to check comprehension.
第8回	Expressive Speech Workshop	Understanding and using expressive qualities of speech and communication: Rhythm, intonation, stress and gesture.
第9回	Discussion & Debate Skills II	Agreeing and Disagreeing. When and how to be 'tactful'. Argument and persuasion strategies. Molding opinions and using leading questions.
第10回	Presentation Skills Workshop	Introduction to effective techniques for academic-style presentations. Presentation structure. Useful phrases. Tips for designing visual content
第11回	In the News II	Writing techniques used by journalists for short articles. Group work exercise: 'The News Team'.
第12回	Japan Today: The Big Debate	Students will discuss and debate a selection of questions on issues facing contemporary Japanese society.
第13回	Study Abroad Workshop	Understanding Cultural Differences: Relativism, stereotypes and norms. The study abroad experience: Expectations, preparations and 'settling in'.
第14回	Group Presentations	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback.
第15回	Group Presentations/ Course Review	Small groups will deliver a short academic-style presentation. Class Q&A and tutor feedback. Course Review and final questions.

担当者から一言
Students will be provided with all the materials. Students will be expected to participate actively in class discussions.

講義名	リスニング（中級） a							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120640	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG301								

授業概要

This class will use real-life examples of spoken English from around the world to help students improve their listening skills.

到達目標

Students will:
(1) Learn about the key features of spoken English, and why these are important for listening
(2) Practise their listening skills with a variety of real-world examples
(3) Think about the best ways to improve their listening skills

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	Listening test - students will listen to examples of spoken English and identify: (a) The overall message and gist (b) The mood and intention of the speaker
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Reviewing class notes - 3 hours
Listening to examples of spoken English (internet links provided) - 9 hours

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Materials (eg, notes and internet links) will be provided by the teacher

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リスニング（中級） a							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120640	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Listening 1	Introduction; aims and objectives
第2回	Listening 2	The schwa sound (1)
第3回	Listening 3	Sentence stress and rhythm (1)
第4回	Listening 4	Speed, intonation and volume (1)
第5回	Listening 5	Native and non-native English (1)
第6回	Listening 6	Formal and informal English (1)
第7回	Listening 7	Active listening (1)
第8回	Listening 8	Mid-term review; feedback
第9回	Listening 9	The schwa sound (2)
第10回	Listening 10	Sentence stress and rhythm (2)
第11回	Listening 11	Speed, intonation and volume (2)
第12回	Listening 12	Native and non-native English (2)
第13回	Listening 13	Formal and informal English (2)
第14回	Listening 14	Active listening (2)
第15回	Listening 15	Final review

担当者から一言

講義名	リスニング（中級）b							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120641	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG301								

授業概要

This class will use real-life examples of spoken English from around the world to help students improve their listening skills.

到達目標

Students will:
(1) Learn about the key features of spoken English, and why these are important for listening
(2) Practise their listening skills with a variety of real-world examples
(3) Think about the best ways to improve their listening skills

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	Listening test - students will listen to examples of spoken English and identify: (a) The overall message and gist (b) The mood and intention of the speaker
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Reviewing class notes - 3 hours
Listening to examples of spoken English (internet links provided) - 9 hours

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Materials (eg, notes and internet links) will be provided by the teacher

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	リスニング（中級）b							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120641	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Listening 1	Introduction; aims and objectives
第2回	Listening 2	The schwa sound (1)
第3回	Listening 3	Sentence stress and rhythm (1)
第4回	Listening 4	Speed, intonation and volume (1)
第5回	Listening 5	Native and non-native English (1)
第6回	Listening 6	Formal and informal English (1)
第7回	Listening 7	Active listening (1)
第8回	Listening 8	Mid-term review; feedback
第9回	Listening 9	The schwa sound (2)
第10回	Listening 10	Sentence stress and rhythm (2)
第11回	Listening 11	Speed, intonation and volume (2)
第12回	Listening 12	Native and non-native English (2)
第13回	Listening 13	Formal and informal English (2)
第14回	Listening 14	Active listening (2)
第15回	Listening 15	Final review

担当者から一言

講義名	ディベート＆ディスカッションａ/							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120650	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research.

到達目標

The primary goals of this course are as follows:
- to develop discussion and debating skills
- to practise internet research skills
- to introduce a common poster presentation format
- to practice giving a poster presentation

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		Discussion Participation: 50% Internet research: 25% Presentation: 25%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ディベート＆ディスカッションａ/							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120650	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	- Orientation - Introduction to discussion skills
第2回	Theme 1 (Pop culture) introduction	- Class tasks & discussion: Aspects of Japanese pop culture. HW: Read article(s) & prepare for Week 3 discussion.
第3回	Theme 1 discussions	- Group discussions: Pop culture article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 4 discussion.
第4回	Students' research (a) discussions	- Group discussions: Student articles (1) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 5 discussion.
第5回	Students' research (b) discussions	- Group discussions: Student articles (2)
第6回	Debating skills	- Debating skills activities - Choose debate teams and topics
第7回	Theme 1 debate	- Group debates (1)
第8回	Theme 2 (21st century society) introduction	- Class tasks & discussion: Challenges facing 21st Japan HW: Read article(s) & prepare for Week 9 discussion.
第9回	Theme 2 discussion	- Group discussions: Japanese society article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 10 discussion.
第10回	Students' research (a) discussion	- Group discussions: Student articles (3) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 11 discussion.
第11回	Students' research (b) discussion	- Group discussions: Student articles (4) - Choose debate teams and topics
第12回	Theme 2 debate	- Group debates (2)
第13回	Presentation I	- Presentation preparation and practice HW: Group A students prepare and practice for presentations
第14回	Presentation II	- Student presentations (Group A) HW: Group B students prepare and practice for presentations
第15回	Presentation III	- Student presentations (Group B) - Feedback and course evaluation

担当者から一言

講義名	ディベート＆ディスカッションb /							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120651	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research.

到達目標

The primary goals of this course are as follows:
- to develop discussion and debating skills
- to practise internet research skills
- to introduce a common poster presentation format
- to practice giving a poster presentation

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		Discussion Participation: 50% Internet research: 25% Presentation: 25%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ディベート＆ディスカッションb /							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120651	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	- Orientation - Introduction to discussion skills
第2回	Theme 1 (Pop culture) introduction	- Class tasks & discussion: Aspects of Japanese pop culture. HW: Read article(s) & prepare for Week 3 discussion.
第3回	Theme 1 discussions	- Group discussions: Pop culture article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 4 discussion.
第4回	Students' research (a) discussions	- Group discussions: Student articles (1) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 5 discussion.
第5回	Students' research (b) discussions	- Group discussions: Student articles (2)
第6回	Debating skills	- Debating skills activities - Choose debate teams and topics
第7回	Theme 1 debate	- Group debates (1)
第8回	Theme 2 (21st century society) introduction	- Class tasks & discussion: Challenges facing 21st Japan HW: Read article(s) & prepare for Week 9 discussion.
第9回	Theme 2 discussion	- Group discussions: Japanese society article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 10 discussion.
第10回	Students' research (a) discussion	- Group discussions: Student articles (3) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 11 discussion.
第11回	Students' research (b) discussion	- Group discussions: Student articles (4) - Choose debate teams and topics
第12回	Theme 2 debate	- Group debates (2)
第13回	Presentation I	- Presentation preparation and practice HW: Group A students prepare and practice for presentations
第14回	Presentation II	- Student presentations (Group A) HW: Group B students prepare and practice for presentations
第15回	Presentation III	- Student presentations (Group B) - Feedback and course evaluation

担当者から一言

講義名	Introduction to Discussion & Debate a							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120653	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG401,237ENG207								

授業概要

On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research.

到達目標

The primary goals of this course are as follows:
- to develop discussion and debating skills
- to practise internet research skills
- to introduce a common poster presentation format
- to practice giving a poster presentation

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		Discussion Participation: 50% Internet research: 25% Presentation: 25%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Introduction to Discussion & Debate a							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120653	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG401,237ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	- Orientation - Introduction to discussion skills
第2回	Theme 1 (Pop culture) introduction	- Class tasks & discussion: Aspects of Japanese pop culture. HW: Read article(s) & prepare for Week 3 discussion.
第3回	Theme 1 discussions	- Group discussions: Pop culture article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 4 discussion.
第4回	Students' research (a) discussions	- Group discussions: Student articles (1) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 5 discussion.
第5回	Students' research (b) discussions	- Group discussions: Student articles (2)
第6回	Debating skills	- Debating skills activities - Choose debate teams and topics
第7回	Theme 1 debate	- Group debates (1)
第8回	Theme 2 (21st century society) introduction	- Class tasks & discussion: Challenges facing 21st Japan HW: Read article(s) & prepare for Week 9 discussion.
第9回	Theme 2 discussion	- Group discussions: Japanese society article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 10 discussion.
第10回	Students' research (a) discussion	- Group discussions: Student articles (3) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 11 discussion.
第11回	Students' research (b) discussion	- Group discussions: Student articles (4) - Choose debate teams and topics
第12回	Theme 2 debate	- Group debates (2)
第13回	Presentation I	- Presentation preparation and practice HW: Group A students prepare and practice for presentations
第14回	Presentation II	- Student presentations (Group A) HW: Group B students prepare and practice for presentations
第15回	Presentation III	- Student presentations (Group B) - Feedback and course evaluation

担当者から一言

講義名	Introduction to Discussion & Debate b							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120654	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG401,237ENG207								

授業概要

On this course we will explore some engaging topics that are often found in mass media to practice discussion and debating skills. After an introduction to a theme, we will examine an article and discuss the ideas contained within it. Next, after a session practising internet research skills, students will find their own articles and lead a discussion in small groups. To conclude each theme, we will have a debate on some of the key issues. The course will cover two broad themes. In the final part of the course, students will prepare and give a poster presentation about their research.

到達目標

The primary goals of this course are as follows:
- to develop discussion and debating skills
- to practise internet research skills
- to introduce a common poster presentation format
- to practice giving a poster presentation

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		Discussion Participation: 50% Internet research: 25% Presentation: 25%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

There is no required textbook for the course. Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Introduction to Discussion & Debate b							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120654	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG401,237ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	- Orientation - Introduction to discussion skills
第2回	Theme 1 (Pop culture) introduction	- Class tasks & discussion: Aspects of Japanese pop culture. HW: Read article(s) & prepare for Week 3 discussion.
第3回	Theme 1 discussions	- Group discussions: Pop culture article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 4 discussion.
第4回	Students' research (a) discussions	- Group discussions: Student articles (1) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 5 discussion.
第5回	Students' research (b) discussions	- Group discussions: Student articles (2)
第6回	Debating skills	- Debating skills activities - Choose debate teams and topics
第7回	Theme 1 debate	- Group debates (1)
第8回	Theme 2 (21st century society) introduction	- Class tasks & discussion: Challenges facing 21st Japan HW: Read article(s) & prepare for Week 9 discussion.
第9回	Theme 2 discussion	- Group discussions: Japanese society article(s) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 10 discussion.
第10回	Students' research (a) discussion	- Group discussions: Student articles (3) HW: Group leaders find own article and prepare materials for Week 11 discussion.
第11回	Students' research (b) discussion	- Group discussions: Student articles (4) - Choose debate teams and topics
第12回	Theme 2 debate	- Group debates (2)
第13回	Presentation I	- Presentation preparation and practice HW: Group A students prepare and practice for presentations
第14回	Presentation II	- Student presentations (Group A) HW: Group B students prepare and practice for presentations
第15回	Presentation III	- Student presentations (Group B) - Feedback and course evaluation

担当者から一言

講義名	エッセイ・ライティング/							担当教員	John Rippey
講義コード	1120670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

In this course, students improve their writing skills in English by composing works in four related writing genres: personal narrative, speculative essay, fictional narrative, and extended dialogue. The course offers students a chance to clarify their thoughts, deepen their self-understanding, and enhance their powers of expression on subjects which interest them. The course represents an opportunity for students to experience the pleasure of writing and for exposure to the thoughts of other people about writing. The four papers that students produce in the course are each approximately 1,000 words in length. The course also offers an opportunity for an editing experience; over the course of the semester, class members collaborate in creating the English writing journal of the Department of Intercultural Communications.

到達目標

(1) Ability to generate an extended account of an actual event in accurate and natural written English.
(2) Ability to express an extended and persuasive argument in accurate and natural written English.
(3) Ability to relate an evocative extended narrative in accurate and natural written English.
(4) Ability to render a complex extended conversation in accurate and natural written English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	(1) 25%, as expressed in the overall quality of the personal narrative. (2) 25%, as expressed in the overall quality of the speculative essay. (3) 25%, as expressed in the overall quality of the fictional narrative.

More than three absences (for any reason) results in loss of course credit.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	エッセイ・ライティング/							担当教員	John Rippey
講義コード	1120670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction to Course and Personal Narratives	Discussion of the course content, approach, and writing jounnal project. Close reading and discussion of several personal narratives.
第2回	Personal Narrative, First Draft	Brainstorming on first drafts of original personal narratives.
第3回	Personal Narrative, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of personal narratives.
第4回	Introduction to Speculative Essay	Reading aloud of personal narratives. Close reading and discussion of several speculative essays.
第5回	Speculative Essay, First Draft	Brainstorming on first drafts of original speculative essays.
第6回	Speculative Essay, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of speculative essays.
第7回	Introduction to Fictional Narrative	Reading aloud of speculative essays. Close reading and discussion of several short stories.
第8回	Fictional Narrative, First Draft	Brainstorming on first drafts of original short stories.
第9回	Fictional Narrative, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of short stories.
第10回	Introduction to Extended Dialogue	Reading aloud of fictional narratives. Close reading and discussion of several extended dialogues.
第11回	Extended Dialogue, First Draft	Brainstorming on first drafts of original extended dialogues.
第12回	Extended Dialogue, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of extended dialogues.
第13回	Journal Editing (1)	Reading aloud of extended dialogues. Planning and designing a journal of English writing for the Department of Intercultural Communications.
第14回	Journal Editing (2)	Editing and ordering submissions to the department journal of English writing.
第15回	Journal Editing (3)	Final preparations for the department writing journal.

担当者から一言
Writing is an especially fulfilling mode of communication. In addition to writing, the course involves large amounts of reading and discussion. Class members collaborate closely throughout the semester and in producing a publication.

講義名	Essay Writing							担当教員	John Rippey
講義コード	1120675	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG402,237ENG206								

授業概要

In this course, students improve their writing skills in English by composing works in four related writing genres: personal narrative, speculative essay, fictional narrative, and extended dialogue. The course offers students a chance to clarify their thoughts, deepen their self-understanding, and enhance their powers of expression on subjects which interest them. The course represents an opportunity for students to experience the pleasure of writing and for exposure to the thoughts of other people about writing. The four papers that students produce in the course are each approximately 1,000 words in length. The course also offers an opportunity for an editing experience; over the course of the semester, class members collaborate in creating the English writing journal of the Department of Intercultural Communications.

到達目標

(1) Ability to generate an extended account of an actual event in accurate and natural written English.
(2) Ability to express an extended and persuasive argument in accurate and natural written English.
(3) Ability to relate an evocative extended narrative in accurate and natural written English.
(4) Ability to render a complex extended conversation in accurate and natural written English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	(1) 25%, as expressed in the overall quality of the personal narrative. (2) 25%, as expressed in the overall quality of the speculative essay. (3) 25%, as expressed in the overall quality of the fictional narrative.

More than three absences (for any reason) results in loss of course credit.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Essay Writing							担当教員	John Rippey
講義コード	1120675	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG402,237ENG206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction to Course and Personal Narratives	Discussion of the course content, approach, and writing jounnal project. Close reading and discussion of several personal narratives.
第2回	Personal Narrative, First Draft	Brainstorming on first drafts of original personal narratives.
第3回	Personal Narrative, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of personal narratives.
第4回	Introduction to Speculative Essay	Reading aloud of personal narratives. Close reading and discussion of several speculative essays.
第5回	Speculative Essay, First Draft	Brainstorming on first drafts of original speculative essays.
第6回	Speculative Essay, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of speculative essays.
第7回	Introduction to Fictional Narrative	Reading aloud of speculative essays. Close reading and discussion of several short stories.
第8回	Fictional Narrative, First Draft	Brainstorming on first drafts of original short stories.
第9回	Fictional Narrative, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of short stories.
第10回	Introduction to Extended Dialogue	Reading aloud of fictional narratives. Close reading and discussion of several extended dialogues.
第11回	Extended Dialogue, First Draft	Brainstorming on first drafts of original extended dialogues.
第12回	Extended Dialogue, Second Draft	Deep reading and peer feedback on second drafts of extended dialogues.
第13回	Journal Editing (1)	Reading aloud of extended dialogues. Planning and designing a journal of English writing for the Department of Intercultural Communications.
第14回	Journal Editing (2)	Editing and ordering submissions to the department journal of English writing.
第15回	Journal Editing (3)	Final preparations for the department writing journal.

担当者から一言
Writing is an especially fulfilling mode of communication. In addition to writing, the course involves large amounts of reading and discussion. Class members collaborate closely throughout the semester and in producing a publication.

講義名	留学英語対策基礎講座/							担当教員	John Rippey
講義コード	1120685	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course provides students the opportunity for better understanding of and more practice for the TOEFL ITP paper test. Students increase their knowledge of the structure and content of the TOEFL ITP test. Students also engage in a sustained and intensive program of practice exercises for the test in order to further strengthen their academic English skills. The most immediate aim of the course is to assist long-term efforts to raise individual TOEFL ITP scores, bridging other coursework done in the spring and fall semesters.

到達目標

(1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL ITP test.
(2) Students will strengthen their performance on TOEFL ITP style exam questions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	Achievement of learning goal (2) is measured by performance on the final achievement (review) exam of all coursework.
レポート課題		
上記以外	50%	Achievement of learning goal (1) is measured by degree of documented completion of homework assignments.

More than three absences (for any reason) results in loss of course credit.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Longman Preparation Course for the TOEFL Test, The Paper Test with Answer Key	Deborah Phillips	Pearson Longman	9780131408838
2	Longman Preparation Course for the TOEFL Test, The Paper Test with Answer Key, CD	Deborah Phillips	Pearson Longman	9780131408845
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	留学英語対策基礎講座/							担当教員	John Rippey
講義コード	1120685	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Overview of the TOEFL ITP test and academic Engish, confirmation of study strategies.
第2回	Academic Vocabulary	Review of the university word list, confirmation of individual vocabulary notebooks
第3回	Reading Exercises (1)	Reading passages and comprehension questions.
第4回	Grammar Exercises (1)	Structure and written expression questions.
第5回	Listening Exercises (1)	Listening passages and comprehension questions.
第6回	Reading Exercises (2)	Reading passages and comprehension questions.
第7回	Grammar Exercises (2)	Structure and written expression questions.
第8回	Listening Exercises (2)	Listening passages and comprehension questions.
第9回	Reading Exercises (3)	Reading passages and comprehension questions.
第10回	Grammar Exercises (3)	Structure and written expression questions.
第11回	Listening Exercises (3)	Listening passages and comprehension questions.
第12回	Reading Exercises (4)	Reading passages and comprehension questions.
第13回	Grammar Exercises (4)	Structure and written expression questions.
第14回	Listening Exercises (4)	Listening passages and comprehension questions.
第15回	Review	Comprehensive review of all coursework.

担当者から一言
This course offers students academic credit for guided, individual TOEFL ITP study done over the summer break. The coursework consists mainly of compulsory and regularly-spaced homework assignments.

講義名	Intermediate Academic English							担当教員	John Rippey
講義コード	1120686	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG403,137PEN102								

授業概要

This course provides students the opportunity for better understanding of and more practice for the TOEFL ITP paper test. Students increase their knowledge of the structure and content of the TOEFL ITP test. Students also engage in a sustained and intensive program of practice exercises for the test in order to further strengthen their academic English skills. The most immediate aim of the course is to assist long-term efforts to raise individual TOEFL ITP scores, bridging other coursework done in the spring and fall semesters.

到達目標

(1) Students will increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL ITP test.
(2) Students will strengthen their performance on TOEFL ITP style exam questions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	Achievement of learning goal (2) is measured by performance on the final achievement (review) exam of all coursework.
レポート課題		
上記以外	50%	Achievement of learning goal (1) is measured by degree of documented completion of homework assignments.

More than three absences (for any reason) results in loss of course credit.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Longman Preparation Course for the TOEFL Test, The Paper Test with Answer Key	Deborah Phillips	Pearson Longman	9780131408838
2	Longman Preparation Course for the TOEFL Test, The Paper Test with Answer Key, CD	Deborah Phillips	Pearson Longman	9780131408845
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Intermediate Academic English							担当教員	John Rippey
講義コード	1120686	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG403,137PEN102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Overview of the TOEFL ITP test and academic Engish, confirmation of study strategies.
第2回	Academic Vocabulary	Review of the university word list, confirmation of individual vocabulary notebooks
第3回	Reading Exercises (1)	Reading passages and comprehension questions.
第4回	Grammar Exercises (1)	Structure and written expression questions.
第5回	Listening Exercises (1)	Listening passages and comprehension questions.
第6回	Reading Exercises (2)	Reading passages and comprehension questions.
第7回	Grammar Exercises (2)	Structure and written expression questions.
第8回	Listening Exercises (2)	Listening passages and comprehension questions.
第9回	Reading Exercises (3)	Reading passages and comprehension questions.
第10回	Grammar Exercises (3)	Structure and written expression questions.
第11回	Listening Exercises (3)	Listening passages and comprehension questions.
第12回	Reading Exercises (4)	Reading passages and comprehension questions.
第13回	Grammar Exercises (4)	Structure and written expression questions.
第14回	Listening Exercises (4)	Listening passages and comprehension questions.
第15回	Review	Comprehensive review of all coursework.

担当者から一言
This course offers students academic credit for guided, individual TOEFL ITP study done over the summer break. The coursework consists mainly of compulsory and regularly-spaced homework assignments.

講義名	留学英語対策講座 I /							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120690	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course will focus on academic English skills (Reading, Writing, Listening & Speaking) and aspects of language knowledge (Grammar & Vocabulary), which are important for both the paper-based TOEFL and the IELTS tests. We will also practise test-taking strategies that can help students gain the highest score possible for study abroad applications.

到達目標

The overall goal of this course is to improve the students' TOEFL and IELTS scores for study abroad applications.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	Participation: 30% Quizzes: 40% Question making projects: 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	留学英語対策講座 I /							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120690	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	
第2回	Listening skills (1)	
第3回	Reading skills (1)	
第4回	Writing skills (1)	
第5回	Speaking skills (1)	
第6回	Question design assessment (1)	
第7回	Listening skills (2)	
第8回	Reading skills (2)	
第9回	Writing skills (2)	
第10回	Question design assessment (2)	
第11回	Speaking skills (3)	
第12回	Listening skills (3)	
第13回	Reading skills (3)	
第14回	Writing skills (3)	
第15回	Question design assessment (3)	

担当者から一言

講義名	Advanced Academic English I							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120695	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG304,137PEN209								

授業概要

This course will focus on academic English skills (Reading, Writing, Listening & Speaking) and aspects of language knowledge (Grammar & Vocabulary), which are important for both the paper-based TOEFL and the IELTS tests. We will also practise test-taking strategies that can help students gain the highest score possible for study abroad applications.

到達目標

The overall goal of this course is to improve the students ' TOEFL and IELTS scores for study abroad applications.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	Participation: 30% Quizzes: 40% Question making projects: 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Materials will be distributed in class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Advanced Academic English I							担当教員	Martin Hawkes
講義コード	1120695	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG304,137PEN209								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Orientation	
第2回	Listening skills (1)	
第3回	Reading skills (1)	
第4回	Writing skills (1)	
第5回	Speaking skills (1)	
第6回	Question design assessment (1)	
第7回	Listening skills (2)	
第8回	Reading skills (2)	
第9回	Writing skills (2)	
第10回	Question design assessment (2)	
第11回	Speaking skills (3)	
第12回	Listening skills (3)	
第13回	Reading skills (3)	
第14回	Writing skills (3)	
第15回	Question design assessment (3)	

担当者から一言

講義名	留学英語対策講座II /							担当教員	John Rippey
講義コード	1120700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course introduces students to the TOEFL iBT (Internet-based test) and provides the opportunity to prepare for that test through practice exercises, both receptive and productive. Through the course, students become familiar with the structure and content of the TOEFL iBT. Students also do significant amounts of academic reading, listening, speaking, and writing. The coursework also further prepares students for the TOEFL ITP (paper-based test). The aims of the course are to strengthen academic English abilities and raise individual TOEFL scores.

到達目標

(1) Students increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (skills, topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL iBT test.
(2) Students strengthen their performance on TOEFL iBT style exam questions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	Achievement of learning goal (2) is measured by performance on a final achievement (review) exam.
レポート課題		
上記以外	50%	Achievement of learning goal (1) is measured by performance on weekly quizzes on homework assignments.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Longman Preparation Course for the TOEFL iBT Test	Deborah Phillips	Pearson Longman	978-0-13-324812-8
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	留学英語対策講座II /							担当教員	John Rippey
講義コード	1120700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction, Strategies for Reading	Overview of the TOEFL-iBT test, study strategies, and course materials.
第2回	Stategies for the Listening Section	Homework reading review, overview and practice of listening section.
第3回	Strategies for the Speaking Section	Homework listening review, overview and practice of speaking section.
第4回	Strategies for the Writing Section	Homework reading review, overview and practice of writing section.
第5回	Structuring the Independent Speaking Task	Homework listening review, independent speaking task exercises
第6回	Structuring the Integrated Writing Task	Homework reading review, integrated writing task (read, listen, then write) exercises
第7回	Structuring the Integrated Speaking Task	Homework listening review, integrated speaking task (read, listen, then speak) exercises
第8回	Structuring the Independent Writing Task	Homework reading review, independent writing task exercises
第9回	Structuring the Integrated Speaking Task	Homework listening review, integrated speaking task (listen then speak) exercises
第10回	Strengthening Integrated Writing Ability	Homework reading review, integrated writing task (read, listen, then speak) exercises
第11回	Strengthening Speaking Ability	Homework listening review, independent and integrated speaking task exercises
第12回	Strengthening Writing Ability	Homework reading review, integrated and independent writing task exercises
第13回	Polishing Speaking and Writing Skills	Homework listening review, speaking and writing section practice
第14回	Review	Overview of all coursework and preview of the final examination.
第15回	Plans of Study	Consultation and generation of individual plans for future TOEFL study.

担当者から一言
Homework is assigned each week and characteristically consists of TOEFL reading or listening sections. The TOEFL-iBT is a challenging test, and this course involves a relatively heavy workload.

講義名	Advanced Academic English II							担当教員	John Rippey
講義コード	1120705	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG404,137PEN210								

授業概要

This course introduces students to the TOEFL iBT (Internet-based test) and provides the opportunity to prepare for that test through practice exercises, both receptive and productive. Through the course, students become familiar with the structure and content of the TOEFL iBT. Students also do significant amounts of academic reading, listening, speaking, and writing. The coursework also further prepares students for the TOEFL ITP (paper-based test). The aims of the course are to strengthen academic English abilities and raise individual TOEFL scores.

到達目標

(1) Students increase their knowledge of and their working familiarity with the content and characteristics (skills, topics, vocabulary, grammar, question types) of the TOEFL iBT test.
(2) Students strengthen their performance on TOEFL iBT style exam questions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	Achievement of learning goal (2) is measured by performance on a final achievement (review) exam.
レポート課題		
上記以外	50%	Achievement of learning goal (1) is measured by performance on weekly quizzes on homework assignments.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Longman Preparation Course for the TOEFL iBT Test	Deborah Phillips	Pearson Longman	978-0-13-324812-8
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Advanced Academic English II							担当教員	John Rippey
講義コード	1120705	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG404,137PEN210								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction, Strategies for Reading	Overview of the TOEFL-iBT test, study strategies, and course materials.
第2回	Stategies for the Listening Section	Homework reading review, overview and practice of listening section.
第3回	Strategies for the Speaking Section	Homework listening review, overview and practice of speaking section.
第4回	Strategies for the Writing Section	Homework reading review, overview and practice of writing section.
第5回	Structuring the Independent Speaking Task	Homework listening review, independent speaking task exercises
第6回	Structuring the Integrated Writing Task	Homework reading review, integrated writing task (read, listen, then write) exercises
第7回	Structuring the Integrated Speaking Task	Homework listening review, integrated speaking task (read, listen, then speak) exercises
第8回	Structuring the Independent Writing Task	Homework reading review, independent writing task exercises
第9回	Structuring the Integrated Speaking Task	Homework listening review, integrated speaking task (listen then speak) exercises
第10回	Strengthening Integrated Writing Ability	Homework reading review, integrated writing task (read, listen, then speak) exercises
第11回	Strengthening Speaking Ability	Homework listening review, independent and integrated speaking task exercises
第12回	Strengthening Writing Ability	Homework reading review, integrated and independent writing task exercises
第13回	Polishing Speaking and Writing Skills	Homework listening review, speaking and writing section practice
第14回	Review	Overview of all coursework and preview of the final examination.
第15回	Plans of Study	Consultation and generation of individual plans for future TOEFL study.

担当者から一言
Homework is assigned each week and characteristically consists of TOEFL reading or listening sections. The TOEFL-iBT is a challenging test, and this course involves a relatively heavy workload.

講義名	English for Business							担当教員	Fuisting Bjorn※
講義コード	1120715	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG405,237PEN308								

授業概要

In this course the emphasis is on communication in business situations. Students will develop their oral and communication skills. They will learn the some key business skills such as introduction, business presentations and discussing graphs.

By the end of this course you should be able to:
-be comfortable meeting business partners
-be able to make bookings and requests
-be able to discuss graphs
-be able to make a short business presentation

到達目標

This is a 3 day Business English course and the focus will be on communication and pair/group work.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	Attendance & active participation: 40% Quizzes & homework: 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Handouts will be provided.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	English for Business							担当教員	Fuisting Bjorn※
講義コード	1120715	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	301ENG405,237PEN308								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Class 1	Introductions and small talk
第2回	Class 2	Making bookings and requests
第3回	Class 3	Business emails
第4回	Class 4	Introduction to business presentations
第5回	Class 5	Discussing graphs and charts
第6回	Class 6	Presentation outlines and slides
第7回	Class 7	Presentation practice and peer feedback
第8回	Class 8	Business Presentations

担当者から一言

講義名	メディアの英語/							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120720	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、生きた英語４技能の総合的な向上を目指す。特に発音とリハーサルに力を入れる。そして、アメリカの歴史を学ぶとともに、楽しみながらコミュニケーション力を身につける。Gone With The Wind 風と共に去りぬ（1939）の脚本を一緒に音読し、映画を見る。テーマについて議論する。前の週の内容の要点をまとめる。学生が選んだシーンを演じ、毎週のシーンのコメントを書いて、エッセイとして作成する。完成したエッセイを教師にメールで送る。宝塚劇場のミュージカル、フランスのミュージカル、アメリカのテレビ・パロディも参考にする。

到達目標

Students will be able to speak English with (1)good pronunciation, (2)fluency, (3)good delivery, and (4)grammatical accuracy.
Students will be able to write (5)grammatically correct (6)complex sentences and paragraphs (proficient use of a wide range of structures & stylistic devices), and (7)spell and punctuate accurately.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	Essay: 50%. Write your comments for the scenes studied in each class. Collect them into one essay. The teacher will check your essay in class and correct your errors and give you a grade.
上記以外	50	Performance: 50%. Students in pairs or small groups will perform a scene studied in class.

国際コミュニケーション学科:欠席が４回を超える場合は評価の対象としない

授業外学習

Practice and memorize the scene for performance (6 hours).
Write your comments for each class (9 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	風と共に去りぬ Gone With the Wind	豊泉暁子/Walter Klinger (編集)	フォーイン　スクリーンプレイ	978-489407-422-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Went with the Wind: The Carol Burnett Show ' s Parody of Gone with the Wind	Walter Klinger	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 No.15.	
2	Introduction to Screenplay ' s Gone with the Wind	Walter Klinger	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 No. 14	
3				

前提学力等

履修資格

講義名	メディアの英語/							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120720	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Love of the Land	ガイダンス。授業の概要、成績評価の方法について。映画の「Love of the Land (土地への愛情)」の朗読、視聴。コメントを書く
第2回	Twelve Oaks	先週の復習。Twelve Oaks (トゥエルヴ･オークス)の朗読、視聴、コメントを書く
第3回	Young Widow	Young Widow (若い未亡人)の朗読、視聴、コメントを書く
第4回	When the war is over	When the war is over (戦争が終わったら)の朗読、視聴、コメントを書く
第5回	Panic in Atlanta	Panic in Atlanta (大混乱のアトランタ)の朗読、視聴、コメントを書く
第6回	Going Home	Going Home (故郷に帰る)の朗読、視聴、コメントを書く
第7回	Yankee Deserter	Yankee Deserter (北軍の脱走兵) の朗読、視聴、コメントを書く
第8回	Ashley Returns	Ashley Returns (アシュレーの帰還)の朗読、視聴、コメントを書く
第9回	Shantytown Attack	Shantytown Attack (貧民街の襲撃) の朗読、視聴、コメントを書く
第10回	Marriage to Rhett	Marriage to Rhett (レットとの結婚) & Tomorrow Is Another Day (明日はまた新しい日) の朗読、視聴、コメントを書く
第11回	Went with the Wind	参考エッセイを朗読、テレビ・パロディを視聴。演技のためのシーンの選択
第12回	Rehearsal	ペア又はグループで選択したシーンのリハーサル
第13回	Performance	ひとつのグループが演技をし、他の学生が評価をする
第14回	Commentary	Part 1のエッセイを作成し、教師に見せる。宝塚劇場のミュージカルの視聴
第15回	Commentary	Part 2のエッセイを作成し、教師に見せる。宝塚劇場のミュージカルの視聴

担当者から一言

講義名	English in Media							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120725	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG305,337LAC208								

授業概要

この授業では、生きた英語４技能の総合的な向上を目指す。特に発音とリハーサルに力を入れる。そして、アメリカの歴史を学ぶとともに、楽しみながらコミュニケーション力を身につける。Gone With The Wind 風と共に去りぬ（1939）の脚本を一緒に音読し、映画を見る。テーマについて議論する。前の週の内容の要点をまとめる。学生が選んだシーンを演じ、毎週のシーンのコメントを書いて、エッセイとして作成する。完成したエッセイを教師にメールで送る。宝塚劇場のミュージカル、フランスのミュージカル、アメリカのテレビ・パロディも参考にする。

到達目標

Students will be able to speak English with (1)good pronunciation, (2)fluency, (3)good delivery, and (4)grammatical accuracy.
Students will be able to write (5)grammatically correct (6)complex sentences and paragraphs (proficient use of a wide range of structures & stylistic devices), and (7)spell and punctuate accurately.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	Essay: 50%. Write your comments for the scenes studied in each class. Collect them into one essay. The teacher will check your essay in class and correct your errors and give you a grade.
上記以外	50	Performance: 50%. Students in pairs or small groups will perform a scene studied in class.

国際コミュニケーション学科:欠席が４回を超える場合は評価の対象としない

授業外学習

Practice and memorize the scene for performance (6 hours).
Write your comments for each class (9 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	風と共に去りぬ Gone With the Wind	豊泉暁子/Walter Klinger (編集)	フォーイン　スクリーンプレイ	978-489407-422-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Went with the Wind: The Carol Burnett Show ' s Parody of Gone with the Wind	Walter Klinger	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 No.15.	
2	Introduction to Screenplay ' s Gone with the Wind	Walter Klinger	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要 No. 14	
3				

前提学力等

履修資格

講義名	English in Media							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120725	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	301ENG305,337LAC208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Love of the Land	ガイダンス。授業の概要、成績評価の方法について。映画の「Love of the Land (土地への愛情)」の朗読、視聴。コメントを書く
第2回	Twelve Oaks	先週の復習。Twelve Oaks (トゥエルヴ･オークス)の朗読、視聴、コメントを書く
第3回	Young Widow	Young Widow (若い未亡人)の朗読、視聴、コメントを書く
第4回	When the war is over	When the war is over (戦争が終わったら)の朗読、視聴、コメントを書く
第5回	Panic in Atlanta	Panic in Atlanta (大混乱のアトランタ)の朗読、視聴、コメントを書く
第6回	Going Home	Going Home (故郷に帰る)の朗読、視聴、コメントを書く
第7回	Yankee Deserter	Yankee Deserter (北軍の脱走兵) の朗読、視聴、コメントを書く
第8回	Ashley Returns	Ashley Returns (アシュレーの帰還)の朗読、視聴、コメントを書く
第9回	Shantytown Attack	Shantytown Attack (貧民街の襲撃) の朗読、視聴、コメントを書く
第10回	Marriage to Rhett	Marriage to Rhett (レットとの結婚) & Tomorrow Is Another Day (明日はまた新しい日) の朗読、視聴、コメントを書く
第11回	Went with the Wind	参考エッセイを朗読、テレビ・パロディを視聴。演技のためのシーンの選択
第12回	Rehearsal	ペア又はグループで選択したシーンのリハーサル
第13回	Performance	ひとつのグループが演技をし、他の学生が評価をする
第14回	Commentary	Part 1のエッセイを作成し、教師に見せる。宝塚劇場のミュージカルの視聴
第15回	Commentary	Part 2のエッセイを作成し、教師に見せる。宝塚劇場のミュージカルの視聴

担当者から一言

講義名	実用英語演習ＩＡ①（火1限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120730	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

本授業では、英語４技能を統合的に学習し、実践的コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげます。また、英語でプレゼンテーションできる力も育成します。

到達目標

（１）リスニング力を向上させる。
（２）読解力を向上させる。
（３）語彙力や文法力を向上させる。
（４）英語でプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）（２）（３）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（２）（３）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（４）について、２回のプレゼンテーションで40%として評価する。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough Japan	JoAnn Parochetti他	南雲堂	978-4-523-1756-9
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA①（火1限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120730	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1. EXILE HIRO	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第3回	Chapter 2. Ebizo Ichikawa	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第4回	Chapter 3. 400m Relay Silver Medal	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第5回	Chapter 4. The Kimono	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第6回	Chapter 5. The Sanriku Railway	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第7回	Chapter 6. Local Issures	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第8回	プレゼンテーション（1）	Chapter 1からChapter ６の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。
第9回	Chapter 7. Digital Manga	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第10回	Chapter 8. Stock Investment	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第11回	Chapter 9. Japan House	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第12回	Chapter 10. Meat Types	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第13回	Chapter 11. Function Foods	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第14回	Chapter 12. Sake	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第15回	プレゼンテーション（2）	Chapter 7からChapter 12の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。

担当者から一言

講義名	実用英語演習ＩＡ②（火1限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120731	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

この授業では、TOEICで高得点を獲得することを目指し、TOEIC形式の問題演習を行います。また、English presentation skills のテキストを併用することで、speakingやwritingを含めた全般的な英語力の向上を図ります。英語を使ってコミュニケーションすることに慣れ、自信を高めていってください。

到達目標

（１）TOEIC形式の問題演習によって、リーディングとリスニングの力を向上させる。
（２）多聴課題によって、英語の音とリズムに慣れる。
（３）クラス内でのアクティビティーにより、ライティングとスピーキングの力を向上させる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（１）について、テストで評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（１）（３）について、授業への参加度（10%）で評価する。 到達目標（２）について、提出物によって評価する（20%）。 到達目標（３）について、２回のプレゼンテーションによって評価する（40%）。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を実際に使う活動に各自で積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション	杉橋朝子、Mark Christianson、大畑甲太	朝日出版社	9784255155661
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9784023315686
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＡ②（火1限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120731	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション TOEIC preview test	自己紹介、授業の進め方・評価方法の説明
第2回	Unit 1 Getting Started	問題演習、English activities
第3回	Unit 2 Voice	問題演習、English activities
第4回	Unit 3 Gestures	問題演習、English activities
第5回	Unit 4 Q&A Skills	問題演習、English activities
第6回	Unit 5 Visuals	問題演習、English activities
第7回	Unit 6 Rehearsals	問題演習、English activities
第8回	Unit 7 On Stage	問題演習、English activities
第9回	Reviews on presentation	問題演習、English activities
第10回	Extra Skill Unit II Using Data and Graphs	問題演習、English activities
第11回	Extra Skill Unit III Speaking More Fluently	問題演習、English activities
第12回	In-class presentation practice	問題演習、English activities
第13回	Presentation rehearsals	問題演習、English activities
第14回	Presentation	問題演習、English activities
第15回	まとめ	問題演習、English activities

担当者から一言
TOEICのスコア向上は、英語力向上という大きな目標に向かうためのルートの１つです。みなさんがそれぞれに到達したいと思っている英語力をめざして、一緒にがんばりましょう。

講義名	実用英語演習ＩＡ③（火2限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120732	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

本授業では、英語４技能を統合的に学習し、実践的コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげます。また、英語でプレゼンテーションできる力も育成します。

到達目標

（１）リスニング力を向上させる。
（２）読解力を向上させる。
（３）語彙力や文法力を向上させる。
（４）英語でプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）（２）（３）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（２）（３）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（４）について、２回のプレゼンテーションで40%として評価する。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough Japan	JoAnn Parochetti他	南雲堂	978-4-523-1756-9
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA③（火2限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120732	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1. EXILE HIRO	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第3回	Chapter 2. Ebizo Ichikawa	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第4回	Chapter 3. 400m Relay Silver Medal	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第5回	Chapter 4. The Kimono	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第6回	Chapter 5. The Sanriku Railway	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第7回	Chapter 6. Local Issures	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第8回	プレゼンテーション（1）	Chapter 1からChapter ６の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。
第9回	Chapter 7. Digital Manga	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第10回	Chapter 8. Stock Investment	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第11回	Chapter 9. Japan House	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第12回	Chapter 10. Meat Types	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第13回	Chapter 11. Function Foods	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第14回	Chapter 12. Sake	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第15回	プレゼンテーション（2）	Chapter ７からのChapter １１の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。

担当者から一言

講義名	実用英語演習ＩＡ④（火2限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120733	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

この授業では、TOEICの形式に慣れ、特にリーディング・セクション対策として、着実な語彙力の増強と語法の理解を深めることにより、TOEICのスコアアップを実現する力を養成する。TOEIC特有の語彙や問題形式、解き方のポイントを学びながら、毎回の小テストにより、知識の定着を図る。また、積極的な音読活動を取り入れ、リスニング力の養成にも繋げていきく。さらに、問題を解きながら英語圏の文化や社会に触れ、それらに関する知識と理解を深める。

到達目標

(1) TOEICの形式と特徴を理解し、問題に慣れ、積極的な学習姿勢を確立する。
(2) TOEICに頻出の語彙の増強と定着を図る。
(3) TOEICで不可欠な文法・構文等を学び、実践問題で実力を定着させる。
(4)英語圏の社会と文化について学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	(3),(4)に関しては、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	(1),(2)に関しては、小テスト(20%)と授業態度(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

各自でテキストとは別に、単語帳やリスニング教材を購入し、授業外で継続的に取り組むことを勧める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading and Vocabulary Training For the TOEIC TEST	古家聡ほか	三修社	978-4-384-33453-1C1082
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA④（火2限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120733	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/ TOEIC試験について/授業の進め方等の説明
第2回	Unit 1 文法編(品詞)/読解編(ビジネスレター)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第3回	Unit 2 文法編(動詞の形1)/読解編(告知)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第4回	Unit 3 文法編(動詞の形2)/読解編(広告)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第5回	Unit 4 文法編(不定詞・動名詞)/読解編(記事・報告書)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第6回	Unit 5 文法編(使役動詞)/読解編(表・グラフ1)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第7回	Unit 6 文法編(仮定法)/読解編(表・グラフ2)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第8回	まとめと復習①	前半内容のまとめと復習
第9回	Unit 7文法編(関係詞)/読解編(Double Passages1)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第10回	Unit 8文法編(比較)/読解編(Double Passages2)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第11回	Unit 9 文法編(注意すべき副詞)/読解編(Double Passages3)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第12回	Unit 10文法編(前置詞)/読解編(Double Passages4)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第13回	Unit 11 文法編(接続詞)/読解編(Double Passages5)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第14回	Unit 12文法編(代名詞)/読解編(Double Passages6)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第15回	まとめと復習②	後半内容のまとめと復習

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	実用英語演習ＩＡ⑤（火2限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120734	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

この授業では、TOEICで高得点を獲得することを目指し、TOEIC形式の問題演習を行います。また、English presentation skills のテキストを併用することで、speakingやwritingを含めた全般的な英語力の向上を図ります。英語を使ってコミュニケーションすることに慣れ、自信を高めていってください。

到達目標

（１）TOEIC形式の問題演習によって、リーディングとリスニングの力を向上させる。
（２）多聴課題によって、英語の音とリズムに慣れる。
（３）クラス内でのアクティビティーにより、ライティングとスピーキングの力を向上させる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（１）について、テストで評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（１）（３）について、授業への参加度（10%）で評価する。 到達目標（２）について、提出物によって評価する（20%）。 到達目標（３）について、２回のプレゼンテーションによって評価する（40%）。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を実際に使う活動に各自で積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション	杉橋朝子、Mark Christianson、大畑甲太	朝日出版社	9784255155661
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9784023315686
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA⑤（火2限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120734	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション TOEIC preview test	自己紹介、授業の進め方・評価方法の説明
第2回	Unit 1 Getting Started	問題演習、English activities
第3回	Unit 2 Voice	問題演習、English activities
第4回	Unit 3 Gestures	問題演習、English activities
第5回	Unit 4 Q&A Skills	問題演習、English activities
第6回	Unit 5 Visuals	問題演習、English activities
第7回	Unit 6 Rehearsals	問題演習、English activities
第8回	Unit 7 On Stage	問題演習、English activities
第9回	Reviews on presentation	問題演習、English activities
第10回	Extra Skill Unit II Using Data and Graphs	問題演習、English activities
第11回	Extra Skill Unit III Speaking More Fluently	問題演習、English activities
第12回	In-class presentation practice	問題演習、English activities
第13回	Presentation rehearsals	問題演習、English activities
第14回	Presentation	問題演習、English activities
第15回	まとめ	問題演習、English activities

担当者から一言
TOEICのスコア向上は、英語力向上という大きな目標に向かうためのルートの１つです。みなさんがそれぞれに到達したいと思っている英語力をめざして、一緒にがんばりましょう。

講義名	実用英語演習ⅠA⑥（火2限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120735	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

This class is an introduction to persuasive writing. Students will learn what persuasive writing is and write on a variety of topics. We will also do pre- and post-writing activities like word maps, outlines, and peer review. Students will also give presentation on some of the writing topics from this class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	Three persuasive writing topics.
レポート課題	40	Pecha kucha presentations.
上記以外	30	Pecha kucha speech papers.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA⑥（火2限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120735	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Overview of syllabus, syllabus quiz, getting to know other students, what is persuasive writing?
第2回	Week 2	Persuasive writing topic 1 is introduced.
第3回	Week 3	Peer review of writing topic 1; reflection of peer review; what is a pecha kucha?
第4回	Week 4	Pecha kucha preparation.
第5回	Week 5	Pronunciation practice.
第6回	Week 6	Pecha kucha presentations.
第7回	Week 7	Persuasive writing topic 2 is introduced.
第8回	Week 8	Peer review of writing topic 2; reflection of peer review.
第9回	Week 9	Pecha kucha preparation.
第10回	Week 10	Pronunciation practice.
第11回	Week 11	Pecha kucha presentations.
第12回	Week 12	Persuasive writing topic 3 is introduced.
第13回	Week 13	Peer review of writing topic 3; reflection of peer review.
第14回	Week 14	Pecha kucha preparation.
第15回	Week 15	Pecha kucha presentation.

担当者から一言

Reading aloud is one of the best ways to improve your writing. Don't be shy!
A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet or other students. Students

講義名	実用英語演習ⅠA⑦（火3限）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120736	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

This class will help students use English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and making things happen.

The 15-week course will use a variety of real-life multimedia, for example, movies. Activities for weeks 3 to 15 will be designed to reflect responses to the survey, group exercise and follow-up activity in weeks 1 and 2.

到達目標

Students will be more effective at using English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and making things happen.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	The teacher will have a 5-minute, 1-to-1 meeting with each student. The student will be given 3 minutes to talk about the most interesting thing (or things) he or she learned on this course. This will be followed by a short discussion.
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Listening (3 hours)
Speaking (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The teacher will provide materials (including internet links for homework) each week

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

該当なし。

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA⑦（火3限）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120736	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	About you (1)	About you, and your aims for this course (survey and group exercise)
第2回	About you (2)	About you, and your aims for this course (follow-up activity)
第3回	Listening (1)	Practical English listening skills
第4回	Speaking (1)	Practical English speaking skills
第5回	Reading (1)	Practical English reading skills
第6回	Writing (1)	Practical English writing skills
第7回	Problem solving (1)	Practical English problem-solving skills
第8回	Review (1)	Review and feedback
第9回	Listening (2)	Practical English listening skills
第10回	Speaking (2)	Practical English speaking skills
第11回	Reading (2)	Practical English reading skills
第12回	Writing (2)	Practical English writing skills
第13回	Problem solving (2)	Practical English problem-solving skills
第14回	Review (2)	Review, feedback, and ways to continue to develop your English skills in the future
第15回	Test	Speaking test

担当者から一言

講義名	実用英語演習ⅠA⑧（火3限）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120737	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

We read aloud the scenario dialogue of the movie The Wizard of Oz オズの魔法使 (1939) and watch the scenes. Students write in missing words into a handout of the dialogue script. Students in pairs will perform one page of the script.

到達目標

Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be (4) grammatically correct.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	Oral Presentation 100%　(Teacher's evaluation: Objectives 1,2,3,4. Each 25%)

Evaluation criteria 評価基準:
Pronunciation 発音 (especially "l" and "th")
Fluency 流ちょうさ （ためらう無し）

授業外学習

(１週間に約１時間) Read the scenario script and pay attention to the sentence structures and spelling. Practice your Oral Presentation.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

handouts

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠA⑧（火3限）							担当教員	Walter Klinger
講義コード	1120737	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Home in Kansas	Course outline and grading information. Movie Scenes: Home in Kansas – Professor Marvel.
第2回	Munchkinland	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: The Tornado - Munchkinland.
第3回	Scarecrow-Tin Man	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: Munchkinland - Tin Man.
第4回	Lion-Poppies	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: Tin Man - Poppies.
第5回	The Wizard	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: Emerald City – The Wizard.
第6回	Witch's Castle	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: The Wizard - Witch's Castle.
第7回	The Promises	Summary of last week's scenes. Movie Scenes Witch's Castle - The Promises.
第8回	No Place Like Home	Summary of last week's scenes. Movie Scenes: The Balloon - No Place Like Home.
第9回	Choose a section.	Two students together study about three columns of the script, reading aloud together.
第10回	Read aloud.	Continue practicing your dialogue. Teacher corrects pronunciation errors.
第11回	Read aloud.	Oral Presentation. Read aloud to the teacher.
第12回	Read aloud.	Oral Presentation continued.
第13回	Scene 1	Read the script and watch the scenes of another movie.
第14回	Scene 2	Continue reading the script and watching the scenes.
第15回	Scene 3	Continue reading the script and watching the scenes.

担当者から一言

講義名	実用英語演習ＩＡ⑨（火3限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120738	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

この授業では、TOEICの形式に慣れ、特にリーディング・セクション対策として、着実な語彙力の増強と語法の理解を深めることにより、TOEICのスコアアップを実現する力を養成する。TOEIC特有の語彙や問題形式、解き方のポイントを学びながら、毎回の小テストにより、知識の定着を図る。また、積極的な音読活動を取り入れ、リスニング力の養成にも繋げていきく。さらに、問題を解きながら英語圏の文化や社会に触れ、それらに関する知識と理解を深める。

到達目標

(1) TOEICの形式と特徴を理解し、問題に慣れ、積極的な学習姿勢を確立する。
(2) TOEICに頻出の語彙の増強と定着を図る。
(3) TOEICで不可欠な文法・構文等を学び、実践問題で実力を定着させる。
(4)英語圏の社会と文化について学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	(3),(4)に関しては、期末試験で評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	(1),(2)に関しては、小テスト(20%)と授業態度(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

各自でテキストとは別に、単語帳やリスニング教材を購入し、授業外で継続的に取り組むことを勧める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading and Vocabulary Training For the TOEIC TEST	古家聡ほか	三修社	978-4-384-33453-1C1082
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＡ⑨（火3限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120738	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/ TOEIC試験について/授業の進め方等の説明
第2回	Unit 1 文法編(品詞)/読解編(ビジネスレター)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第3回	Unit 2 文法編(動詞の形1)/読解編(告知)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第4回	Unit 3 文法編(動詞の形2)/読解編(広告)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第5回	Unit 4 文法編(不定詞・動名詞)/読解編(記事・報告書)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第6回	Unit 5 文法編(使役動詞)/読解編(表・グラフ1)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第7回	Unit 6 文法編(仮定法)/読解編(表・グラフ2)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第8回	まとめと復習①	前半内容のまとめと復習
第9回	Unit 7文法編(関係詞)/読解編(Double Passages1)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第10回	Unit 8文法編(比較)/読解編(Double Passages2)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第11回	Unit 9 文法編(注意すべき副詞)/読解編(Double Passages3)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第12回	Unit 10文法編(前置詞)/読解編(Double Passages4)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第13回	Unit 11 文法編(接続詞)/読解編(Double Passages5)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第14回	Unit 12文法編(代名詞)/読解編(Double Passages6)	小テスト、TOEIC文法・読解問題の解説と演習
第15回	まとめと復習②	後半内容のまとめと復習

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	実用英語演習ⅠA⑩（火3限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120739	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業概要

This class is an introduction to persuasive writing. Students will learn what persuasive writing is and write on a variety of topics. We will also do pre- and post-writing activities like word maps, outlines, and peer review. Students will also give presentation on some of the writing topics from this class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	Three persuasive writing topics.
レポート課題	40	Pecha kucha presentations.
上記以外	30	Pecha kucha speech papers.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＡ⑩（火3限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120739	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Overview of syllabus, syllabus quiz, getting to know other students, what is persuasive writing?
第2回	Week 2	Persuasive writing topic 1 is introduced.
第3回	Week 3	Peer review of writing topic 1; reflection of peer review; what is a pecha kucha?
第4回	Week 4	Pecha kucha preparation.
第5回	Week 5	Pronunciation practice.
第6回	Week 6	Pecha kucha presentations.
第7回	Week 7	Persuasive writing topic 2 is introduced.
第8回	Week 8	Peer review of writing topic 2; reflection of peer review.
第9回	Week 9	Pecha kucha preparation.
第10回	Week 10	Pronunciation practice.
第11回	Week 11	Pecha kucha presentations.
第12回	Week 12	Persuasive writing topic 3 is introduced.
第13回	Week 13	Peer review of writing topic 3; reflection of peer review.
第14回	Week 14	Pecha kucha preparation.
第15回	Week 15	Pecha kucha presentation.

担当者から一言

Reading aloud is one of the best ways to improve your writing. Don't be shy!
A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet or other students. Students

講義名	実用英語演習ＩＢ①（火1限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120740	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

この授業では、TOEICで高得点を獲得することを目指し、TOEIC形式の問題演習を行います。また、English presentation skills のテキストを併用することで、speakingやwritingを含めた全般的な英語力の向上を図ります。英語を使ってコミュニケーションすることに慣れ、自信を高めていってください。

到達目標

（１）TOEIC形式の問題演習によって、リーディングとリスニングの力を向上させる。
（２）多読用の易しい英語を多く読むことによって、英語を英語のまま理解できるようになる。
（３）クラス内でのアクティビティーにより、ライティングとスピーキングの力を向上させる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（１）について、テストで評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（１）（３）について、授業への参加度（10%）で評価する。 到達目標（２）について、提出物によって評価する（20%）。 到達目標（３）について、２回のプレゼンテーションによって評価する（40%）。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を実際に使う活動に各自で積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション	杉橋朝子、Mark Christianson、大畑甲太	朝日出版社	9784255155661
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9784023315686
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ①（火1限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120740	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション TOEIC preview test	自己紹介、授業の進め方・評価方法の説明
第2回	Unit 1 Getting Started	問題演習、English activities
第3回	Unit 2 Voice	問題演習、English activities
第4回	Unit 3 Gestures	問題演習、English activities
第5回	Unit 4 Q&A Skills	問題演習、English activities
第6回	Unit 5 Visuals	問題演習、English activities
第7回	Unit 6 Rehearsals	問題演習、English activities
第8回	Unit 7 On Stage	問題演習、English activities
第9回	Reviews on presentation	問題演習、English activities
第10回	Extra Skill Unit II Using Data and Graphs	問題演習、English activities
第11回	Extra Skill Unit III Speaking More Fluently	問題演習、English activities
第12回	In-class presentation practice	問題演習、English activities
第13回	Presentation rehearsals	問題演習、English activities
第14回	Presentation	問題演習、English activities
第15回	まとめ	問題演習、English activities

担当者から一言
TOEICのスコア向上は、英語力向上という大きな目標に向かうためのルートの１つです。みなさんがそれぞれに到達したいと思っている英語力をめざして、一緒にがんばりましょう。

講義名	実用英語演習ⅠB②（火1限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120741	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

本授業では、英語４技能を統合的に学習し、実践的コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげます。また、英語でプレゼンテーションできる力も育成します。

到達目標

（１）リスニング力を向上させる。
（２）読解力を向上させる。
（３）語彙力や文法力を向上させる。
（４）英語でプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）（２）（３）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（２）（３）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（４）について、２回のプレゼンテーションで40%として評価する。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough Japan	JoAnn Parochetti他	南雲堂	978-4-523-1756-9
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ②（火1限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120741	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1. EXILE HIRO	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第3回	Chapter 2. Ebizo Ichikawa	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第4回	Chapter 3. 400m Relay Silver Medal	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第5回	Chapter 4. The Kimono	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第6回	Chapter 5. The Sanriku Railway	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第7回	Chapter 6. Local Issures	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第8回	プレゼンテーション（1）	Chapter 1からChapter ６の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。
第9回	Chapter 7. Digital Manga	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第10回	Chapter 8. Stock Investment	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第11回	Chapter 9. Japan House	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第12回	Chapter 10. Meat Types	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第13回	Chapter 11. Function Foods	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第14回	Chapter 12. Sake	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第15回	プレゼンテーション（2）	Chapter ７からのChapter １１の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。

担当者から一言

講義名	実用英語演習ＩＢ③（火2限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

この授業では、TOEICで高得点を獲得することを目指し、TOEIC形式の問題演習を行います。また、English presentation skills のテキストを併用することで、speakingやwritingを含めた全般的な英語力の向上を図ります。英語を使ってコミュニケーションすることに慣れ、自信を高めていってください。

到達目標

（１）TOEIC形式の問題演習によって、リーディングとリスニングの力を向上させる。
（２）多読用の易しい英語を多く読むことによって、英語を英語のまま理解できるようになる。
（３）クラス内でのアクティビティーにより、ライティングとスピーキングの力を向上させる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（１）について、テストで評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（１）（３）について、授業への参加度（10%）で評価する。 到達目標（２）について、提出物によって評価する（20%）。 到達目標（３）について、２回のプレゼンテーションによって評価する（40%）。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を実際に使う活動に各自で積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	基礎から学ぶ英語プレゼンテーション	杉橋朝子、Mark Christianson、大畑甲太	朝日出版社	9784255155661
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9784023315686
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ③（火2限）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1120742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション TOEIC preview test	自己紹介、授業の進め方・評価方法の説明
第2回	Unit 1 Getting Started	問題演習、English activities
第3回	Unit 2 Voice	問題演習、English activities
第4回	Unit 3 Gestures	問題演習、English activities
第5回	Unit 4 Q&A Skills	問題演習、English activities
第6回	Unit 5 Visuals	問題演習、English activities
第7回	Unit 6 Rehearsals	問題演習、English activities
第8回	Unit 7 On Stage	問題演習、English activities
第9回	Reviews on presentation	問題演習、English activities
第10回	Extra Skill Unit II Using Data and Graphs	問題演習、English activities
第11回	Extra Skill Unit III Speaking More Fluently	問題演習、English activities
第12回	In-class presentation practice	問題演習、English activities
第13回	Presentation rehearsals	問題演習、English activities
第14回	Presentation	問題演習、English activities
第15回	まとめ	問題演習、English activities

担当者から一言
TOEICのスコア向上は、英語力向上という大きな目標に向かうためのルートの１つです。みなさんがそれぞれに到達したいと思っている英語力をめざして、一緒にがんばりましょう。

講義名	実用英語演習ⅠB④（火2限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120743	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

This speaking and writing class introduces the four main types of writing: expository, persuasive, narrative, and descriptive. Students learn about the qualities of each type of writing, and engage in pre-writing activities, such as oral discussion and brainstorming, as well as post-writing activities, like peer review and editing.

Students show their portfolio of 4 writings to the teacher.

Students plan and present a short Powerpoint presentation about their major course of study at USP to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Presentations – 10% each, in weeks 3, 6, 9, and 12 (40% total). Students will present their writing in front of the class. Students will be graded on the speaking and writing rubrics.
レポート課題	30	Final presentation - Using PowerPoint, students will do a presentation on their course of study at the University of Shiga Prefecture. Students will be graded according to writing and speaking rubrics. Students must incorporate each of the 4 writing styles into their presentation. Due week 15.
上記以外	30	Portfolio - Make a portfolio of 4 essays (1 from each type of writing). Essays will be collected, corrected, and returned. Correct these essays according to teacher comments. Grading is according to the writing rubric. Due in week 14.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ④（火2限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120743	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course introduction	Class introduction, syllabus overview, warm-up activities.
第2回	What is expository writing?	Introduction to expository writing, in-class writing.
第3回	Expository writing (continued)	Expository writing presentations.
第4回	Expository writing (continued)	Peer response to expository writing.
第5回	What is narrative writing?	Introduction to narrative writing, in-class writing.
第6回	Narrative writing (continued)	Narrative writing presentation.
第7回	Narrative writing (continued)	Peer response to narrative writing.
第8回	What is descriptive writing?	Introduction to descriptive writing, in-class writing.
第9回	Descriptive writing (continued)	Descriptive writing presentations.
第10回	Descriptive writing (continued)	Peer response to descriptive writing.
第11回	What is persuasive writing?	Introduction to persuasive writing, in-class writing.
第12回	Persuasive writing (continued)	Persuasive writing presentations.
第13回	Persuasive writing (continued)	Peer response to persuasive writing.
第14回	Final presentation prep	Final presentation preparation, portfolio due.
第15回	Final presentations	Final presentations, portfolio returned.

担当者から一言

Reading aloud is one of the best ways to improve your writing. Don't be shy!
A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet or other students. Students

講義名	実用英語演習ⅠB⑤（火2限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120744	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

本授業では、英語４技能を統合的に学習し、実践的コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげます。また、英語でプレゼンテーションできる力も育成します。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる。
（2）読解力を向上させる。
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）英語でプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（4）について、２回のプレゼンテーションで40%として評価する。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough Japan	JoAnn Parochetti他	南雲堂	978-4-523-1756-9
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ⑤（火2限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120744	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1. EXILE HIRO	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第3回	Chapter 2. Ebizo Ichikawa	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第4回	Chapter 3. 400m Relay Silver Medal	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第5回	Chapter 4. The Kimono	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第6回	Chapter 5. The Sanriku Railway	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第7回	Chapter 6. Local Issures	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第8回	プレゼンテーション（１）	Chapter １からChapter ６の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。
第9回	Chapter 7. Digital Manga	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第10回	Chapter 8. Stock Investment	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第11回	Chapter 9. Japan House	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第12回	Chapter 10. Meat Types	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第13回	Chapter 11. Function Foods	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第14回	Chapter 12. Sake	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第15回	プレゼンテーション（２）	Chapter 7からChapter 12の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。

担当者から一言

講義名	実用英語演習ⅠB⑥（火2限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120745	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

この授業では、語彙力増強を図るとともに、Reading, Listening, Writingの３技能の総合的実力向上を目指しながら、現代社会における万病のもとともいわれるストレスが一体いかなるものであるのかを理解し、それをコントロールするためのテクニックを学んでいきます。

到達目標

(1)一般に使用頻度の高い実用的な語彙力を増強する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付けるとともに、基本的な構文を使って和文英訳ができる。
(3)ストレスの原因とその対処法についての知識を深めるとともに、基本的な語彙を使って英文を理解し、表現することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)に関しては、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)に関しては、確認テストによって(20%)、到達目標(2)に関しては、授業中の活動に対する積極的な態度(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Beating Stress: Strategies for a Stress-free Lifestyle	Yoshiko Tabei, Michiko Inoue	朝日出版社	978-4-255-15422-0
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ⑥（火2限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120745	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit1: What Is Stress?	本文の内容理解と問題演習
第3回	Unit2: What Causes Stress?	本文の内容理解と問題演習
第4回	Unit3: What Is the Stress Response?	本文の内容理解と問題演習
第5回	Unit4: How Did We First Learn about the Bad Effect	本文の内容理解と問題演習
第6回	Unit5: How Are Bodily Systems Affected by Stress?	本文の内容理解と問題演習
第7回	Unit6: Unhealthy Stress: How Can We Resist It?	本文の内容理解と問題演習
第8回	まとめと復習テスト①	前半内容の復習とテスト
第9回	Unit7: Laugh	本文の内容理解と問題演習
第10回	Unit8: Get Rid of Anger	本文の内容理解と問題演習
第11回	Unit9: Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Li	本文の内容理解と問題演習
第12回	Unit10: Adapt Your Environment	本文の内容理解と問題演習
第13回	Unit11: Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfecti	本文の内容理解と問題演習
第14回	Unit12: Take Time Out for Meals	本文の内容理解と問題演習
第15回	まとめと復習テスト②	後半内容の復習とテスト

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	実用英語演習ⅠB⑦（火3限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120746	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

この授業では、語彙力増強を図るとともに、Reading, Listening, Writingの３技能の総合的実力向上を目指しながら、現代社会における万病のもとともいわれるストレスが一体いかなるものであるのかを理解し、それをコントロールするためのテクニックを学んでいきます。

到達目標

(1)一般に使用頻度の高い実用的な語彙力を増強する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付けるとともに、基本的な構文を使って和文英訳ができる。
(3)ストレスの原因とその対処法についての知識を深めるとともに、基本的な語彙を使って英文を理解し、表現することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)に関しては、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)に関しては、確認テストによって(20%)、到達目標(2)に関しては、授業中の活動に対する積極的な態度(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Beating Stress: Strategies for a Stress-free Lifestyle	Yoshiko Tabei, Michiko Inoue	朝日出版社	978-4-255-15422-0
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ⑦（火3限）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1120746	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit1: What Is Stress?	本文の内容理解と問題演習
第3回	Unit2: What Causes Stress?	本文の内容理解と問題演習
第4回	Unit3: What Is the Stress Response?	本文の内容理解と問題演習
第5回	Unit4: How Did We First Learn about the Bad Effect	本文の内容理解と問題演習
第6回	Unit5: How Are Bodily Systems Affected by Stress?	本文の内容理解と問題演習
第7回	Unit6: Unhealthy Stress: How Can We Resist It?	本文の内容理解と問題演習
第8回	まとめと復習テスト①	前半内容の復習とテスト
第9回	Unit7: Laugh	本文の内容理解と問題演習
第10回	Unit8: Get Rid of Anger	本文の内容理解と問題演習
第11回	Unit9: Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Li	本文の内容理解と問題演習
第12回	Unit10: Adapt Your Environment	本文の内容理解と問題演習
第13回	Unit11: Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfecti	本文の内容理解と問題演習
第14回	Unit12: Take Time Out for Meals	本文の内容理解と問題演習
第15回	まとめと復習テスト②	後半内容の復習とテスト

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	実用英語演習ⅠB⑧（火3限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120747	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

This speaking and writing class introduces the four main types of writing: expository, persuasive, narrative, and descriptive. Students learn about the qualities of each type of writing, and engage in pre-writing activities, such as oral discussion and brainstorming, as well as post-writing activities, like peer review and editing.

Students show their portfolio of 4 writings to the teacher.

Students plan and present a short Powerpoint presentation about their major course of study at USP to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Writing Presentations – 10% each, in weeks 3, 6, 9, and 12 (40% total). Students will present their writing in front of the class. Students will be graded on the speaking and writing rubrics.
レポート課題	30	Final presentation - Using PowerPoint, students will do a presentation on their course of study at the University of Shiga Prefecture. Students will be graded according to writing and speaking rubrics. Students must incorporate each of the 4 writing styles into their presentation. Due week 15.
上記以外	30	Portfolio - Make a portfolio of 4 essays (1 from each type of writing). Essays will be collected, corrected, and returned. Correct these essays according to teacher comments. Grading is according to the writing rubric. Due in week 14.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ⑧（火3限）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1120747	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course introduction	Class introduction, syllabus overview, warm-up activities.
第2回	What is expository writing?	Introduction to expository writing, in-class writing.
第3回	Expository writing (continued)	Expository writing presentations.
第4回	Expository writing (continued)	Peer response to expository writing.
第5回	What is narrative writing?	Introduction to narrative writing, in-class writing.
第6回	Narrative writing (continued)	Narrative writing presentation.
第7回	Narrative writing (continued)	Peer response to narrative writing.
第8回	What is descriptive writing?	Introduction to descriptive writing, in-class writing.
第9回	Descriptive writing (continued)	Descriptive writing presentations.
第10回	Descriptive writing (continued)	Peer response to descriptive writing.
第11回	What is persuasive writing?	Introduction to persuasive writing, in-class writing.
第12回	Persuasive writing (continued)	Persuasive writing presentations.
第13回	Persuasive writing (continued)	Peer response to persuasive writing.
第14回	Final presentation prep	Final presentation preparation, portfolio due.
第15回	Final presentations	Final presentations, portfolio returned.

担当者から一言
Reading aloud is one of the best ways to improve your writing. Don't be shy! A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet or other students. Students

講義名	実用英語演習ⅠB⑨（火3限）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120748	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

This class will help students use English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and making things happen.

The 15-week course will use a variety of real-life multimedia, for example, movies. Activities for weeks 3 to 15 will be designed to reflect responses to the survey, group exercise and follow-up activity in weeks 1 and 2.

到達目標

Students will be more effective at using English as a practical tool for working with others, sharing thoughts and ideas, and making things happen.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	The teacher will have a 5-minute, 1-to-1 meeting with each student. The student will be given 3 minutes to talk about the most interesting thing (or things) he or she learned on this course. This will be followed by a short discussion.
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

Listening (3 hours)
Speaking (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The teacher will provide materials (including internet links for homework) each week

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

該当なし。

履修資格

講義名	実用英語演習ⅠB⑨（火3限）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1120748	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	About you (1)	About you, and your aims for this course (survey and group exercise)
第2回	About you (2)	About you, and your aims for this course (follow-up activity)
第3回	Listening (1)	Practical English listening skills
第4回	Speaking (1)	Practical English speaking skills
第5回	Reading (1)	Practical English reading skills
第6回	Writing (1)	Practical English writing skills
第7回	Problem solving (1)	Practical English problem-solving skills
第8回	Review (1)	Review and feedback
第9回	Listening (2)	Practical English listening skills
第10回	Speaking (2)	Practical English speaking skills
第11回	Reading (2)	Practical English reading skills
第12回	Writing (2)	Practical English writing skills
第13回	Problem solving (2)	Practical English problem-solving skills
第14回	Review (2)	Review, feedback, and ways to continue to develop your English skills in the future
第15回	Test	Speaking test

担当者から一言

講義名	実用英語演習ⅠB⑩（火3限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120749	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業概要

本授業では、英語４技能を統合的に学習し、実践的コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげます。また、英語でプレゼンテーションできる力も育成します。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる。
（2）読解力を向上させる。
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）英語でプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（4）について、２回のプレゼンテーションで40%として評価する。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough Japan	JoAnn Parochetti他	南雲堂	978-4-523-1756-9
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	実用英語演習ＩＢ⑩（火3限）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1120749	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1. EXILE HIRO	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第3回	Chapter 2. Ebizo Ichikawa	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第4回	Chapter 3. 400m Relay Silver Medal	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第5回	Chapter 4. The Kimono	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第6回	Chapter 5. The Sanriku Railway	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第7回	Chapter 6. Local Issures	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第8回	プレゼンテーション（1）	Chapter 1からChapter ６の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。
第9回	Chapter 7. Digital Manga	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第10回	Chapter 8. Stock Investment	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第11回	Chapter 9. Japan House	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第12回	Chapter 10. Meat Types	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第13回	Chapter 11. Function Foods	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第14回	Chapter 12. Sake	リスニング、リーディング、問題演習、英語でのコミュニケーション活動。
第15回	プレゼンテーション（2）	Chapter 7からChapter １１の中からテーマを決め、ペアでプレゼンテーションをする。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（初級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG101								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課、文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課、文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課、文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課、文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課、文法と会話	４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課、文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課、文法と会話	５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課、文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課、文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG102								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課、文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課、文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課、文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課、文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課、文法と会話	４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課、文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課、文法と会話	５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課、文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課、文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初級）ＩＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120773	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG103								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）ＩＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120773	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課文法と会話	４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課 文法と会話	５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143

担当者から一言

講義名	日本語基礎（初級）ＩＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120774	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG104								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）ＩＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120774	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課文法と会話	４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課 文法と会話	５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初級）IIIA							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120775	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG105								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）IIIA							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120775	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課文法と会話	第４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課 文法と会話	第５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143

担当者から一言

講義名	日本語基礎（初級）IIIB							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120776	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG106								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心にひらがな、カタカナ、漢字を順に導入し、初級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 授業で学んだ日常生活の場面において意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
(2)非常に短い簡単なテクストを、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。
(3) 限られた日常生活の場面で簡単な方法でやり取りができる。ゆっくりとした繰り返し、言い換え、修正に全般的に頼ってコミュニケーションでき、質疑応答ができる。
(4) 簡単な表現や文を単独に書くことができる。人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
(5) ひらがな、カタカナの読み書きができるようになる。授業で学んだ初級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標１、２、４、５について筆記試験を行う。）
レポート課題		
上記以外	70	到達確認テスト試験30%（到達目標１、３について口頭試験を行う。） 宿題20%（各到達目標について復習問題等を課す。） 小テスト20%（各到達目標について復習小テスト、簡単な口頭試問を行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1440-3
2	げんき ワークブックI	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4-7890-1441-0
3				

便宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初級）IIIB							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120776	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』第１課、ひらがな	ひらがなと簡単な日常の挨拶等を学ぶ。テキストp．18-35，p.290-293
第3回	『げんきⅠ』第２課、発音	日本語の発音について学ぶ。自己紹介を練習する。（配布プリント）
第4回	プロジェクト、『げんきⅠ』第２課文法	買い物、レストランで必要となる簡単な表現を学ぶ。テキストp.62-66
第5回	プロジェクト、『げんきⅠ』第３課文法導入	勧誘の表現や助詞について学ぶ。テキストp.88-94
第6回	『げんきⅠ』第３課文法と会話、カタカナ	カタカナを学び、３課で学んだ表現を用いて会話練習を行う。テキストp．95-101，p.294-297
第7回	到達確認テスト、復習と解説	第３課までの確認テストを行う。
第8回	『げんきⅠ』第４課文法導入	動詞の過去形、存在動詞を学ぶ。テキストp.107-113
第9回	『げんきⅠ』第４課文法と会話	第４課の文法を使った練習をする。テキスト p.115-126
第10回	『げんきⅠ』第５課文法導入	形容詞の活用について学ぶ。テキスト p．132-136
第11回	『げんきⅠ』第５課文法と会話	第５課の文法を用いて会話練習を行う。テキスト p.137-143
第12回	『げんきⅠ』第６課文法導入	て形の導入を行い、それを使った表現を学ぶ。テキスト　p.150-154
第13回	『げんきⅠ』第６課文法と会話	て形の復習と応用練習を行う。テキスト p.156-165
第14回	復習、まとめ　第１課～第４課	第１課～第４課までのまとめ練習を行う。テキスト p.42-126
第15回	復習、まとめ　第５課～第６課、総まとめ	第５課～第６課までのまとめ練習を行う。テキスト p.132-143

担当者から一言

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120777	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG107								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120777	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG107								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第７課文法導入	て形を用いた文法などを学ぶ。テキストp.170 ～ p.175
第3回	『げんきⅠ』 第７課文法と会話	家族について話す練習を行う。テキストp.176 ～ p.183
第4回	『げんきⅠ』 第８課文法導入	動詞の普通体の活用等を学ぶ。テキストp.190 ～ p.196
第5回	『げんきⅠ』 第８課文法と会話	普通体を用いた会話練習を行う。テキストp.198 ～ p.207
第6回	『げんきⅠ』 第９課文法導入	動詞普通体の過去形、名刺修飾節等を学ぶ。テキストp.212 ～ p.216
第7回	『げんきⅠ』 第９課文法と会話	普通体過去形を用いた会話練習を行う。テキストp.217 ～ p.226
第8回	プレゼンテーション	家族について発表する準備をし、授業内でプレゼンテーションを行う。
第9回	『げんきⅠ』 第１０課文法導入	比較文の表現等を学ぶ。テキストp.232 ～ p.236
第10回	『げんきⅠ』 第１０課文法と会話	日本と比較しながら自国のことを紹介する練習などを行う。テキストp.237 ～ p.249
第11回	『げんきⅠ』 第１１課文法導入・会話	第１１課の文法を学び、自分の経験や希望を表現する練習を行う。テキストp.254 ～ p.265
第12回	『げんきⅠ』 第１２課文法導入	アドバイスや提案の表現などを学ぶ。テキストp.270 ～ p.275
第13回	『げんきⅠ』 第１２課文法と会話	第１２課文法を用いながら、　病院でのロールプレイ練習を行う。テキストp.276 ～ p.288
第14回	復習、まとめ①	第１課から第８課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.42 ～ p.207
第15回	復習、まとめ②	第９課から第１２課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.212 ～ p.288
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120778	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG108								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120778	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG108								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第１３課文法導入	可能形等を学ぶ。テキストp.30～p.35
第3回	『げんきⅠ』 第１３課文法と会話	第１３課文法を用いながら話す練習をする。テキストp.37～p.49
第4回	『げんきⅠ』 第１４課文法導入	教授表現等の文法を学ぶ。テキストp.50～p.60
第5回	『げんきⅠ』 第１４課文法と会	教授表現を用いた会話練習を行う。テキストp.61～p.73
第6回	『げんきⅠ』 第１５課文法導入	プレゼンテーション準備　意向形等を学ぶ。　第１５課文法を用いながら話す練習をする。旅行の計画をたてるプロジェクトの準備を始める。テキストp.78～p.83
第7回	『げんきⅠ』 第１５課文法と会話	第１５課文法を用いながら話す練習をする。プレゼンテーション準備を進める。テキストp.84～p.95
第8回	プレゼンテーション、第１６課文法導入	発表を順次行う。第１６課文法より行為の教授表現、依頼表現等を学ぶ。テキストp.100～p.107
第9回	『げんき Ⅱ』第１６課文法と会話	第１６課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.108～p.117
第10回	『げんき Ⅱ』第１７課文法導入	伝聞表現、推量表現等を学ぶ。テキストp.122～p.128
第11回	『げんき Ⅱ』第１７課文法と会話	第１７課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.129～p139.
第12回	『げんき Ⅱ』第１８課文法導入	自動詞・他動詞等を学ぶ。テキストp.144～p149.
第13回	『げんき Ⅱ』第１８課文法と会話	第１８課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.150～p.162
第14回	『げんき Ⅱ』第１３～１５課復習	第１３～１５課で学んだ文法演習を行う。テキストp.30～p.94
第15回	『げんき Ⅱ』第１６～１８課復習	第１６～１８課で学んだ文法演習を行う。テキストp.100～p.163
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120779	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG109								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120779	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG109								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第７課文法導入	て形を用いた文法などを学ぶ。テキストp.170 ～ p.175
第3回	『げんきⅠ』 第７課文法と会話	家族について話す練習を行う。テキストp.176 ～ p.183
第4回	『げんきⅠ』 第８課文法導入	動詞の普通体の活用等を学ぶ。テキストp.190 ～ p.196
第5回	『げんきⅠ』 第８課文法と会話	普通体を用いた会話練習を行う。テキストp.198 ～ p.207
第6回	『げんきⅠ』 第９課文法導入	動詞普通体の過去形、名刺修飾節等を学ぶ。テキストp.212 ～ p.216
第7回	『げんきⅠ』 第９課文法と会話	普通体過去形を用いた会話練習を行う。テキストp.217 ～ p.226
第8回	プレゼンテーション	家族について発表する準備をし、授業内でプレゼンテーションを行う。
第9回	『げんきⅠ』 第１０課文法導入	比較文の表現等を学ぶ。テキストp.232 ～ p.236
第10回	『げんきⅠ』 第１０課文法と会話	日本と比較しながら自国のことを紹介する練習などを行う。テキストp.237 ～ p.249
第11回	『げんきⅠ』 第１１課文法導入・会話	第１１課の文法を学び、自分の経験や希望を表現する練習を行う。テキストp.254 ～ p.265
第12回	『げんきⅠ』 第１２課文法導入	アドバイスや提案の表現などを学ぶ。テキストp.270 ～ p.275
第13回	『げんきⅠ』 第１２課文法と会話	第１２課文法を用いながら、　病院でのロールプレイ練習を行う。テキストp.276 ～ p.288
第14回	復習、まとめ①	第１課から第８課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.42 ～ p.207
第15回	復習、まとめ②	第９課から第１２課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.212 ～ p.288
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）II B							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120780	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG110								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ＩＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120780	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG110								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第１３課文法導入	可能形等を学ぶ。テキストp.30～p.35
第3回	『げんきⅠ』 第１３課文法と会話	第１３課文法を用いながら話す練習をする。テキストp.37～p.49
第4回	『げんきⅠ』 第１４課文法導入	教授表現等の文法を学ぶ。テキストp.50～p.60
第5回	『げんきⅠ』 第１４課文法と会	教授表現を用いた会話練習を行う。テキストp.61～p.73
第6回	『げんきⅠ』 第１５課文法導入	プレゼンテーション準備　意向形等を学ぶ。　第１５課文法を用いながら話す練習をする。旅行の計画をたてるプロジェクトの準備を始める。テキストp.78～p.83
第7回	『げんきⅠ』 第１５課文法と会話	第１５課文法を用いながら話す練習をする。プレゼンテーション準備を進める。テキストp.84～p.95
第8回	プレゼンテーション、第１６課文法導入	発表を順次行う。第１６課文法より行為の教授表現、依頼表現等を学ぶ。テキストp.100～p.107
第9回	『げんき ⅠⅠ』第１６課文法と会話	第１６課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.108～p.117
第10回	『げんき ⅠⅠ』第１７課文法導入	伝聞表現、推量表現等を学ぶ。テキストp.122～p.128
第11回	『げんき ⅠⅠ』第１７課文法と会話	第１７課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.129～p139.
第12回	『げんき ⅠⅠ』第１８課文法導入	自動詞・他動詞等を学ぶ。テキストp.144～p149.
第13回	『げんき ⅠⅠ』第１８課文法と会話	第１８課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.150～p.162
第14回	『げんき ⅠⅠ』第１３～１５課復習	第１３～１５課で学んだ文法演習を行う。テキストp.30～p.94
第15回	『げんき ⅠⅠ』第１６～１８課復習	第１６～１８課で学んだ文法演習を行う。テキストp.100～p.163
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）IIIA							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG111								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）IIIA							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第７課文法導入	て形を用いた文法などを学ぶ。テキストp.170 ～ p.175
第3回	『げんきⅠ』 第７課文法と会話	家族について話す練習を行う。テキストp.176 ～ p.183
第4回	『げんきⅠ』 第８課文法導入	動詞の普通体の活用等を学ぶ。テキストp.190 ～ p.196
第5回	『げんきⅠ』 第８課文法と会話	普通体を用いた会話練習を行う。テキストp.198 ～ p.207
第6回	『げんきⅠ』 第９課文法導入	動詞普通体の過去形、名刺修飾節等を学ぶ。テキストp.212 ～ p.216
第7回	『げんきⅠ』 第９課文法と会話	普通体過去形を用いた会話練習を行う。テキストp.217 ～ p.226
第8回	プレゼンテーション	家族について発表する準備をし、授業内でプレゼンテーションを行う。
第9回	『げんきⅠ』 第１０課文法導入	比較文の表現等を学ぶ。テキストp.232 ～ p.236
第10回	『げんきⅠ』 第１０課文法と会話	日本と比較しながら自国のことを紹介する練習などを行う。テキストp.237 ～ p.249
第11回	『げんきⅠ』 第１１課文法導入・会話	第１１課の文法を学び、自分の経験や希望を表現する練習を行う。テキストp.254 ～ p.265
第12回	『げんきⅠ』 第１２課文法導入	アドバイスや提案の表現などを学ぶ。テキストp.270 ～ p.275
第13回	『げんきⅠ』 第１２課文法と会話	第１２課文法を用いながら、　病院でのロールプレイ練習を行う。テキストp.276 ～ p.288
第14回	復習、まとめ①	第１課から第８課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.42 ～ p.207
第15回	復習、まとめ②	第９課から第１２課の文法の復習と会話練習を行う。テキストp.212 ～ p.288
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）IIIB							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG112								

授業概要

日常生活の場面で必要となる基本的語彙および文法事項の習得を目標に、初中級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の４スキルを総合的に学ぶ。授業では発音と日本語特有のリズムに慣れるため音声・映像教材を用いて、聴解力を養う。ペアまたは３人以上のグループでのコミュニケーション活動を通じて、日常会話を練習する。また教科書を中心に漢字を導入し、初中級の読解力を身につける。

到達目標

(1) 発話がはっきりとゆっくりとした発音ならば、最も直接的な優先事項の領域（例：ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、仕事・雇用）に関連した句や表現が理解できる。
(2) よく使われる語で書かれた、国際的共通語彙もかなり多い、短い簡単なテクストが理解できる。
(3) 人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。
(4) 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
(5) 大学生活や自由時間に関わる身近な日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換を必要とする通常の課題ならコミュニケーションできる。非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどの理解はない。
(6) 授業で学んだ初中級レベルの漢字の読み書きができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	期末試験（到達目標２、４、５、６について筆記試験を行う）
レポート課題		
上記以外	70	プレゼンテーション30%（到達目標１、２、３、５についてプレゼンテーションを課す）、宿題20%（毎回到達目標１、２、４、６について、復習問題を課す。）小テスト20%（到達目標２、６について、小テストを行う。）

授業時間数の４分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	げんきII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子	ジャパンタイムス	978-4789014434
2	げんき ワークブックII	板野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷 恭子	ジャパンタイムス	978-4789014441
3				

適宜紹介

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）IIIB							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG112								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	『げんきⅠ』 第１３課文法導入	可能形等を学ぶ。テキストp.30～p.35
第3回	『げんきⅠ』 第１３課文法と会話	第１３課文法を用いながら話す練習をする。テキストp.37～p.49
第4回	『げんきⅠ』 第１４課文法導入	教授表現等の文法を学ぶ。テキストp.50～p.60
第5回	『げんきⅠ』 第１４課文法と会	教授表現を用いた会話練習を行う。テキストp.61～p.73
第6回	『げんきⅠ』 第１５課文法導入	プレゼンテーション準備　意向形等を学ぶ。　第１５課文法を用いながら話す練習をする。旅行の計画をたてるプロジェクトの準備を始める。テキストp.78～p.83
第7回	『げんきⅠ』 第１５課文法と会話	第１５課文法を用いながら話す練習をする。プレゼンテーション準備を進める。テキストp.84～p.95
第8回	プレゼンテーション、第１６課文法導入	発表を順次行う。第１６課文法より行為の教授表現、依頼表現等を学ぶ。テキストp.100～p.107
第9回	『げんき II』第１６課文法と会話	第１６課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.108～p.117
第10回	『げんき II』第１７課文法導入	伝聞表現、推量表現等を学ぶ。テキストp.122～p.128
第11回	『げんき II』第１７課文法と会話	第１７課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.129～p139.
第12回	『げんき II』第１８課文法導入	自動詞・他動詞等を学ぶ。テキストp.144～p149.
第13回	『げんき II』第１８課文法と会話	第１８課で学んだ表現を用いた会話練習を行う。テキストp.150～p.162
第14回	『げんき II』第１３～１５課復習	第１３～１５課で学んだ文法演習を行う。テキストp.30～p.94
第15回	『げんき II』第１６～１８課復習	第１６～１８課で学んだ文法演習を行う。テキストp.100～p.163
担当者から一言		

講義名	日本語基礎（初中級）ⅣA							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120783	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG113								

授業概要

初級で学んだ基礎項目を復習しながら、日本の大学で学ぶために必要な４技能のバランスがとれた日本語能力を養う。日常会話を練習し、初級より自然で円滑なコミュニケーションの方法を身につける。

到達目標

（1）日本の大学の授業が理解できるように「聴解」の力をつける。
（2）レポートが書けるように読解・作文の力をつける。
（3）初級より複雑な、目的に合った日本語を運用できるようにする。
（4）自分の考えが話せるように談話能力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題		
上記以外	70	中間試験30%、授業への参加度40%

授業外学習

復習としての家庭学習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ⅣA							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120783	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG113								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の進め方、レベルチェック	授業の進め方を紹介し、レベルチェックをする。
第2回	『みんなの日本語中級Ⅰ』1	第１課①
第3回	『みんなの日本語中級Ⅰ』2	第１課②
第4回	『みんなの日本語中級Ⅰ』3	第２課①
第5回	『みんなの日本語中級Ⅰ』4	第２課②
第6回	『みんなの日本語中級Ⅰ』5	第３課①
第7回	『みんなの日本語中級Ⅰ』6	第３課②
第8回	復習	第１課から第３課までの復習をする。
第9回	『みんなの日本語中級Ⅰ』7	第４課①
第10回	『みんなの日本語中級Ⅰ』8	第４課②
第11回	『みんなの日本語中級Ⅰ』9	第５課①
第12回	『みんなの日本語中級Ⅰ』10	第５課②
第13回	『みんなの日本語中級Ⅰ』11	第６課①
第14回	『みんなの日本語中級Ⅰ』12	第６課②
第15回	復習、まとめ	第４課から第６課までの復習をする。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（初中級）ⅣB							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120784	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG114								

授業概要

初級で学んだ基礎項目を復習しながら、日本の大学で学ぶために必要な４技能のバランスがとれた日本語能力を養う。日常会話を練習し、初級より自然で円滑なコミュニケーションの方法を身につける。

到達目標

（1）日本の大学の授業が理解できるように「聴解」の力をつける。
（2）レポートが書けるように読解・作文の力をつける。
（3）初級より複雑な、目的に合った日本語を運用できるようにする。
（4）自分の考えが話せるように談話能力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題		
上記以外	70	中間試験30%、授業への参加度40%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

復習としての家庭学習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（初中級）ⅣB							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120784	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG114								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	『みんなの日本語中級Ⅰ』１	第７課①
第2回	『みんなの日本語中級Ⅰ』２	第７課②
第3回	『みんなの日本語中級Ⅰ』３	第８課①
第4回	『みんなの日本語中級Ⅰ』４	第８課②
第5回	『みんなの日本語中級Ⅰ』５	第９課①
第6回	『みんなの日本語中級Ⅰ』６	第９課②
第7回	復習	第７課から第９課までの復習をする。
第8回	『みんなの日本語中級Ⅰ』７	第10課①
第9回	『みんなの日本語中級Ⅰ』８	第10課②
第10回	『みんなの日本語中級Ⅰ』９	第11課①
第11回	『みんなの日本語中級Ⅰ』10	第11課②
第12回	『みんなの日本語中級Ⅰ』11	第13課①
第13回	『みんなの日本語中級Ⅰ』12	第13課②
第14回	復習	第10課から第13課までの復習をする。
第15回	復習、まとめ	第７課から第13課までの復習をする。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120785	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG115								

授業概要

「日本語能力試験Ｎ２」のテスト対策に特化した問題演習を主に行う。授業では中級レベルからの文型を復習しながら、N2レベルの文型を学び、語彙を増やしていく。毎週、課題として、「日本語能力試験N2」の文法問題を解く。授業で解説、質疑応答を行い、Ｎ２レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。

到達目標

（１）日本語能力試験Ｎ２レベルの文法を理解できるようになる。
（２）日本語能力試験Ｎ２合格レベルの語彙や表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標１、２について期末試験を行う
レポート課題		
上記以外	60	筆記試験40%（到達目標１、２について到達確認テストを行う。） 宿題20%（到達目標１、２について毎週宿題を課す。）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）ＩＡ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120785	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG115								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	受身形	受身形を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第3回	使役形	使役形を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第4回	使役受身形	使役受身形を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第5回	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第6回	仮定形	仮定形「たら・なら・ば・と」の使用例を比較、違いを確認し、「文の文法」の問題演習を行う。
第7回	復習	これまで学んだ文型を復習し、「文の文法」の問題演習を行う。
第8回	到達確認テスト	これまで学んだことの確認テストを行う。
第9回	名詞修飾節	名詞修飾節を復習し、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第10回	副詞節、補足節	副詞節、補足節を復習し、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第11回	呼応	呼応文型の復習をし、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第12回	接続詞（順接・並列）	順接・並列の接続詞を復習し、文章の中でそれらを正しく使えるよう問題演習を行う。
第13回	接続詞（逆接）	逆説の接続詞を復習し、文章の中でそれらを正しく使えるよう問題演習を行う。
第14回	接続詞と文章の文法	その他の接続詞を復習し、文中で接続詞を正しく選べるよう問題演習を行う。
第15回	復習、まとめ	これまで学んだ文型の復習を行う。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120786	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG116								

授業概要

「日本語能力試験Ｎ２」のテスト対策に特化した問題演習を主に行う。授業では中級レベルからの文型を復習しながら、N2レベルの文型を学び、語彙を増やしていく。毎週、課題として、「日本語能力試験N2」の文法問題を解く。授業で解説、質疑応答を行い、Ｎ２レベルを合格できる程度の言語能力をつけるようにする。

到達目標

（１）日本語能力試験Ｎ２レベルの文法を理解できるようになる。
（２）日本語能力試験Ｎ２合格レベルの語彙や表現を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標１、２について期末試験を行う
レポート課題		
上記以外	60	筆記試験40%（到達目標１、２について到達確認テストを行う。） 宿題20%（到達目標１、２について毎週宿題を課す。）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

便宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）ＩＢ							担当教員	柴川　真由美
講義コード	1120786	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG116								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、レベル確認、自己紹介
第2回	格助詞	格助詞を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第3回	並列助詞	並列助詞を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第4回	教授の表現	教授の表現を復習し、「類義語・言い換え」の問題演習を行う。
第5回	比較表現	比較表現を復習し、「文の文法」の問題演習を行う。
第6回	復習	これまで学んだ文型を復習し、「文の文法」の問題演習を行う。
第7回	到達確認テスト	これまで学んだことの確認テストを行う。
第8回	指示詞	指示詞を復習し、「文の文法」の問題演習を行う。
第9回	複文（条件）	複文（条件）復習し、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第10回	複文（理由・目的）	複文（理由・目的）を復習し、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第11回	複文（逆接・対比）	複文（逆接・対比）の復習をし、語順に焦点をあてた並べかえの問題演習を行う。
第12回	待遇表現	待遇表現を復習し、問題演習を行う。
第13回	終助詞	終助詞を復習し、問題演習を行う。
第14回	否定表現	否定表現（部分否定・二重否定文）を復習し、問題演習を行う。
第15回	復習、まとめ	これまで学んだ文型の復習を行う。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）ＩＩＡ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120787	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG117								

授業概要

「日本語能力試験Ｎ２」レベルの問題を解き、合格できる力を身につけていく。

到達目標

（１）幅広い話題について書かれた文章の内容が理解できる。
（２）日本語能力試験Ｎ２に合格できる力を身につけ、総合的な日本語能力を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題		
上記以外	70	小テスト 30%、授業への参加度 40%

授業外学習

復習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）II A							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120787	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG117								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の進め方、レベルチェック	授業の進め方を紹介し、レベルチェックをする。
第2回	読解１	文章を読み、問題を解く。
第3回	読解２	文章を読み、問題を解く。
第4回	読解３	文章を読み、問題を解く。
第5回	読解４	文章を読み、問題を解く。
第6回	読解５	文章を読み、問題を解く。
第7回	読解６	文章を読み、問題を解く。
第8回	読解７	文章を読み、問題を解く。
第9回	読解８	文章を読み、問題を解く。
第10回	読解９	文章を読み、問題を解く。
第11回	読解10	文章を読み、問題を解く。
第12回	読解11	文章を読み、問題を解く。
第13回	読解12	文章を読み、問題を解く。
第14回	読解13	文章を読み、問題を解く。
第15回	復習、まとめ	復習をする。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）ＩＩＢ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120788	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG118								

授業概要

「日本語能力試験Ｎ２」レベルの問題を解き、合格できる力を身につけていく。

到達目標

（１）幅広い話題について書かれた文章の内容が理解できる。
（２）日本語能力試験Ｎ２に合格できる力を身につけ、総合的な日本語能力を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	
レポート課題		
上記以外	70	中間テスト 30%、授業への参加度 40%

授業外学習

復習を重視し、毎回宿題を課す。
適宜小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）ＩＩＢ							担当教員	上野山　愛弥※
講義コード	1120788	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXG118								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	読解１	文章を読み、問題を解く。
第2回	読解２	文章を読み、問題を解く。
第3回	読解３	文章を読み、問題を解く。
第4回	読解４	文章を読み、問題を解く。
第5回	読解５	文章を読み、問題を解く。
第6回	読解６	文章を読み、問題を解く。
第7回	読解７	文章を読み、問題を解く。
第8回	読解８	文章を読み、問題を解く。
第9回	読解９	文章を読み、問題を解く。
第10回	読解10	文章を読み、問題を解く。
第11回	読解11	文章を読み、問題を解く。
第12回	読解12	文章を読み、問題を解く。
第13回	読解13	文章を読み、問題を解く。
第14回	読解14	文章を読み、問題を解く。
第15回	復習、まとめ	復習をする。

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）IIIA							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120789	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG119								

授業概要

日本語の聴解能力とコミュニケーション能力の向上を目指す。
まず、大学生活・日本の日常生活などに関する様々な日本語を聞きながら、正確に聞き取りと内容理解ができるようになることを目指す。例えば、ややゆっくり～自然な速さ、フォーマル～インフォーマルな場面、標準語～関西弁といった様々な日本語を用意する。
また、聴解能力を向上させると同時に、実際に自分がその日本語を用いながら話す練習も行い、単語・表現・文法知識を増やす。

到達目標

（1）日常生活の様々な場面で用いられる日本語を聞きながら、正確な聞き取りと内容理解ができる。
（2）単語・表現・文法知識を増やし、日本語によるコミュニケーション能力を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標（1）～（2）について、聴解・口頭試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目に関連し、小テスト・発表を行う。

授業時間数の３分の１以上を欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業で勉強した内容をよく復習して、習った単語・表現・文法をマスターするよう、自分で努力すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

レベル確認と既習テキスト確認をした後で、講義の中で伝えるので購入すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）IIIA							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120789	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG119								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、日本語レベルの確認、授業への要望があれば提出。
第2回	聴解演習 1	関西弁と標準語 1
第3回	聴解演習 2	関西弁と標準語 2
第4回	聴解演習 3	キャンパスの中で使う会話 1
第5回	聴解演習 4	キャンパスの中で使う会話 2
第6回	聴解演習 5	授業例の聞き取り 1
第7回	聴解演習 6	授業例の聞き取り 2
第8回	まとめ・復習 1	これまで学んだことのまとめ・復習
第9回	聴解演習 7	映像資料の聞き取り 1
第10回	聴解演習 8	映像資料の聞き取り 2
第11回	聴解演習 9	映像資料の聞き取り 3
第12回	聴解演習 10	仕事で使う会話の聞き取り 1
第13回	聴解演習 11	仕事で使う会話の聞き取り 2
第14回	聴解演習 12	仕事で使う会話の聞き取り 3
第15回	まとめ・復習 2	これまで学んだことのまとめ・復習

担当者から一言

講義名	日本語基礎（中級）IIIB							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120790	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG120								

授業概要

日本語の聴解能力とコミュニケーション能力の向上を目指す。
まず、大学生活・日本の日常生活などに関する様々な日本語を聞きながら、正確に聞き取りと内容理解ができるようになることを目指す。例えば、ややゆっくり～自然な速さ、フォーマル～インフォーマルな場面、標準語～関西弁といった様々な日本語を用意する。
また、聴解能力を向上させると同時に、実際に自分がその日本語を用いながら話す練習も行い、単語・表現・文法知識を増やす。

到達目標

（1）日常生活の様々な場面で用いられる日本語を聞きながら、正確な聞き取りと内容理解ができる。
（2）単語・表現・文法知識を増やし、日本語によるコミュニケーション能力を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標（1）～（2）について、聴解・口頭試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目に関連し、小テスト・発表を行う。

授業時間数の３分の１以上を欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業で勉強した内容をよく復習して、習った単語・表現・文法をマスターするよう、自分で努力すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

レベル確認と既習テキスト確認をした後で、講義の中で伝えるので購入すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	日本語基礎（中級）IIIB							担当教員	内田　孝※
講義コード	1120790	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG120								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明、日本語レベルの確認、授業への要望があれば提出。
第2回	聴解演習 1	バス・電車の車内放送を聞いて、理解する。
第3回	聴解演習 2	天気予報を聞いて、理解する。
第4回	聴解演習 3	電話の会話を聞いて、理解する。
第5回	聴解演習 4	ニュースを聞いて、理解する。
第6回	聴解演習 5	スポーツ・ニュースを聞いて、理解する。
第7回	聴解演習 6	日本の歌を聞いて、理解する。 1
第8回	まとめ・復習 1	これまで学んだことのまとめ・復習
第9回	聴解演習 7	道をたずねる会話を聞いて、理解する。
第10回	聴解演習 8	病院での会話を聞いて、理解する。
第11回	聴解演習 9	ホストファミリー・ホームステイ先での会話を聞いて、理解する。
第12回	聴解演習 10	料理の作り方を聞いて、理解する。
第13回	聴解演習 11	面接の会話を聞いて、理解する。
第14回	聴解演習 12	日本の歌を聞いて、理解する。2
第15回	まとめ・復習 2	これまで学んだことのまとめ・復習

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（運動処方）							担当教員	中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140010	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)健康・体力の維持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。
(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。
(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。
(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	40%	到達目標（1）および（4）についてレポートを提出する。
上記以外	60%	毎回の授業における到達目標（2）（3）および（4）について「実習計画・記録用紙」を記入し、提出する。

欠席回数が４回以上の場合は、原則として当該科目の単位は認めない。
遅刻や早退は１/3欠席扱いとする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業に必要な資料は適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（運動処方）							担当教員	中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140010	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンスと履修コース（種目）の決定	健康・体力科学Ⅰの授業の進め方、種目の説明の後、履修コース（種目）を決定する。
第2回	運動処方クラスのガイダンスと体力測定１	運動処方クラスの授業について説明する。その後、体力測定を行う。
第3回	体力測定２	体力測定の後半部分を行う。
第4回	目標設定	体力測定の結果から現在の体力レベルを理解する。 運動処方の理論を理解し、自らの体力および健康について達成すべき目標を立てる。
第5回	運動処方の理論１と運動実践	運動が身体に及ぼす影響を理解し、運動実践を行う。
第6回	運動処方の理論２と運動実践	有酸素運動能力を高める運動処方の理論を理解し、運動実践を行う。
第7回	運動処方の理論３と運動実践	最大筋力および筋持久力を高める運動処方の理論を理解し、運動実践を行う。
第8回	栄養素の機能１と運動実践	３大栄養素の役割および摂取方法を理解し、運動実践を行う。
第9回	栄養素の機能２と運動実践	ビタミン、ミネラルの役割および摂取方法を理解し、運動実践を行う。
第10回	水分補給と運動実践	熱中症と水分補給の重要性を理解し、運動実践を行う。
第11回	疲労・休養と運動実践	疲労のメカニズムと休養の意義を理解し、運動実践を行う。
第12回	生活習慣病と運動実践	生活習慣病と運動との関係を理解し、運動実践を行う。
第13回	サプリメントと運動実践	サプリメントの種類と機能を理解し、運動実践を行う。
第14回	加齢と運動実践	加齢による身体機能の変化と生涯スポーツの重要性を理解し、運動実践を行う。
第15回	体力測定	体力測定を行い、これまでの運動実践が身体機能に及ぼす影響を理解する。

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）							担当教員	中尾　泰史※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140040	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

当該授業では、サッカー競技を実践し自身の体に関する気づきや自己体力の理解を深める。またチーム単位での活動に重点を置き、性別や運動能力の異なる学生同士が積極的にコミュニケーションをとりながら、安全かつ合理的な方法で練習やゲーム運営を実践していく。なおサッカー競技に必要とされる技術と専門能力については、継続的な練習によって各自の運動能力に見合った水準でその向上を目指す。このように積極的な身体活動を実践しながら、生涯における身体活動の重要性を再確認し、意識的な運動習慣が自身の健康保持増進に必要不可欠となることを体現する。

到達目標

（1）サッカー競技に必要とされる技術・専門能力および自己体力の向上を目指す。
（2）生涯における運動実践の気づきを高め継続的、運動習慣を身につけておくことの重要性を理解する。
（3）チーム単位での活動の中で他社と積極的に関わりながら、主体性をもった行動ができる能力を養成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	（2）（3）に関係するレポート（40%評価） サッカー実技を通じて気づいた体の自己分析、サッカー運営する上での他者とのかかわり方、または健康科学に関連するテーマについて
上記以外	60%	（1）（3）を実技の中で評価（60%評価） サッカー競技に必要とされる技術や専門能力の習得のために最大限取り組んでいたかどうか、チーム単位での活動に積極的に参加していたかどうか

・実技関連評価60%、レポート関連課題40%とし、総合的に評価する。
・原則、欠席が4回を超える場合、単位認定はしない。
・けが、病気等でやむを得ず実技に参加できない場合、事前に担当教員に連絡し指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）							担当教員	中尾　泰史※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140040	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	健康・体力科学Ⅱ（サッカー）ガイダンス	授業展開および概要説明、受講時の諸注意
第2回	サッカー実技展開	グルーピング、実技内容確認、ボールコントロール
第3回	基礎技術パスⅠ	ボールコントロール、パス練習（ショート）、ミニゲーム等
第4回	基礎技術ドリブルⅠ	パス練習、ドリブル練習（敵なし）、ミニゲーム等
第5回	基礎技術シュートⅠ	パス練習、ドリブル練習（敵なし）、シュート練習（敵なし）、ミニゲーム等
第6回	コンビネーションⅠ	2対1、オフェンスコンビネーション、ミニゲーム等
第7回	基礎技術パスⅡ	ボールコントロール、パス練習（ロング）、ミニゲーム等
第8回	基礎技術ドリブルⅡ	パス練習、ドリブル練習（敵あり）、ミニゲーム等
第9回	基礎技術シュートⅡ	パス練習、ドリブル練習（敵あり）、シュート練習（敵あり）、ミニゲーム等
第10回	コンビネーションⅡ	3対2、オフェンスコンビネーション、ミニゲーム等
第11回	コンビネーションIII	4対3、ディフェンスコンビネーション、ミニゲーム等
第12回	リーグ戦Ⅰ	グルーピング、総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第13回	リーグ戦Ⅱ	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第14回	リーグ戦III	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第15回	リーグ戦IV・まとめ	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営 自己体力の把握と身体活動の意義ふり返り

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（卓球）							担当教員	芳田　哲也※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140090	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

（1）卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。
（2）生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。
（3）運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標である（2）および（3）を題材にしたレポートにより、それらの達成度について評価する。
上記以外	60%	到達目標である（1）および（3）を実技学習課題として、それらの達成度について評価する。

（1）「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。
（2）欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。
（3）ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（卓球）							担当教員	芳田　哲也※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140090	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	基本技術の習得1	グリップの特性と持ち方・技能テスト①・簡易ゲーム（班内）
第3回	基本技術の習得2	フォアハンドストローク（ショート，ロング）・簡易ゲーム（班内）
第4回	基本技術の習得3	バックハンドストローク（ショート，ロング）・簡易ゲーム（順位別）
第5回	基本技術の習得4	サーブとスマッシュ・簡易ゲーム（順位別）
第6回	基本技術の応用1	トップスピンやバックスピンのストローク・簡易ゲーム（班別対抗）
第7回	基本技術の応用2	トップ，バック，サイドスピンのサーブ・簡易ゲーム（班別対抗）
第8回	基本技術の応用3	フォア＆バックの切り替えとスマッシュのタイミングと角度
第9回	ゲーム1	シングルスゲームの正式ルール・班内リーグ戦
第10回	ゲーム2	シングルスゲームのスタイル（前陣型，後陣型）・順位別リーグ戦
第11回	ゲーム3	ダブルスゲームの正式ルール・班内対抗リーグ戦
第12回	ゲーム4	ダブルスゲームのフォーメーション・順位別リーグ戦
第13回	ゲーム5	シングルスとダブルスによる班別対抗リーグ戦
第14回	技能テスト②	自己技能の変化とその原因及び効果的な練習方法に関する考察
第15回	まとめ	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解と，生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（テニス）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140120	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。
(2)自己の課題を明確にし、改善方法を考えることができる。
(3)テニスの指導計画を立て、グループのメンバーに実践できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の（1）に応じて技能向上の程度や授業への積極性を実技学習課題として評価する。
レポート課題	40%	到達目標の（2）（3）に応じてレポート課題を課し、記述の具体性について評価する。
上記以外		

授業外学習

テニスの動画や書籍をみることにより技術の要点について理解しておくこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（テニス）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140120	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	コース（種目）別ガイダンス	授業方針，授業内容，グループ分け、フォアハンドストローク１
第3回	優しくラリーが続くように	フォアハンドストローク２、バックハンドストローク１
第4回	優しくラリーが続くように	バックハンドストローク２、ボレー１
第5回	優しくラリーが続くように	ボレー２、サーブ１
第6回	優しくラリーが続くように	サーブ２、試合のルールの確認
第7回	テニスの試合の経験	ショート・テニス
第8回	テニスの試合の経験	ハーフコートのテニス
第9回	テニスの試合の経験	ダブルスゲーム
第10回	力強くラリーが続くように	グループ別練習、リーグ戦
第11回	力強くラリーが続くように	グループ別練習、リーグ戦
第12回	力強くラリーが続くように	グループ別練習、リーグ戦
第13回	力強くラリーが続くように	グループ別練習、リーグ戦
第14回	力強くラリーが続くように	グループ別練習、リーグ戦
第15回	まとめ	授業全体を振り返る

担当者から一言
スポーツや運動を行うことは、充実した人生や健康増進のためにますます重要となってきています。 ただ単にスポーツを行うだけでなく、上手になるために工夫し考えることや仲間と協力しながら行うことが大切です。

講義名	健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ）							担当教員	東田　一彦
講義コード	1140150	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ニュースポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)身体活動の科学的法則性を理解し，望ましい健康増進の手法を学ぶ。
(2)生涯スポーツとしてのニュースポーツの文化的意義を理解し，基本技術を習得する。
(3)地域や職域における生涯スポーツの普及発展の中心的な役割を担う人材の育成をめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	(3)レポートで評価する
上記以外	60	(1)(2)実技学習課題および講義へ参加姿勢で評価する

・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。
・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ）							担当教員	東田　一彦
講義コード	1140150	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	種目別ガイダンス	配付資料に基づき授業の概要を理解する，ＱＯＬと生涯スポーツ
第3回	ニュースポーツ1	ペタンクのルール
第4回	ニュースポーツ2	ペタンク試合
第5回	ニュースポーツ3	タグラグビーのルール
第6回	ニュースポーツ4	タグラグビーのルール
第7回	ニュースポーツ5	傘をめがけて－ターゲット・バードゴルフ（1）
第8回	ニュースポーツ6	傘をめがけて－ターゲット・バードゴルフ（2）
第9回	ニュースポーツ7	フライングディスクを使ったニュースポーツ1
第10回	ニュースポーツ8	フライングディスクを使ったニュースポーツ2
第11回	ニュースポーツ9	フライングディスクを使ったニュースポーツ3
第12回	ニュースポーツ10	フライングディスクを使ったニュースポーツ4
第13回	ニュースポーツ11	フライングディスクを使ったニュースポーツ5
第14回	ニュースポーツ12	フライングディスクを使ったニュースポーツ6
第15回	講義	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解と，生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（バスケット）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140180	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バスケットボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

・ ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。
・ バスケットボールの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。
・ グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	（1）、（2）、（3）は毎回の提出課題と自己評価及びチーム評価
上記以外	60%	（1）、（2）、（3）は実技の達成度とチームワーク

・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。
・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは原則として当該科目の単位は認めない。
・但し怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し対応の指示を受けること。

授業外学習

※グループの練習担当者が各回の授業でのテーマを中心に一日の練習を計画してくる。その練習計画を基に練習し授業の後半のリーグ戦で練習の成果を試す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（バスケット）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140180	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	コースガイダンス	グループ分け
第3回	ボールワーク、シューティングのポイント	セットポジションからのシューティング
第4回	ドリブルワーク	ドリブルシュート
第5回	1対1の攻防	ディフェンスの基本、リバウンドワーク
第6回	2対1の攻防	パスワーク、オフェンスの連携
第7回	2対2の攻防	オフェンス・ディフェンスの連携、ボールを持たない時の動き
第8回	3対3の攻防	ポストプレイ、スペースの有効利用
第9回	ハーフコートでの3on3のリーグ戦①	ルールの確認、審判法
第10回	ハーフコートでの5on5のリーグ戦②	前回のゲームのフィードバック
第11回	4対4の攻防	ファストブレイクの意義、スクリーンの利用
第12回	5on5のリーグ戦①	ルールの確認、審判法
第13回	5on5のリーグ戦②	前回のゲームのフィードバック
第14回	5on5のリーグ戦③	前回のゲームのフィードバック
第15回	自己評価及びチーム評価	身体活動と健康の関わりや身体活動とその必要性の理解及び生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言
常識・節度ある受講姿勢と積極的な実技への参加 実技を通しての積極的なコミュニケーション

講義名	健康・体力科学Ⅰ（バドミントン）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140210	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

（1）ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。
（2）シングルスゲームおよびダブルスゲームの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。
（3）グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	（1）、（2）、（3）は毎回の提出課題と自己評価及びチーム評価
上記以外	60%	（1）、（2）、（3）は実技の達成度とチームワーク

・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。
・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは原則として当該科目の単位は認めない。
・但し怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し対応の指示を受けること。

授業外学習

※グループの練習担当者が各回の授業でのテーマを中心に一日の練習を計画してくる。その練習計画を基に練習し授業の後半のリーグ戦で練習の成果を試す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（バドミントン）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140210	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	101EXR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学Ⅰの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	コースガイダンス	授業の進め方、グループ分け
第3回	バドミントンの特性	フォア・バックでのショットとグリップ
第4回	ラリー	ストレートとクロスの打ち分け
第5回	ラリー	コート前後への動き
第6回	ハイクリア	コート前後への動き
第7回	サービス	サービス（ロング・ショート）、サービスへの対応
第8回	半面シングルス	ネット際での攻防
第9回	ダブルスのリーグ戦①	ダブルスのルール 審判法
第10回	ダブルスのリーグ戦②	ルールの確認 ダブルスのポジショニング及びフォーメーション
第11回	ダブルスのリーグ戦③	ルールの確認 ダブルスのポジショニング及びフォーメーション
第12回	ダブルスのリーグ戦④	ルールの確認 ダブルスのポジショニング及びフォーメーション
第13回	ダブルスのリーグ戦⑤	ルールの確認 ダブルスのポジショニング及びフォーメーション
第14回	ダブルスのリーグ戦⑥	ルールの確認 ダブルスのポジショニング及びフォーメーション
第15回	自己評価及びチーム評価	身体活動と健康の関わりや身体活動とその必要性の理解及び生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言
常識・節度ある受講姿勢と積極的な実技への参加 実技を通しての積極的なコミュニケーション

講義名	健康・体力科学II（ニュースポーツ）							担当教員	東田　一彦
講義コード	1140240	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ニュースポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)身体活動の科学的法則性を理解し，望ましい健康増進の手法を学ぶ。
(2)生涯スポーツとしてのニュースポーツの文化的意義を理解し，基本技術を習得する。
(3)地域や職域における生涯スポーツの普及発展の中心的な役割を担う人材の育成をめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	(3)レポートで評価する
上記以外	60	(1)(2)実技学習課題および講義へ参加姿勢で評価する

・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。
・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（ニュースポーツ）							担当教員	東田　一彦
講義コード	1140240	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	種目別ガイダンス	配付資料に基づき授業の概要を理解する，ＱＯＬと生涯スポーツ
第3回	ニュースポーツ1	ペタンクのルール
第4回	ニュースポーツ2	ペタンクの試合
第5回	ニュースポーツ3	タグラグビーのルール
第6回	ニュースポーツ4	タグラグビーの試合
第7回	ニュースポーツ5	傘をめがけて－ターゲット・バードゴルフ（1）
第8回	ニュースポーツ6	傘をめがけて－ターゲット・バードゴルフ（2）
第9回	ニュースポーツ7	フライングディスクを使ったニュースポーツ1
第10回	ニュースポーツ8	フライングディスクを使ったニュースポーツ2
第11回	ニュースポーツ9	フライングディスクを使ったニュースポーツ3
第12回	ニュースポーツ10	フライングディスクを使ったニュースポーツ4
第13回	ニュースポーツ11	フライングディスクを使ったニュースポーツ5
第14回	ニュースポーツ12	フライングディスクを使ったニュースポーツ6
第15回	講義	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解と，生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言

講義名	健康・体力科学II（ソフトボール）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140250	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ソフトボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1) ソフトボールの練習やゲームを通じて技能や体力の向上を図る。
(2) 生涯にわたるスポーツライフを設計し実践する能力を育成する。
(3) グループでの活動に必要な態度を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	(1)，(2)，(3)は毎回の提出課題と自己評価及びチーム評価
上記以外	60%	(1)，(2)，(3)は実技の達成度とチームワーク

・「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。
・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは原則として当該科目の単位は認めない。
・但し怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し対応の指示を受けること。

授業外学習

※グループの練習担当者が各回の授業でのテーマを中心に一日の練習を計画してくる。その練習計画を基に練習し授業の後半のリーグ戦で練習の成果を試す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（ソフトボール）							担当教員	岩瀬　雅紀※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140250	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	コース（種目）別ガイダンス	授業の進め方，授業内容等
第2回	守備練習	キャッチボール・スローイング等
第3回	バッティング練習①	トスバッティング等
第4回	バッティング練習②	フリーバッティング等
第5回	内野と外野の連携プレーについて	チーム編成 役割分担
第6回	内野と外野の連携プレーについて	チーム編成 役割分担
第7回	ゲーム	チームワーク
第8回	ゲーム	チームワーク
第9回	グループ別練習	バッティングと連携プレー
第10回	リーグ戦①	打率等を記入しながら
第11回	リーグ戦②	打率等を記入しながら
第12回	リーグ戦③	打率等を記入しながら
第13回	リーグ戦④	打率等を記入しながら
第14回	リーグ戦⑤	打率等を記入しながら
第15回	自己評価及びチーム評価	身体活動と健康の関わりや身体活動とその必要性の理解及び生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言
常識・節度ある受講姿勢と積極的な実技への参加 実技を通しての積極的なコミュニケーション

講義名	健康・体力科学II（バドミントン）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140260	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)バドミントンの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。
(2)自己の課題を明確にし、改善方法を考えることができる。
(3)バドミントンの指導計画を立て、グループのメンバーに実践できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の（1）に応じて技能向上の程度や授業への積極性を実技学習課題として評価する。
レポート課題	40%	到達目標の（2）（3）に応じてレポート課題を課し、記述の具体性について評価する。
上記以外		

授業外学習

バドミントンの動画や書籍をみることにより技術の要点について理解しておくこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（バドミントン）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140260	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	コース（種目）別ガイダンス	授業方針，グループ分け，シャトルをとばしてみよう，ルールの解説
第2回	シャトルのとばし方を学ぶ	ハイクリアー・リーグ戦
第3回	シャトルのとばし方を学ぶ	スマッシュ・リーグ戦
第4回	シャトルのとばし方を学ぶ	ドライブ・リーグ戦
第5回	シャトルのとばし方を学ぶ	ドロップ・リーグ戦
第6回	シャトルのとばし方を学ぶ	ヘアピン・リーグ戦
第7回	シャトルのとばし方を学ぶ	ステップ・リーグ戦
第8回	ペア替えによるゲーム	サーブ・リーグ戦
第9回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第10回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第11回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第12回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第13回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第14回	複合練習	グループ学習、リーグ戦
第15回	まとめ	授業全体の振り返り

担当者から一言
スポーツや運動を行うことは、充実した人生や健康増進のためにますます重要となってきています。 ただ単にスポーツを行うだけでなく、上手になるために工夫し考えることや仲間と協力しながら行うことが大切です。

講義名	健康・体力科学II（バレーボール）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140280	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バレーボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)バレーボールの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。
(2)自己の課題を明確にし、改善方法を考えることができる。
(3)バレーボールの指導計画を立て、グループのメンバーに実践できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標の（1）に応じて技能向上の程度や授業への積極性を実技学習課題として評価する。
レポート課題	40%	到達目標の（2）（3）に応じてレポート課題を課し、記述の具体性について評価する。
上記以外		

授業外学習

バレーボールの動画や書籍をみることにより技術の要点について理解しておくこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（バレーボール）							担当教員	多胡　陽介※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140280	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	コース（種目）別ガイダンス	授業の進め方，授業内容等
第2回	レシーブとサーブ	各種レシーブ練習とサーブ
第3回	トスとスパイク，ゲーム	各種トス・スパイクとミニバレーボールゲーム，ルール（ラリーポイント）
第4回	トスとスパイク，ゲーム	各種トス・スパイクとミニバレーボールゲーム，ルール（ラリーポイント）
第5回	ブロックとゲーム	各種ブロックフォーメーションとミニバレーボールゲーム
第6回	アタックレシーブとゲーム	アタックレシーブフォーメーションとミニバレーボールゲーム
第7回	アタックレシーブとゲーム	アタックレシーブフォーメーションとミニバレーボールゲーム
第8回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット），審判の方法
第9回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット）
第10回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット）
第11回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット）
第12回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット）
第13回	ゲーム	グループ学習、ゲーム（25点２セット）
第14回	ゲーム	ゲーム（25点２セット）
第15回	まとめ	授業全体を振り返る

担当者から一言
スポーツや運動を行うことは、充実した人生や健康増進のためにますます重要となってきています。 ただ単にスポーツを行うだけでなく、上手になるために工夫し考えることや仲間と協力しながら行うことが大切です。

講義名	健康・体力科学II（運動処方）							担当教員	中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140290	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)健康・体力の維持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。
(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。
(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。
(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	40%	到達目標（1）および（4）についてレポートを提出する。
上記以外	60%	毎回の授業における到達目標（2）（3）および（4）について「実習計画・記録用紙」を記入し、提出する。

欠席回数が４回以上の場合は、原則として当該科目の単位は認めない。
遅刻や早退は１/3欠席扱いとする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業に必要な資料は適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（運動処方）							担当教員	中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140290	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンスと履修コース（種目）の決定	健康・体力科学Ⅰの授業の進め方、種目の説明の後、履修コース（種目）を決定する。
第2回	運動処方クラスのガイダンスと体力測定１	運動処方クラスの授業について説明する。その後、体力測定を行う。
第3回	体力測定２	体力測定の後半部分を行う。
第4回	目標設定	体力測定の結果から現在の体力レベルを理解する。 運動処方の理論を理解し、自らの体力および健康について達成すべき目標を立てる。
第5回	運動処方の理論１と運動実践	運動が身体に及ぼす影響を理解し、運動実践を行う。
第6回	運動処方の理論２と運動実践	有酸素運動能力を高める運動処方の理論を理解し、運動実践を行う。
第7回	運動処方の理論３と運動実践	最大筋力および筋持久力を高める運動処方の理論を理解し、運動実践を行う。
第8回	栄養素の機能１と運動実践	３大栄養素の役割および摂取方法を理解し、運動実践を行う。
第9回	栄養素の機能２と運動実践	ビタミン、ミネラルの役割および摂取方法を理解し、運動実践を行う。
第10回	水分補給と運動実践	熱中症と水分補給の重要性を理解し、運動実践を行う。
第11回	疲労・休養と運動実践	疲労のメカニズムと休養の意義を理解し、運動実践を行う。
第12回	生活習慣病と運動実践	生活習慣病と運動との関係を理解し、運動実践を行う。
第13回	サプリメントと運動実践	サプリメントの種類と機能を理解し、運動実践を行う。
第14回	加齢と運動実践	加齢による身体機能の変化と生涯スポーツの重要性を理解し、運動実践を行う。
第15回	体力測定	体力測定を行い、これまでの運動実践が身体機能に及ぼす影響を理解する。

担当者から一言

講義名	健康・体力科学II（サッカー）							担当教員	中尾　泰史※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140310	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

当該授業では、サッカー競技を実践し自身の体に関する気づきや自己体力の理解を深める。またチーム単位での活動に重点を置き、性別や運動能力の異なる学生同士が積極的にコミュニケーションをとりながら、安全かつ合理的な方法で練習やゲーム運営を実践していく。なおサッカー競技に必要とされる技術と専門能力については、継続的な練習によって各自の運動能力に見合った水準でその向上を目指す。このように積極的な身体活動を実践しながら、生涯における身体活動の重要性を再確認し、意識的な運動習慣が自身の健康保持増進に必要不可欠となることを体現する。

到達目標

（1）サッカー競技に必要とされる技術・専門能力および自己体力の向上を目指す。
（2）生涯における運動実践の気づきを高め継続的、運動習慣を身につけておくことの重要性を理解する。
（3）チーム単位での活動の中で他社と積極的に関わりながら、主体性をもった行動ができる能力を養成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	（2）（3）に関係するレポート（40%評価） サッカー実技を通じて気づいた体の自己分析、サッカー運営する上での他者とのかかわり方、または健康科学に関連するテーマについて
上記以外	60%	（1）（3）を実技の中で評価（60%評価） サッカー競技に必要とされる技術や専門能力の習得のために最大限取り組んでいたかどうか、チーム単位での活動に積極的に参加していたかどうか

・実技関連評価60%、レポート関連課題40%とし、総合的に評価する。
・原則、欠席が4回を超える場合、単位認定はしない。
・けが、病気等でやむを得ず実技に参加できない場合、事前に担当教員に連絡し指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（サッカー）							担当教員	中尾　泰史※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140310	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	健康・体力科学II（サッカー）ガイダンス	授業展開および概要説明、受講時の諸注意
第2回	サッカー実技展開	グルーピング、実技内容確認、ボールコントロール
第3回	基礎技術パスI	ボールコントロール、パス練習（ショート）、ミニゲーム等
第4回	基礎技術パスII	ボールコントロール、パス練習（ロング）、ミニゲーム等
第5回	基礎技術ドリブルI	パス練習、ドリブル練習（敵なし）、ミニゲーム等
第6回	基礎技術ドリブルII	パス練習、ドリブル練習（敵あり）、ミニゲーム等
第7回	基礎技術シュートI	パス練習、ドリブル練習（敵なし）、シュート練習（敵なし）、ミニゲーム等
第8回	基礎技術シュートII	パス練習、ドリブル練習（敵なし）、シュート練習（敵あり）、ミニゲーム等
第9回	コンビネーションI	シュート練習、2対1、ミニゲーム等
第10回	コンビネーションII	シュート練習、3対2、ミニゲーム等
第11回	コンビネーションIII	シュート練習、4対3、ミニゲーム等
第12回	リーグ戦I	グルーピング、総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第13回	リーグ戦II	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第14回	リーグ戦III	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営
第15回	リーグ戦IV・まとめ	総合練習（チーム単位）、ゲーム運営 自己体力の把握と身体活動の意義ふり返り

担当者から一言

講義名	健康・体力科学II（テニス）							担当教員	芳田　哲也※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140340	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。
(2)生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。
(3)グループワークを通して，コミュニケーション能力や協調性，自主性を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標である(2)を題材にしたレポートにより、その達成度について評価する。
上記以外	60%	到達目標である(1)および（３）を実技学習課題として、それらの達成度について評価する。

（１）「実技学習課題」60%と「試験またはレポート」40%で評価する。
（２）欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。
（３）ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（テニス）							担当教員	芳田　哲也※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140340	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号	201EXR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	コースガイダンス	授業の進め方，グループ分け，スキルチェック
第2回	基本技術の習得1	ラケットとボールの特性・グリップの持ち方・ボール慣れ・技能テスト①
第3回	基本技術の習得2	ストローク①：2人組と1本打ち・簡易ゲーム(4人組)
第4回	基本技術の習得3	ストローク②：球出しによる多球打ち・フットワーク・簡易ゲーム(3人組)
第5回	基本技術の習得4	サーブ：簡単なサーブ・簡易ゲーム(変則ダブルス)
第6回	基本技術の習得5	ボレー，スマッシュ，ロビングの方法・簡易ゲーム(変則シングルス)
第7回	シングルスのゲーム	班内リーグ戦
第8回	基本技術の応用1	トップスピンとバックスピンのストローク
第9回	基本技術の応用2	ファースト＆セカンドサーブの打ち方
第10回	基本技術の応用3	ネット際のボレー＆スマッシュのタイミングとコース
第11回	ダブルスゲーム1	ルール・班内対抗リーグ戦
第12回	ダブルスゲーム2	フォーメーション・順位別リーグ戦
第13回	シングルスとダブルスによる班別対抗リーグ戦	
第14回	技能テスト②	自己技能の変化とその原因及び効果的な練習方法に関する考察
第15回	まとめ	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解と，生涯スポーツへの動機づけ

担当者から一言

講義名	健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング）							担当教員	原田　圭子※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140470	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号									

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ボディコンディショニングを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)ボディーコンディショニングを通じて、自らの身体状態に即した運動実践の動機づけ、運動継続による効果の確認、筋力や柔軟性の向上を目指す。
(2)運動の科学的知識に基づいた、生涯における健康・体力の維持増進に必要な手法を学ぶ。
(3)レジスタンス運動やストレッチングの特徴や効果を理解し、対象者や状態に応じた安全で効果的なプログラム方法を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	到達目標（２）（３）について、レポートを提出する。
上記以外	60	到達目標（１）について、毎回の授業における「記録用紙」を記入し、提出する。

・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは、原則として当該科目の単位は認めない。
・ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。
・遅刻や早退は１/3欠席扱いとする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業に必要な資料は適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学Ⅰ（ボディコンディショニング）							担当教員	原田　圭子※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140470	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実技		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	種目別ガイダンス	配付資料に基づき授業の概要を理解する，ストレッチング・筋力トレーニング・有酸素運動の特徴を理解する，FITT（頻度・強度・時間・運動タイプ）の原則について理解する
第3回	ストレッチングの種類・特性と静的ストレッチング演習	ストレッチングの種類と各々の特徴や目的を理解する，静的ストレッチングを実践する
第4回	上肢の機能解剖と静的ストレッチング演習	上肢の関節運動と各部位のストレッチ方法を理解する，静的ストレッチングを実践する
第5回	下肢の機能解剖と静的ストレッチング演習	下肢の関節運動と各部位のストレッチ方法を理解する，静的ストレッチングを実践する
第6回	ウォームアップの理解と実践	ウォームアップの目的・効果・方法を理解する，ウォームアップのプログラムを実践する
第7回	クールダウンの理解と実践	クールダウンの目的・効果・方法を理解する，クールダウンのプログラムを実践する
第8回	器具を用いたストレッチング演習	相反性神経支配・受動的なストレッチングの効果・方法を理解する，受動的なストレッチングを実践する
第9回	筋の活動様式から見たレジスタンス運動の分類とアイソメトリック	筋の活動様式から見たレジスタンス運動の分類とその特徴や効果を理解する，アイソメトリックトレーニングを実践する
第10回	トレーニング実施時の安全性とアイソトニックトレーニング演習	安全にトレーニングを実施するための注意事項を理解する，自体重を用いたアイトトニックトレーニングを実践する
第11回	バランストレーニング演習	ソフトジムを用いたバランストレーニングの特徴・方法を理解し、実践する
第12回	器具を用いたボディーコンディショニング１	ソフトジムを用いたボディーコンディショニングの特徴・方法を理解し、実践する
第13回	器具を用いたボディーコンディショニング２	椅子を用いたボディーコンディショニングの特徴・方法を理解し、実践する
第14回	対象者に応じたボディーコンディショニングのプログラム作成	対象者に応じたボディーコンディショニングのプログラム作成法を理解する，自らプログラムを作成し実践する
第15回	まとめ	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解し、生涯スポーツへの動機づけにつなげる

担当者から一言

講義名	健康・体力科学II（ボディコンディショニング）							担当教員	原田　圭子※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140500	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号									

授業概要

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ボディコンディショニングを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。

到達目標

(1)ボディーコンディショニングを通じて、自らの身体状態に即した運動実践の動機づけ、運動継続による効果の確認、筋力や柔軟性の向上を目指す。
(2)運動の科学的知識に基づいた、生涯における健康・体力の維持増進に必要な手法を学ぶ。
(3)レジスタンス運動やストレッチングの特徴や効果を理解し、対象者や状態に応じた安全で効果的なプログラム方法を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	到達目標（２）（３）について、レポートを提出する。
上記以外	60	到達目標（１）について、毎回の授業における「記録用紙」を記入し、提出する。

・欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは、原則として当該科目の単位は認めない。
・ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。
・遅刻や早退は１/3欠席扱いとする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業に必要な資料は適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	健康・体力科学II（ボディコンディショニング）							担当教員	原田　圭子※／中井　直也／東田　一彦
講義コード	1140500	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実技		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	全体ガイダンス	健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方，種目説明，種目希望調査
第2回	種目別ガイダンス	配付資料に基づき授業の概要を理解する，ストレッチング・筋力トレーニング・有酸素運動の特徴を理解する，FITT（頻度・強度・時間・運動タイプ）の原則について理解する
第3回	ストレッチングの種類・特性と静的ストレッチング演習	ストレッチングの種類と各々の特徴や目的を理解する，静的ストレッチングを実践する
第4回	上肢の機能解剖と静的ストレッチング演習	上肢の関節運動と各部位のストレッチ方法を理解する，静的ストレッチングを実践する
第5回	下肢の機能解剖と静的ストレッチング演習	下肢の関節運動と各部位のストレッチ方法を理解する，静的ストレッチングを実践する
第6回	ウォームアップの理解と実践	ウォームアップの目的・効果・方法を理解する，ウォームアップのプログラムを実践する
第7回	クールダウンの理解と実践	クールダウンの目的・効果・方法を理解する，クールダウンのプログラムを実践する
第8回	器具を用いたストレッチング演習	相反性神経支配・受動的なストレッチングの効果・方法を理解する，受動的なストレッチングを実践する
第9回	筋の活動様式から見たレジスタンス運動の分類とアイソメトリック	筋の活動様式から見たレジスタンス運動の分類とその特徴や効果を理解する，アイソメトリックトレーニングを実践する
第10回	トレーニング実施時の安全性とアイソトニックトレーニング演習	安全にトレーニングを実施するための注意事項を理解する，自体重を用いたアイトトニックトレーニングを実践する
第11回	バランストレーニング演習	ソフトジムを用いたバランストレーニングの特徴・方法を理解し、実践する
第12回	器具を用いたボディーコンディショニング１	ソフトジムを用いたボディーコンディショニングの特徴・方法を理解し、実践する
第13回	器具を用いたボディーコンディショニング２	椅子を用いたボディーコンディショニングの特徴・方法を理解し、実践する
第14回	対象者に応じたボディーコンディショニングのプログラム作成	対象者に応じたボディーコンディショニングのプログラム作成法を理解する，自らプログラムを作成し実践する
第15回	まとめ	身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性の理解し、生涯スポーツへの動機づけにつなげる

担当者から一言

講義名	Contemporary Japanese Culture							担当教員	島田　和久
講義コード	1150005	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG121								

授業概要

This course provides you with a various topics of Japanese traditional culture. Students will be expected to be familiar with the cultural background of Japanese way of life. Most of the classes are based on practical lessons by experts of the topic.

到達目標

Students will be expected to learn Japanese traditional culture.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Final presentation by group each group is required to give a 15-minute presentation by use of slides either in English or in Japanese. The students can choose the topic based on what they learn in the course.
レポート課題	30	Three Short Essays Students write three short essays on 1. Japanese history and culture
上記以外	30	Attendance and class engagement: Students are expected to complete the reading assignments and prepare for the classes. Participation is an important element to your success in this course.

Plagiarism will not be tolerated and will result in termination of class registration. Tardiness will affect your final assessment.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Handouts will be provided.

前提学力等

Maximum number of the participants will be 15. Students who wish to enroll this course must come to the Office of International Programs and Development beforehand.

履修資格

講義名	Contemporary Japanese Culture							担当教員	島田　和久
講義コード	1150005	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Induction of the course, and outlining Japanese history and culture
第2回	Japanese flower arrangement	To learn the history of Japanese traditional flower arrangement, Ikenobo-style, and have a lesson.
第3回	Karate Lesson I	To learn martial arts history in Japan and physical practice. Wear exercise clothes.
第4回	Karate Lesson II	To learn martial arts history in Japan and physical practice. Wear exercise clothes.
第5回	Haiku lesson	To learn about the origins and history of the haiku, the shortest and one of the most famous poetic forms in the world.
第6回	Kyo-gen lesson I	To learn Kyo-gen, a farcical play.
第7回	History of Hikone	To visit Hikone castle, one of the national treasures in Japan and learn the history of Hikone
第8回	Buddhism in Japan	To learn Buddhism in Japan at the temple near the campus
第9回	Japanese Traditional Calligraphy	To learn the meaning of Kanji and practice them using ink brush
第10回	Tea Ceremony lesson I	To learn the history of the way of tea and experience the performance.
第11回	Kyo-gen lesson II	To learn Kyo-gen, a farcical play.
第12回	Tea Ceremony lesson II	To learn the history of the way of tea and experience the performance.
第13回	Traditional Game in Hikone	To learn traditional game in Hikone, CARROM, a strike-and-pocket table game originated in Hikone-city.
第14回	Origami	To make Origami figures
第15回	Group presentation	Final presentation by group

担当者から一言

講義名	Contemporary Japanese Culture							担当教員	島田　和久
講義コード	1150006	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG121								

授業概要

This course provides you with a various topics of Japanese traditional culture. Students will be expected to be familiar with the cultural background of Japanese way of life. Most of the classes are based on practical lessons by experts of the topic.

到達目標

Students will be expected to learn Japanese traditional culture.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	Final presentation by group each group is required to give a 15-minute presentation by use of slides either in English or in Japanese. The students can choose the topic based on what they learn in the course.
レポート課題	30	Three short essays Students write three short essays on 1. Japanese history and culture
上記以外	30	Attendance and class engagement: Students are expected to complete the reading assignments and prepare for the classes. Participation is an important element to your success in this course.

Plagiarism will not be tolerated and will result in termination of class registration. Tardiness will affect your final assessment.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Handouts will be provided.

前提学力等

Maximum number of the participants will be 15. Students who wish to enroll this course must come to the Office of International Programs and Development beforehand.

履修資格

講義名	Contemporary Japanese Culture							担当教員	島田　和久
講義コード	1150006	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101EXG121								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Induction of the course, and outlining Japanese history and culture
第2回	Japanese Flower Arrangement	To learn the history of Japanese traditional flower arrangement, Ikenobo-style, and have a lesson.
第3回	Traditional Game in Hikone	To learn traditional game in Hikone, CARROM, a strike-and-pocket table game originated in Hikone-city.
第4回	Buddhism in Japan	To learn Buddhism in Japan at the temple near the campus
第5回	Kyo-gen lesson I	To learn Kyo-gen, a farcical play.
第6回	History of Hikone	To visit Hikone castle, one of the national treasures in Japan and learn the history of Hikone
第7回	Kyo-gen lesson II	To learn Kyo-gen, a farcical play.
第8回	Haiku lesson	To learn about the origins and history of the haiku, the shortest and one of the most famous poetic forms in the world.
第9回	Origami	To make Origami figures
第10回	Tea Ceremony lesson I	To learn the history of the way of Japanese tea and experience the performance.
第11回	Tea Ceremony lesson II	To learn the history of the way of Japanese tea and experience the performance.
第12回	Japanese Traditional Calligraphy	To learn the meaning of Kanji and practice them using ink brush
第13回	Karate Lesson I	To learn martial arts history in Japan and physical practice. Wear exercise clothes.
第14回	Karate Lesson II	To learn martial arts history in Japan and physical practice. Wear exercise clothes.
第15回	Group presentation	Final presentation by group

担当者から一言

講義名	Japan Studies I : Influences of Geography on Culture & Society							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150011	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course will focus on Japan's natural scenery, in particular the general topography of Japan. Natural scenery is affected with the climate of the region. In addition, since tectonic activity is very high in Japan, topography in Japan is very unique. Thus, in this course, students will consider why such topography exists in Japan, based on basic knowledge of geomorphology. In addition, these typical topographies are closely related to culture, civilization, and the religion of the region. The students will understand how Japanese people use these topographies for their living. Moreover, such typical topography is, in many cases, related to natural hazards, so students will understand the characteristics of some of these natural hazards, as well as learn how to evacuate in these circumstances.

到達目標

(1) To provide students with a basic understanding of the nature of Japan's general topography, and how Japanese people recognizes its beauty.
(2) To provide students with a basic understanding of Japanese general culture, civilization, and religion; and how these topographies are used in life.
(3) To understand the nature of volcanic eruptions, earthquakes, and tsunamis; and to understand evacuation procedures in the case of such natural hazards.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	Essays about unique topography in Japan. The students have to write your essays as home work every week. Your essays should be presented by yourself at the next class.
上記以外	60%	Performance in class and group work.

If you write essays only refered some WEB sites, its score will be zero. You should write you opinion and/or your impression through your study about the scenary and related culture.

授業外学習

Homeworks are required for each lecture. The students write essays about unique topography shown in the lecture, reading some WEB sites related to the topography.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Japan Studies I : Influences of Geography on Culture & Society							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150011	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Mt. Fuji: Why Japanese feels it to be beautiful?	Most of Japanese feels Mount Fuji is beautiful. From some photographs of Mt. Fuji, the students consider why Japanese feels it to be beautiful.
第2回	Many local Fujis	In Japan, many mountains are commonly called as "Local Fuji".The students consider what kind of mountains are called as "Local Fuji".
第3回	Volcanic activity of Mt. Fuji	Mt. Fuji is an active volcano. From the geological data, the students understand what type of eruption will occur.
第4回	Volcanic eruption and its disaster	Two dangerous disasters are at first focused: pyroclastic flow and sector collapse. influence of volcanic ash-fall is also considered.
第5回	Repetition of large earthquake	Large earthquakes repeat at same location at Pacific Ocean coast in Japan. The students consider about its mechanism.
第6回	Tsunami disaster	A VTR of the tsunami on 11 March 2011 will be shown. The students understand about its nature and characteristics, and how to survive in such case.
第7回	Earthquake induced by inland active fault.	Earthquake is also occurred by movement of inland active fault. From some examples, the students understand its nature, and how to survive.
第8回	Sea cliff and its nature	We can see many sea cliffs in Japan. The students understand how it is formed.
第9回	Sand beach and its beauty	Sand beach and pine trees form beautiful scenary in Japan. The students consider why Japanese feels it to be beautiful.
第10回	Techtonic activity at sea coast	Repetition of large earthquakes at Pacific Ocean coast forms very typical Japanese coastal topography.
第11回	Aki-no-Miyajima	Itsukushima Shrine and its scenary is very typical and beautiful, but they are affected by repetition of typhoon disaster.
第12回	Typhoon	Typhoon is very common natural disaster in Japan. In addition, super hurricanes and/or typhoons are sometimes occur. We will study about such typhoon.
第13回	Flood in Japan	In metropolitan area, the danger of flood is much higher than rural area. So, special flood deffence systems are constructed in particular in Tokyo.
第14回	Beautiful lakes in Japan	Some examples of volcanic lake, dammed lake, tectonic lake and lagoon are shown, and consider about their beautiful scenaries.
第15回	Debris flow	Nature of landslide and debris flow are considered in this lecture.

担当者から一言
In this lecture, you can find a lot of beautiful scenaries in Japan. I expect you will visit somewhere during your summer vacation.

講義名	Japan Studies II : Japanese politics and diplomacy I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150012	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course elucidates the history of Japanese politics and diplomacy. Japan focused on national development after World War II in tandem with the US and other western countries. The course also explains how Japan became one of the major members of the international arena after WWII, and some issues occurred during that time.
Active participation in this course is required.

到達目標

To learn history of Japan's politics and diplomacy after WWII, and to understand Japan's current situation in international community.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay assignment on the related topic of this course
上記以外	60	Class engagement 30%: Active participation in the class is assessed. Presentation and discussion 30%: Group discussion and presentation on the given topic

Attendance is required.

授業外学習

The students are required to update the knowledge of the related topics happening in Japan.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Japan Studies II : Japanese politics and diplomacy I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150012	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Introduction of the course
第2回	Overview of Japanese politics	Outlining the nature of Japanese politics
第3回	Diplomatic history of Japan, 1940s	Japanese diplomacy and politics after World War II
第4回	Diplomatic history of Japan, 1950s	Japanese diplomacy and politics in 1950s
第5回	Diplomatic history of Japan, 1960s	Japanese diplomacy and politics in 1960s
第6回	Diplomatic history of Japan, 1970s	Japanese diplomacy and politics in 1970s
第7回	Diplomatic history of Japan, 1980s	Japanese diplomacy and politics in 1980s
第8回	Diplomatic history of Japan, Post Cold War period	Japanese diplomacy and politics in the post Cold War era
第9回	War memory and responsibility	Some issues related to World War II
第10回	Immigration and human rights	Some issues related to immigration and human rights in Japan
第11回	Security	Security issues in Japan
第12回	Territorial disputes	Territorial disputes with the neighbouring countries
第13回	Business, trade and civil society	Some issues related to business, trade and civil society
第14回	What was postwar Japanese diplomacy?	Sumnarising the Japanese diplomacy after Wold War II
第15回	Round-up	Round-up

担当者から一言

講義名	Japan Studies III : Japanese society and culture I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150013	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course elucidates contemporary Japanese culture and society from various angles. Japan has become one of the largest economies in the world just in 20 years after the end of World War II. However, quite a few social issues coming up during the rapid economic growth in 1960s and 1970s. In addition, Japan has been suffering from the economic downturn and aged society after the collapse of the bubble economy in 1990s. This course gives you a clue to understand issues happened/happening in Japan.
Active participation in this course is required.

到達目標

To learn issues happened/happening in Japan related to culture and society, and to understand Japan's current situation.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay assignment on the related topic of this course
上記以外		Class engagement 30%: Active participation in the class is assessed. Group discussion and presentation 30%: Group discussion and presentation on the given topic

Students need to attend the class.

授業外学習

The students are required to update the knowledge of the related topics happening in Japan.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Japan Studies III : Japanese society and culture I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150013	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Outlining this course
第2回	Social phenomena in Japan and social science	Elaborating the social science view on social phenomena in Japan
第3回	Class and stratification	Issues related to social class in Japan
第4回	Geographical and generational variations	Issues happened/happening in Japan and the difference between areas and generation.
第5回	Forms work in cultural capitalism	Dealing with the issues happened/happening in Japanese business
第6回	Diversity and unity in education	Exploring the issues happened/happening in Japanese education
第7回	Gender stratification and the family system	Explaining the issues happened/happening in Japanese family and between gender
第8回	"Japaneseness", ethnicity, and minority groups	Elucidating "Japaneseness" and ethnic minorities in Japan
第9回	Collusion and competition in the establishment	Explaining the Japanese establishment
第10回	Popular culture and everyday life	Explaining Japanese pop-culture and the daily life
第11回	civil society and friendly authoritarianism	Dealing with the issues happened/happening in the civil society and the Japanese government
第12回	Environment and Energy	Explaining the issues of environmental protection and energy supply
第13回	Nuclear issues	Elucidating the issues related to nuclear energy
第14回	3-11 Earthquake and Fukushima nuclear dsiaster	Explaining the damage of the earthquake on 11 March 2011 and Fukushima disaster after tsunami
第15回	Round-up	Summarising this course

担当者から一言

講義名	Japan Studies IV : Japanese politics and diplomacy II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150014	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course elucidates international relations between Japan and other countries. Japan has been working with the US and other western countries in the international area after World War II. At the same time, Japan has been a unique position towards the other countries, such as Southeast Asia and the Middle East. The course also explains Japan's struggling with the domestic and international issues.
Active participation in this course is required.

到達目標

To learn international relations between Japan and other countries/institutions, and to understand current Japan's situation in international community.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay assignment on the related topic
上記以外	60	Class engagement 30%: Active participation in the class is assessed. Group discussion and Presentation 30%: Group discussion and presentation on the given topic

Attendance is required.

授業外学習

The students are required to update the knowledge of the related topics happening in Japan.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Japan Studies IV : Japanese politics and diplomacy II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150014	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Overview of this course, and other information
第2回	Japan's international relations	Explaining and thinking about the significance of Japan's international relations
第3回	Japan-US relations I	Explaining and thinking about the political and economic relations between Japan and the US
第4回	Japan-US relations II	Explaining and thinking about the economic and security relations between Japan and the US
第5回	Japan-East Asia relations I	Explaining and thinking about the political and economic relations between Japan and East Asia
第6回	Japan-East Asia relations II	Explaining and thinking about the economic and security relations between Japan and East Asia
第7回	Japan-ASEAN relations	Explaining and thinking about the political, economic and security relations between Japan and ASEAN
第8回	Japan-Europe relations I	Explaining and thinking about the political and economic relations between Japan and Europe
第9回	Japan-Europe relations II	Explaining and thinking about the economic and security relations between Japan and Europe
第10回	Japan-Global institutions	Explaining and thinking about Japan's relationship with the UN, World Bank etc.
第11回	Japan-G8 relations	Explaining and thinking about the economic and security relations between Japan and G8 countries
第12回	Japan-other countries' relations	Explaining and thinking about the political, economic and security relations between Japan and other countries, such as Middle East, India and Brazil.
第13回	What's next?	Thinking about the Japan's next diplomatic direction
第14回	Reforming Japan	Legal reform and internationalisation
第15回	Round-up	Summarising the course

担当者から一言

講義名	Japan Studies V : Japanese society and culture II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150015	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This course elucidates contemporary Japanese culture and society from various angles. Japan has become one of the largest economies in the world just in 20 years after the end of World War II. However, quite a few social issues coming up during the rapid economic growth in 1960s and 1970s. In addition, Japan has been suffering from the economic downturn and aged society after the collapse of the bubble economy in 1990s. This course gives you a clue to understand issues happened/happening in Japan.
Active participation in this course is required.

到達目標

To learn issues happened/happening in Japan related to culture and society, and to understand Japan's current situation.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	Essay assignment on the related topic in this course
上記以外	60	Class engagement 30%: Active participation in the class is assessed. Group discussion and presentation 30%: Group discussion and presentation on the given topic

Students need to attend the class

授業外学習

Students are required to update the knowledge of the related topics happening in Japan

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Japan Studies V : Japanese society and culture II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150015	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Outlining this course
第2回	Social foundation I	To learn the issues in Showa-era and Japanese political culture
第3回	Social foundation II	To learn contemporary issues of politics, education and religion
第4回	Social foundation III	To learn Japanese law and society, and urbanisation
第5回	Class, identity and status I	To learn social class and gender issues
第6回	Class, identity and status II	To learn family and ethnic issues
第7回	Class, identity and status III	To learn homeless, aging society and civil sector
第8回	Cool Japan I	To learn contemporary architecture, Japanese film and anime
第9回	Cool Japan II	To learn J-pop music and sports
第10回	Cool Japan III	To learn cultural flows from Japan to East Asia, and to learn cuisine and identity in Japan
第11回	Social dilemmas I	To learn demographic dilemmas, women, minority issues
第12回	Social dilemmas II	To learn mental health violence in school and hidden behind Tokyo
第13回	Institution at risk	To learn the risks of royal family and yakuza
第14回	Risk and consequences	To learn the risks of family and jobs
第15回	Round-up	Summarising the course

担当者から一言

講義名	Intensive Japanese Language and Culture (6-week)							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150016	単位数	8	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This intensive summer course offers more than 80 hours lecture of Japanese language and culture. There will be several excursions, cultural events, and daily opportunities to mix, mingle, and study with regular USP Japanese students. Weekend home-stay also will be offered and students can attain comprehensive understanding of Japanese culture throughout the program.
The textbooks used in this course provide a lot of learning resources and learning support websites by free of charge so that the students can continue to study after returning home.
(https://www.marugoto.org/)

到達目標

1)　To attain a comprehensive understanding of the rich culture of Japan.
2)　To gain practical ability communicating in everyday situations through emphasizing listening and speaking practice.
3)　Based on “Can-Do” statement
Can-do Syllabi are prepared for
(ア)　Beginner
(イ)　Elementary
(ウ)　Low Intermediate
(エ)　Intermediate

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	10	Short Essay Write about one of the field trip you experienced in the program (2-3 pages).
上記以外	90	Attendance and Participation constitutes 35% of your grade. Assignments and quizzes constitute 35% of your grade. Final presentation constitutes 20% of your grade.

Preparation and Participation: Students are expected to complete assignments and be prepared for class. Participation is an important element to your success in this course.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「まるごと　日本のことばと文化　入門」「まるごと　日本のことばと文化　初級１・初級２」「まるごと　日本のことばと文化　初中級」「まる

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Intensive Japanese Language and Culture (6-week)							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150016	単位数	8	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Japanese Language Classes	Monday—Thursday 1st and 2nd period
第2回	Japanese Culture Classes	Monday 4th period You will join "Model America" class with Japanese students.
第3回	Culture Activity/Field Trip With USP Students	Fridays

担当者から一言

講義名	Independent Study I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150017	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業概要

This course is a small research project that a student and a supervisor decide the topic and the content of the project. The student MUST consult with the course coordinator 6 WEEKS BEFORE the course registration period. The course coordinator will find a potential supervisor based on the student's research interest. The student needs to talk with the potential supervisor. When the potential supervisor agrees with the student's research proposal, the student is allowed to register the course. The expected outcome will vary based on the consensus between the supervisor and the student.

到達目標

To acquire a deeper knowledge of the area of study. This includes the acquisition of the research methods and of the writing method of the research paper.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	The student needs to talk with the supervisor for the consultation time in addition to the final product of this course.

授業外学習

The student is expected to work hard on the research project.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The reading list will be given by the supervisor.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The reading list will be given by the supervisor.

前提学力等

The student needs to have some specific knowledge of the proposed area of research. The student is expected to be independent on the research project.

履修資格

講義名	Independent Study I							担当教員	島田　和久
講義コード	1150017	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Introduction of the research project. The student might need to give a presentation of the research project.
第2回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第3回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第4回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第5回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第6回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第7回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第8回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第9回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第10回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第11回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第12回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第13回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第14回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第15回	Wrap-up	The student needs to submit a final report/give a final presentation of your research project.

担当者から一言
The student MUST consult with the course coordinator 6 WEEKS BEFORE the course registration.

講義名	Independent Study II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150018	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業概要

This course is a small research project that a student and a supervisor decide the topic and the content of the project. The student MUST consult with the course coordinator 6 WEEKS BEFORE the course registration period. The course coordinator will find a potential supervisor based on the student's research interest. The student needs to talk with the potential supervisor. When the potential supervisor agrees with the student's research proposal, the student is allowed to register the course. The expected outcome will vary based on the consensus between the supervisor and the student.

到達目標

To acquire a deeper knowledge of the area of study. This includes the acquisition of the research methods and of the writing method of the research paper.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	The student needs to talk with the supervisor for the consultation time in addition to the final product of this course.

授業外学習

The student is expected to work hard on the research project.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The reading list will be given by the supervisor.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

The reading list will be given by the supervisor.

前提学力等

The student needs to have some specific knowledge of the proposed area of research. The student is expected to be independent on the research project.

履修資格

講義名	Independent Study II							担当教員	島田　和久
講義コード	1150018	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Introduction of the research project. The student might need to give a presentation of the research project.
第2回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第3回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第4回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第5回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第6回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第7回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第8回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第9回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第10回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第11回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第12回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第13回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第14回	Research project	Doing the research. The student might need to consult with the supervisor regularly.
第15回	Wrap-up	The student needs to submit a final report/give a final presentation of your research project.

担当者から一言
The student MUST consult with the course coordinator 6 WEEKS BEFORE the course registration.

講義名	異文化理解Ａ							担当教員	国際交流委員会
講義コード	1150020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM112								

授業概要

夏季休業中の３週間、アメリカオレゴン州のポートランド州立大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、午前の英語の講義と午後の選択科目（ボランティア、ポートランドポップカルチャー、ホスピタリティから一つ選択）を基本に、週末は周辺地域でのフィールドトリップで構成されています。現地での宿泊はホームステイとなり、現地の一般家庭に滞在し、日常生活からも英語会話能力および異文化理解能力を培います。また、出発前には本学において英語集中講座を受講します。

到達目標

英語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、アメリカの自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	終了後に提出するレポートおよび課題発表会。
上記以外		

修了後に提出するレポート（１００%）。評価は「認定」となります。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

現地での講義や説明は全て英語で行われるので、受講者には英語で質疑応答が出来る語学力と積極性が求められます。定員は15名とし、希望者数が定員を超えた場合は、語学力に基づき選抜を行います。

履修資格

講義名	異文化理解A							担当教員	国際交流委員会
講義コード	1150020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM112								

授業計画		
回数	タイトル	概要

担当者から一言

講義名	異文化理解Ｂ							担当教員	国際交流委員会
講義コード	1150030	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM113								

授業概要

春季休業中の３週間、中国湖南省の湖南師範大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、中国語の講義と大学周辺地域でのフィールドトリップや中国文化の演習とが組み合わされています。それ以外に、出発前には本学において、中国語講座を受講します。また現地では、中国湖南地方の伝統的な食事を体験します。

到達目標

中国語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、中国の自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	終了後に提出。評価は「認定」となります。
上記以外		

修了後に提出するレポート（１００%）。評価は「認定」となります。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。

前提学力等

中国語の講義は英語で行われます。またフィールドトリップの説明は、湖南師範大学のスタッフにより日本語に通訳され、日常生活についても日本語での会話が可能な湖南師範大学の学生が同行しますので、中国語力は特に問いません。受講希望者が定員１５名を超えるときは、３・４回生を

履修資格

講義名	異文化理解Ｂ							担当教員	国際交流委員会
講義コード	1150030	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM113								

授業計画		
回数	タイトル	概要

担当者から一言
募集説明会を7月に実施します。また最少催行人数（4名）に達しない場合は開講されない場合があります。

講義名	栄養と人間/							担当教員	小澤　恵子
講義コード	1150035	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM177								

授業概要

エネルギーや栄養素の必要量は、個々人によって違いがある。栄養状態のアセスメント法を習得し、評価にあわせた栄養ケアが提案できるよう、栄養素の名前、栄養素の働きを学習する。
健康な生活を維持するため、日常の食生活を見直すと共に、臨床栄養について学習し、各種疾患に対する栄養素のかかわりと、治療食を理解する。

到達目標

(1) 栄養状態のアセスメントの重要性を理解し、アセスメント法を習得する。
(2) 生命体および人間にとっての栄養の意義を理解する。
(3) 人体の成長、健康の維持・増進に向けての知識・技術を習得する。
(4) 臨床において疾患の治療に向けた知識・技術を習得する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	
レポート課題		
上記以外	20	レスポンスカードにより、授業の理解度と授業に対する取り組み態度を評価する。（20%）

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能③	小野　杉山　鈴木　外山　中村	医学書院	978－4－260－01993－4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	栄養と人間/							担当教員	小澤　恵子
講義コード	1150035	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM177								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	人間栄養学と看護	「栄養」及び「栄養素」の理解 食事における看護師の役割
第2回	栄養状態の評価・判定	栄養状態のアセスメント法（身体計測の方法・臨床検査の見方・食事調査）
第3回	栄養素の種類と働き	５大栄養素（炭水化物・たんぱく質・脂質・ビタミン・ミネラル）の代謝と働き 日本人の食事摂取基準について
第4回	栄養ケアマネジメント	症例検討
第5回	栄養ケアマネジメント	症例検討の振り返り
第6回	ライフステージと栄養①	乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・妊娠期・授乳期
第7回	ライフステージと栄養②	更年期・高齢期
第8回	ライフステージと栄養③	嚥下について
第9回	栄養管理法の選択	栄養管理法の種類と選択の条件 経腸栄養法（経鼻・胃ろう）・静脈栄養法（抹消静脈・中心静脈）
第10回	臨床栄養①	病院食について（一般食・特別食）
第11回	臨床栄養②	糖尿病食
第12回	臨床栄養③	減塩食（高血圧症・循環器疾患・腎疾患・透析）
第13回	臨床栄養④	癌の栄養　食物アレルギーについて
第14回	臨床栄養	褥瘡の栄養
第15回	健康つくりと栄養	食品と食品群・食文化

担当者から一言

講義名	近江文化論/							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1150040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

近江の持つ地域的特性とそれを基盤とする文化の特質を歴史学的視点から探る。近年、近江の文化・歴史に関する研究が盛んである。その成果の一端を紹介していく。特に、近江文化の持つ歴史性に注目し、古代から現代への展開を追う。

到達目標

(1)近江の歴史に関する基礎知識を理解し、それを日本の歴史との比較を通して論じることが出来る。
(2)近江の文化に関する基礎知識を理解し、それを日本の文化との比較を通して論じることが出来る。
(3)近江の歴史と文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業のレスポンスカード　30パーセント まとめの確認テスト　７０パーセント

授業外学習

適宜行う

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	近江文化論/							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1150040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の概要を説明する。
第2回	近江の風景	映像資料を使い、近江の近現代史を確認する。
第3回	継体天皇と近江	継体天皇と近江について説明する。
第4回	紫香楽宮	紫香楽宮について説明する。
第5回	信楽焼き	映像資料を使い、信楽焼きの説明を行う。
第6回	藤原仲麻呂の夢	藤原仲麻呂と近江について説明する。
第7回	湖上交通と湖賊	中世の湖上交通について説明する。
第8回	映画『雨月物語』	中世近江を舞台とする映画について説明する。
第9回	近江の中世城郭	近江の中世城郭について説明する。
第10回	安土城	安土城について説明する。
第11回	博物館へ行こう	各自、県内の博物館の観覧を行う。
第12回	おあん物語	中世近江を舞台とする物語について説明する。
第13回	オーミケンシ人権闘争	オーミケンシ人権闘争について説明する。
第14回	湖と生きる	近江に琵琶湖がある意味を考える。
第15回	まとめ	まとめとして確認テストを行う。

担当者から一言

講義名	環境マネジメント総論/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1150060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

他者と共感し豊かな対話の中で育まれる地域共生の意義を理解し、自ら率先して地域で実践することの大切さを学ぶ。本授業は、本学学生が身につけることを目指す能力：変革力を構成する「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」の3 のうち、「コミュニケーション力」の育成に重点をおいた導入科目として位置づける。環境、工学、人間文化、人間看護の各分野から提起される「地域共生」に係る課題、提示される観点、提供される事例を踏まえ、グループ討議を繰り返しながら「自己」「他者」「地域」それぞれの特性への理解を深めるとともに、各自のスキルの向上をめざす。

到達目標

(1) 自己の強みや弱みを把握できる。（自己認識）
(2) 自己の意見、他者意見の対話を通じて成果物を作成することができる。（協働力・統率力）
(3) 他者・地域とのコミュニケーションをはかるための基礎的な作法を身につけている。（親和力）
(4) 自己の考えを自分の言葉で整理し、他者に発信できる。（自信創出力）

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	個人成果物の評価、チーム成果物の評価、チームプレゼンテーションの評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

補助教材（ワークブック）を用いる

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始日前に、教材（ワークブック）を生協にて購入のこと

前提学力等

履修資格

講義名	環境マネジメント総論/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1150060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	コミュニケーションとは何か	
第3回	人間看護学部担当	
第4回	アセスメントテスト	（一般教室にて）
第5回	人間看護学部担当	
第6回	工学部担当	
第7回	工学部担当	
第8回	工学部担当	
第9回	環境科学部担当	都市と田舎での暮らしについて学び、自らのライフスタイルについて考える。
第10回	環境科学部担当	
第11回	環境科学部担当	
第12回	人間文化学部担当	
第13回	人間文化学部担当	
第14回	人間文化学部担当	
第15回	アセスメントテスト解説および授業総括	

担当者から一言

講義名	機械技術と人間/							担当教員	山根　浩二
講義コード	1150090	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

授業概要：日常生活には，多くの機械や道具が使われているが，その基本となっているのは，てこ，滑車，ねじ，歯車，カムなどの紀元前に考案され使用されてきたものである．日頃から私たちが使用し親しんでいる機械や道具類の仕組みを知ることは，さらなる便利な使いやすい機械やおもしろい動作をする機械をつくるヒントになる．そこで，本講義では，日常接している機械を例にとり，いかに巧みな機械要素が利用されているのかを説明し，機械要素を再発見する．講義は，機械に興味をもっているが，機械に関する専門的な知識がない人でも理解できる内容とする．

キーワード：メカニズム，機械，器械，道具，機構，デザイン

到達目標

（1）基本的な機械要素の名称が言える
（2）基本的な機械要素を説明できる
（3）いくつかの機械要素からなる機械や道具を挙げることができる
（4）新たなメカニズムなどについて多面的に論述できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	第１４週以降の範囲で到達目標（１）～（３）の到達度の総計で18ポイント，（４）に関して12ポイント，合計３０ポイントとします．
レポート課題	45	到達目標(１)～(３)に関して各15ポイントで，合計45ポイントで評価します．講義毎のワークシートをすべて提出すれば，この60ポイント，１回欠けると5ポイント減としてます．
上記以外	25	第７週までの範囲で到達目標（１）～（３）の到達度の総計で25ポイントとします．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配付します．

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて参考書を紹介します．

前提学力等

履修資格

講義名	機械技術と人間/							担当教員	山根　浩二
講義コード	1150090	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	講義の進め方，身近な機械や道具を動画などを用いて紹介し，本講義で何を身につけるか説明します．（次週事前学習として，数名の各グループで身近な機械や道具を取り上げてその機構を簡単に紹
第2回	身近な機械や道具の話	前週の事前学習である数名の各グループによる身近な機械や道具とその機構の紹介
第3回	基礎的なメカの話	種々の機構に関する概要を説明し，次週以降の予備知識とします．
第4回	てこークランク機構など力を拡大する話	木の板を利用して４節クランク機構を組み立て体験し，仕組みを学びます（木片やビスなどの教材は教員側が準備します）
第5回	歯車など速度を変える話	手動鉛筆削りを分解して，遊星歯車がどのように機能しているのか学びます（手動鉛筆削りは教員側が準備します）
第6回	バネなど力を蓄える話	プルバックカーの力を蓄えるメカを，実際にプルバックカーと組み立てて学びます（教材は教員側が準備します）
第7回	自動車部品の中の様々なメカの話	自動車の用いられているさまざま部品とそのメカを動画で学びます．
第8回	中間まとめ	前週まで学んだメカの復習を設問形式で答えてもらいます．
第9回	ちょっと一息＝計算尺の話	「計算尺」を実際に使ってみて，有効数値や数値を丸めることを学びます（紙製の計算尺は，人数分，教員側が準備します．講義終了後，計算尺は持参可）
第10回	逆止弁など方向を制限する話	ウォーターハンマー（水撃）ポンプを動画で紹介し，水流を一方向に制限することで起こる現象とそれを利用したメカを学びます．
第11回	自動車のデザインの変遷の話－１	代表的な国産乗用車を例に，ボディーデザインの変遷について紹介し，デザインから使われているメカを学びます．
第12回	自動車のデザインの変遷の話－２	海外の乗用車を含めて機械の意匠デザインの今後について学びます．
第13回	永久機関の話	永久機関はほんとうに実現しないのか，永久機関とは何かについて学びます．
第14回	新たな機械の再発見	３Ｄプリンタの原理やどんなモノが作れるのか，実際に３Ｄプリンタを見学し体験する
第15回	まとめ	前週までの内容に関して設問形式で復習し，さらに将来の機械や道具について多面的に論述する．

担当者から一言

講義名	現代経済論							担当教員	鈴木　康夫※
講義コード	1150110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM111								

授業概要

現代経済の基本的な性質や機能とその役割、問題点について概略的に学ぶ。ミクロとマクロの両面から経済の諸側面（：景気と物価、国際経済、産業、雇用、経営、財政、金融など）について初歩的な内容を学ぶ。また、日本経済の代表的な現象を参考にして、歴史・文化・制度と構造、理論、政策に関するその基本的な学習を行う。

到達目標

（1）基礎的な経済学の知識を習得する。（2）基礎的な経済理論を理解する。（3）新聞の経済欄やニュースを理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	８０	到達目標（1）と（2）のための基礎知識の理解度に基づき定めた配点にしたがって評価する。
レポート課題	２０	到達目標（1）と（2）に基づく（3）のための基礎知識の理解度に基づき問題意識の的確さや論説の構成・整合性・重要度・説得力などの内容を評価する。 なお、授業の展開によっては他の形式の課題に代替することもある。
上記以外	０	

なお、授業の進行によってはレポート提出を到達度確認小テストや他の形の課題で代替することがあります。あるいは、課題の評価を加え、定期試験（レポート試験の予定は無い）の評価と総合して成績を決定する。

授業外学習

授業は主にノート講義になる予定なので、学習した範囲について一般の経済学入門書で復習または予習を図書館等の書籍で行うことが望ましい。また、新聞や雑誌の経済欄を時々読むこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ケインズ革命とマクロ経済学	鈴木康夫	昭和堂	4-8122-0301-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	授業で提示します。			
2				
3				

教科書ではカバーできないところもあるが、授業中に適宜補足する。

前提学力等

履修資格

講義名	現代経済論							担当教員	鈴木　康夫※
講義コード	1150110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM111								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	経済学と日本経済について	経済と社会、環境、日本のあゆみを大まかに概観しながら、経済問題と経済学について導入的な講義を行う。近代における歴史・文化・制度、構造を、日本経済について概観をしながら、基本的な知識
第2回	経済の見方とその基本的な知識	イギリス等の西欧の近代化を参考にして、歴史・文化・制度、構造、理論、政策について経済学の体系の大まかな概観を学び、初学者のための導入的な基礎知識を学習する。
第3回	経済学と市場経済の基本的な体系と基礎知識	市場経済の過去と現在そして社会主義経済、ミクロ経済学とマクロ経済学の役割と関係、市場均衡ないし需要・供給の原理について学ぶ。
第4回	市場とミクロ経済	市場とミクロ経済、特に市場の機能と企業と消費者の行動について学ぶ。
第5回	市場とミクロ経済	市場とミクロ経済、特に企業と産業の組織・構造について学ぶ。
第6回	市場とミクロ経済と資源配分	市場とミクロ経済と資源配分について市場の余剰を学び、市場の厚生について学ぶ。
第7回	市場と産業の政策と資源配分の諸問題	市場の規制や統制および産業政策について学ぶ。産業構造と国民経済の関係についても学び、マクロ経済学についての導入を準備する。
第8回	マクロ経済の基本的な考え方	市場経済とマクロ経済、特に物価、金利やGDP等の基本概念について学ぶ。またケインズ等の古典の内容についても概説する。
第9回	マクロ経済と日本の経済	マクロ経済の考え方、特に有効需要の原理や乗数理論を学び、日本のマクロ経済の推移についても学ぶ。
第10回	マクロ経済と経済政策	基本的なマクロ経済政策を学び、日本のインフレ経験と経済政策についても学ぶ。
第11回	インフレとデフレと日本経済	バブル崩壊と日本経済、マクロ経済政策について学ぶ。また、インフレやデフレの影響についても学ぶ。
第12回	バブル崩壊と日本経済及び経済政策	バブル崩壊と日本経済、経済政策および財政・公共経済について現代経済の課題・問題点について学ぶ。
第13回	国際経済と国際関係の諸問題	日本と国際経済、グローバル化、現代の経済問題と世界経済の諸問題について学ぶ
第14回	経済学及び現代経済についてのまとめ	基礎的な範囲の内容についてまとめと補足を行う。
第15回	補足および試験	残った補足を行い、かつ試験する。

担当者から一言
経済問題は日常生活でも重要なので、報道や新聞雑誌の記事に興味を持ってなるべく読んでほしい。

講義名	国際環境マネジメント/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150112	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

アジアの環境問題をそれが生起している場の自然条件および社会条件と合わせて理解し、その解決策を検討する能力を海外現地教員による講義、事例調査とワークショップを通じて養うことを目標とする。そのために、問題を俯瞰的にとらえる能力、異なる社会的・文化的背景を有する人々とのコミュニケーション能力、専門的知識を問題解決に応用する能力を養う。授業の形態は、海外（アジア地域）の大学と連携し、アジア地域の環境問題の現場を対象とした講義、フィールドワーク、ワークショップ形式で行うこととする。使用言語は英語とする。夏季休暇中または後期定期試験終了後に10日間程度の海外集中プログラムとして実施する。

到達目標

(1) アジアの環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。
(2) アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションできる。
(3) 本コースで学んだ知識に基づき、具体的な環境問題解決策を提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す（1）、（2）、（3）については、ワークショップ・最終プレゼンテーション（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）、ならびに事前学習参加状況・最終レポート（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）により評価する。

授業外学習

事前学習と帰国後のレポート作成・提出を課す。また、海外での集中講義期間中に、ワークショップの準備のための課題を適宜課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語でのコミュニケーションがある程度できる学力を有していること。概ねTOEICスコア550点以上の学力を基準とする。

履修資格

講義名	国際環境マネジメント/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150112	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1日目　問題理解（オリエンテーション、講義）	現地の環境問題について理解する。
第2回	第2日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第3回	第3日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第4回	第4日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第5回	第5日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第6回	第6日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第7回	第7日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第8回	第8日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第9回	第9日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第10回	第10日目　学習成果のプレゼンテーション	学習成果について発表する。

担当者から一言
国際環境マネジメントⅡとあわせて履修定員は15名とする。履修希望者が15名を越えるときはTOEICスコア上位者を優先する。 夏季休暇中、あるいは後期定期試験終了後に実施する10日間程度の集中科目である。ベトナム、タイ、インドネシア等アジア諸国の大学と提携

講義名	国際環境マネジメントⅠ/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150113	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM117								

授業概要

アジアの環境問題をそれが生起している場の自然条件および社会条件と合わせて理解し、その解決策を検討する能力を海外現地教員による講義、事例調査とワークショップを通じて養うことを目標とする。そのために、問題を俯瞰的にとらえる能力、異なる社会的・文化的背景を有する人々とのコミュニケーション能力、専門的知識を問題解決に応用する能力を養う。授業の形態は、海外（アジア地域）の大学と連携し、アジア地域の環境問題の現場を対象とした講義、フィールドワーク、ワークショップ形式で行うこととする。使用言語は英語とする。夏季休暇中または後期定期試験終了後に10日間程度の海外集中プログラムとして実施する。

到達目標

(1) アジアの環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。
(2) アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションできる。
(3) 本コースで学んだ知識に基づき、具体的な環境問題解決策を提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す（1）、（2）、（3）については、ワークショップ・最終プレゼンテーション（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）、ならびに事前学習参加状況・最終レポート（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）により評価する。

授業外学習

事前学習と帰国後のレポート作成・提出を課す。また、海外での集中講義期間中に、ワークショップの準備のための課題を適宜課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Environmental Studies in Asia（非売品/配布予定）

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語でのコミュニケーションがある程度できる学力を有していること。概ねTOEICスコア550点以上の学力を基準とする。

履修資格

講義名	国際環境マネジメントⅠ/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150113	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM117								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1日目　問題理解（オリエンテーション、講義）	現地の環境問題について理解する。
第2回	第2日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第3回	第3日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第4回	第4日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第5回	第5日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理する。
第6回	第6日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第7回	第7日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第8回	第8日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第9回	第9日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題について解決策を検討する。
第10回	第10日目　学習成果のプレゼンテーション	学習成果について発表する。

担当者から一言
国際環境マネジメントⅡとあわせて履修定員は15名とする。履修希望者が15名を越えるときはTOEICスコア上位者を優先する。 夏季休暇中、あるいは後期定期試験終了後に実施する10日間程度の集中科目である。ベトナム、タイ、インドネシア等アジア諸国の大学と提携

講義名	国際環境マネジメントII/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150114	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM118								

授業概要

本科目は、国際環境マネジメントⅠの経験者が、さらに進んだ能力、すなわち異文化間での合意形成能力の養成を行うためのものである。国際環境マネジメントで養成する能力に加え、日本を除く複数のアジアの国々を俯瞰的にとらえ、コミュニケーション、問題解決につなげる能力を養成する。国際環境マネジメントのプログラムに参加し、より主導的に講義、フィールドワーク、ワークショップに臨むこととなる。

到達目標

(1) アジアの日本以外の複数の国々の環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。
(2) (1) を踏まえて、アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションし、合意形成に主導的な役割を果たすことができる。
(3) (1) を踏まえて、本コースで学んだ知識に基づき、具体的な環境問題解決策を提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す（1）、（2）、（3）については、ワークショップ・最終プレゼンテーション（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）、ならびに事前学習参加状況・最終レポート（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）により評価する。

授業外学習

事前学習と帰国後のレポート作成・提出を課す。また、海外での集中講義期間中に、ワークショップの準備のための課題を適宜課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語でのコミュニケーションがある程度できる学力を有していること。概ねTOEICスコア550点以上の学力を基準とする。

履修資格

講義名	国際環境マネジメントII/							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150114	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM118								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1日目　問題理解（オリエンテーション、講義）	現地の環境問題について理解する。
第2回	第2日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理をする。
第3回	第3日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理をする。
第4回	第4日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理をする。
第5回	第5日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題について再整理をする。
第6回	第6日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題についての解決策を検討する。
第7回	第7日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題についての解決策を検討する。
第8回	第8日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題についての解決策を検討する。
第9回	第9日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題についての解決策を検討する。
第10回	第10日目　学習成果のプレゼンテーション	学習成果を発表する。

担当者から一言
履修定員は国際環境マネジメントIとあわせて15名とする。履修希望者が15名を越えるときはTOEICスコア上位者を優先する。 夏季休暇中、あるいは後期定期試験終了後に実施する10日間程度の集中科目である。ベトナム、タイ、インドネシア等アジア諸国の大学と提携し

講義名	国際協力論							担当教員	島村　一平
講義コード	1150115	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この科目では、国際協力活動の理念と実際について、青年海外協力隊を中心とした国際ボランティア活動の実践者たちを招き語ってもらう。それと同時に授業の参加学生と積極的に議論を交わす講義＋討論のワークショップの形をとるものとする。講師は毎回変わるオムニバス形式とし、受講生はアフリカ、アジア、南米、ヨーロッパ各地における生きた経験の語りから国際協力活動の魅力や援助を実施する上での諸問題に関する理解を深める。それぞれの講師は国際協力事業団および「びわ湖JICAボランティア応援団」の協力の下に選定した。実際に国際協力への関心が高い諸君の参加を期待する。

到達目標

(1) 講師の話から国際協力に対する関心を高める
(2) 討論に積極的に参加することで、国際協力における諸問題に関する問題解決能力を身につける.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80%	課題：経済格差や貧困、安全な水を確保、教育の提供といった世界の諸問題を是正するために1つの対象国（地域）を選んで、具体的なプロジェクトを起案せよ。
上記以外	20%	授業中の質問は一回につき1点加点。 ワークショップ形式の場合、優秀なグループに3点～2点加点。

質問したり、優秀な発表をすればするほど加点されるシステムです。積極的にどんどん発言していってください。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

なし

履修資格

講義名	国際協力論							担当教員	島村　一平
講義コード	1150115	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論：国際協力とは何か	概論として、国際協力とは何か、その実際と現実について、講師の経験も交えながら、話していく。

講義名	アジア・フィールド実習Ⅰ							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150116	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

アジアの環境問題および持続可能な発展への課題（以下、環境問題等）をそれが生起している場の自然条件および社会条件と合わせて理解し、その解決策を検討する能力を海外現地教員による講義、事例調査とワークショップを通じて養うことを目標とする。そのために、問題を俯瞰的にとらえる能力、異なる社会的・文化的背景を有する人々とのコミュニケーション能力、専門的知識を問題解決に応用する能力を養う。授業の形態は、海外（アジア地域）の大学と連携し、アジア地域の環境問題等の現場を対象とした講義、フィールドワーク、ワークショップ形式で行うこととする。使用言語は英語とする。夏季休暇中または後期定期試験終了後に10日間程度の海外集中プログラムとして実施する。

到達目標

(1) アジアの環境問題等を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。
(2) アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションできる。
(3) 本コースで学んだ知識に基づき、具体的な環境問題等の解決策を提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す（1）、（2）、（3）については、ワークショップ・最終プレゼンテーション（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）、ならびに事前学習参加状況・最終レポート（50%:（1）20%,(2)20%,(3)10%）により評価する。

授業外学習

事前学習と帰国後のレポート作成・提出を課す。また、海外での集中講義期間中に、ワークショップの準備のための課題を適宜課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語でのコミュニケーションがある程度できる学力を有していること。概ねTOEICスコア550点以上の学力を基準とする。

履修資格

講義名	アジア・フィールド実習Ⅰ							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150116	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1日目　問題理解（オリエンテーション、講義）	現地の環境問題等について理解する。
第2回	第2日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理する。
第3回	第3日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理する。
第4回	第4日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理する。
第5回	第5日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理する。
第6回	第6日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等について解決策を検討する。
第7回	第7日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等について解決策を検討する。
第8回	第8日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等について解決策を検討する。
第9回	第9日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等について解決策を検討する。
第10回	第10日目　学習成果のプレゼンテーション	学習成果について発表する。

担当者から一言
アジアフィールド実習Ⅱとあわせて履修定員は15名とする。履修希望者が15名を越えるときはTOEICスコア上位者を優先する。 夏季休暇中、あるいは後期定期試験終了後に実施する10日間程度の集中科目である。ベトナム、タイ、インドネシア等アジア諸国の大学と提携

講義名	アジア・フィールド実習II							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150117	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本科目は、アジアフィールド実習Ｉの経験者が、さらに進んだ能力、すなわち異文化間での合意形成能力の養成を行うためのものである。アジアフィールド実習Ｉで養成する能力に加え、日本を除く複数のアジアの国々を俯瞰的にとらえ、コミュニケーション、問題解決につなげる能力を養成する。アジアフィールド実習のプログラムに参加し、より主導的に講義、フィールドワーク、ワークショップに臨むこととなる。

到達目標

(1) アジアの日本以外の複数の国々の環境問題等を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。
(2) (1) を踏まえて、アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションし、合意形成に主導的な役割を果たすことができる。
(3) (1) を踏まえて、本コースで学んだ知識に基づき、具体的な環境問題解等の解決策を提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す（１）、（２）、（３）については、ワークショップ・最終プレゼンテーション（50%:（１）20%,(2)20%,(3)10%）、ならびに事前学習参加状況・最終レポート（50%:（１）20%,(2)20%,(3)10%）により評価する。

授業外学習

事前学習と帰国後のレポート作成・提出を課す。また、海外での集中講義期間中に、ワークショップの準備のための課題を適宜課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語でのコミュニケーションがある程度できる学力を有していること。概ねTOEICスコア550点以上の学力を基準とする。

履修資格

講義名	アジア・フィールド実習II							担当教員	丸尾　雅啓／高橋　卓也／原田　英美子
講義コード	1150117	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1日目　問題理解（オリエンテーション、講義）	現地の環境問題等について理解する。
第2回	第2日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理をする。
第3回	第3日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理をする。
第4回	第4日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理をする。
第5回	第5日目　問題再整理（講義、フィールドワーク、ワークショッ	現地の環境問題等について再整理をする。
第6回	第6日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等についての解決策を検討する。
第7回	第7日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等についての解決策を検討する。
第8回	第8日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等についての解決策を検討する。
第9回	第9日目　問題解決追求（フィールドワーク、ワークショップ）	現地の環境問題等についての解決策を検討する。
第10回	第10日目　学習成果のプレゼンテーション	学習成果を発表する。

担当者から一言
履修定員はアジアフィールド実習Ⅰとあわせて15名とする。履修希望者が15名を越えるときはTOEICスコア上位者を優先する。 夏季休暇中、あるいは後期定期試験終了後に実施する10日間程度の集中科目である。ベトナム、タイ、インドネシア等アジア諸国の大学と提携し

講義名	こころのテクノロジー							担当教員	細馬　宏通
講義コード	1150130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM171								

授業概要

最近の神経科学の発達によって、わたしたちの言語がどのような神経学的な背景によって産み出されているのかについて、さまざまな知見が蓄積されつつあります。この講義では、初学者にもわかるよう、脳科学の基礎から始めて、ことばの理解や産出、読み書き、手話など、わたしたちのさまざまな言語活動の神経学的基盤について考えます。ことばの産み出されるしくみ、ことばをわかるしくみについて考えたい人の受講を歓迎します。

到達目標

(1)脳科学、神経科学の基礎的な手法と考え方を自力で論じることができるようになる。
(2)言語がのさまざまな側面と脳科学との関係を理解することができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	脳構造の基本的な知識、および言語の脳における基盤に関する重要概念の理解を求める。
レポート課題		
上記以外	50%	小レポート（随時）：講義中に脳構造の基本的な知識、および言語の脳における基盤に関する簡単な質問を行い小レポートとして提出してもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に随時プリントを配布する。

前提学力等

高校程度の学力があればよい。

履修資格

講義名	こころのテクノロジー							担当教員	細馬　宏通
講義コード	1150130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM171								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	失語症研究から脳科学へ。
第2回	脳科学の基礎：神経のしくみ	生物学的な神経のしくみの基礎を論じる。
第3回	脳科学の基礎：大脳のしくみ	前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳基底核、辺縁系などの機能についてその概要を論じる。　また、fMRIなど、脳機能を視覚化する方法について解説する。
第4回	脳科学の基礎：大脳のさまざまな呼称	回、溝、そして野の概念について。またブロードマンの脳地図について論じる。これらの部位の名称を用いて、脳機能の概要を捉え直す。特に言語を論じるときにしばしば用いられる側頭葉の細かい部
第5回	失語症研究その後の発展	ウェルニッケ、ブローカ領域の研究がもたらしたものを考え、言語処理を行う脳内機構の基礎を考える。発語の理解、産出、復唱に注目しながら、最近の失語症研究について述べる。
第6回	音声学と言語学	音声学の基礎。波形の見方、周波数、フォルマントの概念について。子音と母音の性質の違い。
第7回	Praatで見ることばの音	音声分析ソフトPraatを用いて簡単な音声分析を行いながら、音声の性質を記述する方法に親しむ。
第8回	発語の理解	側頭葉、前頭葉で起こっている発話理解のしくみについて論じる。　また他の部位との関連を解説する。
第9回	発語の産出	発語産出のモデル、DIVA・モデルについて論じる。聴覚的なフィードフォワードとフィードバックが脳のどのような部位によって担われているかを概説する。
第10回	プロソディ	語の音調に関わるプロソディの問題を、情動的プロソディと言語的プロディの二側面について論じる。最近明らかになってきた右脳や大脳基底核によるプロソディ調節についても触れる。
第11回	読み書き	読むこと、書くことを通じて、視覚、運動系と言語との相互作用を考える。
第12回	手話	手話言語と音声言語との類似性と違いに焦点を当て、わたしたちの言語基盤がモダリティ間でどう相違しているかを論じる。　また、最近の脳イメージ研究から明らかになってきた手話における脳処理
第13回	語の意味	名詞、動詞、抽象語を題材に、語の意味を処理する脳内機構について論じる。
第14回	形態	オノマトペを中心に語の形態がどのように脳内で処理されているかを論じる。
第15回	まとめ	これまでのまとめ。

担当者から一言

講義名	材料史							担当教員	Balachandran Jeyadevan／北村　千寿
講義コード	1150140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM132								

授業概要

人類は日々の生活を便利に、快適に、そして活動しやすくするためにいろいろな材料を見いだし、利用し、今日の文明を築き上げてきた。現在の豊かな暮らしは有史以来の材料の発達の結果であり、新しい材料の発見は時には歴史を変える役割もしてきた。このような材料の発達の経過と材料が社会の進歩に貢献してきた歴史について、それらの材料を金属・セラミックスなどの無機材料と繊維、高分子などの有機材料に分けて説明し、ものづくりの大切さについて理解を深める。
第1～7回はJeyadevan が担当し、第8～14回は北村 が担当する。
キーワード：　歴史、青銅、鉄、セラミックス、レアメタル、無機材料、有機材料、ゴム、紙、繊維、漆、接着剤

到達目標

（1）青銅器時代から始まり鉄器時代に至る金属の歴史を理解すること。
（2）セラミックスやレアーメタルなどの新しい材料の発展について理解する。
（3）多様な有機材料の特性を理解し説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す(1),(2)については授業中の課題・レポート(50%)で、(3)については授業中の課題・レポート(50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
上記以外		

第１回から第７回までと第８回から第１４回まででそれぞれ課題・レポートを適宜与える。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	金属と日本人の歴史	桶谷繁雄	講談社	978-4061597723
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	材料史							担当教員	Balachandran Jeyadevan／北村　千寿
講義コード	1150140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM132								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	古代の材料	石器時代から青銅器時代へ
第2回	鉄の使用	古代の鉄の使用とその伝播
第3回	ローマ時代と中世ヨーロッパでの金属材料の発達	鉄鋼、非鉄鋼
第4回	産業革命と鉄工業の発達	精錬技術
第5回	日本における金属の歴史	銅鏡からたたら製鉄、現在の製鉄まで
第6回	セラミックスの発達の歴史	ガラス、ファインセラミックス
第7回	レアーメタルおよび新しい無機材料の発展と未来	磁石材料、半導体
第8回	有機材料	有機材料の分類
第9回	紙の歴史	パピルス、羊皮紙、紙、和紙
第10回	ゴム	天然ゴム、合成ゴム
第11回	天然繊維	麻、綿、絹、羊毛
第12回	合成繊維１	半合成繊維（天然繊維の化学的な修飾）
第13回	合成繊維２	合成繊維（天然材料以外から作る繊維）
第14回	漆、接着剤	漆、糊
第15回	理解度の評価	まとめ

担当者から一言

講義名	差別と人権（同和問題）							担当教員	大脇　万起子／山田　稔※／山本　興正※
講義コード	1150150	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM151								

授業概要

山田稔： 人権問題とはそもそも何か、人権問題と差別問題について踏み込んで考える。そのために、部落問題やいじめ・薬害被害・労働者の人権など、人権が侵害されている具体的な事例を取りあげ、考察する。

滋賀県男女共同参画センター　職員：

山本 興正：朝鮮人（とくに在日朝鮮人）からみた近現代日本の差別と人権。日朝関係史において、日本にとって朝鮮、朝鮮人とはどのような存在であったのか、また逆に朝鮮人にとって日本、日本人とはどのような存在であったのかを学ぶ。そうした観点から近現代の日朝関係史を学んだのち、ヘイトスピーチ問題に象徴される排外主義、レイシズムとどう向き合 うべきか考える。

大脇万起子：身近にある人権を脅かす事象の被害者および加害者にならないために、国内外の様々な「差別と人権」に関する事象を具体的に学習して課題意識を高め、有効な予防策や対応策について検討する。

到達目標

(1)　様々な人権問題、差別問題に対して、当事者への深い洞察力を持ち、その感情に共感できる態度を形成する。
(2)　様々な人権問題、差別問題に対して、科学的に評価・判断し、解決のための方策を考えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	100%	形態は、各担当者より、授業開始時説明する。
上記以外	0%	

山田担当分および大脇担当分は出席確認が行われ、各担当2回以上欠席した場合は評価の対象としない。なお、裵担当分は出席確認はない。
山田担当分・裵担当分の各レポートの提出（期日厳守）および大脇担当分の毎回のレポート（小試験）3回以上の提出がある者を評価の対象とする。

授業外学習

予習：特には定めないが、各回のタイトルおよび概要に関連する日常生活で遭遇する事象や報道情報などを意識的に捉える。
復習：予習した経験知と授業内容を統合し、レポートの記述内容および小試験の解答に反映する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「プリント配付」

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「適宜紹介」

前提学力等

特に定めない。

履修資格

講義名	差別と人権（同和問題）							担当教員	大脇　万起子／山田　稔※／山本　興正※
講義コード	1150150	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM151								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	人権とは何か。 どうとらえればよいか	（担当：山田稔）　人権は、人々が幸せに生きるために造り出してきたものであり、つねに手入れをしなければ使えなくなる。人は誰しも、人権を侵され、また侵すおそれがあり、それは決してひとご
第2回	薬害被害者の人権、 その回復への歩みに学ぶ	（担当：山田稔）　最近のＣ型肝炎問題をはじめとして、薬害エイズ、サリドマイド、森永ヒ素ミルク、スモン、薬害ヤコブ事件など、これまで数多くの薬害事件が起きてきた。それぞれの被害者の人
第3回	今日のいじめをどうとらえ、どうとりくむか -	（担当：山田稔）　大津の中学生のいじめ・自死事件はどうして起きたのか。そこにはどういう問題点があったか。そのことを通して、今日のいじめをどうとらえ、どうとりくんでいけばよいかを考え
第4回	部落問題とは何か。どう解決に向かってきたか	（担当：山田稔）　部落差別とは何か。それは、どうして作り出され、なぜ近代以降も続いてきたのか。その解決へのとりくみはどうすすめられてきたか。その到達点と残された課題について考察す
第5回	労働者の人権とは何か。 今、それはどうなっているか	（担当：山田稔）　労働者の人権とは何か。それはどのようにして確立されてきたか。また、今日の日本の労働者はどういう状態におかれているか。非正規労働者の増加・派遣労働やブラック・バイト
第6回	外部講師による授業	滋賀県男女共同参画センターの職員を講師に迎え講義を行います。
第7回	朝鮮を見る視点、日本の朝鮮植民地支配と在日朝鮮人の形成	（担当：山本興正）　「朝鮮は前近代において日本と対等な関係を結んでいた。だが近代に入って日本は朝鮮を侵略し、のちに植民地支配へと至る。その実態はどのようなものだったのか。在日朝鮮人
第8回	解放後の在日朝鮮人（1945年～1952年）	（担当：山本興正）　第二次大戦に敗戦した大日本帝国は、その結果帝国の版図を縮小させ た。朝鮮からも日本は手を引いたが、日本に残った在日朝鮮人は戦前以上に厳しい管理・弾圧のなかで生き
第9回	戦後日本社会と在日朝鮮人（1952～現在）	（担当：山本興正）　1952年のサンフランシスコ講和条約締結後、日本は独立を果たした。そのさい在日朝鮮人は日本政府の「国籍喪失」措置によってほぼすべての社会保障から排除された。その実態
第10回	現代日本と朝鮮	（担当：山本興正）　「今日の日本ではヘイトスピーチ問題に象徴されるように、かつてないレイシズムの高まりがみられる。その特徴は差別の煽動が正当化されてしまうという点にある。それはどの
第11回	ジェンダーと人権	（担当：大脇万起子）　リプロダクティブ・ヘルス／ライツなど性別に関する差別と人権についての講義を行う。
第12回	子どもと人権	（担当：大脇万起子）　子どもの権利条約や子どもの虐待など子どもに関する人権についての講義を行う。
第13回	医療と人権	（担当：大脇万起子）　インフォームド・コンセント、リビング・ウィルなど医療に関する人権についての講義を行う。
第14回	障がいと人権	（担当：大脇万起子）　障害者差別解消法など障害児・者に関する人権についての講義を行う。
第15回	大学生活と人権	（担当：大脇万起子）　アカデミックハラスメントなど大学生活に関する人権についての講義を行う。

担当者から一言
上記に記載した以外の必要な情報は、授業時、各教員が適宜紹介・説明する。 この授業を担当する教員は「差別と人権」というメインテーマに基づき、３名それぞれが独立して、それぞれのサブテーマ（授業概要を参照）をも

講義名	自然科学の視点							担当教員	松岡　純
講義コード	1150180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM133								

授業概要

【概要】
現代社会は自然科学とその応用である技術を享受している。したがって「自然科学は世界をどう見るか」への理解は，科学技術や人間・社会の定量化・モデル化において重要である。モノの価値から知の価値へと豊かさの指標が転換期にある現在，自然科学という知の構造を理解する意義は大きい。しかし科学の成果に比べ，科学を生み出す過程は見え難い。そこで本講では科学史や担当教員の経験に基づく実例を多用して，自然科学の思考法について学ぶ。

【キーワード】
自然科学，思考法，論理，実験，観測，数量化，モデル，構造，世界観

到達目標

（1）自然科学における世界観を，その歴史的変遷を踏まえて理解する。
（2）実験に基づく自然科学について，そのアプローチの方法論を理解する。
（3）自然科学において重要なモデル化の考え方とその方法論を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	60	次の内容の３回のレポートを各20%ととする。 レポート１：自然科学における思考法の変遷について課題を纏める。（到達目標(1)） レポート２：自然科学で使われる思考法を具体的事例へ応用する。（到達目標(2)）
上記以外	40	毎回の小テスト（所要時間は数分程度）を，その回の授業内容について実施する。

毎回の小テストは7割以上の提出を必須とする。

授業外学習

初回授業の配布資料で指示する。
授業の後で復習として，授業内容を自分なりにノートにまとめてみる，特に「（ビザンチン帝国の崩壊）→（ギリシャ系文化人のイタリアへの移

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	自然科学の視点							担当教員	松岡　純
講義コード	1150180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM133								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自然科学とその周辺（1）	講義の目的と概要，文化の一つとしての自然科学
第2回	自然科学とその周辺（2）	自然科学と，社会科学，宗教，形式主義，似非科学
第3回	自然科学とその周辺（3）	純粋科学と応用科学，科学と技術の違い
第4回	自然科学の歴史（1）	思索（哲学）から観察へ（アリストテレスからダヴィンチまで）
第5回	自然科学の歴史（2）	事象のモデル化と定量化（ガリレオとデカルト）
第6回	自然科学の歴史（3）	自然科学の成立と発展 （ニュートン，原子論，流体力学，電磁気学）
第7回	自然科学の歴史（4）	現代物理学とその思想（アインシュタイン，量子力学，猫の運命，科学哲学）
第8回	自然科学の様々な道具（1）	論理の世界（演繹法，蓋然性，帰納法）
第9回	自然科学の様々な道具（2）	確率事象を捉える（確率，統計，リスク）
第10回	自然科学の様々な道具（3）	構造を捉える（対称性，階層構造）
第11回	自然科学の様々な道具（4）	様々な発想法（連関，分類，並べ替えと可視化，連想，極限）
第12回	自然科学でよく使う数理（1）	度量衡と四則演算の数理
第13回	自然科学でよく使う数理（2）	変化を捉える（微分と積分，常微分方程式を使う数理科学）
第14回	自然科学でよく使う数理（3）	複数の変化要因を扱う（偏微分方程式を使う数理科学）
第15回	自然科学でよく使う数理（4）	空間を捉える（次元，自由度，フラクタル，座標変換）

担当者から一言

講義名	自然現象のしくみ							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150185	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM134								

授業概要

日本ではさまざまな種類の自然災害が発生します。そのような自然環境下で生活するわれわれは、それらの自然災害と共存して生活していかざるを得ません。ある程度は人間の技術で「災害を防止する」ことも可能です。しかし、地震や火山噴火などを人間が制御することはできません。洪水を制御するにも、ダムや堤防等で対応可能な範囲のものならなんとかなりますが、「想定外」のものが生じたなら相当に危険なことになります。
ですから、われわれは自然環境を引き起こすような自然現象を正しく理解し、それに応じた「そなえ」をしておかなくてはなりません。そこでこの授業では、各種自然災害を引き起こすような自然現象に視点をあて、それらがどのようなメカニズムで生じるのか、どのような規模の災害が生じ得るのかをまず理解していただきます。それを受けて、普段からどのような「そなえ」が必要なのかを各自に考えていただきます。

到達目標

（1）自然現象を引き起こすさまざまな自然現象について、その特徴を科学的用語を用いて説明できるようになる。
（2）災害発生時を想定し、その自然現象の特徴に対する理解に基づいて自らの対応策を考えることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	55%	Ａ４一枚程度の宿題（7回、各５点満点、計35点） 自らの置かれた立場に基づき，実際の災害に対しての対応についての考察を求める． ０点：読み取ることができない，要求された内容がまったく書かれていない．
上記以外	45%	毎回のレスポンスペーパー（１５回、各3点、計45点） その日の授業を受講し，ノートを取っていれば十分に回答できる内容を問う． ０点：読み取ることができない，必要事項がまったく書かれていない．

授業外学習

毎回の授業内容を参考に、授業外作業を必要とする宿題を課す。
災害に関連する小説を題材に、そこに描かれている災害と同程度の災害が身近で発生した場合、自らがどのような対応を取るか、あるいは事前にど

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

文法的に正確な日本語で記述できること。

履修資格

講義名	自然現象のしくみ							担当教員	倉茂　好匡
講義コード	1150185	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM134								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス，自然災害と向き合う必要性	東日本大震災で、日本人は津波の怖さを痛感しました。ところが、それ以前には、津波警報が出ると「津波見物に行く人」が相当数いました。そして被災した人までいます。この授業では、「災害に備
第2回	巨大地震１：東日本太平洋沖地震から学ぶこと　その１	東日本太平洋沖地震はMo=9.0の巨大地震でした。どういうメカニズムで発生した地震なのか、マグニチュードの定義を学んだうえで、その特性を理解します。
第3回	巨大地震２：東日本太平洋沖地震から学ぶこと　その２	東日本太平洋沖地震はなぜ予知できなかったのでしょうか。日本の地震予知体制がどのようになっているのか、なにができて、なにができないのか、その現実を学びます。
第4回	津波１：東日本太平洋沖地震から学ぶこと　その３	まず、津波という波の特性について学びます。これを知ったうえで、東日本太平洋地震津波が岩手県宮古市を襲ったときの貴重なＤＶＤを視聴します。それにより、津波の特性を実感していただきま
第5回	津波２：東日本太平洋沖地震から学ぶこと　その４	東日本太平洋地震津波が岩手県宮古市を襲ったとき、九死に一生を得た方々へインタビューしたＤＶＤを視聴します。そのうえで、皆さんが海辺にいたときに津波警報が発令された場合、どのよう
第6回	内陸活断層性地震：兵庫県南部地震から学ぶこと	1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震（いわゆる阪神淡路大震災）では6400名を超える方が亡くなりました。どうしてこのような被害が出たのか、この地震の発震特性を学んだうえで、内陸活断層
第7回	火山災害１：火山災害の特徴，過去の災害から学ぶこと	火山災害で最も恐ろしいもののひとつが火砕流です。1991年6月3日に雲仙普賢岳で発生した火砕流のＶＴＲを視聴したうえで、この火砕流の火山学的規模を理解します。次に、火山泥流（ラハール）と
第8回	火山災害２：火山灰の影響、とくに現代社会への影響	火山灰が都市に降った場合、これまでにない大混乱が生じると考えられています。富士山が噴火して東京に厚さ数cmの降灰があったときのシミュレーションＶＴＲを視聴し、現代ならでは被害について
第9回	火山災害３：「破局的噴火」は起こるのか？	約3万年前に噴火した姶良カルデラの噴火では、火砕流堆積が150立方キロ、このときの火山灰は近畿でも厚さ20cmに達しています。現在に同様の噴火が日本で発生したらどうなるか、そのシミュレー
第10回	台風１：気象学の基本－コリオリの力－	台風の周りに吹く風の構造を知るためには、「コリオリの力」を定性的にでも知っておく必要があります。地球が自転していることにより生じる「みかけの力」であるコリオリの力と、その効果につい
第11回	台風２：台風の構造，台風による災害の特徴１	台風の定義とその性質についてまず学びます。また、台風が大きな被害を出した事例、とくに高緯度にまで台風が達し、そこで温帯低気圧化して発達したときに大きな被害を出した「洞爺丸台風」を事
第12回	台風３：台風による災害の特徴２	気象庁は、2000年に台風のカテゴリー分けを改正しました。その背景には、1999年に発生した水難事故がありました。この事故のＶＴＲを元に、台風への備えを考えます。そののち、超大型で猛烈な台
第13回	集中豪雨：積乱雲セルと集中豪雨	近年、都市域に発生した積乱雲が集中豪雨をもたらす災害が頻発するようになりました。積乱雲が接近してきたとき、どのような気象上の変化があるのか、その典型例について、ＶＴＲを元に学びま
第14回	洪水：洪水の頻度，都市型洪水	都市域での集中豪雨は、思わぬ災害を引き起こします。それに対する対策も巨費を投じて講じられています。都市での防災施設についてＶＴＲで学んだ後、都市水害のＶＴＲを視聴します。これによ
第15回	その他の災害：土石流，竜巻	積乱雲が発達したとき、日本でも竜巻が発生したりして、大きな被害が出ています。また、大雨により土石流が発生し、甚大な被害がでることもあります。ＶＴＲを元に、これらの災害の特徴について

担当者から一言
この講義は、皆さんが将来、自然災害に遭遇したときに「生き残る」ための知識と判断力をつけていただくことを期待して開講するものです。 看護師や管理栄養士などの専門職を目指している皆さんには、ここで得た知識を元に、小生発生する自然災害下で、専門家としての行動に活かして

講義名	自然保護論							担当教員	西田　隆義
講義コード	1150190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM131								

授業概要

生物資源を持続的に賢明に利用することは、人間の社会を安定に維持する上で鍵となる。
この授業では以下の項目について述べ、生物資源を将来どのように利用すべきかについて考える。

１）森林の崩壊と保全が社会にもたらした影響
２）生物資源の賢明な利用にかかわる人間の生物的な特性
３）生物多様性の意義
４）保全の歴史
５）保全における賢明な情報の利用

到達目標

（１）森林の崩壊が社会の崩壊をもたらしたことを理解すること。
（２）人間の精神が持つ生物的な特性を理解すること。
（３）生物多様性について理解すること。
（４）科学と疑似科学を賢明に区別できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業時に課題を出し、その課題についてのレポートを書いてもらい評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文明崩壊	ダイヤモンド	草思社	978-4794219398
2	科学と神秘の間	菊池誠	筑摩書房	978-4480860729
3	天敵なんてこわくない	西田隆義	八坂書房	978-4896949094

前提学力等

履修資格

講義名	自然保護論							担当教員	西田　隆義
講義コード	1150190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM131								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	自然とくに生物資源を持続可能で賢明に利用することの意義について述べる
第2回	森林の喪失：崩壊した社会1	南太平洋の島々を例にとり、崩壊した文明と崩壊しなかった文明を対比させて、森林の存続が違いを生み出したことを説明する。
第3回	森林の喪失：崩壊した社会２	中米のマヤ、北欧のアイスランド、グリーンランドなどを例に、乾燥地や極地で生じた森林破壊が、社会の崩壊に至ったことについて述べる。
第4回	森林の持続的利用	森林の崩壊を防ぎ、存続に成功した社会もある。ニューギニア高地、江戸時代の日本などを例にとり、いかに森林の崩壊を防いだかについて述べる。
第5回	資源保全と人間の特性	人間が持つ特性の中には、資源の乱獲をもたらすものと反対に抑制するものがある。両方について進化生物学の観点から説明する。
第6回	資源保全のための協力	資源保全のためにどんな協力が可能かについて、「囚人のジレンマ」など進化生物学の観点から述べる。
第7回	資源保全になぜ失敗するのか	生物資源を持続的に利用することは現在でもむずかしい。ここでは、マグロ・ウナギなどを例にあげて、なぜ保全に失敗するのかについて説明する。
第8回	生物多様性とはなにか	生物多様性の意味について概説する。とくに、生態系の保全にとって鍵となる「要石の種：key stone species」について説明する。
第9回	生物多様性の価値１	生物多様性がもたらす価値として、害虫や雑草などの大発生を抑えることがある。実例をあげて説明する。
第10回	生物多様性の価値２	生物多様性を利用した病害虫の防除について説明する。
第11回	生物多様性の価値をめぐる争い	捕鯨、外来魚の養殖などをめぐって現在でも激しい争いが続いている。問題の解決のための科学的な情報とその活用について述べる。
第12回	外来種問題	外来種の引き起こした問題（ブラックバスや雑草）とその解決にはどんな方策が必要かについて説明する
第13回	自然保護の歴史：鉱害と原生的自然	環境の破壊と修復の例として、鉱害（別子と足尾）と尾瀬をとりあげ、関連した人（伊庭貞剛・古川市兵衛・武田久吉など）とともに説明する。
第14回	保全において不確実な情報をいかに利用するか	生物資源の保全など、環境にかかわる問題では、情報はつねに不確実である。不確実な情報の中で賢明な判断をするための工夫について述べる。
第15回	不確実な情報をいかにみきわめるか	生物資源の保全など、環境にかかわる問題では、情報はつねに不確実であるが、情報がどの程度妥当かは、ある程度みきわめることができる。

担当者から一言

講義名	持続的農業論							担当教員	泉　泰弘
講義コード	1150200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号	101HUM172								

授業概要

農業は人間にとって食糧生産のための必須の営みである。この生産活動をいかに環境と調和させ、持続的に維持するかを考えるため、農業という営みの特性、人口、食糧生産量、農業の現状、生産技術、ならびにそれらと環境との関わりや持続的生産の可能性について解説する。

到達目標

（1）世界の食料事情の現状と将来について説明することができる
（2）水田および畑作農業の特徴について説明することができる
（3）農業の持続性を脅かす要因について説明することができる
（4）持続的農業の実現に必要な事項について説明することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	到達目標で示す（1）から（4）について全て定期試験で評価する（各25点）。100点満点で採点し、60 点以上を合格とする。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

なし

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義資料を配付する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	食料生産と環境	久馬一剛	化学同人	
2	地球環境と作物	巽二郎	博友社	
3				

前提学力等

特に問わない

履修資格

講義名	持続的農業論							担当教員	泉　泰弘
講義コード	1150200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号	101HUM172								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	人口と食糧生産	人口問題とと食糧生産について学ぶ
第2回	農業と環境との関わり（1）	農業と環境との関わりについて学ぶ（1）
第3回	農業と環境との関わり（2）	農業と環境との関わりについて学ぶ（2）
第4回	世界の農業形態	世界の農業形態について学ぶ
第5回	畑作農業	畑作農業の特徴について学ぶ
第6回	水田農業	水田農業の特徴について学ぶ
第7回	栽培技術と生産の持続性	栽培技術と生産の持続性の関係について学ぶ
第8回	収量ポテンシャル	収量ポテンシャルの向上の可能性について学ぶ
第9回	水資源の持続性	水資源の持続性について学ぶ
第10回	土壌（耕地）資源の持続性	土壌（耕地）の持続性について学ぶ
第11回	エネルギー資源の持続性	エネルギー資源の持続性について学ぶ
第12回	有機農業	有機農業の特徴と課題について学ぶ
第13回	環境保全型農業	環境保全型農業の特徴と課題について学ぶ
第14回	持続的農業	持続的農業の特徴と課題について学ぶ
第15回	まとめ	まとめ

担当者から一言

講義名	社会福祉論/							担当教員	富永　豊※
講義コード	1150220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

大きな経済力とともに福祉国家としての高い福祉制度を持っていた日本の社会において、低成長経済の長期化や雇用形態の変化といった産業経済状況に加えて、少子高齢化や人口減少といった社会構造等の変化に伴い、医療や年金問題そして孤独死やさらには自殺や貧困のほか、虐待や暴力といった社会問題がクローズアップされています。東日本大震災を契機に幸せとは何かが今、問い直されるようになり、共生社会の実現が叫ばれています。いうまでもなく社会福祉は、すべての人の幸せ(well-being)を目的としています。その社会福祉のあり方についてあらためて振り返り、多くの国民の安心や体験としての幸せがアップしてゆくためには何が必要なのか、この滋賀の社会資源にも目を向けながら皆さんと考察できればと思います。

到達目標

（１）我が国における社会福祉の仕組みや制度の概要について学ぶ。
（２）社会福祉制度の現状と課題について考察することができる。
（３）今後の社会福祉のあり方について考えられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標（１）について、択一式試験を行う。（４０点） 到達目標（２）について、記述式試験を行う。（１０点） 到達目標（３）について、論述式試験を行う。（１０点）
レポート課題	20%	到達目標（２）について、事前学習のためのレポート課題を課す。（４題）
上記以外	20%	到達目標（３）については、上記の外に授業に出席し質疑や意見発表等をすることで、理解を深めることを重視する。

全講義数の２分の１以上を欠席した場合、および課題レポートの提出が２回以下の場合は、成績評価の対象とはしません。また、出席カードについて、本人以外のカードを不正に作成し提出した場合は、作成した本人も含めて欠席扱いとします。

授業外学習

講義資料（レジュメ）は当日の配布となりますが、講義の日までに予備知識を得ておいてください。授業は、講義時間の制約上、基礎的な知識があることを前提に進めます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「新社会福祉論」	川池智子編著	㈱学文社	978-4-7620-2332-3
2	「現代社会と福祉」	大橋謙策・白澤政和共著	ミネルヴァ書房	978-4-623-05396-4
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会福祉論/							担当教員	富永　豊※
講義コード	1150220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	「私たちの生活と社会福祉」	社会福祉は、私たちの生活とどう関係しているのか等について、考察する。
第2回	「社会福祉とは何か　－社会保障と社会福祉―」	日本と北欧の福祉における構造や社会システムの国際比較をする中で、社会福祉のあり方を探る。
第3回	「日本の社会福祉の歩みと展開」	現在の日本の社会福祉の理念や枠組みについて、その歩みから理解する。
第4回	「公的扶助と生活困窮者対策」	日本における救貧・防貧対策制度の現状について学び、生活困窮者の自立支援対策の課題を探る。
第5回	「医療・年金制度と社会連帯」	少子高齢化の急速な進展に伴い国民皆保険・皆年金制度の制度疲労が生じており、その課題とあり方について考える。
第6回	「少子・高齢化への対策」	急速な少子高齢化への対策の現状と経過を踏まえて、その成果や課題について考察する。
第7回	「障害者福祉と自立支援制度」	ノーマライゼーションの理念と障害者の自立生活の保障について理解するとともに、その自立支援制度の課題について考える。
第8回	「虐待問題と現代社会の課題」	社会的養護を必要とする児童に対する支援および児童・高齢者・障碍者虐待の現状と課題を探る。
第9回	「精神障碍者問題と福祉実践」	長浜・彦根地域における福祉実践の取組から、今後の日本における精神科医療と精神障碍者の保健福祉制度の展望を模索する。
第10回	「地域福祉の推進と連携システム」	域福祉の推進の必要性について理解するとともに、福祉コミュニティの形成のための協働と連携システムについて考察する。
第11回	「社会福祉と権利擁護」	苦情解決仕組み、権利擁護事業や後見制度について学び、高齢者や障害者への虐待防止について考える。
第12回	「子ども家庭福祉対策の歩みと課題」	子どもが育つ基盤である家庭等に対する社会福祉制度について学び、特に貧困対策や子育て支援対策等についての現状と課題を探る。
第13回	「滋賀の福祉の歩みと共生社会の理念」	先駆的な滋賀における福祉の実践について振り返る中で、共に生きる地域社会の実現に向けて何が求められているのかを探る。
第14回	「DVの現状と課題」	子どもが育つ家庭における配偶者間暴力や交際相手からの暴力の実態について学び、その対策や制度について課題を探る。
第15回	「対人援助職の基本的視点と援助技術」	自己覚知、アイデンティティの確立、対等性、援助技術、倫理や使命感といった専門性や価値を構成する要素について理解する。

担当者から一言
社会福祉論の学びは、単に知識や教養を高めることにとどまらず、地域社会や自身の人生のあり方に直結する、知行合一の実践的な側面を持っています。したがって、現在の制度や施策を学ぶだけでなく、私たちの家庭や社会での生活におけるより望ましい社会福祉のあり方を追い求め、今後の

講義名	植物の病気							担当教員	鈴木　一実
講義コード	1150223	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM179								

授業概要

植物の病気の種類，特徴および原因を人間の病気と比較するとともに，とくに植物の伝染性の病原体について概説する。あわせて，農林業をとりまく微生物の世界に目を向け，植物に病気を引き起こす病原体とともに，作物保護に有用な様々な微生物について紹介する。

到達目標

（1）植物の病気と人間の病気の特徴やちがいを理解することができる。
（2）植物の病気のさまざまな原因について理解することができる。
（3）農林業に関連する微生物の世界について興味を示すことができる。
（4）作物保護に有用な農業微生物について理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標に示す（1）～（4）について，定期試験で評価する。評価比率はそれぞれ12.5%とする。
レポート課題	50	到達目標に示す（1）～（4）について，課題レポートで評価する。評価比率はそれぞれ12.5%とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回の講義でプリントを配布する。指定図書，参考書は講義の中で適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	植物の病気							担当教員	鈴木　一実
講義コード	1150223	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM179								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	植物の病気とは（種類，特徴，原因）	講義の全体の流れを説明するとともに，植物の病気の種類，特徴，原因について概説する。
第2回	植物の伝染性の病原体（感染症）（1）	世界の七大植物病害の資料をもとに植物に感染する伝染性の病原体について概説する。
第3回	植物の伝染性の病原体（感染症）（2）	植物に感染する伝染性の病原体のうち，ナノ病原体（ウイルス，ファイトプラズマ）について概説する。
第4回	人間の病気とは（種類，特徴，原因）	世界の三大感染症をはじめとして，人間の病気の種類，特徴，原因について概説する。
第5回	人間の伝染性の病原体（感染症）（1）	人間に感染する伝染性の病原体のうち，重要な病原体を紹介する。
第6回	人間の伝染性の病原体（感染症）（2）	人間の感染症を防除するのに有効なワクチンと抗生物質について概説する。
第7回	農林業をめぐる微生物の世界	農林業をめぐる微生物の世界として，第8回以降の講義の流れを説明する。
第8回	樹木の病気（マツ枯れ，ナラ枯れ）	世界および日本で重要な樹木の病害について紹介するとともに，日本で大きな問題となっているマツ枯れ，ナラ枯れについて概説する。
第9回	昆虫病原性微生物（1）	昆虫に病気を引き起こす病原微生物の種類と特徴について概説する。
第10回	昆虫病原性微生物（2）	昆虫に病気を引き起こす病原微生物の微生物殺虫剤としての利用の現状について概説する。
第11回	植物病原菌と拮抗する微生物（1）	植物病原菌と拮抗する微生物から得られた農業用抗生物質の利用の現状について概説する。
第12回	植物病原菌と拮抗する微生物（2）	植物病原菌と拮抗する微生物の微生物殺菌剤としての利用の現状について概説する。
第13回	微生物除草剤（マイコハービサイド）	雑草に病原性を示す微生物の微生物除草剤としての利用の現状について概説する
第14回	植物内生菌（エンドファイト）	イネ科植物に共生するエンドファイトの農業分野での利用の現状について概説する。
第15回	菌類ウイルス（マイコウイルス）	植物病原菌類に感染しているウイルス（マイコウイルス）の植物病害防除資材としての利用の現状について概説する。

担当者から一言

講義名	生活と健康							担当教員	大脇　万起子
講義コード	1150225	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM178								

授業概要

人間の健康について多角的に捉え、発達過程や様々な生活環境と健康との関連性を振り返り、自らの生活をより健康的に整えられるための工夫を検討する。

到達目標

(1) 生活習慣と健康との関連性を理解する
(2) 自らの生活習慣を健康の視点から振り返り、問題点を検討することができる
(3) 健康的な生活に向けて、行動変容をおこすことができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回下記の小テストを携帯サイトで毎回行い、その総得点により評価する（毎回、携帯電話が必要）。 (1) 目標1に関する試験問題:　「（毎回のテーマ）について、以下の指示に従って述べて下さい。」　60%

(1) 公欠ほか教務の証明書提出が欠席の次回までにあれば対応する（以降は欠席扱い）。
(2) 毎回、得点積算し、その後満点を取り続けても最終評価点60点が得られないと判明した場合は、その時点で不可を通知する（通知後も授業参加は可能）。

授業外学習

授業外の学習は要しないが、毎回小テストを行うので、毎回のテーマを生活の中で意識してもらっていると授業への興味・理解が深まると考える。また、配布資料を見直し、健康管理に役立てもらえればと考える。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回の授業開始時にプリント配布する

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	生活と健康							担当教員	大脇　万起子
講義コード	1150225	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM178								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業オリエンテーションと新入生歓迎会までに伝えたい知識	・授業内容と評価方法 ・WHOの健康の定義の紹介
第2回	ライフコースから見た生活と健康①：性と健康	性感染症の予防・早期発見・対応に役立つ知識の提供
第3回	ライフコースから見た生活と健康②：育児と健康	妊娠・出産・育児の心身のストレスなどから生じる鬱や虐待についての予防・早期発見・対処に役立つ知識の提供を行う。
第4回	ライフコースから見た生活と健康③：乳幼児と健康	乳幼児の発達に伴う事故の予防・早期発見・対処（簡単な応急処置など）に役立つ知識の提供を行う。
第5回	ライフコースから見た生活と健康④：高齢者と健康	高齢者の大きな健康課題である認知症の予防・早期発見・対処（接し方など）に役立つ知識の提供を行う。
第6回	ヘルスプロモーションの取り組み①：物理的生活環境と健康	騒音性難聴他、物理的生活環境への対処に役立つ知識の提供を行う。
第7回	ヘルスプロモーションの取り組み②：身体的生活環境と健康	清潔・睡眠他、身体的生活環境に関する知識の提供を行う。
第8回	ヘルスプロモーションの取り組み③：心理的生活環境と健康	ストレスへの対処他、精神衛生に関する知識の提供を行う。
第9回	ヘルスプロモーションの取り組み④：食事と健康	食中毒・サプリメント他、食事に関する知識の提供を行う。
第10回	ヘルスプロモーションの取り組み⑤：喫煙と健康	ニコチン依存症・受動喫煙他、喫煙に関する知識の提供を行う。
第11回	ヘルスプロモーションの取り組み⑥：インターネットと健康	ネット依存症他、健康管理の視点からインターネットに関する知識の提供を行う。
第12回	ヘルスプロモーションの取り組み⑦：薬物・賭け事と健康	薬物依存症・ギャンブル依存症他、健康管理の視点から薬物・賭け事に関する知識の提供を行う。
第13回	ヘルスプロモーションの取り組み⑧：日常生活での感染と健康	日常生活での感染予防他、日常生活における健康維持に関する知識の提供を行う。
第14回	ヘルスプロモーションの取り組み⑨：海外渡航と健康	感染症・予防接種他、海外渡航時に必要な知識の提供を行う。
第15回	ヘルスプロモーションの取り組み⑩：特別なニーズのある人との共	共生社会に必要とされる特別なニーズのある人の理解と支援に関する知識の提供を行う。

担当者から一言
内容は受講生の皆さんの日常生活に役立つものになるよう努めています。 毎回の小テストは、まじめに授業を聴いて頂ければ、合格点は得られる内容だと思います。

講義名	生命・人間・倫理							担当教員	糸島　陽子／窪田　好恵
講義コード	1150230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM154								

授業概要

人間の生命の尊厳と権利の尊重についての基本的な考え方、倫理原則、倫理理論を学ぶ。また、現代の生命倫理・医療倫理に関する具体的な問題や課題に視点を当て、看護の立場から適切な判断や解決の方略を考える。

到達目標

（1）現代社会における倫理的課題とその解決方略について理解する。
（2）人に対する深い洞察力を持ち、人の尊厳と権利を擁護する倫理観を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標（1）30% 到達目標（2）30%
上記以外	40%	討議、プレゼンテーション 到達目標（1）20%

毎回ミニ討議を行うため、遅刻・欠席は評価の対象とします。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	テキストブック生命倫理	霜田求	法律文化社	978-4-589-03895-1
2				
3				

講義中に紹介します

前提学力等

履修資格

講義名	生命・人間・倫理							担当教員	糸島　陽子／窪田　好恵
講義コード	1150230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM154								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	現代社会と倫理	生命倫理・医療倫理の歴史的背景を紹介し、現代社会における倫理的課題について考える。
第2回	倫理原則	倫理原則、看護倫理を紹介し、生命の尊厳と権利の尊重について考える。
第3回	情報倫理	個人情報保護法、OECD８原則を紹介し、情報のもつ意味や、医療情報の特性、範囲について考える。
第4回	生殖補助医療と倫理	生殖技術の歴史と背景を紹介し、生殖補助技術をめぐる倫理的課題について考える。
第5回	新生児医療と倫理	新生児医療、インフォームドアセントを紹介し、子どもの最善の利益について考える。
第6回	障害児・者と倫理	いのちと障害について考え、障害児・者に対する倫理的課題について考える。
第7回	臓器移植と倫理	脳死・死の定義、臓器移植の現状を紹介し、移植医療をめぐる倫理的課題について考える。
第8回	終末期医療と倫理	安楽死、尊厳死の定義や現状を紹介し、終末期医療をめぐる倫理的課題について考える。
第9回	DVD視聴	DVDを視聴して倫理的課題を考える。
第10回	高齢者医療と倫理	高齢者医療における倫理的課題を紹介し、高齢者の尊厳と権利の尊重について考える。
第11回	公衆衛生と倫理	公衆衛生における倫理的課題を紹介し、スティグマ、医療者の専門職倫理について考える。
第12回	看護倫理	看護専門職における倫理綱領の必要性を踏まえたうえで、「看護者の倫理綱領」について理解する。
第13回	事例検討①	医療現場で遭遇する倫理的場面を事例に挙げ、グループワークを行う。 事例検討を通して倫理的判断について協議し、課題を共有する。
第14回	事例検討②	グループ発表を行う。 事例検討を通して倫理的判断について協議し、課題を共有する。
第15回	事例検討③	グループ発表を行う。 事例検討を通して倫理的判断について協議し、課題を共有する。

担当者から一言

講義名	地域探求学/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1150260	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

コミュニケーションとは何だろうか。「自分の意見が言える」こと？「人の話が聞ける」こと？それとも「空気を読める」ことだろうか？
　当講義では「communicare（分かち合う、共有する）」というこの語の由来に立ち返り、コミュニケーションとは何か、また地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景等について概観した上で、産官学さまざまな立場・現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、リアルな地域課題を地域に関わる皆で分かち合い、その解決策を立案するための基礎能力を身に付けること、「浴びるように他者と出会い、対話し、作業する」３日間の過程を通して「コミュニケーションの基礎体力」を養うことを目指す。

※当科目は冬期実践ターム２月１６日（土）、１７日（日）、１８日（月）の３日間、「COC+」による県内６大学（滋賀大学、聖泉大学、びわこ学院大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、および滋賀県立大学）の合同科目として集中的に開講する。

到達目標

（１）地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景や意味について理解し説明することができる。
（２）対話や課題抽出、成果のとりまとめにかかる基礎的な技法について理解し実践することができる。
（３）上記の理解と実践に基づきチームワークによって成果を取りまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す（１）（２）（３）について、課題レポート（ワークブックに記入する方式）により評価する。（３）については、チームワークの成果に対する評価も加味する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

・副教材としてワークブックを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域探求学/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1150260	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション「自分探求	全体の説明と自分探求シートを用いた学びの目標設定
第2回	特別レクチャー＆意見交換①	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ①（参考：平成29年度は滋賀県知事・三日月大造氏が登壇）
第3回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」①	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ①　グループワーク
第4回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」②	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ②　２～３人一組になり相互インタビューや共通テーマについて対話
第5回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」③	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ②　２～３人一組になり相互インタビューや共通テーマについて対話
第6回	2日目へのチェックイン	前日のインタビューをもとに作成した人物紹介記事を共有する。
第7回	レクチャー＆演習「グラフィック・ファシリテーションの技法」	クリエイティブな議論に必須の方法である「グラフィック・ファシリテーション」の技法についてその考え方と実技を学ぶ。
第8回	特別レクチャー＆意見交換②	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ②（参考：平成29年度は本学出身の起業家・ビハイア株式会社社長の清水有高氏が登壇）
第9回	地域人ダイアローグ「明日も良い“転機”」①	地域人との対話。「人生折れ線グラフ」によって互いの経験を語り合い、人生における転機、ターニングポイントの乗り越え方、活かし方について考える。
第10回	地域人ダイアローグ「明日も良い“転機”」②	「人生折れ線グラフ」を用いた対話をもとに、人生をより豊かにさせる「明日も良い“転機”のための７箇条」を地域人とともに作成する。
第11回	3日目へのチェックイン	コミュニケーションやコミュニケーション力をめぐる知見を共有するレクチャーとここまでの学びを共有する時間。
第12回	特別レクチャー＆意見交換③	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ③（参考：平成29年度は働き・暮らし応援センター“Ｔｅｋｉｔｏ”センター長の野々村光子氏が登
第13回	地域人ワールド・カフェ「地域人の見本市」	ワールドカフェの手法により、いろいろな地域人の、さまざまな活動やアイデア、夢について知る。
第14回	地域人ダイアローグ「夢をかなえるアイデア会議」①	地域人の掲げる課題やアイデア、夢をかなえるためのプロジェクトについて、地域人と対話しながら考える。
第15回	地域人ダイアローグ「夢をかなえるアイデア会議」②／まとめ、発	地域人と共に考えたプロジェクトについて発表・共有する。／3日間の学びを振り返り、自分自身へのコミットメントをまとめる。その後、交流会。

担当者から一言
※当科目は冬期実践ターム２月１６日（土）、１７日（日）、１８日（月）の３日間、「COC+」による県内６大学（滋賀大学、聖泉大学、びわこ学院大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、および滋賀県立大学）の合同科目として集中的に開講する。

講義名	電子社会と人間							担当教員	柳澤　淳一
講義コード	1150270	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM175								

授業概要

現在の私たちの生活は高度情報化社会における電子・情報分野の先端技術に支えられている。これは科学・技術の驚異的な進歩によるが、その変化があまりに急速だったため、個人の生活や社会に及ぼす影響には光の部分と影の部分が出てきた。科学・技術は、最終的には私たちの生命や社会生活に優しいものでなくてはならず、科学・技術と社会や人間との関わり合いや、科学・技術を発展させる、またはそれを利用する者としての社会的責任について認識を深めることは、社会の一員である皆さんにとって必要不可欠である。本講義では、電子・情報分野の視点から、これらについて講述する。

到達目標

電子・情報技術を、単に与えられたブラックボックスとして受け身的に使うだけでなく、背後にある原理や現状の問題点まで理解することで積極的にそれぞれの専門分野に応用し、利用していけるような素養を身につけるきっかけになることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	初回の講義時に、電子社会との関わりに関連した話題の小レポートを課す（20%）。 最終回の講義において、講義を通じて学んだことを含む総合的なレポートを課す（50%）。
上記以外	30	授業の最後に講義の理解度を確認する簡単な小試験（課題）を毎回行なう（30%）。

6回以上欠席した者は評価対象にしない。
以上を100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：必要に応じて資料を配付する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：関連した文献を講義中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	電子社会と人間							担当教員	柳澤　淳一
講義コード	1150270	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM175								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義の背景	電子社会・情報社会と私たちのくらし：事例研究。
第2回	「情報」とは？	情報伝達手法の変遷。通信技術の進歩。
第3回	歴史　その1	電子社会の幕開け。電気、電子、情報の歴史。
第4回	歴史　その2	基礎科学から応用へ。電子計算機の開発と発展。
第5回	歴史　その3	固体電子素子の開発と集積回路の発展。
第6回	歴史　その4	情報の電子的表現方法と計算の原理。
第7回	現在の情報技術（ハード面　1）	現在の半導体超微細加工プロセス入門。
第8回	現在の情報技術（ハード面　2）	インタフェース、表示機器、各種センサ。
第9回	医療、福祉への応用例　1	医療、福祉と電子技術：医用機器への応用。
第10回	医療、福祉への応用例　2	医療、福祉と情報技術：システムの構築。
第11回	医療、福祉への応用例　3	電気・電子・情報技術による医療・福祉への技術支援と倫理。
第12回	情報リテラシー　1	インターネット、マルチメディア社会と電子・情報技術。
第13回	情報リテラシー　2	暗号と通信傍受、電子・情報社会における倫理。
第14回	情報リテラシー　3	グローバル化と電子・情報技術、倫理。
第15回	まとめ	まとめ：だれのために、いかにあるべきか？

担当者から一言

講義名	人間と病気							担当教員	安原　治
講義コード	1150430	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM180								

授業概要

人類の歴史は病気との闘いの歴史でもある。人類はその時代時代で、生命を脅かす病気に出会い、その病を克服するために悪戦苦闘を続けてきた。その結果、多くの病気が「死に至る病」から、「克服できる病」あるいは「ともに歩む病」へと変わりつつある。しかし、その一方で新興感染症のように以前は全く知られていなかった新しい疾患が出現したり、すでに克服したかのように思われていた感染症が再び流行したりするようになり、大きな医学的課題となっている。また、寿命の延長に伴って、認知症に代表される神経難病が、今後解決すべき課題として注目を集めるようになっている。

本講義では、胃・肝臓・心臓の病気、生活習慣病、感染症、がん、神経難病を中心に重要な疾患を取り上げ、人類がどのように病気を見つけだし、その原因を究明し、克服してきたか、病気の歴史を振り返りながら病気がおこるしくみを解説する。また、最近の医療技術の進歩には目をみはるものがあり、人間の生も大きく変わろうとしている。ここでは、最新の医学についても触れ、未来の医学を展望する。

到達目標

(1) 胃腸、肝臓、心臓、免疫、神経のおおよそのしくみが理解できる
(2) がん、感染症、生活習慣病、神経難病など、主要な病気の発生機序が理解できる
(3) 病気研究の歴史をとおして、科学的思考の過程が理解できる
(4) 主要な病気の現在の状況と今後の展望が理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	２回のレスポンスペーパーと４回のレポートを課す。 １）レスポンスペーパー　各10点（10x2=20点） ２）レポート：A (20点), B (16点), C (12点)の３段階評価
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回、資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高校「生物基礎」と「生物」（または旧課程「生物II」）を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	人間と病気							担当教員	安原　治
講義コード	1150430	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM180								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	胃の病気	胃潰瘍・胃がんとピロリ菌
第2回	肝臓の病気	肝炎、肝硬変、肝細胞がん
第3回	糖尿病	糖尿病研究の歴史と今後の展望
第4回	心臓の話	心臓のしくみと心筋梗塞
第5回	免疫と病気	免疫のしくみと免疫の異常
第6回	感染症（1）	新興感染症と再興感染症、インフルエンザ
第7回	感染症（2）	エイズ、エボラ出血熱、病原細菌の逆襲
第8回	がんの話	がんの臨床、研究の歴史、新しい治療
第9回	プリオン病	病原体プリオン
第10回	脳の構造と機能	大脳皮質の機能局在とニューロエシックス
第11回	ALS	ALSの臨床と研究の展開
第12回	パーキンソン病	手足がうまく動かせない！　パーキンソン病
第13回	アルツハイマー病	認知症の代表格、アルツハイマー病
第14回	神経伝達物質と精神疾患	統合失調病とドーパミン、うつ病とセロトニン
第15回	未来に向かう医学	1）寿命はどこまで延ばせるか：老化研究 2）臓器移植と再生医療

担当者から一言

講義名	農業と環境							担当教員	大久保　卓也
講義コード	1150456	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

農業は世界各地で自然環境に大きな影響を及ぼしてきた。例えば、農業用水の取水による河川、湖沼、地下水の水量の減少・枯渇、耕地や放牧地の拡大による森林の減少、生態系の変化などである。農薬散布の生態系への影響についても多くの研究事例が報告されている。このように農業は自然環境や水産業等の当事者以外の人間に対してマイナスの影響を及ぼしている。しかし、近年、水田の多面的機能として環境面でのプラス影響も指摘されており、農業のプラス面・マイナス面の両者を知り、環境と調和した農業の在り方を考えることが大事である。本講義では、農業の環境への影響について国内外の事例をみて学習する。また、環境保全型農業の現状について学習する。

到達目標

農業と環境との関わりについて、過去の歴史、事例を学ぶことによって理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	指定した課題についてのレポートを３回程度提出してもらう。その内容によって評価する。
上記以外	40	ディスカッションでの発表内容、議論内容で評価する。

出席回数が10回未満の者は評価対象外とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	農業と環境							担当教員	大久保　卓也
講義コード	1150456	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	農業と環境とのかかわり	序論として農業と環境との関わりについて歴史的な視点から概説する。
第2回	水田農業と環境（１）水田稲作のしくみ	水田稲作の基礎的事項、水田の構造等について説明する。
第3回	水田農業と環境（２）水資源問題	灌漑用水の確保の方法、給水のための施設等について説明する。
第4回	水田農業と環境（３）農業濁水問題	滋賀県における農業濁水問題について説明する。農業濁水とは、4月下旬から5月にかけて水田での代かきに伴い発生する濁水のことである。
第5回	水田農業と環境（４）富栄養化問題	琵琶湖の富栄養化問題と農業との関わりについて説明する。
第6回	畑作農業と環境	畑作農業に関わる環境問題について説明する。
第7回	農薬の環境問題	農薬による環境汚染問題、生態系への影響について説明する。
第8回	畜産と環境	畜産に関わる環境問題について説明する。
第9回	滋賀県における農地整備と環境保全対策	滋賀県での農地整備（圃場整備）と環境保全対策の歴史を学ぶ。（外部講師予定）
第10回	滋賀県における農業経営	滋賀県における農業経営の実態について学ぶ。（外部講師予定）
第11回	滋賀県における水産業と環境	滋賀県における水産業の歴史について学ぶ。（外部講師予定）
第12回	海外における農業と環境	海外において農業活動が環境に負の影響を及ぼしている事例について学ぶ。
第13回	持続的農業の取り組み事例	環境と調和した農業の取り組み事例について学ぶ。
第14回	課題発表１（日本における持続的農業の方向性）	環境と調和した農業の今後のあり方について、グループでレポートを作成し発表する。それに対して皆でディスカッションを行う。
第15回	課題発表２（日本における持続的農業の方向性）	同上

担当者から一言
今年から始めて実施する講義なので、状況をみながら内容を変更することがあります。

講義名	比較住居論							担当教員	藤木　庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM1761,33RED121,135LAH206								

授業概要

世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、主に中国、東南アジアから西アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。

到達目標

(1) 世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。
(2) 人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。
(3) 様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テストを２回行い評価する。 成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。

やむを得ない事由により小テストを欠席する場合には、必ず事前に申し出ること。
また、当日の急病等によって事前の申し出ができずに欠席した場合には、病状に関する診断書を提出すること。
上記以外により小テストを欠席した者は、単位取得を認めない。

授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがつたえる世界のくらし-今日の居住文化誌	藤木庸介（編）	世界思想社	
2				
3				

教科書は第4回目の授業から使用する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	比較住居論							担当教員	藤木　庸介
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM1761,33RED121,135LAH206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。
第2回	住居構成の基礎	建築物の構造や素材といった、住居構成の基礎的な仕組みについて解説する。
第3回	中国の住居（１）	中国中原、並びに南方の四合院における居住文化と住居構成について解説する。
第4回	中国の住居（２）	中国中原における窯洞の居住文化と住居構成について解説する。
第5回	中国の住居（３）	中国内モンゴル自治区におけるゲルの居住文化と住居構成について解説する。
第6回	東アジアの住居	台湾北部の山岳少数民族地域・他における居住文化と住居構成について解説する。
第7回	世界のトイレ事情・世界のスラム事情	世界におけるトイレ文化、スラム街とそこでの暮らしについて解説する。 第１回目の小テストを行う。
第8回	東南アジアの住居（１）	フィリピン北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。
第9回	東南アジアの住居（２）	インドネシア北部の山岳少数民族地域における居住文化と住居構成について解説する。
第10回	南アメリカの住居	ペルー・ティティカカ湖の浮島における居住文化と住居構成について解説する。
第11回	インドの住居	インド北部・ヴァーラーナシーにおける居住文化と住居構成について解説する。
第12回	西アジアの住居	かつてイラクにあった家族島における居住文化と住居構成について解説する。
第13回	アフリカの住居	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。
第14回	イギリスの住居	イギリス・コッツウォルズの居住文化と住居構成について解説する。
第15回	まとめ	本講義の総括を行い、居住文化と住居構成の多様性について考察を行う。 第２回目の小テストを行う。

担当者から一言
本講義の定員は、原則130名とする。 定員を超える受講希望者があった場合には、レポート課題により受講者の選考を行う。

講義名	比較都市論							担当教員	川井　操
講義コード	1150470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM173								

授業概要

都市と何か。その定義（本質）、起源（成立）をめぐる問いは、極めて広範な領域に関わり、今日の都市を理解する上でも必要不可欠である。まずは、都市を媒介とする知の領野（都市生態学　都市地理学　都市社会学　環境心理学　都市史　都市文学　都市の現象学　都市の記号学・・・・）を総覧しながら、原理的な問題を議論したい。そして、都市の類型、都市の歴史を理解する枠組みについて整理したい。具体的な視点とするのは、都市の形態、空間構成、計画理念である。そこでは、可能な限り多様な都市のあり方をとりあげたい。また、多様な構成原理を明らかにしたい。特に、非西欧における都市を積極的にとりあげたい。目指すは、世界都市論、世界都市（計画）史である。

到達目標

都市の歴史について洋の東西を問わずその概要について基本的知識を身につける。また、都市の成り立ちに関する基本的な理論について理解するとともに、様々な分野からの都市研究の方法があることを理解する。また、都市計画の方法、まちづくりの方法について基本的知識を得る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	レポート評価50%
上記以外	50	各回の小レポート評価50%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：指定図書：『都市史図集』（彰国社）

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	都市計画の世界史	日端康雄	講談社現代新書	4062879328
2	都市史図集	都市史図集編集委員会	彰国社	439500489X
3				

前提学力等

世界史についての基礎的知識をもっていることが望ましい。

履修資格

講義名	比較都市論							担当教員	川井　操
講義コード	1150470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM173								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	比較都市論序説・・・オリエンテーション	比較都市論序説・・・オリエンテーション
第2回	都市の起源とその類型	都市の起源とその類型
第3回	西欧都市論	西欧都市論
第4回	ヒンドゥー都市論	ヒンドゥー都市論
第5回	中国都市論	中国都市論
第6回	アジア都城論（日本）	アジア都城論（日本）
第7回	イスラーム都市論	イスラーム都市論
第8回	理想都市論	理想都市論
第9回	植民都市論	植民都市論
第10回	近代都市論	近代都市論
第11回	近代都市論（日本）	近代都市論（日本）
第12回	現代都市論・・・巨大都市論	現代都市論・・・巨大都市論
第13回	現代都市論・・・発展途上国の都市問題	現代都市論・・・発展途上国の都市問題
第14回	現代都市論・・・地球環境問題と都市問題	現代都市論・・・地球環境問題と都市問題
第15回	総括	総括

担当者から一言

講義名	思索の視点/							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM155								

授業概要

本学のモットーである「学生の育つ大学」を実現するために、学生自身が様々な視点から思考して、自己と向き合い、他者を知ることを学ばせる。さらに、学生の学習意欲向上や将来像を持たせる。この講義は、さまざまな思考の視点をオムニバス形式で授業を展開して学ばせる。学生個々に必要な知的能力、論理的思考や判断力の基礎を考えさせるとともに、将来設計能力を職業理解の視点から考えさせるとともに、さらに、自ら学ぶための重要な要素である情報活用力について考えさせる。

到達目標

書く力をつける（小論文：論理的に考え文章にまとめる。説得力のある文章を書く。）
読む力をつける（推薦図書などを読み、物の見方、考え方を多方面から知る。）
聞く力をつける（他者から学ぶ。判断基盤となる情報を得る。）
話す力をつける（自分の意見や体験から説得力をもって表現する。プレゼンテーションを行う。）
総合的に、思考力、判断力、表現力をつけることを目指す。
書籍や資料を読み、自分の意見をまとめて書く。相手に伝わるように話したり、発表する。他人の意見を聞いてディスカッションする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	内容・着眼点３０%,説得力・わかりやすさ２０%,文章力・表現力・語彙力２０%
上記以外	30	授業内での発表、討論への参加

欠席３回を超えると不合格

授業外学習

・推薦図書のなかから３～５冊を選んで読む。「読書ノート」の記入

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

推薦図書などの読書,各授業ごとにプリントなどを配布して、ディスカッションすることを基本とする。

前提学力等

履修資格

講義名	思索の視点/							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM155								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	考えるための道具 学習の目的と授業形態	授業概要の説明 推薦図書一覧の配布
第2回	「人文学の視点」 テーマ《教養・学ぶことについ	①「読書ノート」について　「引用」ということ ②推薦図書５０冊の紹介
第3回	「人文学の視点」 テーマ《教育・生きること・　考	①前時の作文の添削と返却、解説 ②≪教育・生きること・考えること≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第4回	「生活科学の視点」 食生活と健康	①日本の食生活の現状と課題 ②食生活が健康に及ぼす影響について、関係図を作成し、発表・交流する。
第5回	「生活科学の視点」 少子高齢化と社会	①日本の少子高齢化の現状と課題 ②少子高齢化社会が及ぼす影響について、関係図を作成し、発表・交流する。
第6回	「自然科学の視点」（ものづくりの原点）	①論理的思考醸成のため、協同による課題解決学習(1) ②立体を平面に表す手法の習得
第7回	「自然科学の視点」（これまで・これからのものづくり）	①論理的思考醸成のため、協同による課題解決学習(2) ②ものづくりについての過去・現在・未来の考察
第8回	人間の生き方やあり方に影響を与えてきた哲学的思考Ⅰ	古代・中世の哲学を概観し、大陸合理論、イギリス経験論 啓蒙主義の哲学へと発展していく過程をとおして、その理論
第9回	人間の生き方やあり方に影響を与えてきた哲学的思考Ⅱ	ドイツの観念論哲学、弁証法哲学、唯物論、イギリスの功利 主義哲学とアメリカのプラグマティズム、実存主義哲学等に
第10回	現在の世界を理解するための歴史的考察Ⅰ	「戦争の世紀」とも言われる２０世紀。その早い段階で生じた 第一次世界大戦の原因を、１９世紀後半における政治・外交・
第11回	現在の世界を理解するための歴史的考察Ⅱ	第一次世界大戦後に構築された平和維持のためのヴェルサ イユ体制が、世界恐慌を経て崩壊し、第二次世界大戦へと展
第12回	「人文学の視点」 テーマ《ものの見方・考え方　・	①読書ノートの返却と講評 ②≪ものの見方・考え方・働くこと・仕事≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第13回	「人文学の視点」 テーマ《環境を考える・日本の歴	①前時のレポート返却と講評 ②≪環境・日本の歴史・ことば≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第14回	大学生のうちに読みたい本 テーマ《自己と向き合い他者を知	学生自身が選んだ、大学生に薦める本の発表 互いの発表を聴き、読みたいと思った本を選ぶ
第15回	自己の成長・目標	①　産業構造変化について ②　社会と労働環境の変化について

担当者から一言

講義名	考えるための道具							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150511	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本学のモットーである「学生の育つ大学」を実現するために、学生自身が様々な視点から思考して、自己と向き合い、他者を知ることを学ばせる。さらに、学生の学習意欲向上や将来像を持たせる。この講義は、さまざまな思考の視点をオムニバス形式で授業を展開して学ばせる。学生個々に必要な知的能力、論理的思考や判断力の基礎を考えさせるとともに、将来設計能力を職業理解の視点から考えさせるとともに、さらに、自ら学ぶための重要な要素である情報活用力について考えさせる。

到達目標

書く力をつける（小論文：論理的に考え文章にまとめる。説得力のある文章を書く。）
読む力をつける（推薦図書などを読み、物の見方、考え方を多方面から知る。）
聞く力をつける（他者から学ぶ。判断基盤となる情報を得る。）
話す力をつける（自分の意見や体験から説得力をもって表現する。プレゼンテーションを行う。）
総合的に、思考力、判断力、表現力をつけることを目指す。
書籍や資料を読み、自分の意見をまとめて書く。相手に伝わるように話したり、発表する。他人の意見を聞いてディスカッションする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	内容・着眼点３０%,説得力・わかりやすさ２０%,文章力・表現力・語彙力２０%
上記以外	30	授業内での発表、討論への参加

欠席３回を超えると不合格

授業外学習

・推薦図書のなかから３～５冊を選んで読む。「読書ノート」の記入

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

推薦図書などの読書,各授業ごとにプリントなどを配布して、ディスカッションすることを基本とする。

前提学力等

履修資格

講義名	考えるための道具							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150511	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	考えるための道具 学習の目的と授業形態	授業概要の説明 推薦図書一覧の配布
第2回	「人文学の視点」 テーマ《教養・学ぶことについ	①「読書ノート」について　「引用」ということ ②推薦図書５０冊の紹介
第3回	「人文学の視点」 テーマ《教育・生きること・　考	①前時の作文の添削と返却、解説 ②≪教育・生きること・考えること≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第4回	「生活科学の視点」 食生活と健康	①日本の食生活の現状と課題 ②食生活が健康に及ぼす影響について、関係図を作成し、発表・交流する。
第5回	「生活科学の視点」 少子高齢化と社会	①日本の少子高齢化の現状と課題 ②少子高齢化社会が及ぼす影響について、関係図を作成し、発表・交流する。
第6回	「自然科学の視点」（ものづくりの原点）	①論理的思考醸成のため、協同による課題解決学習(1) ②立体を平面に表す手法の習得
第7回	「自然科学の視点」（これまで・これからのものづくり）	①論理的思考醸成のため、協同による課題解決学習(2) ②ものづくりについての過去・現在・未来の考察
第8回	人間の生き方やあり方に影響を与えてきた哲学的思考Ⅰ	古代・中世の哲学を概観し、大陸合理論、イギリス経験論 啓蒙主義の哲学へと発展していく過程をとおして、その理論
第9回	人間の生き方やあり方に影響を与えてきた哲学的思考Ⅱ	ドイツの観念論哲学、弁証法哲学、唯物論、イギリスの功利 主義哲学とアメリカのプラグマティズム、実存主義哲学等に
第10回	現在の世界を理解するための歴史的考察Ⅰ	「戦争の世紀」とも言われる２０世紀。その早い段階で生じた 第一次世界大戦の原因を、１９世紀後半における政治・外交・
第11回	現在の世界を理解するための歴史的考察Ⅱ	第一次世界大戦後に構築された平和維持のためのヴェルサ イユ体制が、世界恐慌を経て崩壊し、第二次世界大戦へと展
第12回	「人文学の視点」 テーマ《ものの見方・考え方　・	①読書ノートの返却と講評 ②≪ものの見方・考え方・働くこと・仕事≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第13回	「人文学の視点」 テーマ《環境を考える・日本の歴	①前時のレポート返却と講評 ②≪環境・日本の歴史・ことば≫のテーマの内容を考える文章を読んで話し合い
第14回	大学生のうちに読みたい本 テーマ《自己と向き合い他者を知	学生自身が選んだ、大学生に薦める本の発表 互いの発表を聴き、読みたいと思った本を選ぶ
第15回	自己の成長・目標	①　産業構造変化について ②　社会と労働環境の変化について

担当者から一言

講義名	機械の再発見							担当教員	山根　浩二
講義コード	1150520	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM174								

授業概要

授業概要：日常生活には，多くの機械や道具が使われているが，その基本となっているのは，てこ，滑車，ねじ，歯車，カムなどの紀元前に考案され使用されてきたものである．日頃から私たちが使用し親しんでいる機械や道具類の仕組みを知ることは，さらなる便利な使いやすい機械やおもしろい動作をする機械をつくるヒントになる．そこで，本講義では，日常接している機械を例にとり，いかに巧みな機械要素が利用されているのかを説明し，機械要素を再発見する．講義は，機械に興味をもっているが，機械に関する専門的な知識がない人でも理解できる内容とする．

キーワード：メカニズム，機械，器械，道具，機構，デザイン

到達目標

（１）基本的な機械要素の名称が言える
（２）基本的な機械要素を説明できる
（３）いくつかの機械要素からなる機械や道具を挙げることができる
（４）新たなメカニズムなどについて多面的に論述できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	第１４週以降の範囲で到達目標（１）～（３）の到達度の総計で18ポイント，（４）に関して12ポイント，合計３０ポイントとします．
レポート課題	45	到達目標(１)～(３)に関して各15ポイントで，合計45ポイントで評価します．講義毎のワークシートをすべて提出すれば，この60ポイント，１回欠けると5ポイント減としてます．
上記以外	25	第７週までの範囲で到達目標（１）～（３）の到達度の総計で25ポイントとします．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配付します．

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて参考書を紹介します．

前提学力等

履修資格

講義名	機械の再発見							担当教員	山根　浩二
講義コード	1150520	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM174								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	講義の進め方，身近な機械や道具を動画などを用いて紹介し，本講義で何を身につけるか説明します．（次週事前学習として，数名の各グループで身近な機械や道具を取り上げてその機構を簡単に紹
第2回	身近な機械や道具の話	前週の事前学習である数名の各グループによる身近な機械や道具とその機構の紹介
第3回	基礎的なメカの話	種々の機構に関する概要を説明し，次週以降の予備知識とします．
第4回	てこークランク機構など力を拡大する話	木の板を利用して４節クランク機構を組み立て体験し，仕組みを学びます（木片やビスなどの教材は教員側が準備します）
第5回	歯車など速度を変える話	手動鉛筆削りを分解して，遊星歯車がどのように機能しているのか学びます（手動鉛筆削りは教員側が準備します）
第6回	バネなど力を蓄える話	プルバックカーの力を蓄えるメカを，実際にプルバックカーと組み立てて学びます（教材は教員側が準備します）
第7回	自動車部品の中の様々なメカの話	自動車の用いられているさまざま部品とそのメカを動画で学びます．
第8回	中間まとめ	前週まで学んだメカの復習を設問形式で答えてもらいます．
第9回	ちょっと一息＝計算尺の話	「計算尺」を実際に使ってみて，有効数値や数値を丸めることを学びます（紙製の計算尺は，人数分，教員側が準備します．講義終了後，計算尺は持参可）
第10回	逆止弁など方向を制限する話	ウォーターハンマー（水撃）ポンプを動画で紹介し，水流を一方向に制限することで起こる現象とそれを利用したメカを学びます．
第11回	自動車のデザインの変遷の話－１	代表的な国産乗用車を例に，ボディーデザインの変遷について紹介し，デザインから使われているメカを学びます．
第12回	自動車のデザインの変遷の話－２	海外の乗用車を含めて機械の意匠デザインの今後について学びます．
第13回	永久機関の話	永久機関はほんとうに実現しないのか，永久機関とは何かについて学びます．
第14回	新たな機械の再発見	３Ｄプリンタの原理やどんなモノが作れるのか，実際に３Ｄプリンタを見学し体験する
第15回	まとめ	前週までの内容に関して設問形式で復習し，さらに将来の機械や道具について多面的に論述する．

担当者から一言

講義名	キャリアデザイン							担当教員	髙松　徹／高橋　卓也／林　宰司
講義コード	1150530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM124								

授業概要

学生一人ひとりが自身の将来を描き、人間形成とキャリア・職業観の育成、職業・進路の選択および決定ができる能力を培う。
このために、昭和30年以降の日本の経済成長、消費者の行動、デフレの到来などが労働環境に及ぼした影響について明らかにする。
更にリアルタイムでビジネスの世界で起きている現象・出来事を知り、そこから新たなビジネスの可能性や未来予測などを自分達自身で考え、発表し、クラスで共有していく。
また、自己のキャリアについて広い観点から考えることの重要性に気づき、勉学・課外活動も含めた学生生活のあり方について考える動機付けとする。

到達目標

（1）キャリアデザインの必要性を理解できる。
（2）将来設計のための経済や企業の見方を習得できる。
（3）ビジネスや企業の仕組み、多様な働き方、各業界の動向を理解できる。
（4）自己のキャリアデザインを描くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	８０	毎回の授業ごとに課すレポート課題を授業時間内の15分で完成させて提出させる。 ２０%：講義の内容を理解できているか。 ４０%：レポート課題への解答が妥当か。
上記以外	２０	グループディスカッションを数回行う。 ２０%　ディスカッションに積極的に参加し発言しているか。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	キャリアデザイン							担当教員	髙松　徹／高橋　卓也／林　宰司
講義コード	1150530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM124								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	キャリアデザインを学ぶ目的	高松　徹特任教授、(株)ディスコ なぜキャリアデザインが必要か、自己のキャリアについて幅広い観点から考えることの重要性を気
第2回	戦後日本の経済発展	高橋卓也教授 １．日本の高度経済成長
第3回	労働環境の変化	林　宰司准教授 １．デフレスパイラルと労働環境の変化
第4回	未来の働き方が変わっていく!!	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 日本の社会では当たり前だった年功序列や終身雇用の制度がどんどん崩壊している。今や男性が育児
第5回	ロボットの普及で仕事がなくなる!?	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 ロボットやAIの登場で今ある仕事の半分がなくなるという説もある。一方で新しい仕事も生まれてき
第6回	自己を知る	高松　徹特任教授、(株)ディスコ 自己分析と自己のキャリアとの関連を理解させ、各自の将来の働き方を考えさせる。また、「自己分
第7回	企業のIR情報を読み解くⅠ	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 企業の経営状態や将来性を知るためにはIR情報の収集とその解析が非常に重要である。これを理解さ
第8回	企業のIR情報を読み解くⅡ	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 企業の経営状態や将来性を知るためにはIR情報の収集とその解析が非常に重要である。これを理解さ
第9回	社会生活と税金	大津税務署税務広報広聴官 社会生活を営む上で税金について無視することはできない。　暮らしに関わる税のしくみについて学
第10回	男女共同参画とキャリア	社会保険労務士　天野勉 働き方の多様化が進み、男女がともに働きやすい職場環境が確保されることによって個人の能力が最
第11回	中小企業、中堅企業の見方	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 企業規模の小さい企業の健全性、今後の成長性や働き方の違いについて理解させる。
第12回	産業トレンドやトピックから未来を予測するⅠ	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 日本の産業構造を揺るがすようなトレンドやトピック（シェールガス　革命や産業インターネットな
第13回	産業トレンドやトピックから未来を予測するⅡ	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 アマゾンや楽天等からのネット購入の拡大による消費生活の変化による影響を考える。
第14回	企業の仕組みを知り、企業で働くことを考える	ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾗｰ　浜口桂 企業の成り立ちとその社会的な存在意義を知り、企業の在り方と個人の働き方のギャップを考える。
第15回	大学生活の目標と行動計画作成	高松　徹特任教授 学業全般、学生生活に関する目標と行動計画を作成させる。

担当者から一言

講義名	キャリアデザイン特講							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150580	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号									

授業概要

ビジネス社会で必要不可欠な、「思考力」「発想力」「表現力」、そして「コミュニケーション力」を実践的に身につけるために、毎回テーマ・プログラムを変えてグループワーク形式等でのアクティブラーニング型授業を実施するため、授業中は発言や質問、発表、およびワークへの参加等が必須となります。

到達目標

毎回授業のグループワークで思考力・発想力・表現力・コミュニケーション力等を実践的にトレーニングすることで、卒業後にビジネス等の現場で強力な武器となるビジネススキルを身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	５０	授業中に作成した成果物…授業中にアウトプットしたアイデアリストや企画書、計画書、振り返りレポートなどを評価（個人およびグループ評価） １００%グループディスカッションやグループワークに参加し、各自の役割がはたせたか。

授業への参画度…５０%…毎回のグループワークやプレゼンなどでの参画度（発言の量と質や作業への積極性など）
毎回の授業開始直後にグループ分けを実施、遅刻者はグループワーク等に参加できないため遅刻厳禁、また授業途中・終了直前などにグループで振り返りレポート等の作成を行うため途中退出もできません。遅刻者および途中退出者はその授業での成績評価対象外となるので注意してください。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	キャリアデザイン特講							担当教員	髙松　徹
講義コード	1150580	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	「授業ガイダンス・グループワーク体験」	この授業の到達目標の説明とグループワーク形式での進め方や成績評価に関する注意事項の提示。
第2回	「チームビルディング①」	「アライアンスワークⅠ」による、グループにおける協働作業と成果への工夫。 また、アイフォーンやウオシュレットの劇的な出現から起きた、商品価値の再構築による新しい市場
第3回	「チームビルディング②」	「アライアンスワークⅡ」による、グループにおける役割分担と成果への工夫。
第4回	「チームビルディング③」	「アライアンスワークⅢ」による、グループでの論理的思考の共有と検証。
第5回	「セルフプレゼンテーション①」	「アライアンスワークⅣ」による、グループでのゼロベース思考の実践。
第6回	「セルフプレゼンテーション②」	非言語ツールによる自己表現を言語化することで自分自身についてプレゼンテーションを実施。
第7回	「セルフプレゼンテーション③」	非言語ツールにより即興でシナリオを作成、アドリブによる自分自身についてプレゼンテーションを実施。
第8回	「アイデア創出トレーニング①」	思考の癖や枠を外すことで、発想を無限に広げていくためのスキルを学ぶグループワークで実践。
第9回	「アイデア創出トレーニング②」	アイデアを展開するための視点の切り方を学び、複数のテーマを使ってグループワークで実践。
第10回	「アイデア創出トレーニング③」	創出されたアイデアを整理・まとめて、企画書に落とし込んでいくためのグループワークを実施。
第11回	「ソリューショントレーニング①」	解決すべき課題を見出すため、情報取集力と洞察力のトレーニングをグループワークで実施。
第12回	「ソリューショントレーニング②」	課題解決ための実践的なトレーニングを複数のテーマを使ってグループワークで実施。
第13回	「ビジネスアイデア」	社会的課題をビジネスの仕組みを利用して解決していくアイデア出しをグループで行い、独創性と実現性で絞り込んでいく。
第14回	「ビジネスアモデル」	前回（⑬）の授業で出たビジネスアイデアの中からひとつを選び、基本的なビジネスモデル設計図にまでブラッシュアップ。
第15回	「ビジネスプレゼンテーション」	前回（⑭）の授業でブラッシュアップしたビジネスモデル設計図を、グループで準備してプレゼンテーションを実施。

担当者から一言

講義名	地域共生論							担当教員	鵜飼　修／伊丹　君和／市川　秀之／ 岩間　憲治／上田　洋平／木村　裕／ 酒井　道／佐々木　一泰／瀧　健太郎／ 竹下　宏樹／轟　慎一／西田　隆義／ 森川　稔／安田　孝宏
講義コード	1170010	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS101								

授業概要

他者と共感し豊かな対話の中で育まれる地域共生の意義を理解し、自ら率先して地域で実践することの大切さを学ぶ。本授業は、本学学生が身につけることを目指す能力：変革力を構成する「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」の3 のうち、「コミュニケーション力」の育成に重点をおいた導入科目として位置づける。環境、工学、人間文化、人間看護の各分野から提起される「地域共生」に係る課題、提示される観点、提供される事例を踏まえ、グループ討議を繰り返しながら「自己」「他者」「地域」それぞれの特性への理解を深めるとともに、各自のスキルの向上をめざす。

到達目標

(1) 自己の強みや弱みを把握できる。（自己認識）
(2) 自己の意見、他者意見の対話を通じて成果物を作成することができる。（協働力・統率力）
(3) 他者・地域とのコミュニケーションをはかるための基礎的な作法を身につけている。（親和力）
(4) 自己の考えを自分の言葉で整理し、他者に発信できる。（自信創出力）

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	個人成果物の評価、チーム成果物の評価、チームプレゼンテーションの評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

補助教材（ワークブック）を用いる

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始日前に、教材（ワークブック）を生協にて購入のこと

前提学力等

履修資格

講義名	地域共生論							担当教員	鵜飼　修／伊丹　君和／市川　秀之／ 岩間　憲治／上田　洋平／木村　裕／ 酒井　道／佐々木　一泰／瀧　健太郎／ 竹下　宏樹／轟　慎一／西田　隆義／ 森川　稔／安田　孝宏
講義コード	1170010	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	コミュニケーションとは何か	
第3回	人間看護学部担当	
第4回	アセスメントテスト	（一般教室にて）
第5回	人間看護学部担当	
第6回	工学部担当	
第7回	工学部担当	
第8回	工学部担当	
第9回	環境科学部担当	都市と田舎での暮らしについて学び、自らのライフスタイルについて考える。
第10回	環境科学部担当	
第11回	環境科学部担当	
第12回	人間文化学部担当	
第13回	人間文化学部担当	
第14回	人間文化学部担当	
第15回	アセスメントテスト解説および授業総括	

担当者から一言

講義名	地域診断法							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1170040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	191CNW201								

授業概要

私たちの生活は、日々判断の連続です。判断には、対象の本質を見極める能力が必要です。人とのつきあい、就職先の選定、将来のマイホーム購入、あるいは仕事上での判断、新しい発想など、物事を本質を見極め判断する機会がたくさんあります。
この授業では、そうした判断を行う際の「物事の見方」を修得します。物事をうわべだけで判断するのではなく、分解・再構築してその本質的な特徴を見出す手法を「地域診断」「エコロジカルプランニング」という手法を通じて身につけます。

到達目標

①地域診断の理念、意義、手法および地域における地域資源・地域特性とその「つながり」について説明することができる
②具体的地域を対象にエコロジカルプランニングを用いた簡易な地域診断を行う事ができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	79	①地域診断の理念、意義、手法および地域における地域資源・地域特性とその「つながり」について説明することができる：ミニレポート＝49%、 ②具体的地域を対象にエコロジカルプランニングを用いた簡易な地域診断を行う事ができる：グループレポート30%
上記以外	21	理解度確認中間ふりかえりにて、中間試験を行う。

7回までは教科書と授業で配布するワークシートを使って学習します。
9回～14回までは、グループワークの進捗管理のワークシートを用いて学習します。

授業外学習

グループで成果物を作成するため時間外の活動が生じる場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法	鵜飼修責任編集・近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

初回授業に持参すること

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域診断法							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1170040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	191CNW201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス：地域診断とは何か	15回の授業を通じて、地域診断の手法を身につけます。
第2回	エコロジカルプランニングの理念と手法、環境共生型の暮らし、家	
第3回	地域診断的「まちあるき」の方法	
第4回	地域の形を把握し、地域を理解する：地域構造図を描く	
第5回	地形・風を読み解く：水と風が生み出す大地の形・地形と風と植物	
第6回	生物を読み解く：知っておきたい地域の動植物の価値	
第7回	歴史・経済を読み解く：琵琶湖に育まれた生活文化・住みよさラン	
第8回	理解度確認中間ふりかえり	
第9回	エコロジカルプランニングを用いた地域診断（グループワーク）1	
第10回	エコロジカルプランニングを用いた地域診断（グループワーク）2	
第11回	エコロジカルプランニングを用いた地域診断（グループワーク）3	
第12回	エコロジカルプランニングを用いた地域診断（グループワーク）4	
第13回	エコロジカルプランニングを用いた地域診断（グループワーク）5	
第14回	地域診断結果の発表とまとめ	
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言
関心ある人はどなたでも受講いただいてかまいません。ただし、グループワークがありますので、途中でのリタイアは厳禁です。

講義名	システム思考法							担当教員	森川　稔／鵜飼　修
講義コード	1170050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW202								

授業概要

システム思考の理念・手法を用いたケースワークを通じて、様々な問題に創造的な解決策を提示する能力の修得を目指す。具体的には、地域課題を整理する最初のステップとして、システムの図示化を通じた課題整理の基本を習得することを目的とする。その後の「地域デザインA、B、C、D」の実践的な学びで想定されるシチュエーションを考慮し、「社会」と「自然」をつなぐ視点、さらには「システム」としてダイナミックに動かすための勘所を教授する。

到達目標

(1)システム思考の理念及び手法を理解している
(2)課題解決にシステム思考の手法を用いることができる
(3)課題解決にあたって、システム思考の手法を用いて創造的な提案ができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	システム思考の理念及び手法を理解している
上記以外	50	(1) 課題解決にシステム思考の手法を用いることができる： 20% (2) 課題解決にあたって、システム思考の手法を用いて創造的な提案ができる：30%

授業外学習

グループで成果物を作成するため時間外の活動が生じる場合がある

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	学習する組織――システム思考で未来を創造する	ピーター M センゲ	英治出版	4862761011
2	システム×システム思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」	前野隆司 (著)他	日経ＢＰ	4822249948
3				

その他必要に応じて資料を配付する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	システム思考法							担当教員	森川　稔／鵜飼　修
講義コード	1170050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスおよび2軸図の解説	（概要とその種類を俯瞰する）
第2回	ブレイン・ライティング	
第3回	マンダラートその1	
第4回	マンダラートその2	
第5回	ワールドカフェ	「つながり」と「全体像」を俯瞰する視点
第6回	ＳＷＯＴ分析その1	
第7回	ＳＷＯＴ分析その2	
第8回	ＳＷＯＴ分析その3	
第9回	ＳＷＯＴ分析その4	
第10回	ワーク手法の実践その1	
第11回	ワーク手法の実践その2	
第12回	ワーク手法の実践その3	
第13回	ワーク手法の実践その4	
第14回	成果発表会	
第15回	授業の総括	

担当者から一言
【注意！！】この科目は、2回生以上を対象とする。1回生は、後期の地域診断法を受講の上で、来年度前期で当該科目を受講すること。

講義名	問題解決デザイン論							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1170060	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW203								

授業概要

デザイン思考の理念・手法を用いた問題解決デザインのケースワークを通じて、様々な問題に創造的な解決策を提示する能力の修得を目指す。具体的には、デザイン思考が求められる社会的背景および、その理念と意義を理解し、具体的なケースを用いてデザイン思考の手法を理解し、自らが活用できるようワーキングを行い、課題に対して創造的な解決方法の提示を試みる。

到達目標

(1)デザイン思考の理念及び手法を理解している
(2)課題解決にデザイン思考等の手法を用いることができる
(3)課題解決にあたって、デザイン思考等の手法を用いて創造的な提案ができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	(1)デザイン思考の理念及び手法を理解している：ミニレポート50%
上記以外	50	(2)課題解決にデザイン思考の手法等を用いることができる：理解度確認中間ふりかえり20% (3)課題解決にあたって、デザイン思考等の手法を用いて創造的な提案ができる：30%

授業外学習

★授業は、毎回ワークシートを配布し、授業時間中に記入し提出する形で行います。
★成果物を作成するため時間外の活動が生じる場合があります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン著　千葉敏生訳	ﾊﾔｶﾜﾉﾝﾌｨｸｼﾞｮﾝ文庫	4150504075
2				
3				

★授業で貸し出しますが、自分で購入できる人は購入してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

★参考VTR（第1回の時に上映します）：https://www.ted.com/talks/tim_brown_urges_designers_to_think_big?language=ja

前提学力等

近江楽士（地域学）副専攻科目「地域診断法」、「システム思考法」を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	問題解決デザイン論							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1170060	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス：デザイン思考とは何か	デザイン思考のウォーミングアップ
第2回	デザイン思考を実践するポイントとは（第1章）	
第3回	ニーズを需要に変える方法（第2章）	
第4回	デザイン思考におけるプロセス（第3章）	
第5回	プロトタイプ製作の意義（第4章）	
第6回	デザイン思考の演習：課題の本質を考える～観察、洞察、共感	
第7回	デザイン思考の演習：課題解決の提案と発表・評価	
第8回	理解度確認中間ふりかえり	
第9回	問題解決デザインの事例とポイント　1	【2017年度実施・変更の可能性アリ】「夢のタネいろどり」上勝町　葉っぱビジネス
第10回	問題解決デザインの事例とポイント　2	【2017年度実施・変更の可能性アリ】海士町「島の幸福論」
第11回	問題解決デザインの事例とポイント　3	【2017年度実施・変更の可能性アリ】田舎の埋もれた宝を“デザイン”の力で輝かせる男！
第12回	問題解決デザインの事例とポイント　4	【2017年度実施・変更の可能性アリ】年商4000万円の農家続出　ニッポン農業の未来はココに！
第13回	問題解決デザインの事例とポイント　5	【2017年度実施・変更の可能性アリ】進化を続ける「道の駅」
第14回	問題解決デザインの提案作成	
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言
★デザインシンキング、問題解決デザインの手法は、どのような立場でも応用可能な思考方法です。変化する時代の中で、しなやかに生きていくための柔軟な思考方法を身につけましょう。

講義名	地域デザインＡ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170070	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW301								

授業概要

地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主導的に取組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーションの手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。

提案した内容が地域で実践されたり、人びととの対話をきっかけに地域での新たな活躍の場を獲得するなど、学生にとっても様々なチャンスにつながる機会になっている。

① 夏期３日間の集中講義として行う（2018年度は8月17日、18日、19日を予定）。
② 学生、院生混成によるチームを編成し、フィールドワークやワークショップに臨む。
③地域から提起されたホットでリアルなフィールドや課題に挑む。
④地域の方々と共に歩き、考え、具体的な企画・提案を作成する。

到達目標

(1) 様々な地域再生事業の概要及び実施手法について理解し説明できる。
(2) フィールドワークやワークショップによって地域の現状と課題について的確に把握し整理することができる。
(3) 地域課題・地域再生に資する事業を企画し提案することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す（1）（2）（3）についてはワークブックへの記入と提出（６０％）、グループワークの成果（20%）、およびプレゼンテーション（20%）により評価する。

授業外学習

フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成に向けて、チーム毎に相談したうえで授業時間外に作業を行う場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域再生　滋賀の挑戦　エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成	近江環人地域再生学座編	新評論	
2	地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	
3	近江楽座のススメ－学生力で地域が変わる	近江楽座学生委員会編著	ラトルズ	

前提学力等

履修資格

講義名	地域デザインＡ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170070	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス（4月）	ガイダンスは4月に実施する。ガイダンスの日程は別途案内する。 授業、フィールドワークは8月17日、18日、19日に実施する。
第2回	地域コミュニティの現状と課題-フィールドワーク対象地の紹介と	フィールドワーク対象地（県内4～5地域）の地域課題について紹介する。受講生の希望も勘案してチームを編成する。講義を通しての各人の目標設定を行う。
第3回	レクチャー及びＷＳ　地域再生「１０箇条」	全国的に知られた成功事例をとおして住民主体による地域再生の取り組みに必要な要件を抽出する。
第4回	レクチャー及びＷＳ　地域課題の分析とリサーチクエスチョンの設	「マンダラート」等の手法により、地域課題に関わる視野を広げた上で、課題の絞り込みと課題解決に向けた方向性を議論する。
第5回	レクチャー及びＷＳ　地域課題の分析とリサーチクエスチョンの設	「マンダラート」等の手法により、地域課題に関わる視野を広げた上で、課題の絞り込みと課題解決に向けた方向性を議論する。
第6回	フィールドワークの設計	調査対象地域毎に日程の確認、フィールドワーク（チーム）の目標設定、役割分担、成果のとりまとめのイメージについて議論する。
第7回	フィールドワーク／ＷＳ（地域をあるく・みる・きく）①	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第8回	フィールドワーク／ＷＳ（地域をあるく・みる・きく）②	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第9回	フィールドワーク／ＷＳ（地域をあるく・みる・きく）③	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第10回	フィールドワーク／ＷＳ（地域をかたる・かんがえる）①	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地のまち歩き
第11回	フィールドワーク／ＷＳ（地域をかたる・かんがえる）②	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地のまち歩き
第12回	地域再生提案の作成①	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第13回	地域再生提案の作成②	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第14回	地域再生提案の作成③	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第15回	特別レクチャー（一般公開）	地域再生・地域活性化の分野で全国的に活躍するゲスト講師（地域再生提案に対するコメンテーター）による特別講義。講師：未定
第16回	地域再生提案プレゼンテーションと講評（一般公開）	チーム毎に作成した地域再生提案の発表。学生による相互評価と教員、ゲスト講師による評価、講評

担当者から一言
他大学の学生、大学院生、地域で活躍する社会人など多様な人々とチームをつくってあるく・みる・きく授業です。地域・コミュニティと関わらずに済む仕事や人生は今やどこにもありません。課題を通したさまざまな出会い、つながりが、将来の自己実現の道を開きます。

講義名	地域デザインＢ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170080	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW302								

授業概要

地域における情報発信にチャレンジする。
具体的には、対象とする地域団体（行政、企業、NPOなど）の要請を受け、情報誌等の企画・制作・発行を行う。情報発信における、企画、取材、編集・デザイン、校正、発行のノウハウを実践的に学修する。

・開講日程及び開講の形態はプロジェクトやチームの状況に合わせて相談しながら設定する。
・チームに分かれてのフィールドワークや制作・ワークショップ等を行う。
・優れた提案や企画については、連携企業や関係団体の支援を得ながら現実に事業化（起業支援・商品化等）することも想定している。
・以上の事を含めて詳細は年度当初に開催するガイダンスで説明する。

なお、授業計画は目安であり、状況に合わせて臨機応変に対応する。

到達目標

(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している
(2)地域との適切な対話が出来る。
(3)地域デザインのノウハウを用いることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：30% (2)地域との適切な対話ができる：40% (3)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物50%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

時間外の活動が生じる場合がある。
学外で行われる講座の聴講等、学外での授業がある。

履修資格

講義名	地域デザインＢ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170080	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291CNW302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：地域デザインとは	
第2回	コミュニケーションノウハウ1	
第3回	コミュニケーションノウハウ2	
第4回	構想ノウハウ1	
第5回	構想ノウハウ2	
第6回	実践ノウハウ1	
第7回	実践ノウハウ2	
第8回	中間ふりかえり	
第9回	地域デザインの提案（地域実践活動）1	地域団体と連携
第10回	地域デザインの提案（地域実践活動）2	地域団体と連携
第11回	地域デザインの提案（地域実践活動）3	地域団体と連携
第12回	地域デザインの提案（地域実践活動）4	地域団体と連携
第13回	地域デザインの提案（地域実践活動）5	地域団体と連携
第14回	地域デザインの提案の発表	地域団体と連携
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言

講義名	地域デザインC							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／森川　稔
講義コード	1170090	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP301								

授業概要

地域における居場所づくりにチャレンジする。超高齢化、人口減少社会における地域の活力創造のノウハウを実践的に学修する。具体的には地域の団体（自治体、企業、NPO等）と連携し、その要請に応える形でコミュニティ・カフェ等の居場所づくりを実践する。実践を通じて、地域との対話力、企画・提案力、実施ノウハウを学ぶ。

・開講日程及び開講の形態はプロジェクトやチームの状況に合わせて相談しながら設定する。
・チームに分かれてのフィールドワークや制作・ワークショップ等を行う。
・優れた提案や企画については、連携企業や関係団体の支援を得ながら現実に事業化（起業支援・商品化等）することも想定している。
・以上の事を含めて詳細は年度当初に開催するガイダンスで説明する。
以下の授業計画は目安。状況に応じて臨機応変に対応する。
受講生がこの取り組みを通じて起業することも推奨する。その場合は別途ノウハウを教授する。

到達目標

(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している
(2)地域と適切な対応を行うことが出来る
(3)地域デザインのノウハウを用いることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：30% (2)地域と適切な対話を行うことが出来る：40% (3)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

時間外の活動が生じる場合がある。
学外で行われる講座の聴講等、学外での授業がある。

履修資格

講義名	地域デザインC							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／森川　稔
講義コード	1170090	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：地域デザインとは	
第2回	コミュニケーションノウハウ1	
第3回	コミュニケーションノウハウ2	
第4回	構想ノウハウ1	
第5回	構想ノウハウ2	
第6回	実践ノウハウ1	
第7回	実践ノウハウ2	
第8回	中間ふりかえり	
第9回	地域デザインの提案（地域実践活動）1	地域団体等と連携
第10回	地域デザインの提案（地域実践活動）2	地域団体等と連携
第11回	地域デザインの提案（地域実践活動）3	地域団体等と連携
第12回	地域デザインの提案（地域実践活動）4	地域団体等と連携
第13回	地域デザインの提案（地域実践活動）5	地域団体等と連携
第14回	地域デザインの提案の発表	地域団体等と連携
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言

講義名	地域デザインD							担当教員	森川　稔／上田　洋平／鵜飼　修
講義コード	1170100	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP302								

授業概要

地元の「チャレンジショップ」制度あるいは各地「まちづくり会社」とのタイアップ、「しが新事業応援ファンド」をはじめとする県内の各種中小企業向け支援制度とリンクさせ、空家や空き店舗をはじめ様々な地域資源を活かし地元に密着した新事業プランをチームで作成・提案させる。優れた提案については実際に応募させ、起業・創業に直結するような実践型のプログラムとする。地元企業人や金融関係者、インキュベーションマネージャー等を新たにサポーター人材「地域人」として委嘱し、サポートを受ける。アントレプレナーシップ、マネジメント力の養成を図る。

・開講日程及び開講の形態はプロジェクトやチームの状況に合わせて相談しながら設定する。
・チームに分かれてのフィールドワークや制作・ワークショップ等を行う。
・優れた提案や企画については、連携企業や関係団体の支援を得ながら現実に事業化（起業支援・商品化等）することも想定している。
・以上の事を含めて詳細は年度当初に開催するガイダンスで説明する。

到達目標

(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している
(2)地域デザインのノウハウを用いることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：面談50% (2)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物50%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

時間外の活動が生じる場合がある。
学外で行われる講座の聴講等、学外での授業がある。

履修資格

講義名	地域デザインD							担当教員	森川　稔／上田　洋平／鵜飼　修
講義コード	1170100	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：地域デザインとは	授業の進め方については、適宜、受講者と教員で調整
第2回	コミュニケーションノウハウ1	
第3回	コミュニケーションノウハウ2	
第4回	構想ノウハウ1	
第5回	構想ノウハウ2	
第6回	実践ノウハウ1	
第7回	実践ノウハウ2	
第8回	中間ふりかえり	
第9回	地域デザインの提案（地域実践活動）1	
第10回	地域デザインの提案（地域実践活動）2	
第11回	地域デザインの提案（地域実践活動）3	
第12回	地域デザインの提案（地域実践活動）4	
第13回	地域デザインの提案（地域実践活動）5	
第14回	地域デザインの提案の発表	
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言

講義名	近江の歴史と文化							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1170110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS103								

授業概要

近江の持つ地域的特性とそれを基盤とする文化の特質を歴史学的視点から探る。近年、近江の文化・歴史に関する研究が盛んである。その成果の一端を紹介していく。特に、近江文化の持つ歴史性に注目し、古代から現代への展開を追う。

到達目標

(1)近江の歴史に関する基礎知識を理解し、それを日本の歴史との比較を通して論じることが出来る。
(2)近江の文化に関する基礎知識を理解し、それを日本の文化との比較を通して論じることが出来る。
(3)近江の歴史と文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業のレスポンスカード　30パーセント まとめの確認テスト　７０パーセント

授業外学習

適宜行う

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高等学校で、「日本史B」を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	近江の歴史と文化							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1170110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の概要を説明する。
第2回	近江の風景	映像資料を使い、近江の近現代史を確認する。
第3回	継体天皇と近江	継体天皇と近江について説明する。
第4回	紫香楽宮	紫香楽宮について説明する。
第5回	信楽焼き	映像資料を使い、信楽焼きの説明を行う。
第6回	藤原仲麻呂の夢	藤原仲麻呂と近江について説明する。
第7回	湖上交通と湖賊	中世の湖上交通について説明する。
第8回	映画『雨月物語』	中世近江を舞台とする映画について説明する。
第9回	近江の中世城郭	近江の中世城郭について説明する。
第10回	安土城	安土城について説明する。
第11回	博物館へ行こう	各自、県内の博物館の観覧を行う。
第12回	おあん物語	中世近江を舞台とする物語について説明する。
第13回	オーミケンシ人権闘争	オーミケンシ人権闘争について説明する。
第14回	湖と生きる	近江に琵琶湖がある意味を考える。
第15回	まとめ	まとめとして確認テストを行う。

担当者から一言

講義名	地域社会福祉論							担当教員	富永　豊※
講義コード	1170120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS104								

授業概要

大きな経済力とともに福祉国家としての高い福祉制度を持っていた日本の社会において、低成長経済の長期化や雇用形態の変化といった産業経済状況に加えて、少子高齢化や人口減少といった社会構造等の変化に伴い、医療や年金問題そして孤独死やさらには自殺や貧困のほか、虐待や暴力といった社会問題がクローズアップされています。東日本大震災を契機に幸せとは何かが今、問い直されるようになり、共生社会の実現が叫ばれています。いうまでもなく社会福祉は、すべての人の幸せ(well-being)を目的としています。その社会福祉のあり方についてあらためて振り返り、多くの国民の安心や体験としての幸せがアップしてゆくためには何が必要なのか、この滋賀の社会資源にも目を向けながら皆さんと考察できればと思います。

到達目標

（１）我が国における社会福祉の仕組みや制度の概要について学ぶ。
（２）社会福祉制度の現状と課題について考察することができる。
（３）今後の社会福祉のあり方について考えられる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標（１）について、択一式試験を行う。（４０点） 到達目標（２）について、記述式試験を行う。（１０点） 到達目標（３）について、論述式試験を行う。（１０点）
レポート課題	20%	到達目標（２）について、事前学習のためのレポート課題を課す。（４題）
上記以外	20%	到達目標（３）については、上記の外に授業に出席し質疑や意見発表等をすることで、理解を深めることを重視する。

全講義数の２分の１以上を欠席した場合、および課題レポートの提出が２回以下の場合は、成績評価の対象とはしません。また、出席カードについて、本人以外のカードを不正に作成し提出した場合は、作成した本人も含めて欠席扱いとします。

授業外学習

講義資料（レジュメ）は当日の配布となりますが、講義の日までに予備知識を得ておいてください。授業は、講義時間の制約上、基礎的な知識があることを前提に進めます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「新社会福祉論」	川池智子編著	㈱学文社	978-4-7620-2332-3
2	「現代社会と福祉」	大橋謙策・白澤政和共著	ミネルヴァ書房	978-4-623-05396-4
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域社会福祉論							担当教員	富永　豊※
講義コード	1170120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	「私たちの生活と社会福祉」	社会福祉は、私たちの生活とどう関係しているのか等について、考察する。
第2回	「社会福祉とは何か　－社会保障と社会福祉―」	日本と北欧の福祉における構造や社会システムの国際比較をする中で、社会福祉のあり方を探る。
第3回	「日本の社会福祉の歩みと展開」	現在の日本の社会福祉の理念や枠組みについて、その歩みから理解する。
第4回	「公的扶助と生活困窮者対策」	日本における救貧・防貧対策制度の現状について学び、生活困窮者の自立支援対策の課題を探る。
第5回	「医療・年金制度と社会連帯」	少子高齢化の急速な進展に伴い国民皆保険・皆年金制度の制度疲労が生じており、その課題とあり方について考える。
第6回	「少子・高齢化への対策」	急速な少子高齢化への対策の現状と経過を踏まえて、その成果や課題について考察する。
第7回	「障害者福祉と自立支援制度」	ノーマライゼーションの理念と障害者の自立生活の保障について理解するとともに、その自立支援制度の課題について考える。
第8回	「虐待問題と現代社会の課題」	社会的養護を必要とする児童に対する支援および児童・高齢者・障碍者虐待の現状と課題を探る。
第9回	「精神障碍者問題と福祉実践」	長浜・彦根地域における福祉実践の取組から、今後の日本における精神科医療と精神障碍者の保健福祉制度の展望を模索する。
第10回	「地域福祉の推進と連携システム」	域福祉の推進の必要性について理解するとともに、福祉コミュニティの形成のための協働と連携システムについて考察する。
第11回	「社会福祉と権利擁護」	苦情解決仕組み、権利擁護事業や後見制度について学び、高齢者や障害者への虐待防止について考える。
第12回	「子ども家庭福祉対策の歩みと課題」	子どもが育つ基盤である家庭等に対する社会福祉制度について学び、特に貧困対策や子育て支援対策等についての現状と課題を探る。
第13回	「滋賀の福祉の歩みと共生社会の理念」	先駆的な滋賀における福祉の実践について振り返る中で、共に生きる地域社会の実現に向けて何が求められているのかを探る。
第14回	「DVの現状と課題」	子どもが育つ家庭における配偶者間暴力や交際相手からの暴力の実態について学び、その対策や制度について課題を探る。
第15回	「対人援助職の基本的視点と援助技術」	自己覚知、アイデンティティの確立、対等性、援助技術、倫理や使命感といった専門性や価値を構成する要素について理解する。

担当者から一言
社会福祉論の学びは、単に知識や教養を高めることにとどまらず、地域社会や自身の人生のあり方に直結する、知行合一の実践的な側面を持っています。したがって、現在の制度や施策を学ぶだけでなく、私たちの家庭や社会での生活におけるより望ましい社会福祉のあり方を追い求め、今後の

講義名	地域コミュニケーション論							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170130	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS102								

授業概要

コミュニケーションとは何だろうか。「自分の意見が言える」こと？「人の話が聞ける」こと？それとも「空気を読める」ことだろうか？
　当講義では「communicare（分かち合う、共有する）」というこの語の由来に立ち返り、コミュニケーションとは何か、また地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景等について概観した上で、産官学さまざまな立場・現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、リアルな地域課題を地域に関わる皆で分かち合い、その解決策を立案するための基礎能力を身に付けること、「浴びるように他者と出会い、対話し、作業する」３日間の過程を通して「コミュニケーションの基礎体力」を養うことを目指す。

※当科目は冬期実践ターム２月１６日（土）、１７日（日）、１８日（月）の３日間、「COC+」による県内６大学（滋賀大学、聖泉大学、びわこ学院大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、および滋賀県立大学）の合同科目として集中的に開講する。

到達目標

（１）地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景や意味について理解し説明することができる。
（２）対話や課題抽出、成果のとりまとめにかかる基礎的な技法について理解し実践することができる。
（３）上記の理解と実践に基づきチームワークによって成果を取りまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す（１）（２）（３）について、課題レポート（ワークブックに記入する方式）により評価する。（３）については、チームワークの成果に対する評価も加味する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

・副教材としてワークブックを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域コミュニケーション論							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170130	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション「自分探求	全体の説明と自分探求シートを用いた学びの目標設定
第2回	特別レクチャー＆意見交換①	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ①（参考：平成29年度は滋賀県知事・三日月大造氏が登壇）
第3回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」①	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ①　グループワーク
第4回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」②	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ②　２～３人一組になり相互インタビューや共通テーマについて対話
第5回	インタビューワークショップ「Ｗｈｏ’ｓ　ｗｈｏ」③	インタビューを通じた他者理解とその表現手法に関するＷＳ②　２～３人一組になり相互インタビューや共通テーマについて対話
第6回	2日目へのチェックイン	前日のインタビューをもとに作成した人物紹介記事を共有する。
第7回	レクチャー＆演習「グラフィック・ファシリテーションの技法」	クリエイティブな議論に必須の方法である「グラフィック・ファシリテーション」の技法についてその考え方と実技を学ぶ。
第8回	特別レクチャー＆意見交換②	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ②（参考：平成29年度は本学出身の起業家・ビハイア株式会社社長の清水有高氏が登壇）
第9回	地域人ダイアローグ「明日も良い“転機”」①	地域人との対話。「人生折れ線グラフ」によって互いの経験を語り合い、人生における転機、ターニングポイントの乗り越え方、活かし方について考える。
第10回	地域人ダイアローグ「明日も良い“転機”」②	「人生折れ線グラフ」を用いた対話をもとに、人生をより豊かにさせる「明日も良い“転機”のための７箇条」を地域人とともに作成する。
第11回	3日目へのチェックイン	コミュニケーションやコミュニケーション力をめぐる知見を共有するレクチャーとここまでの学びを共有する時間。
第12回	特別レクチャー＆意見交換③	第一線で活躍するゲストの活動から「地域で生きること」や「コミュニケーション」について学ぶ③（参考：平成29年度は働き・暮らし応援センター“Ｔｅｋｉｔｏ”センター長の野々村光子氏が登
第13回	地域人ワールド・カフェ「地域人の見本市」	ワールドカフェの手法により、いろいろな地域人の、さまざまな活動やアイデア、夢について知る。
第14回	地域人ダイアローグ「夢をかなえるアイデア会議」①	地域人の掲げる課題やアイデア、夢をかなえるためのプロジェクトについて、地域人と対話しながら考える。
第15回	地域人ダイアローグ「夢をかなえるアイデア会議」②／まとめ、発	地域人と共に考えたプロジェクトについて発表・共有する。／3日間の学びを振り返り、自分自身へのコミットメントをまとめる。その後、交流会。

担当者から一言
※当科目は冬期実践ターム２月１６日（土）、１７日（日）、１８日（月）の３日間、「COC+」による県内６大学（滋賀大学、聖泉大学、びわこ学院大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、および滋賀県立大学）の合同科目として集中的に開講する。

講義名	地域づくり人材論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1170140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS105								

授業概要

地方創生、地方分権時代の到来が叫ばれるなか、現実には、時代創造の表舞台たる地域社会は今、コミュニティの衰退、活力の減衰、経済の沈滞等、山積する課題を抱えながら、暗中模索の状態にある。あたかも演劇における舞台転換、そのための暗転の最中のようである。各地でこの状況を突破する人材が切望される所以である。この暗転の後、まもなく訪れる新しい地域の時代、その幕開けを告げながら、舞台に踊り出てくるのはどのような人たちであろうか――。
　当科目では、次代の地域社会を担う人材、地域の活性化を促す人材について、１）地域における「人材」とは何か、２）地域づくり人材が必要とされる背景、３）地域づくり人材に求められる役割と能力、５）さまざまな地域づくり人材像、６）地域づくり人材が生き生きと活躍する地域社会の展望等について、とりわけ「イノベーション」という概念を軸に、具体的な人とその活動を題材にとりながら議論する。
　授業では実際に各分野で活躍している人々を教室に招き、その存在や体験に触れながら学ぶ。

到達目標

（1）地域社会で人材が求められている事実をその背景について理解し説明できること。
（2）地域づくりや地域再生、地域活性化に取り組む人材に求められる条件やそうした人材が備えるべき能力について理解し説明できること。
（3）地域づくりや地域再生、地域活性化を達成する上で、様々な人材が、様々な場面や段階において果たす役割について理解し説明できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	授業内容を踏まえた総括的なテーマを問うレポートを課す。
上記以外	60	毎回の授業に関して問う小レポートを貸す。

授業外学習

グループに分かれてのワークショップを行う場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	地域づくり人材論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1170140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域の時代における人材と人材力	地域社会をめぐる諸課題の現状を概観し、人材、そして人材力とは何か議論する。 ディスカッション：私の周りの「人材な人」について
第2回	社会関係という資本-ソーシャルキャピタルの意味と機能	地域づくりにおける最大の資源にもなる社会関係資本の考え方について議論する
第3回	地域づくりのフレームワーク	地域づくりや地域活性化の概念について、その成功例と言われる事例に基づき整理する
第4回	2040年、地域の未来を構想する	改訂時期が迫る滋賀県の基本構想を題材にして、地域の未来について議論する（受講生の意見は基本構想に活用される）
第5回	課題が育む創造性①	地域課題を創造的に解決するためのポイントとその際に求められる力、および地域の課題と向き合うことによって鍛え磨かれる創造性等について考える
第6回	課題が育む創造性②	地域課題を創造的に解決するためのポイントとその際に求められる力、および地域の課題と向き合うことによって鍛え磨かれる創造性等について考える
第7回	人と仕事との関わり①―この先20年の「働く」を考える	社会を変える「仕事」「働き」についてその来し方と行く末を議論する （昨年度ゲスト講師：北川雄士さん（株式会社いろあわせ））
第8回	人と仕事との関わり②―採用人事は学生のどこを見ているか	「企業」や「仕事」において求められる人材について、大企業での人事・採用担当者による事例からまなぶ
第9回	「ここ滋賀」のアンテナ―地域の魅力を発信する	地域の魅力を発掘・発信し、都市と地方とのつながりによる地域課題解決について議論する。東京日本橋に10月にオープンする滋賀県のアンテナショップ「ここ滋賀」の取り組みをもとに考える
第10回	子どもの居場所が育むもの―多世代共創コミュニティ	空家や空地を活用した子供の居場所づくりの事例から、多世代共創のコミュニティづくりについて考える
第11回	よそ者・若者・ばか者が起こすイノベーション―地域に生きるをつ	地域において若者・学生の果たす役割及び若者が活躍し定着するために必要なことについて議論する （昨年度ゲスト講師：山形蓮さん（元地域おこし協力隊））
第12回	帰農の明日―農のイノベーション	あたらしい時代の農業および農的暮らしのありかたについて考える。 （昨年度ゲスト講師：石津大輔さん（針江のんきぃファーム））
第13回	400年の朝市をつくる！―小商いを育てる新しい市場	ひと、もの、ことが行き交い交わる「いちば」の意義と未来について議論する （昨年度ゲスト講師：山名弘祐さん（彦根で朝市世話人、彦根家代表））
第14回	死を分かつコミュニティ―地域医療の最先端	地域における在宅医療・在宅看取りとそれを実現するために連携して取り組む人々の事例を通して、人が地域で生ききること、そこに居ることの価値について考える。（昨年度ゲスト講師：花戸貴司さ
第15回	まとめ「ここで、ともに、無事に」を実現する地域づくり	地域づくりと人材のこれからについて議論する

担当者から一言
・多彩なゲストを招きます。ゲスト講師とのつながりが受講生の皆さんにとっての「ソーシャル・キャピタル」になる事もありますので、簡単な「名刺」など準備しておくのも良いでしょう。

講義名	びわこ環境行政論							担当教員	井手　慎司
講義コード	1170150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS106								

授業概要

地方自治体の政策は、開発と保全の両方から地域環境に大きな影響を及ぼす。滋賀県をフィールドに各分野の政策立案にかかわる行政担当者の講義を通じて、地域環境政策の課題を学び、琵琶湖という環境資産をもつ地域の持続可能な発展への政策とその実施について考える。(なお、ゲスト講師の都合により、講義の順序が入れ替わることがある。)

到達目標

(1)滋賀県の現行の各種環境政策を説明できる。
(2)滋賀県の環境政策の変遷を説明できる。
(3)持続可能な滋賀社会のビジョンについて自らの考えを述べることができる。
(4)持続可能な滋賀社会を実現する政策について自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	到達目標で示す(1)(2)(3)(4)については、(1)7%、(2)7%、(2)7%、(2)4%で評価する。
レポート課題		
上記以外	75	到達目標で示す(1)(2)(3)(4)については、毎回の小テスト((1)20%、(2)20%、(2)20%、(2)15%)で評価する。

毎回、講義内容に関する小テストを課す。

授業外学習

予習には関連リンクの「滋賀の環境」を、復習には授業中に配られた資料を参考にする。
また授業中は、それぞれの課題にどのような環境政策が有効かを考えながら講義を聞くようにする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	びわこ環境行政論							担当教員	井手　慎司
講義コード	1170150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境問題の変遷と環境行政	総論として「環境問題の変遷と環境行政」「今日の環境行政の課題」について解説する。
第2回	今日の環境行政の課題	
第3回	琵琶湖の総合保全の取り組み―マザーレイク２１計画第２期に向け	自然共生社会をめざす環境行政として「琵琶湖の総合保全」「びわ湖の現状と課題（生物多様性・水質環境）」「自然環境保全政策」「農業政策」「森林政策」「事業活動による負荷の環境管理」につ
第4回	びわ湖の現状と課題（生態環境）	
第5回	びわ湖の現状と課題（水質環境）	
第6回	自然環境保全政策の現状と課題	
第7回	環境共生をめざす農業政策	
第8回	環境共生をめざす森林政策	
第9回	水環境保全政策の現状と課題	
第10回	資源循環政策の現状と課題	循環型社会をめざす環境行政として「資源循環政策の現状と課題」「循環型社会の産業政策」について解説する。
第11回	循環型社会の産業政策	
第12回	地球温暖化対策の現状と課題	低炭素社会をめざす環境行政として「地球温暖化対策の現状と課題」「低炭素社会実現のための政策」「持続可能な滋賀社会のイメージ」について解説する。
第13回	低炭素社会実現のための政策	
第14回	持続可能な滋賀社会のイメージ	
第15回	持続可能社会と環境政策	全体のまとめとし、持続可能社会と環境政策について解説する。

担当者から一言

講義名	地域産業・企業から学ぶ社長講義							担当教員	髙松　徹
講義コード	1170180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS108								

授業概要

滋賀県の産業・経済の特徴を行政や金融からの視点で理解するとともに地元の産業構造や地元産業界、地域企業が抱える課題や特色を学ぶ。さらに、滋賀県の代表企業等のトップに産業界ニーズ、社会人として要求される人材、およびこれから社会人になる学生に期待される能力などについて直接学生に語っていただく。また、学生からの質問等を交えたインタラクティブな授業に構成する。

到達目標

（1）　滋賀県の経済・産業の特徴を理解できる
（2）情報の整理力と理解力（各講義内容を系統づけて理解できる。）
（3）課題発見力（講義内容から重要な情報を整理し自己のキャリアに繋げる課題を発見できる。）
（4）コミュニケーション力（講義中の質疑応答、グループディスカッションでの質疑応答ができる。）

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	８０％	30%：滋賀県の経済･産業の特徴を理解できている。 30%：講義内容から重要な情報を見つけかつ整理できている。 20%：授業の準備ができている。
上記以外	２０％	20%：質疑応答やグループディスカッションに参加している。

社長による講義のため、遅刻者は教室に入ることはできません。
レポートとグループディスカッションで成績を評価します。したがって、欠席回数が3回を超えたとき場合は、不合格とします。

授業外学習

各講義には、事前準備が必要です。準備する内容を講義中に説明します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域産業・企業から学ぶ社長講義							担当教員	髙松　徹
講義コード	1170180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS108								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	当講議の役割と意義について	講義形式の説明 各回の講師の説明
第2回	行政から見た滋賀県の地域産業の課題とその解決策について	滋賀県商工観光労働部による説明
第3回	金融経済の視点から見た滋賀県の地域産業の課題とその解決策につ	
第4回	栗東市から代表企業1社	
第5回	大津市から代表企業１社	
第6回	彦根市から代表企業1社	
第7回	大津市から代表企業１社	
第8回	草津市から代表企業１社	
第9回	彦根市から代表企業1社	
第10回	大津市から代表企業１社	
第11回	大津市から代表企業１社	
第12回	愛荘町から代表企業1社	
第13回	滋賀県内の銀行から代表企業1社	
第14回	近江八幡市から代表企業1社	
第15回	社長講義に学んだこと	企業のトップから学んだことについてのグループディスカッションおよび最終レポートの提出

担当者から一言

講義名	近江の暮らしとなりわい							担当教員	上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170190	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS109								

授業概要

当科目は夏期集中講義として、それぞれ会場を変えながら開講する

8月24日（金）　大津・滋賀県庁
8月25日（土）　草津市内（予定）
8月26日（日）　滋賀県立大学

近江・びわ湖を深堀りすると、ひろい世界につながっていた――。
加盟国の圧倒的賛成をもって採択された「ＳＤＧｓ（Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ Ｇｏａｌｓ：２０１５年国連サミット）」をめぐる動きに見られるように、持続可能な共生社会の実現を目指す取り組みが、世界各国で加速している。滋賀県はこの潮流にいち早く呼応し、世界共通の目標を滋賀というローカルな現場で達成することに名乗りをあげ、注目を集めている。

日本の縮図とも言われ、日本の歴史の舞台裏としても古来重要な位置を占めてきた近江。里山、人里、里湖、里島それぞれの風土に根差して鍛え上げられた近江各地のくらしとなりわい。そこには人々が、また、人と自然が「ともに、ここで、無事に」生きていくために必要な知恵と経験が蓄

到達目標

（１）近江の風土とそれに根差したくらしとなりわいの概要や特質を、具体的な地域の暮らしの事例を踏まえて理解し説明できること。
（２）ＳＤＧｓの考えに照らして、グローバルな課題・目標とローカルな解決・実践とのかかわりを理解し説明できること
（３）近江の事例に学びながら持続可能な共生社会を担い創造する主体としての自己の役割と可能性について各自の意見を形成すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す（１）～（３）について、当日配布するワークブックへの記述内容、グループディスカッションの成果を踏まえて評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	近江の暮らしとなりわい							担当教員	上田　洋平／森川　稔
講義コード	1170190	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS109								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	近江の“ブジネス”モデル	導入：近江のくらしとなりわいの中に、持続可能な共生社会の実現へのヒントを探る。
第2回	SDGｓ－2030年の世界と近江	国連関係者によるレクチャーと「SDGｓカードゲーム」により持続可能な開発目標（SDGｓ）を理解し、SDGｓを自分事化する。
第3回	特別講義・SDGｓ滋賀の挑戦	三日月大造・滋賀県知事によるレクチャー
第4回	くらしとなりわいの現場から―山・里・湖の現状と課題①	里山、人里、里湖、里島に関わるくらしとなりわいの現状と課題について、滋賀県庁の様々な担当部署から招いたゲストのプレゼンにより総覧した後、課題解決の方向性について受講生も交えてワーク
第5回	くらしとなりわいの現場から―山・里・湖の現状と課題②	里山、人里、里湖、里島に関わるくらしとなりわいの現状と課題について、滋賀県庁の様々な担当部署から招いたゲストのプレゼンにより総覧した後、課題解決の方向性について受講生も交えてワーク
第6回	くらしとなりわいの現場から―経済・産業の現状と未来①	現場見学。実際の企業等を訪ね、見学しながら、滋賀県における経済・産業の現状と未来について考える。
第7回	くらしとなりわいの現場から―経済・産業の現状と未来②	現場見学。実際の企業等を訪ね、見学しながら、滋賀県における経済・産業の現状と未来について考える。
第8回	特別講義・経済産業の革新と創造	著名・特別なゲストによるレクチャー
第9回	くらしとなりわいの現場から―経済・産業の現状と未来③	経済・産業の現状と未来について、県内企業の経営者や起業家からレクチャーを受けた後、受講生も交えてワークショップやグループディスカッションを行う。
第10回	くらしとなりわいの現場から―経済・産業の現状と未来④	経済・産業の現状と未来について、県内企業の経営者や起業家からレクチャーを受けた後、受講生も交えてワークショップやグループディスカッションを行う。
第11回	くらしとなりわいの現場から―コミュニティの再生と創造①	地域・コミュニティの現状と課題について県内各地域の実践者からレクチャーを受けた後、その再生と創造について受講生も交えてワークショップやグループディスカッションを行う。
第12回	くらしとなりわいの現場から―コミュニティの再生と創造②	地域・コミュニティの現状と課題について県内各地域の実践者からレクチャーを受けた後、その再生と創造について受講生も交えてワークショップやグループディスカッションを行う。
第13回	特別講義・SDGｓとグローカル・イノベーション	著名・特別なゲストによるレクチャー
第14回	ここで、ともに、無事に―持続可能な共生社会に向けて①	まとめ　ここまでの学びを踏まえて、持続可能な共生社会の実現・SDGｓの目標に向けて受講生それぞれのコミットメントをまとめ、共有する。
第15回	ここで、ともに、無事に―持続可能な共生社会に向けて②	まとめ　ここまでの学びを踏まえて、持続可能な共生社会の実現・SDGｓの目標に向けて受講生それぞれのコミットメントをまとめ、共有する。後半は参加者同士の交流とネットワーキングの時間とす

担当者から一言
・前期（夏期）集中講義として開講する。 8月24日（金）　大津・滋賀県庁

講義名	近江の美							担当教員	印南　比呂志
講義コード	1170200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS110								

授業概要

近江の美と名づけられた当科目は、必ずしも洒落た芸術やデザインを追い求めるのではなく、日常見られる生活の中で刻まれた「美」を掘り起こすようなまなざしを養うこと重視する。
　特に、近江には、古来より琵琶湖とその山々に囲まれた豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が近江に集い、自身の技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどのように醸成されてきたかを振り返る。さらに最前線で活躍する職人、デザイナー、アーティストなどによるゲスト講師を招聘して、担当教員との対談によりさらに美意識を深めていく。
※初回の授業において、この授業に対する履修希望調書をとる。その評価により履修者を第2回目の授業より100名程度に絞ることとする。そのため、初回授業には必ず出席すること。

到達目標

滋賀県で培われてきた伝統工芸、伝統的建築、祭事にはじまり、独自の産業として培われてきたファッション産業、地域ブランド、さらにはそうした観光資源を活用したツーリズムなどの事例を知り、本学が所在する滋賀県内で日常的に垣間見えるさまざまな「美」を意識できる。また、感銘を受けた美の要素が何であったのか表現（レポートやプレゼンテーション）でき、そこで得られた経験から、滋賀に埋もれた「美」の再認識し、自分自身の「美のまなざし」を育み、そうした視点を、第三者に伝えることを到達目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	毎回の授業でのレスポンスシート（レポート）及び、最終レポート課題により評価する。
上記以外		

授業外学習

毎週の授業テーマに関する地域、人、ものについて事前に調べてチェックしておく。授業後はテーマとなった場所など訪問することを推奨する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

伝統工芸、地域デザイン、自然景観、職人の匠の技、歴史などに、研究対象としての視点をもっていること。

履修資格

講義名	近江の美							担当教員	印南　比呂志
講義コード	1170200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	102BAS110								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスおよび履修者選考	「近江の美」を通じて得られるものとは何かを考える。このテーマを理解して履修意欲のある者を希望調書により選考する。選考された学生のみ第2回目からの履修が可能とする。
第2回	伝統と生活	湖国の暮らしの風景や自然に見られる日常の美について考える。
第3回	感性からの風景おこし	職人による工芸や、祭事にみる美しさについて考える。
第4回	地域の歴史と観光 （ゲスト講師）	地域産業、お土産、観光などの地域資源を考える。
第5回	近江の職人と生活 （ゲスト講師）	木彫の里、米原市上丹生の仏壇職人を招聘してお話を聞く。
第6回	地域のブランドづくり （ゲスト講師）	新しい地域資源の開発とブランドづくり
第7回	近江自然と食 （ゲスト講師）	和菓子と農業、風景づくりについて
第8回	近江の音 （ゲスト講師）	木之本町の伝統である琴線づくりから見る近江の音づくりを考える。
第9回	琵琶湖の発酵文化 （ゲスト講師）	琵琶湖の恵みと鮒寿司の伝統と継承
第10回	近江の伝統工芸 （ゲスト講師）	漆職人の生活と美意識
第11回	近江の風景 （ゲスト講師）	写真家の眼差しによって切り取られた近江の生活、風景について考える。
第12回	個人調査	テーマ・課題に沿ったフィールドワークを個人で行う。
第13回	近江の芸術への取り組み （ゲスト講師）	人と芸術、アールブリュットについて考える。
第14回	近江のオコナイ （ゲスト講師）	湖北の慣習と生活
第15回	講義の総括	近江の地域資源について美的価値について総括する。

担当者から一言

講義名	経営学序論							担当教員	西岡　孝幸／上田　洋平／鵜飼　修／ 森川　稔
講義コード	1170210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP201								

授業概要

企業等の経営体、経済主体はそれ自身の利益だけを自己目的的に追求するものではなく、経済活動を通じて社会や地域の課題解決をするために存在する。そうした企業を理解するためには、企業経営に対する理解が不可欠である。講義では社会の現場で活躍するために必要となる基礎的な経営の知識と、基本的な企業分析のスキルの獲得を目指す。
座学による基礎的な知識の獲得に加え、ビジネス・ゲームやケース・メソッドによる経営の模擬体験を行う。また企業経営者とのディスカッションなどにより受講生自らが考え、行動する実践的な知の習得を図る。

到達目標

（1）　企業経営に関する基礎的な知識について説明ができる。
（2）　具体的な企業を対象とした簡単な企業分析ができる。
（3）　課題解決に向けた効果的なプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	到達目標（1）については毎回授業時に課すレポートにより評価する（50%） 到達目標（2）については授業後半に作成する企業分析報告書により評価する（30%）。
上記以外	20	到達目標（3）についてはグループワークによるプレゼンテーションの成果により評価する。

経営学序論では４～５名を1つの班とし、基本的に班別の議論を通じて講義に参加する。
企業経営と同じように参加者はボードメンバー同様、チーム行動やチームシンキングの重要性を学ぶ。メンバーはチームに貢献する必要がある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時間内に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	経営学序論							担当教員	西岡　孝幸／上田　洋平／鵜飼　修／ 森川　稔
講義コード	1170210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	開講セミナー	企業の社会的意義についてゲスト講師を招いての講演。
第2回	講義ガイダンス	第３回目以降の講義内容説明と評価基準、諸注意を行う。
第3回	経営学講座１	社会人スキルとして必須の財務・会計の基礎を学ぶ。
第4回	経営学講座２	経済学・経営学の基本知識について講義を行う。 特にビジネス・ゲームを念頭に置いた説明を中心に行う。
第5回	ビジネス・ゲーム１	ゲーム第１期の実施と決算、ゲームⅠの振り返り
第6回	ビジネス・ゲーム２	同上、第2期
第7回	ビジネス・ゲーム３	同上、第3期
第8回	ビジネス・ゲーム４	経営報告会（株主総会）、振り返り
第9回	地域企業のケース・メソッド１	地元中小企業でＶ字回復を図ったような事例をケースとして２回２社に分けて実施する。 ケース・メソッドの説明（ケースの説明と論点について）
第10回	地域企業のケース・メソッド２	地元中小企業でＶ字回復を図ったような事例をケースとして２回２社に分けて実施する。 ゲストに企業経営者を招く
第11回	地域企業のケース・メソッド３	地元中小企業でＶ字回復を図ったような事例をケースとして２回２社に分けて実施する。 ゲストに企業経営者を招く
第12回	地域企業のケース・メソッド４	起業家事例： ゲストに起業家を招く
第13回	経営分析の基本Ⅰ	知的資産経営をベースとした定性分析
第14回	経営分析の基本II	財務諸表をベースとした定量分析（有価証券報告書）
第15回	まとめ	講義の振り返り

担当者から一言

講義名	地域社会と女性キャリア創生/							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／西岡　孝幸／森川　稔
講義コード	1170220	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP202								

授業概要

時代は変革期にある。生き方も働き方も新しく作り直していくことが必要だ。いろいろな生き方、働き方があっていい。とはいえ、それは裏返せば誰にも当てはまる共通のモデルや既定のレールに沿うのではなく、それぞれの生き方、働き化を自ら描き、選び、創造することが求められるということでもあるから、自由と裏腹のジレンマがあり、時には途方に暮れることもありそうだ。

「地域社会とキャリア創生」は、多様な人々がその本来の力を発揮しながら活躍し生きられる社会を創るにはどうすればよいかを考える。

現状の課題、多様な人々の活躍を阻む要因や構造的な問題を理解した上で、事例研究では地域に根差した新しい事業に取り組む起業家や地域で新たなライフスタイルを体現するような人びとをゲストに招き、ライフストーリー全体を見通したキャリア（働くことにつながる生き方）形成を参照しながら、ディスカッションやワークショップも交えて具体的に学ぶ。

キャリア形成やライフストーリーの中で、さまざまな「転機」を経ていかに豊かにキャリア形成していくか、自分の生き方を実現していくか、について、男女問わず今後の実践に役立つヒントを引き出していく。

到達目標

（1）女性をはじめとする多様な人材が活躍できる地域社会の創造が求められる背景を理解し説明できる。
（2）女性をはじめとする多様な人材が活躍できる社会の創造を阻害する要因とその解決策について理解して説明できる。
（3）地域社会とキャリア創生の多様性をその具体例を踏まえて理解し説明できる。
（4）多様な事例を踏まえ、自らの可能性を拓くキャリア創生のあり方について、自分なりの意見を形成し、表現することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	60	到達目標の（1）～（3）については、毎回授業時に課す小レポートによって評価する。
上記以外	40	到達目標の（4）については、授業時に行うワークショップショップや「まとめ」の回での発表やプレゼンテーションによって評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に適宜プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域社会と女性キャリア創生/							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／西岡　孝幸／森川　稔
講義コード	1170220	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	キャリア創生にかかる構造的問題について	講師：第一線で自らの道を切り開いてきた講師から人材活躍・キャリア創生にかかわる日本社会の構造的問題とその克服法について学ぶ。
第2回	ライフ　&　ワーク　シフト	人びとの暮らしや人生、そして仕事や働くこと、を待ち受ける大転換の中味について知る。
第3回	計画された偶然性？－様々なキャリア理論	さまざまな「キャリア理論」を参照しながら「キャリア」あるいは「キャリア形成」といった言葉の意味について考える。
第4回	事例研究：多様な経験を通じて生まれた人との関わり、それらを活	世界一周や小学校教諭、多様な経験を重ねてきたからこそ、「自分が本当にしたいことは何か」を自身に問い、迷う機会が訪れる。今までの自分を活かして、これからの自分のことを考える思考を学
第5回	事例研究：地域おこし協力隊の「地域づくり」「仕事づくり」、	地域おこし、地域づくりをなりわいとすることを選んだ若者の思いと、実際に活動を進める上での喜びや苦労、課題と展望を学ぶ。
第6回	事例研究：「しごと」をつくる‐インバウンドの現場から見た地域	やりたい仕事、まだない仕事を自ら創りだしてきた挑戦者から、自分の可能性や夢を元手に、地域で起業する苦労と喜びを知る。
第7回	事例研究：「子育て支援」「母親支援」とコミュニティ再生	母親支援にまつわる多角的な取り組みについて学ぶとともに、「ママ」が地域や社会のコミュニティに参画していく上での現状と課題について学ぶ。
第8回	事例研究：働くフィールドで異なる「仕事のやり方・進め方」、働	「行政で働く、民間で働く」「やりたい仕事とやらねばならない仕事」「仕事の優先順位のつけ方」「仕事と家庭の両立」等、多様なキーワードをクロスさせ、これから仕事を選ぼうとする学生に考え
第9回	「しごと観」を探る 先輩たちの「はたらきカタログ」	卒業後、地域社会の現場で活躍・ときには悪戦苦闘する先輩たちの生き方、働き方のいろいろを眺めながら、それぞれの「しごと観」について話し合う。
第10回	事例研究：Uターンをしたから見えてきた地元の魅力、家業と起業と	「外から見た地元の魅力」「都会ではなく地方で働くということ」、Uターン経験者ならではの視点と、「家業」「起業」「これからの結婚と子育て」等、30代を目前にした女性の生の声を訊く。
第11回	事例研究：「共に生きる」‐障がいの理解を深め、誰もが活躍でき	「暮らしづらさ」を抱える人が「暮らしやすい」環境をつくることは、人それぞれの個性を認め合う社会、集団の価値観に依存せず自主的に生きられる社会の実現に寄与する。
第12回	事例研究：中小企業の中でやりがいを持ち、自分らしく働く。仕事	「産後ウツ」「ワンオペ育児」「孤育て」、母親になることを躊躇してしまうような情報や、「マタハラ」「待機児童」など、結婚・妊娠・出産を経て子育てしながら働く難しさばかりを耳にする中
第13回	事例研究：総括・多様な人財の循環と多様な活躍の場の創出	事例研究の総括。「ワークライフバランス」「女性」「キャリア」、各々の切り口から、「多様な人財」の「多様な活躍」のあり方について振り返る。同時に、学生自身が「これからの自分」を考える
第14回	事例研究：「しごと」をつなぐ‐滋賀における女性活躍の新潮流	滋賀県では今、様々な分野で活躍する人たちが全圏域のネットワークを形成して、ビジネスやまちづくり、あらたな社会の扉を開くブレイクスルーのうねりが到来している。その牽引者からこうした
第15回	まとめ：わたしのキャリア創生	受講生による、事例研究を踏まえたプレゼンテーションと学びの共有

担当者から一言
「ワークライフバランス」というけれど、本当にそうですか？　「ライフ」って「ワーク」と天秤にかけられる？　本来は「ライフのなかにワークが包まれている」のではないですか？　でも実際には、やっぱりふたつを天秤にかけて、そしてしばしば思い描いた生き方を諦めている。あるいは

講義名	地域社会とキャリア創生							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／西岡　孝幸／森川　稔
講義コード	1170225	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

時代は変革期にある。生き方も働き方も新しく作り直していくことが必要だ。いろいろな生き方、働き方があっていい。とはいえ、それは裏返せば誰にも当てはまる共通のモデルや既定のレールに沿うのではなく、それぞれの生き方、働き化を自ら描き、選び、創造することが求められるということでもあるから、自由と裏腹のジレンマがあり、時には途方に暮れることもありそうだ。

「地域社会とキャリア創生」は、多様な人々がその本来の力を発揮しながら活躍し生きられる社会を創るにはどうすればよいかを考える。

現状の課題、多様な人々の活躍を阻む要因や構造的な問題を理解した上で、事例研究では地域に根差した新しい事業に取り組む起業家や地域で新たなライフスタイルを体現するような人びとをゲストに招き、ライフストーリー全体を見通したキャリア（働くことにつながる生き方）形成を参照しながら、ディスカッションやワークショップも交えて具体的に学ぶ。

キャリア形成やライフストーリーの中で、さまざまな「転機」を経ていかに豊かにキャリア形成していくか、自分の生き方を実現していくか、について、男女問わず今後の実践に役立つヒントを引き出していく。

到達目標

（1）女性をはじめとする多様な人材が活躍できる地域社会の創造が求められる背景を理解し説明できる。
（2）女性をはじめとする多様な人材が活躍できる社会の創造を阻害する要因とその解決策について理解して説明できる。
（3）地域社会とキャリア創生の多様性をその具体例を踏まえて理解し説明できる。
（4）多様な事例を踏まえ、自らの可能性を拓くキャリア創生のあり方について、自分なりの意見を形成し、表現することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	60	到達目標の（1）～（3）については、毎回授業時に課す小レポートによって評価する。
上記以外	40	到達目標の（4）については、授業時に行うワークショップショップや「まとめ」の回での発表やプレゼンテーションによって評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に適宜プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域社会とキャリア創生							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／西岡　孝幸／森川　稔
講義コード	1170225	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	キャリア創生にかかる構造的問題について	講師：第一線で自らの道を切り開いてきた講師から人材活躍・キャリア創生にかかわる日本社会の構造的問題とその克服法について学ぶ。
第2回	ライフ　&　ワーク　シフト	人びとの暮らしや人生、そして仕事や働くこと、を待ち受ける大転換の中味について知る。
第3回	計画された偶然性？－様々なキャリア理論	さまざまな「キャリア理論」を参照しながら「キャリア」あるいは「キャリア形成」といった言葉の意味について考える。
第4回	事例研究：多様な経験を通じて生まれた人との関わり、それらを活	世界一周や小学校教諭、多様な経験を重ねてきたからこそ、「自分が本当にしたいことは何か」を自身に問い、迷う機会が訪れる。今までの自分を活かして、これからの自分のことを考える思考を学
第5回	事例研究：地域おこし協力隊の「地域づくり」「仕事づくり」、	地域おこし、地域づくりをなりわいとすることを選んだ若者の思いと、実際に活動を進める上での喜びや苦労、課題と展望を学ぶ。
第6回	事例研究：「しごと」をつくる－インバウンドの現場から見た地域	やりたい仕事、まだない仕事を自ら創りだしてきた挑戦者から、自分の可能性や夢を元手に、地域で起業する苦労と喜びを知る。
第7回	事例研究：「子育て支援」「母親支援」とコミュニティ再生	母親支援にまつわる多角的な取り組みについて学ぶとともに、「ママ」が地域や社会のコミュニティに参画していく上での現状と課題について学ぶ。
第8回	事例研究：働くフィールドで異なる「仕事のやり方・進め方」、働	「行政で働く、民間で働く」「やりたい仕事とやらねばならない仕事」「仕事の優先順位のつけ方」「仕事と家庭の両立」等、多様なキーワードをクロスさせ、これから仕事を選ぼうとする学生に考え
第9回	「しごと観」を探る 先輩たちの「はたらきカタログ」	卒業後、地域社会の現場で活躍・ときには悪戦苦闘する先輩たちの生き方、働き方のいろいろを眺めながら、それぞれの「しごと観」について話し合う。
第10回	事例研究：Uターンをしたから見えてきた地元の魅力、家業と起業と	「外から見た地元の魅力」「都会ではなく地方で働くということ」、Uターン経験者ならではの視点と、「家業」「起業」「これからの結婚と子育て」等、30代を目前にした女性の生の声を訊く。
第11回	事例研究：「共に生きる」－障がいの理解を深め、誰もが活躍でき	「暮らしづらさ」を抱える人が「暮らしやすい」環境をつくることは、人それぞれの個性を認め合う社会、集団の価値観に依存せず自主的に生きられる社会の実現に寄与する。
第12回	事例研究：中小企業の中でやりがいを持ち、自分らしく働く。仕事	「産後ウツ」「ワンオペ育児」「孤育て」、母親になることを躊躇してしまうような情報や、「マタハラ」「待機児童」など、結婚・妊娠・出産を経て子育てしながら働く難しさばかりを耳にする中
第13回	事例研究：総括・多様な人財の循環と多様な活躍の場の創出	事例研究の総括。「ワークライフバランス」「女性」「キャリア」、各々の切り口から、「多様な人財」の「多様な活躍」のあり方について振り返る。同時に、学生自身が「これからの自分」を考える
第14回	事例研究：「しごと」をつなぐ－滋賀における女性活躍の新潮流	滋賀県では今、様々な分野で活躍する人たちが全圏域のネットワークを形成して、ビジネスやまちづくり、あらたな社会の扉を開くブレイクスルーのうねりが到来している。その牽引者からこうした
第15回	まとめ：わたしのキャリア創生	受講生による、事例研究を踏まえたプレゼンテーションと学びの共有

担当者から一言
「ワークライフバランス」というけれど、本当にそうですか？　「ライフ」って「ワーク」と天秤にかけられる？　本来は「ライフのなかにワークが包まれている」のではないですか？　でも実際には、やっぱりふたつを天秤にかけて、そしてしばしば思い描いた生き方を諦めている。あるいは

講義名	地域中小企業講座							担当教員	西岡　孝幸／上田　洋平／鵜飼　修／ 森川　稔
講義コード	1170230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP203								

授業概要

日本の底力、国際競争力の真の源泉は国内全企業の99%以上を占める中小企業にある。ローカルな地域に深く根差しつも、独創的な技術やサービス、信頼性の高い品質によりグローバルな競争にも打って出るなどまさに「グローカル」を体現している。当然滋賀県内にも、非常に優れた中小企業が数多く存在する。
当講義では県内中小企業のうち、本学中期インターンシップ受け入れ先を中心に、本学卒業生の採用に意欲的、または就職実績のある会社の経営者や本学OB/OGの社員をゲストとして招き、それぞれの企業戦略、ビジョン、社員教育制度、ワークライフバランスなどについて対話しながら、具体的な事例をもとに、現代社会・経済の生きた姿を学ぶ。

・地域経済の仕組みやその生きた姿、また課題について、ゲスト講師との議論により、現場の事例、当事者の声に即して学ぶ。
・リーダーシップのあり方やマネジメント、組織論等についても学ぶことができる。
・就職活動という特異な状況下では知ることのできない企業の魅力や可能性を学ぶことにより、就職やキャリア形成のために活用できる情報を得、ネットワークを築くことにもつながる。

到達目標

（1）　中小企業が地域に果たす役割を理解し説明ができる。
（2）　地域企業の特徴について理解し説明ができる。
（3）　課題を共有する効果的なプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		到達目標（1）については毎回授業時間内に課すレポート　により評価する（50%）
上記以外		到達目標（2）については授業内でのグループワーク、ディスカッションの内容により評価する（30%） 到達目標（3）については授業後半の企業分析プレゼンテーションの成果により評価する（２０%）

学生チームによるディスカッションと質疑により理解を深める。さらに、２回程度ワークショップを開催し、学生の視点から見た企業について分析し、結果をプレゼンテーションすることで学びの共有化を図る。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域中小企業講座							担当教員	西岡　孝幸／上田　洋平／鵜飼　修／森川　稔
講義コード	1170230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	291SEP203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域中小企業概論	ゲスト：中島巧次　（エフォート行政書士事務所代表）
第2回	事例研究と対話①	ゲスト：西川正樹（安全索道株式会社代表取締役社長）
第3回	事例研究と対話②	ゲスト：矢野彰一（株式会社アルナ矢野特車代表取締役社長）
第4回	事例研究と対話③	ゲスト：川口昌弘（近江鉄道株式会社取締役人事部長）
第5回	事例研究と対話④	ゲスト：村田弘司（株式会社日吉代表取締役社長）
第6回	事例研究と対話⑤	ゲスト：藤田義嗣氏（日本ソフト開発株式会社代表取締役会長兼社長）
第7回	事例研究と対話⑥	ゲスト：志賀文昭氏（株式会社しがぎん経済文化センター主席研究員）
第8回	振り返り、分析と共有	ワークショップ、プレゼンテーション
第9回	事例研究と対話⑦	高井文彦（日本ポリスター株式会社代表取締役）
第10回	事例研究と対話⑧	ゲスト：奥明　栄（東レ・カーボンマジック株式会社代表取締役）
第11回	事例研究と対話⑨	ゲスト：小川孝史（湖北精工株式会社代表取締役）
第12回	事例研究と対話⑩	ゲスト：和田正憲氏（株式会社清水合金製作所代表取締役社長）
第13回	事例研究と対話⑪	ゲスト：澤村幸一郎（株式会社澤村代表取締役社長）
第14回	事例研究のまとめ、分析と共有	ワークショップ、プレゼンテーション
第15回	まとめ、学びの共有	ゲスト：北村善幸（滋賀県立大学学生・就職支援グループ統括）

担当者から一言
・地域経済の仕組みやその生きた姿、また課題について、ゲスト講師との議論により、現場の事例、当事者の声に即して学ぶことに徹します。 ・リーダーシップのあり方やマネジメント、組織論等についても学ぶことができるでしょう。

講義名	教育学概論							担当教員	杉浦　由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA101,235EDU202								

授業概要

本講義では、教育学の基本的概念を学ぶとともに、教育の理念や思想の歴史的展開をふまえながら、教育の本質と今日的課題について検討していく。また、近代教育制度が成立・発展してきた背景を理解し、現代学校の諸課題について考察するための歴史的視座を獲得する。

到達目標

（1）教育学の基本原理（理念、歴史、思想を含む）および教育と学習の具体的な現実を往還することで、教育に関わる現代的課題を理解することができる。
（2）レポート作成を通し、読み手を意識した論理的な文章を書くことができる。
（3）「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト（20%） 感想および授業中の作業課題（30%）

感想および授業中の作業課題と中間レポート、最終試験の結果をもとに総合的に判断する。
3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業で扱った内容や参考文献をもとに、教育学の基本原理についての学習を深めること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

日本ならびに西洋の近現代史に関する基礎的知識を有すること。
とくに、ヨーロッパ史について高校の履修範囲を復習しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	教育学概論							担当教員	杉浦　由香里
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA101,235EDU202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	人間とは何か	人類の進化と成長の神秘
第3回	発達と教育	子どもの発達と初期環境
第4回	教育とは何か	教育の本質と目的
第5回	家族の肖像	近代家族の誕生
第6回	子どもの発見	子ども観の歴史的変遷
第7回	近代学校の誕生	近代公教育制度の成立
第8回	学校の機能	学校の社会的機能と役割
第9回	日本における学びの転換	寺子屋・藩校から近代学校へ
第10回	天皇制国家と教育	教育勅語の精神
第11回	子ども中心主義の思想	新教育運動の理念と実践
第12回	新しい教育理念	権利としての教育
第13回	学校文化とジェンダー	学校のかくれたカリキュラム
第14回	教育の現代的課題	現代日本社会における教育問題
第15回	まとめ	まとめ

担当者から一言

講義名	教育心理学							担当教員	黒田　真由美※
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310								

授業概要

児童期の発達・学習・記憶・動機づけ等の心理学の基本的な概念について概説する。また、教育実践の事例を通して、いじめや発達障害等の問題について理解を深める。

到達目標

「学ぶ」ことの諸側面について、児童期の発達、学習、集団・適応という観点から学ぶ。心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心身の発達過程について体系的に学ぶことを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教育心理学							担当教員	黒田　真由美※
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA201,335PSY310								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	教育心理学概観	
第2回	教育心理学の基礎（1）	条件づけ学習
第3回	教育心理学の基礎（2）	学習理論
第4回	教育心理学の基礎（3）	観察学習
第5回	教育心理学の基礎（4）	動機づけ
第6回	教育心理学の基礎（5）	記憶
第7回	教育心理学の基礎（6）	記憶
第8回	発達心理学の基礎（1）	児童期の発達
第9回	発達心理学の基礎（2）	児童期の自己理解の発達
第10回	教育心理学の応用（1）	学級集団，教師期待効果
第11回	教育心理学の応用（2）	教室での協同学習
第12回	教育心理学の応用（3）	不登校といじめ
第13回	教育心理学の応用（4）	教師の抱える問題
第14回	発達障害の理解（1）	発達障害とは何か
第15回	発達障害の理解（2）	発達障害児の発達と支援

担当者から一言

講義名	教育制度論							担当教員	杉浦　由香里
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA202,335EDU304								

授業概要

本講義では、現代日本における教育制度の基本原理や法構造を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。講義では、教育制度の基本理念や制度を形作る基本原理、教育制度と実践の相克に関する事例や論点を取り上げていく。

到達目標

（1）現代日本の教育制度の基本原理、歴史的展開、法構造を理解している。
（2）教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。
（3）「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート
上記以外	50	中間テスト（20%） 感想および授業中の作業課題（30%）

感想および授業中の作業課題と小テスト、最終レポートの結果をもとに総合的に判断する。

授業外学習

授業の予習として必ず事前に教科書の該当箇所を読んでくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	【改訂版】未来を創る教育制度論	川口洋誉・中山弘之編著	北樹出版	
2				
3				

テキストを必ず入手すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

教職論、教育学概論を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	教育制度論							担当教員	杉浦　由香里
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA202,335EDU304								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	教育制度を学ぶ意味	公教育の原理
第3回	教育法のしくみ	教育法規の体系
第4回	日本国憲法と教育基本法	日本国憲法・教育基本法の成立
第5回	教育の目的と目標	新教育基本法と教育目標
第6回	子どもの権利	子どもの権利条約
第7回	教育内容の制度	教育内容に関する制度
第8回	学校の制度①	子どもの学習権と多様な教育機会
第9回	学校の制度②	地域に開かれた学校
第10回	学校の制度③	学校事故と学校安全
第11回	教育の機会均等	子どもの貧困、奨学金問題
第12回	教職員の制度	教職の専門性と学校組織
第13回	教育行政の制度①	文部科学省と教育政策
第14回	教育行政の制度②	教育委員会制度
第15回	まとめ	ふりかえりとまとめ

担当者から一言

講義名	教育方法の理論と技術/							担当教員	木村　裕
講義コード	1400550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

（1）自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。
（2）自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。
（3）他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育方法の理論と技術/							担当教員	木村　裕
講義コード	1400550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行うとともに、「めざす授業」「めざす教育活動」に対する一人ひとりのイメージを共有する機会を提供する。
第2回	学習指導案の目的とその概要	学習指導案の目的と、それがどのような項目から構成されているのかについて講義する。
第3回	授業の構成要素	授業がどのような要素によって構成されているのかについて講義する。
第4回	「学力」と教育目標	「学力」をめぐる議論や教育目標設定の論理などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育目標と教材	教育目標と関連づけた教材のあり方やその重要性について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第6回	教材研究	教材研究の目的や意義、具体的な方法について講義するとともに、実際に教材研究を体験する機会を提供する。
第7回	教育評価	教育評価の目的や機能、近年の議論などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法の概要を説明するとともに、それまでの講義内容をふまえて、作成に取り掛かる機会を提供する。
第9回	授業研究の進め方とその意義	授業研究の進め方とその意義について講義する。
第10回	実践事例の検討①	探究型の授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第11回	実践事例の検討②	エンカウンターの手法を取り入れた授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第12回	実践事例の検討③	情報機器を活用した授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第13回	学習指導案検討会	各自が作成した学習指導案を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの学習指導案をより良いものにしていくための機会を提供する。
第14回	実践記録	実践記録の目的や意義について講義するとともに、実践記録を読み、気づいたことを共有する機会を提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。

担当者から一言

講義名	教育方法論							担当教員	木村　裕
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA102,235EDU301								

授業概要

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具（情報機器を含む）の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

（1）自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること。
（2）自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。
（3）他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育方法論							担当教員	木村　裕
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA102,235EDU301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行うとともに、「めざす授業」「めざす教育活動」に対する一人ひとりのイメージを共有する機会を提供する。
第2回	学習指導案の目的とその概要	学習指導案の目的と、それがどのような項目から構成されているのかについて講義する。
第3回	授業の構成要素	授業がどのような要素によって構成されているのかについて講義する。
第4回	「学力」と教育目標	「学力」をめぐる議論や教育目標設定の論理などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育目標と教材	教育目標と関連づけた教材のあり方やその重要性について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第6回	教材研究	教材研究の目的や意義、具体的な方法について講義するとともに、実際に教材研究を体験する機会を提供する。
第7回	教育評価	教育評価の目的や機能、近年の議論などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法の概要を説明するとともに、それまでの講義内容をふまえて、作成に取り掛かる機会を提供する。
第9回	授業研究の進め方とその意義	授業研究の進め方とその意義について講義する。
第10回	実践事例の検討①	探究型の授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第11回	実践事例の検討②	エンカウンターの手法を取り入れた授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第12回	実践事例の検討③	情報機器を活用した授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第13回	学習指導案検討会	各自が作成した学習指導案を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの学習指導案をより良いものにしていくための機会を提供する。
第14回	実践記録	実践記録の目的や意義について講義するとともに、実践記録を読み、気づいたことを共有する機会を提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。

担当者から一言

講義名	モンゴル語ＩＡ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403036	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL141,137FLA101								

授業概要

モンゴル語は、日本語と文法構造が似ており、日本人には非常に学習しやすい言語である。モンゴル語は、広義にはモンゴル国以外にも中国内モンゴル自治区やロシアのブリヤート共和国などでも話されている。本講義（ＩＡ）では、現在モンゴル国で使用されているモンゴル語標準語（ハルハ・モンゴル語）の基礎文法をマスターすることを目的とする。
１Ｂは、会話中心の講義を行うものとする。また、言葉を通して、現代モンゴル文化に対する理解を促進することをめざす。そのために学生の学習進度に応じて、教科書以外に映画やポピュラー音楽、民謡の歌詞などを教材に取り入れる。

到達目標

モンゴル語の基礎文法を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	文法が理解できているか。
レポート課題		
上記以外	50	小テストを行う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初級モンゴル語	塩谷茂樹、Ｅ．プレブジャブ	大学書林	
2				
3				

初回授業に持参するもの：教科書、そして愛と好奇心。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

なし。

履修資格

講義名	モンゴル語ＩＡ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403036	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL141,137FLA101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論	モンゴルはどんな言語なのか。どこで話されているのか。言語の社会歴史的背景を概観する。
第2回	文字	
第3回	文の基本構造 と語の基本構造	
第4回	名詞の形と変化	
第5回	主格	
第6回	指示代名詞	
第7回	人称代名詞	
第8回	疑問代名詞	
第9回	質問文の作り方	
第10回	過去形	
第11回	動詞の否定形	
第12回	属格 与位格 奪格	
第13回	共同格と造格	
第14回	後置詞	
第15回	まとめ	

担当者から一言
人とは違うことがやりたいあなた。スーホの白い馬の馬頭琴が気になる彼女。モンゴルの鉱山開発で一山当てたい山師な君。白鳳が好きでたまらない相撲女子。てか、国コミュ入ったけど、実は英語も苦手だし、ヨーロッパ言語はもうやりたくないという君。みんな歓迎します。楽しく勉強しま

講義名	モンゴル語ＩＢ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403037	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL142,137FLA102								

授業概要

モンゴル語は、日本語と文法構造が似ており、日本人には非常に学習しやすい言語である。本講義では、簡単な日常会話ができるようになることを目的とする。また、言葉を通して、現代モンゴル文化に対する理解を促進することをめざす。

到達目標

(1)モンゴル語で基本的な日常会話ができるようになる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	簡単なモンゴル語を話し、聞き取れる。
レポート課題		
上記以外	50	小テスト 簡単なモンゴル語を話し、聞き取れる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	すぐに役立つ　最新モンゴル語会話	近藤和正	テンブックス	9784886960351
2				
3				

教科書と情熱

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	モンゴル語ＩＢ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403037	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL142,137FLA102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	サイン　バイノー！	モンゴル語の挨拶
第2回	モンゴル語のアルファベット	
第3回	モンゴル人の名前と「～さん」の言い方	
第4回	「わたしは日本から来ました」	
第5回	お茶をお飲みになりますか	
第6回	映画を見ますか	
第7回	何時に会いましょうか	
第8回	この近くに郵便局はありますか	
第9回	バスで行きましょう	
第10回	復習	
第11回	靴がほしいんですが	
第12回	どんな料理が好きですか	
第13回	日本語がわかりますか	
第14回	もしもし－電話で使う表現	
第15回	おめでとうございます	

担当者から一言
人とは違うことがやりたいあなた。スーホの白い馬の馬頭琴が気になる彼女。モンゴルの鉱山開発で一山当てたい山師な君。白鳳が好きでたまらない相撲女子。てか、国コミュ入ったけど、実は英語も苦手だし、ヨーロッパ言語はもうやりたくないという君。みんな歓迎します。楽しく勉強しま

講義名	モンゴル語ＩＩＡ							担当教員	堀田　あゆみ※
講義コード	1403038	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL143,137FLA215								

授業概要

モンゴル語Ｉで学んだ基礎文法や単語を活用し、さらに実用的な読解能力、筆記能力およびコミュニケーション能力を身につける。さまざまな日常場面で必要とされるモンゴル語特有の表現や発音に慣れるため、受講生にはどんどん声を出してもらう機会をつくる。
また、マナーや年中行事、流行、ゲーム、漫画などを通して、遊牧文化や現代モンゴル社会に対する理解を深める。

到達目標

（１）基礎単語を習得し、正しく発音できる。
（２）初級レベルの文法項目を正しく理解し、自身で使いこなせる。
（３）正書法を正しく理解し、読み書きができる。
（４）辞書を用いて、文章の意味を正しく理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標（１）～（４）について、筆記試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	毎回授業の始めに前回の内容の復習小テストを実施する。

授業時間数の３０％以上を欠席した場合は評価対象としない。

授業外学習

予習は不要。復習はしっかりと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業では、モンゴル語のテキストを随時配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	すぐに役立つモンゴル語会話	近藤和正	TEN　BOOKS	4-88696-008-1
2	入門モンゴル語	タニ ヒロユキ	私家版電子ファイル	
3				

図書情報センターに、テキスト・参考書類はいろいろ置かれているので、それらを使って自習してください。

前提学力等

モンゴル語Ｉで学んだ語彙および文法事項を習得していること。

履修資格

講義名	モンゴル語ⅡA							担当教員	堀田　あゆみ※
講義コード	1403038	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL143,137FLA215								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自己紹介	モンゴル語のあいさつ、自己紹介の練習。
第2回	モンゴル地図	モンゴル国の地図の読解：地理について概要を把握する。
第3回	ウランバートル市	首都ウランバートル市内地図の読解。
第4回	モンゴルの住居	文章の読解：都市の住居、草原の住居（ゲル）の機能。
第5回	生活用具	文章の読解：家具や生活用具の配置と機能。
第6回	お金	現地通貨トゥグルクの表記と聞き取り練習。
第7回	さまざまな数字	数字の表記と書き取り練習。
第8回	食事①都市	食材および料理名を通じた動詞の活用法。
第9回	食事②草原	食材および料理名を通じた動詞の活用法。
第10回	5家畜（ウマ、ウシ、ラクダ、ヤギ、ヒツジ）	家畜に関する形容表現。
第11回	モンゴルの遊び	文章の読解：シャガイ（くるぶしの骨）を使った遊び。
第12回	旧正月	文章の読解：旧正月の過ごし方。
第13回	右手尊重のマナー	文章の読解：モンゴル人の身体技法。
第14回	ハダグ（儀礼用絹布）を捧げる伝統	文章の読解：ハダグ（儀礼用絹布）の贈答法。
第15回	モンゴル漫画	くだけた会話の練習。

担当者から一言
授業ではモンゴルの文化や社会事情についてもできるだけ触れていきます。 分からないことがあれば、授業中になんでも質問してください。

講義名	モンゴル語ＩＩＢ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403039	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL144,137FLA216								

授業概要

本講義では、新聞や雑誌、インターネットの文章などを読みながら、文法の定着を目指す。
また、新聞や雑誌を通して、現代モンゴル社会への理解を深めていきたい。
そのほか、インターネットのブログやチャットなどで使われているモンゴル語なども学ぶことで、モンゴル人とインターネットを利用したコミュニケーションをする能力を身につけていく。
実際にモンゴル人ブログに書き込むといったトレーニングにもチャレンジすることも検討している。

到達目標

(1)受講生は、モンゴル語で辞書を使いながら新聞や雑誌、インターネットのサイトを読む能力が身に付く。
(2)ネットでモンゴル人とコミュニケーションする能力も身に付く。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	モンゴル語の新聞や雑誌を読解できるか。
レポート課題		
上記以外	50%	小テスト。　作文能力をとう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリント配布する

前提学力等

与えられたテキストは、わからない単語を辞書で前もって調べておくこと。
予習・復習は忘れずに。

履修資格

講義名	モンゴル語ＩＩＢ							担当教員	島村　一平
講義コード	1403039	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101FRL144,137FLA216								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	新聞を読もう１	モンゴル語の新聞を読むトレーニングをする。政治経済が中心。
第2回	新聞を読もう2	
第3回	新聞を読もう3	
第4回	新聞を読もう4	
第5回	新聞を読もう5	
第6回	雑誌を読もう１	モンゴル語の雑誌を読むトレーニングをする。ファッション誌や音楽誌などから若者が良く使う表現を学ぶ。占いなども扱う。
第7回	雑誌を読もう２	
第8回	雑誌を読もう３	
第9回	インターネットのモンゴル語１	
第10回	インターネットのモンゴル語2	
第11回	インターネットのモンゴル語3	
第12回	メールを書こう１	
第13回	メールを書こう2	
第14回	メールを書こう3	
第15回	まとめ	
担当者から一言		

講義名	教育実習・事前事後指導（高等学校免許・4年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600010	単位数	3	開講期	前期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA215								

授業概要

教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。

到達目標

学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		実習および事前事後指導への参加態度や成果をもとに成績評価を行う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。参考書：授業内に随時紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

資格取得の手引きの３「各学部・学科・専攻における教育職員免許の取得について」の（４）「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	教育実習・事前事後指導（高等学校免許・4年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600010	単位数	3	開講期	前期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA215								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業概要の説明	各回の内容やスケジュールについては初回講義時に説明する。

担当者から一言
授業日程などを十分確認し、遅刻や欠席などのないようにすること。

講義名	教育実習・事前事後指導（中学高校免許・3年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600020	単位数	5	開講期	後期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。

到達目標

学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎時間の授業への参加態度、教育実習の省察に基づき執筆する教育実践記録の成果を基に成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：参考書：講義の際に、適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

資格取得の手引きの３「各学部・学科・専攻における教育職員免許の取得について」の（４）「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	教育実習・事前事後指導（中学高校免許・3年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600020	単位数	5	開講期	後期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	教員に求められている資質や実践的能力を身につけ、学校現場の諸	各回の内容やスケジュールについては初回講義時に説明する。

担当者から一言

講義名	教育実習・事前事後指導（養護教諭・3年次）							担当教員	伊丹　君和／糸島　陽子／古株　ひろみ／ 小島　亜未／福井　雅英／八木　利津子※
講義コード	1600030	単位数	5	開講期	後期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA217								

授業概要

教育実習（養護教諭）とそれに関わる事前事後の指導である。実際に教育現場で教育指導をするにあたり、児童・生徒を理解する方法や、養護教諭の役割について直接的、体験的な学習を深める。また、事前学習と、事後のまとめ、評価、反省を大学において行う。

到達目標

（1）　学校における教育理念や内容などが理解できる。
（2）　教育実習において、養護教諭の役割を理解するとともに、保健管理および保健指導の実際を学ぶ。
（3）　教育実習生としてふさわしい態度で積極的に実習に取り組む。
（4）　学校教育を推進するための教育システムが理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

（1）～（4）教育実習での記録も含めた実習評価　100%
※なお、演習に欠席した場合は、評価対象にならない場合がある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜プリントを配付する。試験対策参考書：新訂版「学校保健実務必携(第三次改訂）」第一法規（平成26年）

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書　授業内に適宜紹介する。

前提学力等

第３章資格取得の手引きの「各学部・学科における教育職員免許の取得について」の「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	教育実習・事前事後指導（養護教諭・3年次）							担当教員	伊丹　君和／糸島　陽子／古株　ひろみ／ 小島　亜未／福井　雅英／八木　利津子※
講義コード	1600030	単位数	5	開講期	後期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA217								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	実践記録交流会①	教科指導の実践記録をもとに、教科別に分かれて意見交換を行う。
第2回	実践記録交流会②	教科指導以外の実践記録をもとに、教科横断グループで意見交換を行う。
第3回	保健室から創る希望	養護教諭の実践の意義と可能性について
第4回	「保健学習と保健指導」における指導案の作成・授業の進め方	新学習指導要領における保健教育、保健学習と保健指導の特質と展開・評価の観点とその趣旨・評価規準の設定について
第5回	養護教諭の役割と執務	養護教諭の職務内容と法的根拠、保健室経営計画と学校保健計画について、教育実習実践の例示
第6回	健康診断の実際	健康診断実施における保健主事と養護教諭の役割の相違点、健康診断実施計画と事前指導プレゼンテーション（演習含む）
第7回	応急処置とその対応	救急処置における養護教諭の役割と救急体制の確立
第8回	保健学習・保健指導の指導案作成①	単元名（保健学習）や主題選び、題材名（保健指導）の決定、指導案作成上の留意事項・確認作業についてGW
第9回	保健学習・保健指導の指導案作成②	保健学習の目標、保健指導のねらいと学習内容の検討、子どもの予想される反応、評価の視点（評価の方法）の設定をGW
第10回	保健学習・保健指導の指導案作成③	保健学習検討Gは単元の評価規準と合致するか、保健指導検討Gは子どもの健康課題と整合性があるか確認し指導案検討
第11回	保健学習・保健指導の指導案作成④	指導案様式を基本にした授業内容の構成、導入、展開、まとめ、時間配分等について立案とGW
第12回	保健学習・保健指導の指導案作成⑤	指導案の完成、模擬授業に向けての役割分担と授業教材、掲示物資料づくりの確認および指導案の最終確認GW
第13回	指導案のGW発表①	GW発表による模擬授業の実施とその指導①
第14回	指導案のGW発表②	GW発表による模擬授業の実施とその指導②
第15回	教育実習・採用試験に向けて	教育実習、教員採用試験の概要と試験対策（質疑応答含む）

担当者から一言

講義名	教育実習・事前事後指導（中学校免許・4年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600040	単位数	5	開講期	前期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA216								

授業概要

教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。

到達目標

学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎時間の授業への参加態度、教育実習の省察に基づき執筆する教育実践記録の成果を基に成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：参考書：講義の際に、適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

資格取得の手引きの３「各学部・学科・専攻における教育職員免許の取得について」の（４）「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	教育実習・事前事後指導（中学校免許・4年次）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600040	単位数	5	開講期	前期実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA216								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	教員に求められている資質や実践的能力を身につけ、学校現場の諸	各回の内容やスケジュールについては初回講義時に説明する。

担当者から一言

講義名	教育実習・事前事後指導（養護教諭・4年次）							担当教員	伊丹　君和／糸島　陽子／古株　ひろみ／ 小島　亜未／福井　雅英／八木　利津子※
講義コード	1600050	単位数	5	開講期	通年実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA217								

授業概要

教育実習（養護教諭）とそれに関わる事前事後の指導である。実際に教育現場で教育指導をするにあたり、児童・生徒を理解する方法や、養護教諭の役割について直接的、体験的な学習を深める。また、事前学習と、事後のまとめ、評価、反省を大学において行う。

到達目標

（1）　学校における教育理念や内容などが理解できる。
（2）　教育実習において、養護教諭の役割を理解するとともに、保健管理および保健指導の実際を学ぶ。
（3）　教育実習生としてふさわしい態度で積極的に実習に取り組む。
（4）　学校教育を推進するための教育システムが理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

（1）～（4）教育実習での記録も含めた実習評価　100%
※なお、教育実習、事前事後指導に欠席の場合は、評価対象にならない場合がある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、プリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書　授業内に適宜紹介する。

前提学力等

第３章資格取得の手引きの「各学部・学科における教育職員免許の取得について」の「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	教育実習・事前事後指導（養護教諭・4年次）							担当教員	伊丹　君和／糸島　陽子／古株　ひろみ／ 小島　亜未／福井　雅英／八木　利津子※
講義コード	1600050	単位数	5	開講期	通年実習	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA217								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション（事後指導）	オリエンテーションで事後指導についての予定及びその展開について説明する。

講義名	教育相談・進路指導							担当教員	田中　容子※／別府　悦子※
講義コード	1600070	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA203								

授業概要

進路指導とは何かを、自分の体験を振り返りながら考える。進路指導をキャリア教育という概念から捉え、特定の「進路を考える時間」なのではなくて、学校教育全体を通して行うものだということを理解できるよう、ペアワークや具体的事例研究を通して考えていく。

カウンセリングに関する基礎知識、発達についての心理学的見解、不登校やいじめなどの今日的問題を紹介する。その上で具体的な相談事例を検討し、個々の事例に即した教育相談・支援の考え方を学ぶ。また、生徒が主体的に自分の人生を選択していく力を育てるという観点から進路指導の理論と方法を考察する。

到達目標

この授業では、教育相談を行う教員にとって必要な知識を紹介していく。学校で持ち込まれる個々の相談すべてに正しい答えがあるとは限らない。そうした一つ一つの問題に向き合うとき、カウンセリングの知識、社会的連携、時代背景など異なる水準の広範な知識が大きな助けとなる。そこで、こうした広範な知識を習得し、生徒の抱える問題を引き受けられる教員としての土台を築くことを目標とする。また、進路指導についてもその意義や理論を学ぶとともに、具体的な事例の検討を通して実践に活かす方策を考察する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	テーマに対して以下の４点が満たされていれば６０点以上とする。内容の洗練度に応じて加点する。 ①内容がテーマに対応している。 ②集中講義の内容を踏まえている。
上記以外		

15回のうち、5回以上（３分の１以上）の欠席がある場合は、レポート試験の対象とならないので、注意してください。

授業外学習

後半の講義では、学習対象となるテキストのページを書いていますので、事前に精読しておいてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	発達支援と相談援助	別府悦子・喜多一憲編著	三学出版	978-4-903520-86-5
2				
3				

後半の講義では、テキスト（教科書１）を使用しますので必ず用意してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる	西岡加名恵他	学事出版	978_4_7619_2316_7
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教育相談・進路指導							担当教員	田中　容子※／別府　悦子※
講義コード	1600070	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに	高校教育を一例として、「進路指導」という切り口から実際の生徒の現状の一端を知り、教育の仕事についての理解を深める、という本講義の位置づけを知る。講義形式。
第2回	「進路指導」のイメージを自分の経験から考える	大学生の自分がここまで進んできた道のりを振り返り、「進路指導」にまつわる経験を通して「進路指導」という言葉に対する自分のイメージを確認する。
第3回	「キャリア教育」とは	現在文科省が提唱しているキャリア教育を知り、その内容と概念を理解する。 講義形式。
第4回	生徒の立場に立つ「進路指導」とはどのようなものか①	さまざまな困難を抱えているために自分の進路を決めかねている生徒の事例を、ロールプレイを通じて学ぶ。経済的な困難が進路を阻んでいる生徒の例。
第5回	生徒の立場に立つ「進路指導」とはどのようなものか②	さまざまな困難を抱えているために自分の進路を決めかねている生徒の事例を、ロールプレイを通じて学ぶ。発達上の課題を持ち精神的に不安定な生徒の例。ペアワークと講義。
第6回	教師の仕事とは何か①	学校教育の中で自分が影響を受けたと思う経験を語り合う。そのことを通じて、子どもの側からみて学校教育に必要な要件は何かを考える。
第7回	教師の仕事は何か②	学ぶことの意味を考える。映像「世界の果ての通学路」を観る。グル―プで意見交換する。 グループワーク、講義。
第8回	「進路指導」とは何か？まとめ	進路指導とは、学校教育の中で生徒が自分の生き方を考え、生き方を選び取る力を育てるものであって、単に進学先や就職先を決める指導ではないことを理解する。それについて教師に求められている
第9回	教育相談とは何か	子どもの権利や障害者管理条約の理念を学んだ上で、教育相談の歴史的背景、現在の制度や学校の教育相談システムについて概説し、「教育相談」とは何かを学ぶ（テキスト５㌻～20㌻）。
第10回	カウンセリングの基礎知識	カウンセリングとは何か、理論を学ぶことの意義を学んだ上で、代表的な理論として、フロイト、ロジャーズ、行動理論を学習する（テキスト58㌻～68㌻）
第11回	カウンセリングとアセスメントの技法	第11回の理論の上に立って、フロイトの精神分析やロジャーズの来談者中心療法について、演習も交えながら学習する。また、代表的な知能検査や投影法について概説する。
第12回	思春期の問題①　こころと体の発達	幼児期からの発達理論を学んだ上で、思春期・青年期・大学生の時期の発達とその課題について学ぶ（テキスト２１㌻～５４㌻）
第13回	思春期の問題②　発達障害、精神病理、神経症などの問題	発達障害、精神障害などについて、DSM‐ⅤやWHOのICF概念をもとに概説し、LD,ADHD自閉症スペクトラム障害、対人恐怖、気分障害などの主な疾患や障害について理解を深める（テキスト
第14回	いじめ・不登校の理解と対応	いじめ、不登校、ひきこもりなどの学校不適応問題について、視聴覚教材や事例に基づくディスカッションを行いながら学習を深める。また援助の方法として、スクールカウンセリングやソーシャル
第15回	保護者・関係機関との連携	教育相談を行っていく上で必須とされる保護者・医療機関などの関係機関との関係、特別支援教育に関する校内外の連携、児童虐待とそ対応について学習する（テキスト170㌻～193㌻、101㌻～121㌻）

担当者から一言
後半担当の別府より：毎年履修学年が学科によって違いますので、前提となる知識や経験が一定でなく、進め方に難しさを感じています。そのため、物足りなかったり、進度が速すぎるなどの注文がありましたら、その都度お知らせくださると幸いです。教育現場でも重要視され、教員採用試

講義名	教科教育法Ⅰ（家庭）							担当教員	大塚　眞理子※
講義コード	1600090	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA107								

授業概要

中等教育（中学・高等学校）家庭科について、教科の意義や本質を理解した上で、学習指導要領に示されている教科目標や学習内容、また指導計画や評価などを学ぶ。本講義では主に中学校家庭科について、教材研究や指導案の作成、模擬授業とその検討を行い、家庭科指導の実践力と資質を養う。

到達目標

（1）家庭科教育の歩みを知り、本質や意義を理解する
（2）中学校家庭科の目標や内容を理解する
（3）授業を立案し、指導案を作成することができる
（4）授業実践（模擬授業）ができる
（5）家庭科教員に求められる資質を高める

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	（1）（2）小テスト　10% （3）学習指導案　30% ワークシート　5%

授業外学習

宿題；　教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の準備

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新しい技術・家庭		東京書籍	
2	中学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	教育図書	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中学校高等学校家庭科指導法	中間美砂子	建帛社	
2				
3				

初回に資料を配布するので、毎回忘れずに持参すること

前提学力等

2回生以上、教職課程論を履修済みが望ましい。

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（家庭）							担当教員	大塚　眞理子※
講義コード	1600090	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA107								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	家庭科教育の意義	オリエンテーション 家庭科教育の本質と意義を理解する。
第2回	家庭科教育のあゆみ	家庭科教育がどのように成立し、i位置づけられ現在に至っているか。小中高等学校の家庭科教育について知る。
第3回	中学校家庭科の目標と内容	中学校学習指導要領を読む。 目標から家庭科で育成したい力を理解する。指導要領内容と教科書から＜家庭分野＞の学習内容を知
第4回	家庭科の学習指導	中学校家庭科の指導計画と学習評価について理解する。
第5回	家庭科の学習指導の工夫	独創的な題材、実習・実技における工夫、情報機器の活用、アクティブラーニングの活用などについて取り上げる。
第6回	家庭科の学習指導案	学習指導案の書き方を理解する。 授業DVDを見る。指導案例の検討。
第7回	学習指導案の作成	題材を選定して、指導構想を練る。
第8回	授業づくりと教材研究	製作実習を取り入れた指導。
第9回	授業づくりと教材研究	製作実習を取り入れた指導。
第10回	学習指導案の検討	宿題として作成した指導案を検討して、改善する。
第11回	模擬授業の準備	模擬授業に向けての準備とワークシートの作成。
第12回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第13回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第14回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第15回	家庭科教育の使命	まとめ 模擬授業からの学びを共有する。

担当者から一言
教職に就くことを強く希望しておられなくても、少しでも関心のある方は履修することで多くの学びとともに、視野が広がると思います。

講義名	教科教育法Ⅰ（公民）							担当教員	西村　太志※
講義コード	1600110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA109								

授業概要

高校公民科教育の目的と目標、内容、実践上の諸課題について探求し、社会科教師としての実践的力量の基礎を身につけることをめざす。授業は３つの柱で構成する。１つめは、具体的な授業実践の学習を通して、公民科授業の役割や意義・基本的視点について学ぶ。２つ目は、具体的な授業実践の学習を通して、公民科で学習する各分野での力点について学ぶ。３つ目は、以上を踏まえて、学習指導案を作成し、各自がミニ模擬授業を行い、受講者全員で検討・議論する。

到達目標

(1)高校公民科教育の意義と役割について理解できる。
(2)さまざまな授業実践例の理解を通じて、授業スキルを高められる。
(3)公民科授業の学習指導案を提案し、ミニ模擬授業を行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)授業への取り組み（グループ活動への関わり方・レスポンスカード・小論文などの総合点）　７０％ (2)学習指導案と模擬授業　３０％

３分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

受講者各自に「模擬授業」を予定しています。テーマは自由です。各自でテーマを事前に考えておいてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『高等学校学習指導要領解説 公民編』	文部科学省	教育出版	978-4316300238
2	『社会・地歴・公民科教育法』	臼井嘉一・柴田義松編著	学文社	978-4-7620-1957-10
3				

その他必要な資料などは教室にて、適宜、紹介、配布する。

前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（公民）							担当教員	西村　太志※
講義コード	1600110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA109								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方と目標、評価方法の説明、自己紹介、班編制などを行う。
第2回	高校公民科教育の目的と目標	学習指導要領のねらいと内容、社会科教育の目的と目標、自主編成などについて学ぶ。
第3回	公民科授業の視点① 日本の社会科教育の課題	公民科の授業で大切にすべきことについて学ぶ。
第4回	授業デザイン	学習指導案の書き方、授業のすすめ方などを学ぶ。
第5回	公民科授業の視点② 教材づくり	公民科の教材づくりについて、授業実践から学ぶ。
第6回	公民科授業の視点③ 情報機器・視聴覚教材の活用法	情報機器・視聴覚教材の有効な使い方について学ぶ。
第7回	公民科の内容構成と課題① 「現代の青年と社会生活及び課	「現代の青年と社会生活及び課題」の内容構成と課題について、授業実践から学ぶ。
第8回	公民科の内容構成と課題② 「現代の経済と国民生活」	「現代の経済と国民生活」の内容構成と課題について、授業実践から学ぶ。
第9回	公民科の内容構成と課題③ 「現代の政治と民主社会」	「現代の政治と民主社会」の内容構成と課題について、授業実践から学ぶ。
第10回	公民科の内容構成と課題④ 「平和的国際関係づくり」	「平和的国際関係づくり」の内容構成と課題について、授業実践から学ぶ。
第11回	公民科の内容構成と課題⑤ 「主権者教育」	「主権者教育」のすすめ方について学ぶ。
第12回	ミニ模擬授業プラン検討	グループで、各自の模擬授業プランの検討を行う。
第13回	ミニ模擬授業と授業検討会①	模擬授業を行う。相互評価と自己評価を行う。
第14回	ミニ模擬授業と授業検討会②	模擬授業を行う。相互評価と自己評価を行う。
第15回	ふりかえりとまとめ	集中講義を振り返って、グループ討論や全体討論を行う。

担当者から一言
①日常的に、世の中の出来事に関心をもつようにしてください。 ②選挙権年齢が18歳に引き下げられたことの意義を考え、高校での主権者教育をどうすればいいか考えておいてください。

講義名	教科教育法Ⅰ（社会）							担当教員	奥村　好美※
講義コード	1600120	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA113								

授業概要

中学校社会科教育での授業づくりに関する基本的な事項について、理論および具体的な実践事例を通じて学ぶ。また、実際に、中学校社会科の学習指導案を作成して模擬授業を行う。
この過程において、受講者同士での議論や模擬授業の相互検討を積極的に取り入れる。

到達目標

(1)中学校社会科教育に関する基本的な事項について理解する。
(2)(1)を活かして、実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
(3)他者と議論したり、授業を検討し合ったりすることを通して、互いの授業を改善するための力量を高めることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	(1)最終レポート課題(50%)
上記以外	50	(2)学習指導案および模擬授業(40%) (3)授業への取り組み（授業時のミニ課題など）(10%)

基本的に、模擬授業の実施は必須とする。

授業外学習

授業時に指示する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中学校学習指導要領（社会編）			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

中学校社会科の教科内容について、ある程度理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（社会）							担当教員	奥村　好美※
講義コード	1600120	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA113								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	本授業の見通しをもつ。また、授業の構成要素について学ぶ。
第2回	社会科教育における目的・目標	中学校社会科教育で目指されるべき目的・目標について考える。
第3回	社会科教育における教材・教具①	中学校社会科教育の教材研究や教材開発について学ぶ。
第4回	社会科教育における教材・教具②	中学校社会科教育の情報機器の活用について学ぶ。
第5回	社会科教育における指導過程	中学校社会科教育の教授行為や学習形態について学ぶ。
第6回	社会科教育における教育評価	中学校社会科教育の教育評価について学ぶ。
第7回	学習指導案の分析と作成	学習指導案を分析し、作り方を学ぶ。
第8回	模擬授業と授業検討会①地理	模擬授業および相互検討会を行う。
第9回	模擬授業と授業検討会②地理	模擬授業および相互検討会を行う。
第10回	模擬授業と授業検討会③歴史	模擬授業および相互検討会を行う。
第11回	模擬授業と授業検討会④歴史	模擬授業および相互検討会を行う。
第12回	模擬授業と授業検討会⑤公民	模擬授業および相互検討会を行う。
第13回	模擬授業と授業検討会⑥公民	模擬授業および相互検討会を行う。
第14回	模擬授業と授業検討会⑦公民	模擬授業および相互検討会を行う。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	これまでの学習の総括を行い、振り返る。

担当者から一言

講義名	教科教育法Ⅰ（地理歴史）							担当教員	鎌田　ユリ※
講義コード	1600130	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA115								

授業概要

高校の地理・歴史の授業目的を考え、授業展開を考案してみる。小学校中学校の歴史の授業をふりかえり、高校での地歴の授業構成を考える。世界各国の学校制度も調べ、授業のありかたを考えてみる。模擬授業でそれを実践し、また他の人の模擬授業を生徒の立場で受けてみて、展開を検討してみる。

到達目標

授業を展開するには、授業者の知識と、生徒への理解が必要である。どう展開するかを考え、また他の展開を検討することで、授業の力を深めていく

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	７０％	世界各国の学校制度・授業内容のレポート発表１０％ 模擬授業の工夫・内容４０％ 最終授業時間に与えられた課題から授業案を作成し提出２０％
上記以外	３０％	毎週模擬授業の改正案を提出１０％ 模擬授業から試験問題を作成して提出１０％ 地歴関係新聞の記事を切り抜き、コメントをつけて提出１０％

３分の２の出席は必要。毎回提出物を忘れずに出すこと。おくれても提出が必要。

授業外学習

新聞記事から、地歴に関係するものを切り取り、コメントを提出。知識を深めることとともに、関心を広める。地歴の嫌いな生徒の気持ちを理解できるように努力する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

高校時代の地歴の教科書・資料集。プリントなど持参のこと

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（地理歴史）							担当教員	鎌田　ユリ※
講義コード	1600130	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA115								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自己紹介・授業解説	授業解説。高校時代の授業のふりかえり。世界各地の学校制度・授業内容を調べる分担を確定
第2回	地歴の指導要領 および変更について	指導要領の内容を学び、新しい地歴の授業構成変更を確認する。模擬授業の順番決定
第3回	小中学校での地歴 新テストの目的を確認する	小中学校でどこまで学んでいるかを確認して、高校の授業を考える。センターテストから変更になる新テストの概要を確認する
第4回	各国の学校制度・授業内容報告	担当者５名による各国の学校制度・授業内容の報告
第5回	各国の学校制度・授業内容報告	担当者５名による各国の学校制度・授業内容の報告
第6回	各国の学校制度・授業内容報告	担当者５名による各国の学校制度・授業内容の報告
第7回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第8回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第9回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第10回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第11回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第12回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第13回	模擬授業	担当者２名による模擬授業
第14回	授業のふりかえり	総合振り返り
第15回	条業案作成テスト	

担当者から一言

講義名	教科教育法Ⅰ（農業）							担当教員	森　太郎※
講義コード	1600140	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

高等学校学習指導要領解説 農業編より目標と内容の構造を理解し、それに基づき２科目（農業と環境、課題研究）について、情報機器を取り入れた教材開発および学習指導案作成を行い、模擬授業を行う。互いに評価し合うこと、実践研究の動向を把握することにより、それらを修正し、より良い授業づくりの意欲と実践力を身につける。また、教育現場における農業に対する多様なニーズについて、食や環境などの観点から講義し、農業高校の教育に限らず、一般教育的に理解すべき基本的な事項を身につける。

到達目標

高等学校 農業の学習指導要領について目標と内容を構造的に理解し、農業高校の生徒の特性に沿った授業設計を目指して情報機器を取り入れた教材開発研究および独創的な学習指導案の作成を行う力とそれらを評価し、改善する能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	65	単元目標・計画の立案、教材研究、学習指導案の作成に関する資料について評価する。
上記以外	35	模擬授業・発表および、それらに関する議論について評価する。

授業外学習

本講義では発表や議論する機会を多く設ける予定であるが、積極的な参加を求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

農業と環境（高校の教科書）を持っていれば、持参ください。

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（農業）							担当教員	森　太郎※
講義コード	1600140	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	教科教育法（農業）Ⅰのガイダンス	本講義の授業概要、計画、到達目標についてガイダンスを行う。また、各自目指す教師像について発表する。
第2回	農業高校で求められる教育	現在の農業高校で求められている教育について実践例を示しながら解説する。
第3回	学習指導要領　1	学習指導要領解説　総説について解説する。
第4回	学習指導要領　2	学習指導要領解説　各科目の目標と内容について解説する。
第5回	学習指導要領　3 農場を利用した実習	学習指導要領解説　各科目の目標と内容について解説する。 農場を利用した実習について解説する。
第6回	農業と環境　単元目標・計画の立案、教材研究	農業と環境の科目から一つ単元を選択し、単元目標・計画を立て教材研究を行う。
第7回	農業と環境　指導案作成	農業と環境の科目で選択した単元から１時間を取り出し、本時の目標・展開案・支援を具体的に立案する。
第8回	農業と環境　模擬授業	教材研究・立案した指導案をもとに模擬授業を行い、互いに評価し、より良い教材・指導案に修正する。
第9回	農業クラブとプロジェクト学習	農業クラブとプロジェクト学習について実験研究を示しながら解説する。
第10回	課題研究　目標・計画の立案	プロジェクト学習について目標・計画を立案する。
第11回	課題研究　教材研究	プロジェクト学習について教材研究を行う。
第12回	課題研究　計画・教材の発表	計画・教材を発表し、互いに評価し、より良い計画・教材に修正する。
第13回	食と農業教育	食と農業について実践研究を示しながら解説する。
第14回	環境と農業教育	環境と農業について実践研究を示しながら解説する。
第15回	教科教育法（農業）Ⅰのまとめ	これまでの講義を振り返り、各自学んだこと、目指す教師像について発表する。

担当者から一言

講義名	教科教育法Ⅰ（理科）							担当教員	石川　聡子※
講義コード	1600150	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA119								

授業概要

理科を学習する意義や科学の性質についてグループワークをおこなうことを導入段階に位置づけ、その後、中等レベルの理科の教育目標、内容と系統性、評価、学習指導案の構成について学んだ後、本講義の仕上げとして、また、教育実習に備えるために、学習指導案の作成およびその修正と改善をおこなう。教材研究の基礎を経て模擬授業を準備し，実際に模擬授業を通して授業のふりかえりや改善点について互いに学びあう。

到達目標

（1）中等理科の教育目標、内容と系統性，評価について理解することができる。
（2）学習指導案の作成ならびに基本的な教材研究ができる。
（3）模擬授業およびその準備をおこなうとともに授業のふりかえりや改善について検討することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４５	到達目標（１）について論述式試験を行う。（４５%）
レポート課題	４５	到達目標（２）について、学習指導案を作成する課題を課す（３０%）とともに、教材研究としてワークシートを作成する課題を課す（１５%）。
上記以外	１０	到達目標（３）について、模擬授業時に小レポートを課す（１０%）。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

集中講義なので予習復習はとくに指定しないが、模擬授業で用いるための簡単な演示実験やインターネット上の実験の映像など情報機器の活用の準備を求める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	未来へひろがるサイエンス３		啓林館	
2	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	大日本図書	9784477019796
3				

「未来へひろがるサイエンス３」は講義初日に販売します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（理科）							担当教員	石川　聡子※
講義コード	1600150	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA119								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	理科を学ぶ意義	オリエンテーション、理科を学ぶ意義についてグループワークを取り入れて考察する。
第2回	科学とは何か	科学の性質や方法、科学技術などについてカードゲームを望井がグループワークを通して考察する。
第3回	理科の目標	初等・中等理科の目標、第1分野・第2分野、各単元の目標を作業を通して理解する。
第4回	理科の内容と系統性（第１分野）	中学校第1分野の理科の内容とその系統性について作表しながら考察、理解する。
第5回	理科の内容と系統性（第２分野）	中学校第２分野の理科の内容とその系統性について作表しながら考察、理解する。
第6回	生徒の持つ誤概念	力学分野を事例にして生徒の誤概念の基本について理解する。
第7回	理科の評価方法	評価の観点や規準など評価方法の基本について理解する。
第8回	学習指導案の構成	学習指導案の作成の前準備としてその構成について理解する。
第9回	学習指導案の作成①、指導観・生徒観・教材観、単元の指導計画を	指導観・生徒観・教材観、単元の指導計画を中心に学習指導案を作成する。（情報処理室を使用予定）
第10回	学習指導案の作成②、本時の展開を中心に	本時の展開を中心に学習指導案を作成する。（情報処理室を使用予定）
第11回	学習指導案の点検・修正	ペアになって相互に学習指導案を点検し、加筆・修正をおこなう。
第12回	教材研究の基礎	完成した学習指導案をもとに簡易な教材研究をおこなう。また、電子黒板を用いて、教科書に掲載されている実験方法などについて理解を深める。
第13回	模擬授業①	1人20分程度の模擬授業をおこない、ふりかえりを通して改善点の共通理解をはかる。
第14回	模擬授業②	1人20分程度の模擬授業をおこない、ふりかえりを通して改善点の共通理解をはかる。
第15回	模擬授業③	1人20分程度の模擬授業をおこない、ふりかえりを通して改善点の共通理解をはかる。
第16回	試験	

担当者から一言
理科の教員免許状を取得するための必修科目です。この講義で理科指導のイロハを身につけましょう。学習指導案が書けるようになり、また模擬授業にチャレンジして実践的な指導力の基礎を身につけ、自信を持って教育実習に行けるようになりましょう。

講義名	教科教育法Ⅰ（英語）							担当教員	小栗　裕子※
講義コード	1600151	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	204TEA105								

授業概要

英語教育に関するさまざまな要因について学ぶとともに、その指導法についての理解を深める。その過程から外国語としての英語を日本人学習者が学ぶ際直面する問題を考える。同時にそれらの問題を克服する手助けに必要な知識を獲得し、学習者に対する態度の滋養、さらに自分自身の指導法を省察的な態度でみることを目指す。このクラスでは特に理論面を中心に学ぶ。

到達目標

英語教師に必要とされる英語教育の理論的知識の習得を目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題レポート　（２回分）40%とその内容発表20%、最終レポート 10%
上記以外	30	毎回のクラス討論参加とそのレポート

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館	978-4-469-24558-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中学校学習指導要領解説（外国語編英語編）	文科省	開隆堂	
2				
3				

最初の授業でプリントを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法Ⅰ（英語）							担当教員	小栗　裕子※
講義コード	1600151	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	204TEA105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	
第2回	英語教育と英語教育学　（英語教育の目的）	
第3回	英語の国際化と日本の英語教育（どのような英語を教えるか）	
第4回	学習指導要領	
第5回	学習者	
第6回	英語教員	
第7回	小学校における外国語活動	
第8回	「学習者」要因の発表Ⅰ	
第9回	「学習者」要因の発表Ⅱ	課題提出
第10回	「学習者要因」のまとめ	
第11回	英語教授法	
第12回	第二言語習得と英語教育	
第13回	教授法発表Ⅰ	
第14回	教授法発表Ⅱ	課題提出
第15回	コミュニケーション能力の育成	

担当者から一言
毎回予習をして、積極的な姿勢で授業に臨んでください。

講義名	教科教育法Ⅱ（家庭）							担当教員	大塚　眞理子※
講義コード	1600160	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA108								

授業概要

高等学校家庭科について、教科の意義や本質を理解した上で、学習指導要領に示されている教科目標や内容、また指導計画や評価などを学ぶ。教材研究を通して理解を深めた上で指導案の作成、模擬授業とその検討を行い、家庭科指導の資質と実践力を養う。

到達目標

（1）家庭科教育の意義を理解する
（2）高等学校家庭科の目標や内容を理解する
（3）授業を立案し、指導案を作成することができる
（4）授業実践（模擬授業）ができる
（5）教職に意欲をもち、家庭科教員としての資質を高める

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	１００%	（1）（2）（3）学習指導案（改善を含む）　35% ワークシート　5% （4）模擬授業　30%

授業外学習

宿題；　教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の準備

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	高等学校家庭基礎（教科書）		東京書籍	
2	高等学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省		
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中学校高等学校家庭科指導法	中間美砂子	建帛社	
2				
3				

初回に資料を配布するので、毎回忘れずに持参すること

前提学力等

2回生以上、および教職課程論、教科教育法Ⅰ（家庭）を履修済みが望ましい。

履修資格

講義名	教科教育法II（家庭）							担当教員	大塚　眞理子※
講義コード	1600160	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA108								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自立と共生を目指す家庭科	オリエンテーション 高等学校家庭科の本質と意義を理解する。
第2回	高等学校家庭科の目標と内容	高等学校学習指導要領を読む。 目標から家庭科で育成したい力を理解する。
第3回	高等学校家庭科の目標と内容	指導要領と教科書から学習内容を知り、指導上の留意点を確認する。
第4回	家庭科教育の現状と課題	家庭科教育の現状や課題について取り上げる。
第5回	家庭科指導の工夫	独創的な題材、実習・実技における工夫、情報機器の活用、アクティブラーニングの活用などについて取り上げる。高等学校家庭科の教材を考える。
第6回	学習指導案の作成	評価、学習指導案の書き方を復習する。 実践のDVDを見る。指導案例の検討。
第7回	学習指導案の作成	題材を選定して、指導構想を練る。
第8回	教材研究 ,教材開発	高等校家庭科の教材を取り上げる。
第9回	教材研究 ,教材開発	高等学校家庭科の教材を取り上げる。
第10回	指導案の検討	宿題として作成した指導案を検討して、改善する。 ワークシートも作る。
第11回	模擬授業の準備	模擬授業の準備をする。
第12回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第13回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第14回	模擬授業および検討	一人ずつ、模擬授業を行う。 その後に、改善点などを検討する。
第15回	教職を考える	まとめ 模擬授業からの学びを共有する。

担当者から一言
中学に比べて、高校家庭科では内容がより専門的になる。 専門教科で学んだ知識や技能をよく復習して、教育という視点から捉えることでさらに理解が深まるであろう。

講義名	教科教育法Ⅱ（公民）							担当教員	西村　太志※
講義コード	1600180	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA110								

授業概要

公民科教育法Ⅰで履修した学習内容を踏まえて、公民科目のねらいと教科内容に関わる教材を選択・精選・発掘し、それらを有機的に組み立てていく授業構成を学習する。
また、受講生各自が学習指導案を作成し、相互に検討した後、模擬授業を行う。その後の授業検討会を経て、修正した学習指導案を最終レポートとして提出する。

到達目標

(1)高校公民科教育の目標・目的をふまえた授業プランの作成ができる。
(2)自分の作成した授業プランに基づいた模擬授業を展開することができる。
(3)教師の立場および生徒の立場から、自分の模擬授業および他の受講者の模擬授業を的確に分析・評価できる。
(4)自分のめざす社会科・公民科の授業づくりの具体的イメージができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート課題（各自の学習指導案を修正し提出する）　４０％
上記以外	60	①授業への取り組み（グループ活動への関わり方・レスポンスカードなどの総合点）　２０％ ②学習指導案と模擬授業　４０％

３分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

受講者各自に「模擬授業」を予定しています。テーマは自由です。各自でテーマを事前に考えておいてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『高等学校学習指導要領解説 公民編』	文部科学省	教育出版	978-4316300238
2	『社会・地歴・公民科教育法』	臼井嘉一・柴田義松編著	学文社	978-4-7620-1957-10
3	『社会科の授業診断』	棚橋健治	明治図書	978-4-18-440017-7

その他必要な資料などは教室にて、適宜、紹介、配布する。

前提学力等

公民科教育法Ⅰを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	教科教育法II（公民）							担当教員	西村　太志※
講義コード	1600180	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講		
ナンバリング番号	204TEA110								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション 授業づくりの実際①	本授業の進め方と目標、評価方法の説明、自己紹介、班編制。／対照的な授業案を比較し、いろいろな授業のタイプにつて学ぶ。
第2回	授業づくりの実際② 「主権者教育」	主権者教育（英国のシティズンシップ教育等の紹介を含む）をどうすすめるかについて学ぶ。
第3回	授業づくりの実際③ 「良い授業」とは？	「社会の構造から自らの生き方を考えさせる授業」の検討を等して「良い授業」の条件を探る。
第4回	授業プランの立て方	学習指導案、授業計画、テーマ・課題、導入、発問・討論、ワークシート、教材、アクティブラーニング、ICT機器等について学ぶ。
第5回	学習指導案の検討①	受講者各自が学習指導案の提案を行い、相互検討会を行う。
第6回	学習指導案の検討②	受講者各自が学習指導案の提案を行い、相互検討会を行う。
第7回	学習指導案の検討③	受講者各自が学習指導案の提案を行い、相互検討会を行う。
第8回	模擬授業と授業検討会①	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第9回	模擬授業と授業検討会②	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第10回	模擬授業と授業検討会③	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第11回	模擬授業と授業検討会④	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第12回	模擬授業と授業検討会⑤	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第13回	模擬授業と授業検討会⑥	受講者各自が模擬授業を行い、相互検討会を行う。
第14回	模擬授業の総括	模擬授業を振り返って、グループ討論および全体討論を行う。
第15回	ふりかえりとまとめ	集中講義全体を振り返って、グループ討論および全体討論を行う。

担当者から一言
①日常的に、世の中の出来事に関心をもつようにしてください。 ②選挙権年齢が18歳に引き下げられたことの意義を考え、高校での主権者教育をどうすればいいか考えておいてください。

講義名	教科教育法Ⅱ（社会）							担当教員	小林　忠伸※
講義コード	1600190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA114								

授業概要

中学校社会科授業構成の理論と方法について学習する。
社会科の歴史について学習する。
地理・歴史・公民の三分野の教材研究並びに学習指導案作成上の留意点を学習する。
模擬授業を実施し、指導法を理解する。

到達目標

（1）目標・授業・評価の一体化を観点に授業を構成できる。
（2）三分野（地理・歴史・公民）の学習指導案の作成と指導上の留意点が理解できる。
（3）模擬授業を通じて、教材研究、指導方法等、社会科の教員としての望ましい知識や態度を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	レポートの課題内容について分析・評価
上記以外	40%	模擬授業での学習指導案作成や授業展開についての評価 模擬授業での資料等の活用と評価 講義内容についての小テスト

3分の１以上の欠席は評価の対象外とする。

授業外学習

学習指導案の作成
歴史的分野等の指導計画について(演習)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義内容については随時プリントを配布します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「中学校社会科教育の実践と方法」等、参考書について講義中に紹介します。

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法II（社会）							担当教員	小林　忠伸※
講義コード	1600190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA114								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	社会科教育とは	オリエンテーリング 社会科教育の理念と目的について
第2回	社会科の歴史	学制制定以降の社会科について 戦後教育改革と中等社会科の変遷
第3回	社会科教育の目標論と内容構成論、指導要領のねらい	社会科目標分析の視点 中学校社会科の目標
第4回	中学校地理的分野の内容と授業	地理的分野の内容構成 地理的分野の指導計画
第5回	中学校歴史的分野の内容と授業	歴史的分野の内容構成 歴史的分野の指導計画
第6回	中学校公民的分野の内容と授業	公民的分野の内容構成 公民的分野の指導計画
第7回	中学校社会科指導計画作成上の留意点	目標にかかわる作成上の課題 内容にかかわる作成上の課題
第8回	中学校社会科各分野における年間指導計画と留意点	地理的分野の指導計画作成と授業づくり 歴史的分野の指導計画作成と授業づくり
第9回	中学校社会科各分野における年間指導計画と留意点	歴史的分野の指導計画作成と授業づくり 公民的分野の指導計画と授業づくり
第10回	模擬授業（地理的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（地理）と指導上の課題分析
第11回	模擬授業（地理的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（地理）と指導上の課題分析
第12回	模擬授業（歴史的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（歴史）と指導上の課題分析
第13回	模擬授業（歴史的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（歴史）と指導上の課題分析
第14回	模擬授業（公民的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（公民）と指導上の課題分析
第15回	模擬授業（公民的分野）の実施と指導上の留意点	模擬授業（公民）と指導上の課題分析 模擬授業の振り返りと留意点

担当者から一言
「中学校学習指導要領解説(社会編」）(文部科学省）を熟読しておくこと

講義名	教科教育法Ⅱ（地理歴史）							担当教員	未定＊
講義コード	1600200	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA116								

授業概要

現行及び改訂「高等学校学習指導要領地理歴史科」および「中学校学習指導要領社会科」に即し、地理歴史教育法Ⅰで履修した学習内容を踏まえて、地歴科目のねらいと教科内容に関わる教材を選択・精選・発掘し、それらを有機的に組み立てていく授業構成（学習指導案作成）、および模擬授業を通して、地歴科各科目の指導法を学習する。

到達目標

(1)　地理・歴史教育の意義と課題を、授業案作成・模擬授業を通して、深めることができる。
(2)　学習目標を明確にし、適した教材の精選とその呈示を工夫し、学習指導案を作成できる。
(3)　生徒の興味、関心、思考過程を考慮した探究的な学習過程がみられる模擬授業ができる。
(4)　自他の授業をよりよいものにしていこうという姿勢で、授業カンファレンスに参加できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	地理・歴史教育の意義の理解と課題意識を、授業案作成・模擬授業を通して、深めることができたか。
上記以外	50%	【内訳】 ・学習指導案　20%　・模擬授業　20%　・授業中の討論への積極的参加　10%

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教材作成のための地域調査・史料収集とその精選
学習指導案(授業書）の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	高等学校学習指導要領解説（地理歴史編）	文部科学省	教育出版	978-4316300221
2				
3				

・プリント配布　その他は講義中に指示　・中学・高校時代の地理歴史教科書・副教材を初回に持参すること

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法II（地理歴史）							担当教員	未定＊
講義コード	1600200	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA116								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	「よい授業」の要件	生徒の発達や生活、関心にそくした授業のあり方を、伊那小学校の「総合学習」の実践を通して考える。
第2回	教育課程と構成理論の変遷	デューイにはじまる探究的学習やその発展としての科学的説明ねらいとする社会科構成理論について概説する。
第3回	地理・歴史教材の授業テーマの設定	彦根をフィールドにおき、地理・歴史の教材づくりのテーマを考える。
第4回	地理教材づくりのための巡検調査	地場産業についての歴史と現況についての地域調査を行う。
第5回	歴史教材づくりのための巡検調査	彦根城下町の形成過程とその変化を実地見学を含め検討する。
第6回	授業目標と授業方法の検討	学習指導要領の分析と授業目標の設定、生徒の主体的な学習過程を汲み入れた授業案を検討する。
第7回	授業案の交流と検討	授業案の発表と意見交流を行う。(評価)
第8回	教材作成のための資料検討	授業目標にあった資料調査と教材作成を行う。
第9回	授業書の作成	学習目標、教材観、学習過程を含めた授業書を作成する。
第10回	授業書の交流と検討	学習目標を絞り、生徒の目標到達過程を明らかにした指導案へと吟味する。(評価)
第11回	地理模擬授業	地理（社会科地理的分野）の模擬授業を行う。(評価)
第12回	歴史模擬授業	歴史（社会科歴史的分野）の模擬授業を行う。(評価)
第13回	地理授業研究	地理（社会科地理的分野）についての授業研究討論を行う。(評価)
第14回	歴史授業研究	歴史（社会科歴史的分野）似ついての授業研究討論を行う。(評価)
第15回	地理・歴史教育の意義と課題	授業についてのカンファレンスと今後の地理・歴史教育についての意見交流を行う。(評価) レポート作成について

担当者から一言

講義名	教科教育法Ⅱ（農業）							担当教員	川﨑　四朗※
講義コード	1600210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号									

授業概要

戦後６０数年の高等学校教育の中でも農業科教育はその時の社会情勢・経済情勢等により大きく変化してきたが、地域社会と連携しながら農林業の振興と人材の育成に大きく貢献してきた。本講義では、これらの流れや動きをよく理解して、これからの農業科教育のあるべき姿を考えていきたい。
(1) 高等学校農業科教育に長年にわたり携わってきた者の立場から、その経験や体験を通して得た農業科教育のノウハウを具体的に展開する。
(2) 講義の中に模擬授業およびパソコンを用いたプレゼンテーションなどの演習を出来る限り取り入れ、受講者の積極的な学習を支援するよう努め、農業教育の担い手の育成を図る。

到達目標

(1) 高等学校農業教育の目標および教育課程の編成を理解し、わかりやすく説明することができる。

(2) 教育活動に必要な基礎的能力（教育内容の理解、生徒理解など）と魅力ある授業実践力を身につけることができる。

(3) 農業にとって有為な人材を育成するための農業科教育の担い手となる資質を備えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	50%	到達目標各項目について、本講義の最終日にレポートを課す。
上記以外	50%	到達目標各項目について、授業の取組み状況(演習、課題発表など)により総合的に評価する。

授業時間数の３分の１以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

(1) 模擬授業や課題発表など、出来る限り演習を取り入れた内容になるので、積極的に学習する意欲・態度が重要である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	高等学校学習指導要領解説「農業編」	文部科学省	実教出版	978-4-303-12490-8
2	文部科学省検定済教科書「農業と環境」	塩谷哲夫ほか14名	実教出版	978-4-407-20195-6
3				

上記Ｎｏ.１の教科書は県立大学生活協同組合で、上記Ｎｏ.２の教科書は近隣の高等学校教科書販売店（要予約）で購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「農業」から教育を拓く	佐野　明	実教出版	4-407-30117-1
2				
3				

授業中にﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

前提学力等

高等学校教諭一種免許「農業」の取得に必要な履修科目を把握し、計画的に単位取得できるようにすること。

履修資格

講義名	教科教育法II（農業）							担当教員	川﨑　四朗※
講義コード	1600210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	教科教育法の意義と農業科教育法IIの内容	本講義の概要と講義予定について説明とガイダンスを行う。
第2回	わが国農業教育の変遷	農業教育の発祥より現代に至るまでの変遷について講義する。
第3回	本県農業教育の変遷と現状	本県農業教育の変遷と現状の講義。担当を決め、パソコンによるレポート発表を実施する。
第4回	教育課程の編成と学習指導要領	教育課程編成上の留意点と学習指導要領について講義する。
第5回	学習指導要領の目標	現行学習指導要領について、その目標・経緯と趣旨・要点を講義する。
第6回	教科「農業」の目標	教科「農業」の目標および組織について講義する。
第7回	科目「農業と環境」の解説	科目「農業と環境」の目標および学習内容を講義する。
第8回	科目「課題研究」「総合実習」の解説	科目「課題研究」「総合実習」の目標および学習内容を講義する。
第9回	科目「農業情報処理」他の解説	科目「農業情報処理」および専門科目の目標および学習内容を講義する。
第10回	学習指導計画と学習指導案の作成	学習指導計画の立案と学習指導案の作成、模擬授業を行う。必要に応じてパソコンを活用する。
第11回	農業教育と学校農業クラブ	学校農業クラブの意義と組織、教科学習との関連について講義する。
第12回	農業教育とプロジェクト学習	プロジェクト学習の意義と進め方について講義する。
第13回	農業教育に関する法規・法令	農業教育の視点から教育法規全般の講義と、教育法規演習の実施。
第14回	実践的な教科指導と教師としての心構え	学校農場と実験実習について講義する。
第15回	まとめ（レポート）	本講義のまとめについて講義し、レポート課題に取り組む。

担当者から一言
農業にかかる実体験があればよいが、無い場合であっても常に農業情勢や農業教育の現状、高等学校教育の課題等に関心を持っていることが大事です。

講義名	教科教育法II（理科）							担当教員	宮下　ゆたか※
講義コード	1600220	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA120								

授業概要

本講義では、子どもの実態をふまえて、理科教育の目的・目標、理科の授業づくりや学習指導、評価、情報機器・教材の活用などについて考察・実践し、理科教師としての実践的力量の基礎を身につけることをめざす。
講義の進め方としては各人が授業プラン（学習指導案、授業プリント、板書計画など）を作成し、何らかの形で全員が模擬授業を実施する予定である。模擬授業実施後、授業検討を行い模擬授業担当者のみならず受講者にとっても実践的力量をつける場としていきたい。多くの模擬授業を受ける中で、自分のめざす理科授業の具体的イメージができることをめざす。

到達目標

(1) .理科教育の目的,目標をふまえた授業プラン（学習指導案、授業プリント、板書計画など）の作成ができる。
(2) .自分の作成した授業プランに基づいた模擬授業を展開することができる。
(3) .理科教師の立場および学習する生徒の立場から、自分の模擬授業および友人の模擬授業を的確に分析・評価できる。
(4) .自分のめざす理科の授業づくりの具体的イメージができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		(1)学習指導案、授業プリント、模擬授業（50%） (2)授業参加度と友人の模擬授業評価（20%） (3)随時課す小レポート および最終レポート（30%）

全時間出席を単位修得の前提とする。

授業外学習

模擬授業の準備については、予備実験の実施、板書計画の立案など事前の準備をしっかり行ってから模擬授業にのぞむこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

①必要な資料は教室にて適宜　紹介、配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	科学入門　増補版…科学的なものの考え方	武谷三男	勁草書房	9784326750313
2	『理科の先生になるための、理科の先生であるための 「物理の学び」徹底理解 』 ＜力学・	山下芳樹・山本逸郎・宮下ゆたか	ミネルバ書房	978-4623073924
3	『理科の先生になるための、理科の先生であるための 「物理の学び」徹底理解 』　電磁気・	山下芳樹・船田智史・山本逸郎・宮下ゆたか	ミネルバ書房	978-4623076574

必要な資料は教室にて適宜　紹介、配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法II（理科）							担当教員	宮下　ゆたか※
講義コード	1600220	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA120								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	シラバスの説明,班編制などを行う。
第2回	「理科のいい授業ってどんな授業？」	グループ討論、全体討論をしながら、理科教育の目的と目標、学習指導要領、自主編成などについて学ぶ。
第3回	「理科のいい授業ってどうつくるの？」	グループ討論、全体討論をしながら、授業理科のいい授業をめざす授業づくりについて学ぶ。 原発・放射能問題についても主権者教育の視点から学習する。
第4回	教材づくり１	学習指導案の作成 板書計画の作成
第5回	教材づくり２	導入実験の検討と準備
第6回	模擬授業　１	「原子力発電のしくみ」 模擬授業を行う。
第7回	模擬授業　２	「放射線の人体への影響」 模擬授業を行う。
第8回	模擬授業　３	「運動の第１法則」 模擬授業を行う。
第9回	模擬授業　４	「運動の第３法則」 模擬授業を行う。
第10回	中間のふりかえりとまとめ	前半の模擬業業をふりかえり、教材研究と授業づくりについてグループ討論を行う。
第11回	模擬授業　５	「位置エネルギーと運動エネルギー」 模擬授業を行う。
第12回	模擬授業　６	「遺伝の規則性」 模擬授業を行う。
第13回	模擬授業　７	「地震による地面の揺れと大きさ」 模擬授業を行う。
第14回	模擬授業　８	「地震の起こる場」 模擬授業を行う。
第15回	ふりかえりとまとめ	本講義の到達目標に照らして、自分の到達点と課題についてグループで話し合い、グループ討論を受けて全体討論を実施する。

担当者から一言
(1)自然科学に関する「引き出し」をより多くするために，常日頃から意識的に情報取集につとめるとよい。 (2)自然科学と社会との正しいかかわり方に関しての自分の意見を形成していくうえで，社会の動きに関心を持つとよい。

講義名	教科教育法II（英語）							担当教員	小栗　裕子※
講義コード	1600221	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	204TEA106								

授業概要

英語教育に関するさまざまな要因について学ぶとともに、その指導法についての理解を深める。その過程から外国語としての英語を日本人学習者が学ぶ際直面する問題を考える。同時にそれらの問題を克服する手助けに必要な知識を獲得し、学習者に対する態度の滋養、さらに自分自身の指導法を省察的な態度でみることを目指す。このクラスでは実践面を中心に学ぶ。

到達目標

英語の教師に必要とされる英語教育の
(1) 理論的知識の習得
(2) 実践的教育力の習得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題レポート2回（40%）とその発表2回（20%）、最終レポート　(10%)
上記以外	30	毎回の討論とその内容レポート

4回以上の欠席は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館	978-4-469-24558-5
2				
3				

最初の授業時に配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教科教育法II（英語）							担当教員	小栗　裕子※
講義コード	1600221	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	204TEA106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション＆コミュニケーション能力の育成	
第2回	リスニングの指導	4技能を統合的に指導する
第3回	スピーキングの指導	4技能を統合的に指導する
第4回	リーディングの指導	4技能を統合的に指導する
第5回	ライティングの指導	4技能を統合的に指導する
第6回	課題発表 I	
第7回	課題発表 II	課題提出
第8回	ティーム・テーチング	
第9回	測定と評価	
第10回	英語の教科書と英語の教材研究	
第11回	文法の学習と指導	
第12回	語彙と辞書検索指導	
第13回	課題発表 I	
第14回	課題発表 II	課題提出
第15回	授業運営	

担当者から一言
毎回必ず予習をして臨んでください。

講義名	教科教育法III（英語）							担当教員	小熊　猛
講義コード	1600241	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA206								

授業概要

教育実習に備えて、英語の指導法についての基礎知識と教師としての心構え、授業で必要とされる指導技術や指導案作成の仕方を学ぶ。なお、15回の授業期間に20分模擬授業を10回程度予定しており、履修者全員が指導案を準備して模擬授業を行う。それぞれの模擬授業においては、授業計画に指定した観点を教授するための英語活動（アクティブラーニング的要素）を必ず盛り込み実施するものとする。

到達目標

英語の授業で必要とされる
(1)　基本的な理論を実践に生かすことができる
(2)　指導技術を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	授業見学レポート・その観察内容の発表　20%、 最終レポート　10%、その他毎回の省察レポート　30% レポートは必ず期限を守ること
上記以外	40	模擬授業

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『新版英語科教育実習ハンドブック』	米山朝二他	大修館書店	978-4-469-24575-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

文部科学省学習指導要領（中学校・高等学校）

前提学力等

教科教育法Ⅰ及びⅡを履修済みであること。

履修資格

講義名	教科教育法III（英語）							担当教員	小熊　猛
講義コード	1600241	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション 教育実習に臨んで・ 観察参加	授業に於いて教員が果たす多様な役割(p.5)
第2回	授業準備 指導案の作成	・使用教科書の構成の確認および扱う単元の教材研究 ・授業の構成；指導案作成(p.67-113参照)
第3回	効果的板書と生徒の理解度把握 20分模擬授業（語彙と文法指導）	20分模擬授業×２人(1)(2) 理解度を評価する発問、作業課題
第4回	授業の工夫（1）Warm-up と Review」 I	20分模擬授業×1人(3) 単元の主眼に繋がるWarm-upと当該授業での学習内容の整理
第5回	実習体験者の報告	前期実際に教育実習を終えた先輩からの報告を聞く
第6回	授業の工夫（2）文法と文型の導入 20分模擬授業	20分模擬授業（文法と文型導入を主眼として）×1人(4) 生徒の躓くポイントの予測とその対策(There構文ほか)
第7回	実習先の授業見学	レポート提出は１週間後
第8回	授業見学内容についての発表	見学した授業について、自分が実習までに解決すべき課題について
第9回	授業の工夫(3) 文法・文型の練習 と発展活動	20分模擬授業（文法と文型の練習と発展活動主眼として）×1人(5) 適切な例文提示と類似構文他との対照
第10回	授業の工夫（4）語彙の導入と指導 20分模擬授業	20分模擬授業（語彙導入を主眼として）×1人(６) 語彙の発音指導（強勢位置）
第11回	「授業の工夫（5） 本文の読解指 導	20分模擬授業（読解導入を主眼として）×1人(7) 文レベルの読解
第12回	「授業の工夫（5） 本文の読解指 導	20分模擬授業（読解導入を主眼として）×1人(8) 文脈の正しい理解に基づく内容把握
第13回	授業の工夫（6）ITCを活用した指 導	20分模擬授業(PowerPointを用いて）×1人(9) 効果的教材提示（視覚および聴覚教材の活用）
第14回	授業の工夫（7）英語による授業お よびTeam Teaching	20分模擬授業（英語で行う授業）×1人(10) 20分模擬授業（Team Teaching）×1人(11)
第15回	試験とその評価・総括	フィードバックとしての評価と授業改善 理解・定着を確認する試験問題

担当者から一言

講義名	教科教育法IV（英語）							担当教員	小熊　猛
講義コード	1600242	単位数	2	開講期	前期前半	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA207								

授業概要

教育実習に備えて、英語の指導法についての基礎知識と教師としての心構え、授業で必要とされる指導技術や指導案の作成の仕方を学ぶ。演習や模擬授業を行なった後、受講者全員で「教え方」についての討論をすることによって、学習者を観察する視点や省察的態度を養い、実践で活かせるスキルを習得する。
履修者は15週のコース内に前半で日本語による模擬授業を後半で英語による模擬授業を行うものとする。

到達目標

(1)　英語の授業で必要とされる基本的な技術を身につける。
(2)　模擬授業の演習を通して教師として必要な指導力と心構えを身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	模擬授業の省察レポート
上記以外	80	指導案を含む模擬授業

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	英語科教育実習ハンドブック	米山朝二ほか	大修館書店	9784469245752
2				
3				

教科教育法IIIで使用したテキストを継続利用

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

実習校で使用する教科書

前提学力等

教科教育法Ⅰ～IIIを履修し終えていること。

履修資格

講義名	教科教育法IV（英語）							担当教員	小熊　猛
講義コード	1600242	単位数	2	開講期	前期前半	授業種別	演習		
ナンバリング番号	304TEA207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションと次回模擬授業の	毎回実際に実習校で使用する教科書を用いて50分のレッスンを行い、その後授業改善に向けて全員で討論をする。
第2回	模擬授 （語彙の指導）	模擬授業（日本語）(1) 語彙のネットワーク（類義語、反意語ほか）
第3回	模擬授業 （文法・文の構造の指導）	模擬授業（日本語）(2) 適切な例文の提示
第4回	模擬授業 （リスニングの指導）	模擬授業（日本語）(3) 日英の音韻的差異を踏まえたリスニング指導
第5回	模擬授業 （リーディングの指導）	模擬授業（日本語）(4) 音読活動
第6回	模擬授業 （ライティングの指導）	模擬授業（日本語）(5) 基本的な既習知識を用いた英作文
第7回	模擬授業 （スピーキングの指導）	模擬授業（日本語）(6) ティーム・ティーチングを念頭にした英語活動
第8回	模擬授業 （4技能を統合した活動の指導）	模擬授業（日本語）(7) 改善点ほかの検討ディスカッション
第9回	模擬授業 （異文化理解）	模擬授業（英語）(8) 生徒の内容把握の程度を確認する発問の工夫
第10回	模擬授業 （ＩＣＴを活用）	模擬授業（英語）(9) パワーポイント等、資料ビデオ等を用いた効果的指導の工夫
第11回	模擬授業 （ペアによる英語活動）	模擬授業（英語）(10) 改善点ほかの検討ディスカッション
第12回	模擬授業 （グループによる英語活動）	模擬授業（英語）(11) 改善点ほかの検討ディスカッション
第13回	模擬授業 （ティーム・ティーチング）	模擬授業（英語）(12) 改善点ほかの検討ディスカッション
第14回	英語で授業をすべて行う上での留意点	英語で授業をすべて行う上での留意点
第15回	授業全体のまとめ	総括

担当者から一言
12回の模擬授業については、当該授業で指定された観点で行うに相応しい単元をそれぞれの実習校の採用教科書から選び出し、授業案を作成し実施するものとする。

講義名	教育課程論							担当教員	木村　裕
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA204,335EDU305								

授業概要

教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義などについて、文献や映像資料などを用いながら講義する。講義を通して、教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをねらいとする。

到達目標

教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	まとめのレポート
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	教育課程論							担当教員	木村　裕
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA204,335EDU305								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行う。
第2回	学習指導要領の概要とその意義	学習指導要領の概要とその意義について講義する。
第3回	教育課程編成の基盤	教育課程を編成する際にふまえるべき要件、基本原理、および編成方法について講義する。
第4回	教育課程の歴史①	江戸時代から終戦までの教育課程の歴史について講義するとともに、それをふまえて、現在の学校教育が有する特徴についての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育課程の構造	教育課程の構造に関する議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第6回	教育課程の歴史②	戦後の教育課程の歴史について、特に学習指導要領をめぐる議論に焦点をあてて、その概要を把握するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第7回	近年の教育改革の動向①	主に最新の学習指導要領に焦点をあてて、その特徴や改訂の背景について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第8回	近年の教育改革の動向②	主に最新の学習指導要領をめぐる議論（教育内容および教育方法に関するものを含む）に焦点をあてて近年の教育改革の動向について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるため
第9回	教育課程の評価と改善	教育課程の評価と改善をめぐる近年の議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第10回	他国の教育課程	日本以外の国の教育課程を紹介し、教育課程編成の目的や社会における役割などについての考えを深めるための機会を提供する。
第11回	今日的課題への挑戦①	貧困や格差、環境破壊など、今日的な課題に焦点をあてて展開されてきた教育活動を取り上げ、その背景や意義、それをめぐる議論などについて講義する。
第12回	今日的課題への挑戦②	「持続可能な開発のための教育（ESD）」に焦点をあてて、その重要性や取り組みの方向性についての議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第13回	今後の教育課程のあり方について考える	これまでの講義内容をふまえて、今後求められる教育課程のあり方に関する各自の意見を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの考えを深めるための機会を提供する。
第14回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの重要性や取り組みの方向性についての議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。

担当者から一言

講義名	教職実践演習（栄養教諭）							担当教員	廣瀬　潤子／平木　敦子※／福井　雅英／山川　佐代子※
講義コード	1600260	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA301								

授業概要

大学４年間で学んだことと栄養教育実習での体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践的指導力や今日的課題に対応できる能力の育成と更なる資質の向上を図る。主な授業の形態として、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせたものとする。

到達目標

教職課程における履修履歴をもとに、学校現場で必要とされる栄養教諭としての技能、知識の不足部分を補完する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	６０	教職実践記録による評価
上記以外	４０	授業への参加姿勢、レポート、発表内容等を総合的に評価

グループ討議のため、欠席は基本的に認められない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教職実践演習（栄養教諭）							担当教員	廣瀬　潤子／平木　敦子※／福井　雅英／山川　佐代子※
講義コード	1600260	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	（基本方針、学生意識の把握）
第2回	望ましい栄養教諭像	グループ討議
第3回	食育推進コーディネーターとしての役割①	グループ討議
第4回	食育推進コーディネーターとしての役割②	グループ討議
第5回	授業研究①	グループ討議（同一教科）
第6回	授業研究②	グループ討議（同一教科）
第7回	授業研究③	グループ討議（同一教科）
第8回	授業研究（他教科との関連性）①	グループ討議（他教科）：他教科との関連性を討議する
第9回	授業研究（他教科との関連性）①	グループ討議（他教科）：他教科との関連性を討議する
第10回	授業研究（他教科との関連性）①	グループ討議（他教科）：他教科との関連性を討議する
第11回	よりよい栄養教諭となるための自己課題	教職実践記録集の作成
第12回	教育実習報告（栄養）①	教職実践記録集を元に各自の教育実習の実施状況を報告しあい、それぞれの取り組みの評価と栄養教諭における課題を明確にする
第13回	教育実習報告（栄養）②	教職実践記録集を元に各自の教育実習の実施状況を報告しあい、それぞれの取り組みの評価と栄養教諭における課題を明確にする
第14回	教育実習報告（栄養）③	教職実践記録集を元に各自の教育実習の実施状況を報告しあい、それぞれの取り組みの評価と栄養教諭における課題を明確にする
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	教職実践演習（高等学校）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA302								

授業概要

４年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の学びを振り返り必要な知識・技能を補完する。教育実習における実践経験を記述し、その振り返りと検討を通して、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。

到達目標

講義、グループ討論、事例研究、教育実践記録の執筆などを経験するとともに、毎時間、授業の最後に今回学んだ内容と、教職に就いた場合にどう生かしていくかについて議論することによって、実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本姿勢を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

毎時間の授業への参加態度、教育実習への省察に基づき執筆する教育実践記録の成果をもとに成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義時に案内する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教職実践演習（高等学校）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション。実践記録の書き方。	実践記録を書くことの意味、実践記録の書き方について
第2回	教育実習の振り返り	実習日誌、実習時に作成した指導案、履修カルテ、教材資料などの振り返りと交流
第3回	実践記録の草案検討	自分の実践記録の草案を持ちより、同じ教科の仲間と内容を検討交流する。
第4回	３回生の学習指導案検討とアドバイス（１）	３回生が作成・持参した模擬授業用の学習指導案を検討し、アドバイスする。
第5回	３回生の学習指導案検討とアドバイス（２）	３回生が作成・持参した模擬授業用の学習指導案を検討し、アドバイスする。
第6回	クロスセッション	各自の実践記録の初稿を持ち寄り、他の教科の仲間と内容を検討し交流する
第7回	クロスセッションの振り返り	クロスセッションの内容検討を踏まえ、同じ教科の仲間と感想や課題を共有すると共に、自身の実践帰路くん改訂の方針を明確にする。
第8回	実践記録交流会（１）	教科指導の「実践記録について、教科別グループで発表と質疑討論を行う。
第9回	実践記録交流会（２）	教科指導以外の記録について、教科横断グループで発表と質疑討論を行う。
第10回	実践記録発表会（１）	教科指導に関して代表者の発表と質疑討論を行う。
第11回	実践記録発表会（２）	教科指導以外、或いは４年間の教職課程全般の学びにおいて印象深いテーマに関して代表者の発表と質疑討論を行う。
第12回	模擬授業及び検討会（１）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第13回	模擬授業及び検討会（２）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第14回	模擬授業及び検討会（３）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第15回	模擬授業及び検討会（４）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。

担当者から一言

講義名	教職実践演習（中学校）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600280	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA303								

授業概要

４年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の学びを振り返り必要な知識・技能を補完する。教育実習における実践経験を記述し、その振り返りと検討を通して、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。

到達目標

講義、グループ討論、事例研究、教育実践記録の執筆などを経験するとともに、毎時間、授業の最後に今回学んだ内容と、教職に就いた場合にどう生かしていくかについて議論することによって、実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本姿勢を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

毎時間の授業への参加態度、教育実習への省察に基づき執筆する教育実践記録の成果をもとに成績評価を行う。初回オリエンテーションには必ず出席すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義時に案内する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	教職実践演習（中学校）							担当教員	福井　雅英／木村　裕／杉浦　由香里／原　未来
講義コード	1600280	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA303								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション。実践記録の書き方。	実践記録を書くことの意味、実践記録の書き方について
第2回	教育実習の振り返り	実習日誌、実習時に作成した指導案、履修カルテ、教材資料などの振り返りと交流
第3回	実践記録の草案検討	自分の実践記録の草案を持ちより、同じ教科の仲間と内容を検討交流する。
第4回	３回生の学習指導案検討とアドバイス（１）	３回生が作成・持参した模擬授業用の学習指導案を検討し、アドバイスする。
第5回	３回生の学習指導案検討とアドバイス（２）	３回生が作成・持参した模擬授業用の学習指導案を検討し、アドバイスする。
第6回	クロスセッション	各自の実践記録の初稿を持ち寄り、他の教科の仲間と内容を検討し交流する
第7回	クロスセッションの振り返り	クロスセッションの内容検討を踏まえ、同じ教科の仲間と感想や課題を共有すると共に、自身の実践帰路くん改訂の方針を明確にする。
第8回	実践記録交流会（１）	教科指導の「実践記録について、教科別グループで発表と質疑討論を行う。
第9回	実践記録交流会（２）	教科指導以外の記録について、教科横断グループで発表と質疑討論を行う。
第10回	実践記録発表会（１）	教科指導に関して代表者の発表と質疑討論を行う。
第11回	実践記録発表会（２）	教科指導以外、或いは４年間の教職課程全般の学びにおいて印象深いテーマに関して代表者の発表と質疑討論を行う。
第12回	模擬授業及び検討会（１）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第13回	模擬授業及び検討会（２）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第14回	模擬授業及び検討会（３）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。
第15回	模擬授業及び検討会（４）	３回生が行う模擬授業に生徒役として参加すると共に、その後の授業検討会において、実習経験を踏まえてコメントする。

担当者から一言

講義名	教職実践演習（養護教諭）							担当教員	八木　利津子※／伊丹　君和／糸島　陽子／ 河野　益美／小島　亜未／福井　雅英
講義コード	1600290	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA304								

授業概要

4年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの学びを振り返るとともに、不足している知識・技術を補完する。また、教育実習における学びを実践記録としてまとめ、学びを共有し合う。さらに、実践での学びもふまえて、事例やロールプレイングなどを取り入れながら健康教育のあり方を考えることで、学校現場での養護教諭としての実践に繋がる力を身につける。

到達目標

（1）　教育実習での学びを実践記録としてまとめ、他者に説明できる。
（2）　専門的職種（養護教諭）として求められる資質や能力を身につけ、学校現場での実践に繋がる力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		（1）　実践記録　80% （2）　演習における態度や発表　20% ※なお、演習に欠席した場合は、評価対象にならない場合がある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の際に、資料配布。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の際に、資料配布。

前提学力等

教育実習修了または実習中の者

履修資格

講義名	教職実践演習（養護教諭）							担当教員	八木　利津子※／伊丹　君和／糸島　陽子／河野　益美／小島　亜未／福井　雅英
講義コード	1600290	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号	404TEA304								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	教育実習を終えて各自が経験したことを本授業でどのように振り返るのか具体的な省察方法について説明する。
第2回	学習の振り返りと実践記録を書くことの意義（1）講義および執筆	教育実習における学びを省察する上で、実習記録を執筆するため「書くことの意義」について文献や先行研究から考える。
第3回	学習の振り返りと実践記録を書くことの意義（2）実際の実践記録	「保健指導の学び」を配付し、その資料から草案作成に向けて、留意事項の確認を行い、実習日誌などを振り返る。
第4回	実践記録草案作り①	教育実習の指導実践に基づき、「教科指導（保健学習または保健指導）」と「指導以外の場面」の２テーマで各自が草案を作成
第5回	実践記録草案作り②	指導案、児童生徒の実態把握、作成教材、授業実践、指導教官の言葉などの観点からまとめ方の工夫を検討する。
第6回	実践記録草案作り③	草案作成の途中経過報告を行い用語や表現、書式など確認し、印象深い場面をどう捉えるかなど個別指導により質問に応じる。
第7回	実践記録草案作り④	実践記録草案の仕上げに向けて、原案をプリントアウトし個別点検を行う。実習成果と課題を中心に考察し、修正点を検討する。
第8回	実践記録草案作り⑤	完成した草案について、伝えたいポイントや省察の骨子を発表する。クロスセッションのリハーサルを兼ねて意見交流する。
第9回	クロスセッションと教科毎に反省会①	グループセッションによる発表後、「教育実習の振り返り」を配付し、養護教諭の役割や職業倫理、求められる力について省察。
第10回	クロスセッションと教科毎に反省会②	実践記録発表者の選考及びプレゼンを作成。完成したプレゼンテーションの模擬発表を行い、意見交換による改善点の検討。
第11回	実践記録発表会①	教科混合という全体の場で代表者による実践記録発表を聴き、各教科指導の学びを広い視野で共有する。
第12回	実践記録発表会②	教科混合という全体の場で代表者による実践記録発表を聴き、教科指導以外の場面について多様な学びを共有する。
第13回	事例検討①	健康相談活動に関わる事例検討を通して、子ども理解を深めるとともに体験的な学びについて考えるグループワークを行う。
第14回	事例検討②	緊急時の危機対応場面を想定し、課題提供を行う。組織的活動のシュミレーションを演習形式でロールプレイングする。
第15回	まとめ	まとめ「保健室経営や保健活動の評価と今日的な健康課題」

担当者から一言

講義名	教職論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	104TEA101								

授業概要

教師の実態や特徴的な実践の紹介などを通して、教師の職務、教職の本質、教育実践のあり方などについて講義する。受講生の疑問や意見に応答しながら展開を考える。

到達目標

(!)教師の役割に関する基礎的な知識を習得する。
(2)現実の教師の置かれた状況を知る。
(3)教師の専門力量について理解する。
(4)自分なりの「めざす教師像」を確立する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		講義中に提出するワークシートなど（５０%）とまとめのレポート（５０%）をもとに、総合的に判断する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストなどは特に定めず、講義中に適宜資料を配布する。また、参考文献を適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

福井雅英『子ども理解のカンファレンス』（かもがわ出版）

前提学力等

履修資格

講義名	教職論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	104TEA101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の概要説明、担当者の自己紹介、教職のエピソード	教職経験者でもある担当者の実践紹介を含めた自己紹介と授業の概要説明。
第2回	教師とは何をする仕事か	受講生の被教育体験と出会った教師についてのふり返り。
第3回	学校とはどういうところか	受講生の学校イメージを振り返る。社会が求めるあるべき学校像を描いてみる。戦前の学校、戦後の学校。
第4回	子ども・生徒目線で学校を見る	子ども・生徒時代に、「こんな学校だったら良かったのに」と感じるような学校像を描く。つらかった学校体験を捉え直す。
第5回	楽しかった授業・学校体験を思いだそう	楽しい記憶をもとに、何が記憶に残っているのか、なぜ楽しかったのか、などについて考える。
第6回	教師の力量形成と授業分析	教師の授業力量とは何か、教師の子ども理解と楽しい授業について考察する。
第7回	保健室の意義と役割、養護教諭の仕事	学校における保健室の位置づけと果たす役割が大きくなっている。養護教諭の仕事内容を含めその意義を理解する。
第8回	学級づくりー担任教師の日常的な努力の内容	学びの場を子どもの安全安心な居場所にする。教師の専門力量としての学級づくりの仕事。
第9回	特別支援教育と子ども理解	子どもの特別な教育的ニーズと子ども理解について考える。
第10回	養護教諭、栄養教諭を含む同僚間の連携のあり方、チーム学校	栄養教の実践を紹介する。それぞれの職種の専門性の違い、職務の特性の違いを踏まえた同僚間の連携のあり方、チーム学校について考える。
第11回	同僚とともに子ども理解を深め、子どもとの向き合い方を考える	子ども理解のカンファレンスとは何か、その重要性、意義と可能性について考える。子ども中心の学校づくりについて考える。
第12回	教職員の働き方と法制上の権利義務について	長時間過密労働の教職員の現状を考える。法制上の権利義務の基本について知る。
第13回	教師の生涯成長と研修	子どもに学びながら生涯成長し続ける教師という教師像について考える。教師の研修のあり方について考察する。
第14回	教職の意義と役割、自分のめざす教師像	社会の中の教師とがっこう、歴史の中の教職と教師を考える。
第15回	教職論のまとめと授業のふり返り	授業全体をふり返り、自分のめざす教師像を描いてみる。

担当者から一言

講義名	憲法							担当教員	橋本　豪志※
講義コード	1600320	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM119								

授業概要

人権と統治機構という憲法の基本構造を理解する。その上で、一国民としての個人が、国政を考えるに当たり、正確な基本情報を獲得することの重要性、及び獲得情報をもとに批判的精神を持って政治的意思を持ち、民主主義社会に参画することの重要性を自覚する。

到達目標

(1)　「二重の基準」の理解
(2)　自由権と社会権の違いの理解
(3)　直接民主制と間接民主制の得失の理解
(4)　自由主義と民主主義の理解と実践

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	論述式試験による相対評価
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	憲法入門	長谷部恭男	羽鳥書店	978-4-904702-05-5
2	憲法判例集（第10版）	野中俊彦、江橋崇編著	有斐閣新書	978-4-641-09158-0
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	憲法							担当教員	橋本　豪志※
講義コード	1600320	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM119								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概説	ガイダンス
第2回	表現の自由①	自己実現の価値と自己統治の価値について
第3回	表現の自由②	「二重の基準」について
第4回	表現の自由③	違憲審査のあり方について
第5回	学問の自由	大学の自治、その他について
第6回	信教の自由	政教分離原則について
第7回	財産権	財産の収用と補償について
第8回	職業選択の自由	違憲審査のあり方について
第9回	参政権	選挙について
第10回	平等原則	投票価値の平等、その他について
第11回	包括的基本権	「新しい人権」について
第12回	人権享有主体性	外国人の人権、未成年者の人権、その他について
第13回	代表民主制	直接民主制と間接民主制について
第14回	政治部門	議院内閣制について
第15回	憲法改正	改正の限界について

担当者から一言

講義名	職業指導							担当教員	中島　由佳※
講義コード	1600360	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

さまざまな職業科の高校生の進路は、必ずしも就職だけではない。
専門学校や短大・大学など多様となってきている。
そのいずれの進路を志望する生徒、あるいは希望を特にもたない生徒に対しても、厳しく、変化の激しい現代社会への接続を支援する職業指導（進路指導）のあり方を考え、学ぶ。
検査の受検や進路情報の収集など実習も織り交ぜながら、実践的・実際的な力を養成する。
受講生自身の進路選択にも資する内容となっている。

到達目標

(1) 青少年のキャリア発達についての理解を深める。
(2) 今日の進路指導において必要とされる知識・技法を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	評価課題（論述試験）の得点（理解の正確さと洞察の深さ）を評価する。
レポート課題	30%	適時に課すレポートより、習熟度、授業姿勢等を評価する。
上記以外		

出席を重視し、全回数の3割以上の欠席をした者には単位を認定しない。

授業外学習

自身の進路選択についての検討を予習とする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講師が作成したテキストを第１回に配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

入門 進路指導・相談（福村出版）

履修資格

講義名	職業指導							担当教員	中島　由佳※
講義コード	1600360	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	進路指導の定義と目標	ひとつの進路選択は、その後の人生、生き方を制約する。 本授業のガイダンスとして、なぜ「職業指導」、「進路指導」が必要かについて考える。
第2回	キャリア発達とは	キャリアとは、「役割の連続」という意味。 進路指導＝生徒指導＝生き方を考えること。
第3回	生徒理解と自己理解１	教師による生徒理解、生徒による自己理解。 進路選択にあたって考慮すべき事柄について考える。
第4回	生徒理解と自己理解２	実際に職業適性検査を受検し、生徒理解、自己理解の方法論を学ぶ。
第5回	生徒理解と自己理解３	職業適性検査の結果処理と判定を通して、自己理解を深めるとともに、生徒指導における留意点を学ぶ。
第6回	進路情報の付与と探索１	生徒が持つ価値観を明確にし、それを指導する手立てについて学ぶ。
第7回	進路情報の付与と探索２	進路情報の提供の仕方、情報の検索の実際について学ぶ。
第8回	啓発的経験とは	啓発的体験の定義と種類、その目的について学ぶ。
第9回	職場体験学習・インターンシップとは	啓発的体験の実際について、ビデオ視聴も交えて学ぶ。
第10回	進路相談	カウンセリングとしての進路相談について学ぶ。
第11回	意思決定の援助１	意思決定の理論と支援について、大学受験の状況も交え、考える。
第12回	意思決定の援助２	近年の高校生の進路動向について、高校教育の現状も交えて考える。
第13回	追指導	高校を卒業した後の追指導、つまり卒業生に対する指導と高校における進路指導との関係について考える。
第14回	キャリア教育との関わり	各受講生がどのようにキャリア教育とかかわりを持とうと考えているか、これまでの授業を反映しつつ、考える。
第15回	まとめ	14回の授業を振り返り、そこから得られたものについて省察する。

担当者から一言
高校教員としての職業指導の授業であると同時に、受講生各自が、自分の進路指導を考える機会として利用されることを望む。

講義名	生徒指導論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA103								

授業概要

生徒指導、生活指導の概念の検討を行いながら、生徒指導の基本課題について考える。いじめ、非行、自殺など、生徒指導の多様な実践例を素材に、現場で直面している諸問題を考察する。授業感想をもとに、受講生の関心に応答しながら展開する。

到達目標

(1)生徒指導の目標・課題について理解する。
(2)生徒指導の概念を歴史的社会的視点から吟味する。
(3)いじめ。不登校など現実の課題を理解し、その指導実践を学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎回の授業感想及びレポートによって行う。５回以上欠席したら評価の対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に適宜指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

福井雅英『子ども理解のカンファレンス』（かもがわ出版）

前提学力等

履修資格

講義名	生徒指導論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業概要の説明と担当者の自己紹介	各自の生徒指導体験を振り返る－アンケート
第2回	生徒指導概念の検討①	各自の生徒指導体験から、その指導目標は何だったを考察する。
第3回	生徒指導概念の検討②	生活指導と生徒指導について、生活綴り方、公民教育構想、初期社会科などを手がかりに
第4回	生徒指導は何をめざすのか－教育目標から考える	戦前の教育「皇国民錬成」ー教育勅語と修身
第5回	いかに生きるかを考える戦後教育	『山びこ学校』「母の死とその後」を読む。 生活綴り方と生活指導
第6回	時代・社会の中での生徒指導を考える	戦後状況の中の絶対的貧困と山びこ学校
第7回	今の時代を生きる子どもの困難を考える	いじめ・自殺－大河内清輝君の遺書を読む。
第8回	いじめと自殺問題から考える生徒指導の課題	大津、札幌、岩手、広島、名古屋、青森、福井などの子どもの自殺問題を考察する。
第9回	裁判事件から生徒指導のあり方を考える①	遠軽事件。小学校6年女児自殺事件と教師の叱責
第10回	裁判事件から生徒指導のあり方を考える②	稚内商工事件。男子高校生の自殺と高校の生徒指導の問題
第11回	学校の現実と生徒指導①	「厳しい指導」信仰を考える。「キチンとチャンと」、「ビシッとバシッと」。部活動と体罰の問題
第12回	学校の現実と生徒指導②	教科等における生徒指導－「よい子できる子がんばる子競争」の問題
第13回	学校の現実と生徒指導③	規範意識を考える。○○スタンダードの問題。
第14回	教職員集団の教育力と同僚性	子ども理解を基礎に据えた生徒指導。「子ども理解のカンファレンス」の意義と可能性
第15回	授業全体のふり返りと自らの生徒指導イメージの確立	自らの生徒指導観の変化をふり返り、その変化を意味づける。

担当者から一言

講義名	道徳教育論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA205,335EDU306								

授業概要

わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な問題を究明する。
およその概要としては、（1）戦前日本の道徳教育、戦後初期の道徳教育民主化の動向、憲法・教育基本法下の道徳教育のありかたについて知る。、
（2）道徳・道徳性の概念と道徳性の発達について考える。
（3）道徳の授業実践について考え、道徳の教科書と授業のあり方、道徳の評価について理解する。

到達目標

（1）我が国における道徳教育の歴史について理解する。
（2）道徳教育の目標・方法について理解する。
（3）道徳の指導計画や指導案を作成する。
（4）道徳の指導力量を形成し、評価のあり方がわかる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		毎回の授業感想レポートとまとめレポートを総合して評価する。

５回以上欠席したら評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

吉田一郎他：『子どもと学ぶ道徳教育』、その他講義中に適宜指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	道徳教育論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA205,335EDU306								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	戦前公教育における道徳教育－「教育勅語」体制について	戦前の教育における道徳の問題－教育勅語、修身の意味について考える。
第2回	戦後教育改革と道徳教育	日本国憲法・教育基本法と教育勅語の否定について
第3回	道徳教育の変遷と学習指導要領	学習指導要領の変遷と道徳の位置づけ
第4回	道徳教育実践の検討（１）	生活指導的道徳教育実践の例から
第5回	道徳教育実践の検討（2）	説話教材の実践例から
第6回	道徳教育実践の検討（3）	モラルジレンマ教材の実践例から
第7回	道徳教育実践の検討（4）	道徳教育の全体構造と指導計画について
第8回	道徳教育実践の検討（5）	道徳教育の指導案について
第9回	道徳教育における基本問題（1）	道徳と道徳教育の概念定義をめぐって
第10回	道徳教育における基本問題（2）	道徳性をどう考えるか
第11回	道徳教育における基本問題（3）	道徳性の発達をめぐる議論について
第12回	道徳教育における今日的問題（1）	「特別な教科」としての道徳と道徳教科書について
第13回	道徳教育における今日的問題（2）	「道徳」に関する社会的要請をどう見るか。 学校のあり方と道徳性の教育
第14回	道徳教育における今日的問題（3）	道徳教育の評価について。 授業感想の中からトピックを考える。
第15回	授業全体のふり返りとまとめ	授業で取り上げた内容を概括し、まとめレポートを作成する。

担当者から一言
外部講師の都合などにより日程変更がありうる。その場合は事前に連絡する。

講義名	特別活動論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA104								

授業概要

学校教育課程における教科外の領域における集団的な活動について、その歴史的な発展や教育的意義を考える。学級活動、生徒会活動、行事などを通して、自立した市民として能動的に社会に関わる力量を育てる多様な実践を学ぶ。

到達目標

特別活動の目的・内容について理解を深め、指導する実践力量を形成する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

毎回の授業感想及びレポートによって行う。５回以上欠席したら評価の対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業の中で適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	特別活動論							担当教員	福井　雅英
講義コード	1600400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	担当者の自己紹介と授業概要の説明	受講生各自の特別活動の体験を振り返る。
第2回	中学校の修学旅行を軸にした実践に学ぶ	教科横断的な学習と旅行的行事を結合した実践事例
第3回	特別活動の体験アンケートから見えてくるもの	学習指導要領上の位置づけ。教育課程における教科外教育の位置づけと実践 「合唱コンクール」の実践事例から
第4回	小学校における学級活動と学級づくり	生活綴り方に学ぶー津田八洲男実践を読む
第5回	中学校における学級づくり実践	無着成恭『山びこ学校』を読む
第6回	中学校の学校づくり実践と生徒会	日刊生徒会新聞「輝け八中ぼくらの学校」と中日教育賞
第7回	中学校の学級づくりと教師の仕事	外部講師大平浩樹教諭
第8回	学級づくりから学校づくりへ	生徒主体に行事を見直す。保護者、地域との連携 「荒れている子もさびしいんや」（朝日新聞）
第9回	滋賀における学級づくり実践に学ぶ	本田清春実践の紹介と検討
第10回	学級づくりのダイナミズムー子どもの育つ物語	ビデオ金森俊朗「4年1組いのちの授業」
第11回	子どもの自治活動のあり方の探究ー子どもの権利条約にも触れて	子どもの自主的・主体的活動を育てるー高校における三者協議会の取り組み（長野県辰野高校の実践）
第12回	高校における生徒の実情と実践課題	外部講師（夏原常明先生）
第13回	高校における学びの共同体の実践例	外部講師（夏原常明先生）
第14回	子どもの主体的な活動を主軸に据えて学校の教育活動を見直す	自立した市民として能動的に社会に関わる。 主権者教育へのつながり
第15回	特別活動の指導と評価について。授業全体のふり返り	特別活動の指導の特質を考え、評価のあり方を検討する。授業全体のふり返りを踏まえレポートを作成する。

担当者から一言
外部講師の都合などによる日程変更があり得る。その場合は事前に連絡する。

講義名	被服学							担当教員	道明　美保子※
講義コード	1600410	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

絶えず向上・進歩する衣生活を科学的な視点でとらえ、真の豊かな衣生活のあり方を考える。被服学の領域は非常に広く、周辺科学の境界領域にまたがる。そこで本講義では、日本の被服生活文化のうつりかわり、着心地と素材、被服の整理、装うこと、衣の消費について概説する。

到達目標

中学校、高等学校での指導を考慮し、次の事項に関して教育現場で活かせる知識を得る。
(1)被服生活文化　(2)被服素材と着心地　(3)被服整理　(4)装うこと　(5)衣の消費

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	
レポート課題	30%	民族服、新しい素材、使用洗剤の品質表示調査
上記以外		

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価の対象にしない。

授業外学習

配布プリントに目を通し、理解を深める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	被服学							担当教員	道明　美保子※
講義コード	1600410	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	序説	被服学とは、着衣の起源および被服着用の目的と機能について概説し、被服学が支える衣生活教育を示す。
第2回	被服生活文化の移り変わり	日本の伝統的な服装である和服が、歴史の移り変わりの中でどのように様々に姿を変え、発展・変貌を遂げ、現代の姿へとつながったかを示す。
第3回	気候と民族服	各自、興味をもった民族服の素材、形態、着装法などを調べ、民族服がその国の風土や歴史をいかに反映しているか等を発表する。
第4回	着心地と素材①	着心地のよい被服とは、人体の変形と被服、人体の生理と被服、衣服に要求される性能、体温調節と衣服
第5回	着心地と素材②　衣服気候と快適性	衣服気候、快適性の条件、皮膚面に関わる性質、繊維の種類
第6回	着心地と素材③　被服材料	繊維の形状と構造、新しい素材、糸、織物 各自、新しい素材を調べ、次回発表する。
第7回	着心地と素材④　編み物、繊維素材への付加価値の付与	新しい素材について発表 編み物の種類と性能、仕上げ加工、改質加工
第8回	被服の整理①洗浄による機能性の回復	人体の汚染、汚れと被服（汚染付着の機構、着用による機能の低下）、水系洗浄、界面活性剤の特性（各自が使用している洗剤についての理解を深める）
第9回	被服の整理②商業クリーニング	水系洗浄、非水系洗浄、ウエットクリーニング等 被服洗浄と水環境
第10回	被服の整理③　漂白、増白、しみぬき	漂白、増白、しみぬき法を概説する。
第11回	被服の整理④　被服の機能性保持と保管	保管環境と機能の低下、機能性保持のための保管環境
第12回	装うこと①	役割とライフスタイル、人間を変える装い、装う心
第13回	装うこと②	流行と衣生活、人生の節目と衣、衣生活の約束こと
第14回	衣の消費	衣服選択と表示、消費者クレーム、被服の安全性、衣料障害
第15回	被服の廃棄と再利用	廃棄の理由、再利用の方法、被服リサイクルの必要性

担当者から一言

講義名	服飾製作実習							担当教員	法月　紀江※
講義コード	1600420	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

《日常生活に役立つ被服製作》の指導に必要な　基礎知識・技術を習得する。

自身の為の被服製作実習を通して
・被服の媒体である【身体】の認識
・被服の素材である【布】についての知識

・製作の手順・用具の扱い方を学ぶ

到達目標

【布】の扱いを通して　その特質の理解・縫製の基礎技術を身に付け　日常生活に於いての工夫する能力を促す

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	５０	製作物完成ごとに手順のレポートを宿題とします。図などを取り入れて　わかりやすいものにする。
上記以外	５０	製作物に関する計画力・手順・かたずけなど

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	服飾製作実習							担当教員	法月　紀江※
講義コード	1600420	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	被服について	鉛筆による自画像を描き　身体と衣服について
第2回	布について	媒体である身体と布 布の特性
第3回	縫製の基礎	縫製の基礎である手縫い 縫製の初歩技術をサンプルに仕上げる
第4回	ブラウスデザイン	布の造形の可能性を楽しむ
第5回	製図	直線断ちの囲み製図
第6回	裁断	縫い代を含め裁断
第7回	縫製	基本的には手縫いでも仕上げられるものですが、直線部分はミシンを使用して時間短縮をはかる。とする。
第8回	縫製	簡単なものであるが、工夫次第で展開が望める。デザイン時間が短いので制作しつつ工夫していきたい。
第9回	縫製	衿廻り
第10回	縫製	見ごろ
第11回	縫製	袖付け
第12回	縫製	縫い代始末 行く通りかの縫い代始末を習得する。
第13回	縫製	縫い代始末
第14回	縫製	装飾類
第15回	合評・まとめ	発表 まとめ

担当者から一言
ブラウスを製作します。既存の物での不満点・工夫したい点についてあげておく。使用したい布があれば持参する。（薄手の綿布・柄物可　用尺：２メートル）

講義名	保育学/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600440	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

「保育」と似た言葉に「育児」という言葉がある。一般的に子どもを育てることは「育児」と言われるが、ここで言う「子ども」とは乳幼児期の子どもであり、「育児」とは乳幼児を育てることを意味し、家庭において多くの場合、母親がその役割を担うものとされている。それに対して「保育」は、家庭の育児を補う場で行われる育児をさしている。現在の日本において乳幼児期の子どもが通う場は、保育所、幼稚園、認定こども園の3種類である。それぞれ所轄する官庁が保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省、認定こども園は厚生労働省と文部科学省の両省であり、保育所は子守的な機関、幼稚園は教育機関、認定こども園がその中間として考えられ、「保育」は「教育」と対立的な概念とみなされる傾向にあった。しかし、『保育所保育指針』に保育所は「養護」と「教育」を一体的に行うものと定義されているように、「保育」は「教育」と対立する概念ではなく、「乳幼児期の発達を保障するための教育」と考えられる。つまり、「保育学」とは「乳幼児期の発達保障に資するための学問」なのである。
本授業においては、次の3点を取り上げる。第一に乳幼児期の発達、第二に保育の歴史と制度、最後に保育内容と保育方法の3点である。
第一の乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
第二の保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
最後の保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

到達目標

（1）乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
（2）保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
（3）保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

この授業を通して、家庭科教師としてどのような授業内容を展開することが中・高校生にとって意義のあることなのかを考えて欲しい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	５０	
上記以外	５０	

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	保育所保育指針		フレーベル館	978-4-577-81241-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	保育学/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600440	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	本授業についてのねらいや目的、予定（シラバス参照）について解説し、15回の授業の見通しを立てることを第一の課題とする。次に「保育学」をはどのような学問であるのか理解することを目的と
第2回	発達観	保育するものがどのような発達観をもっているかにより、子供の見方が異なり、保育の仕方が変わってくる。子どもを一人の人間として育てるには、子どもの「育つ力」を理解し、その発達を援助
第3回	胎児と新生児の発達	授業の内容は３点ある。まず胎児期の発達である。人は胎児期にも発達し誕生する。その過程の理解はその後の発達を考える上で大変重要である。次に新生児期の身体的特徴である。成熟した新生児
第4回	乳幼児期の身体発達	乳幼児期の発達について３つの視点から概説する。まず身体の発達である。出生から成人までの発育の仕方は臓器によって異なり、その様相を説明する。次に生理的特徴である。最後に発達の評価で
第5回	乳幼児期の運動発達と欲求	２つのテーマで授業を行う。まず、乳幼児期の運動発達である。子どもは一年の間に、歩き、物をつまめるようになる。その変化について詳細にみる。次に欲求である。欲求の充足は子どもが健康に
第6回	人間関係の中で育つもの	他者の存在の意義を考えていく。その視点は、情緒の発達、言葉の発達、愛着の発達の３点である。
第7回	発達の個別性と保育	発達の方向性と順序性には個人差はないが、その速さは人によって違っている。平均的な発達を知っておくことはではあるが、それにとらわれすぎ、「〇〇才だからこうあるべきだ」という考え
第8回	保育に関わる法律や制度	児童に関する法律には児童福祉法・母子および寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・児童扶養手当法、児童虐待防止法などがある。それらについて簡単な説明を行う。また、児童福祉のための機関
第9回	保育の思想、歴史ー諸外国について	現代の保育にも大きな影響を与えていると考えられるルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテソーリーらの思想を知ることにより、「子ども観」　について考える。
第10回	保育の思想、歴史ー日本について	現在、乳幼児期の子どもが通うところは、保育所、認定こども園、幼稚園の３種類である。その成立の歴史を見るとこの３つに分かれていることの意味が見えてくる。日本の保育史を紹介する。
第11回	保育の内容	保育内容は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」によると、健康、人間関係、環境、言葉、表現の５つの領域からなっている。その各領域について簡単に説明し、小学校教育との接続について考
第12回	保育技術―手遊び,紙芝居、絵本―	保育の中でよく使われる「手あそび」を学ぶ。また、保育教材としての紙芝居や絵本の読み方や子どもへの与え方の解説を行う。
第13回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第14回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第15回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。

担当者から一言

講義名	保育学Ａ/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600441	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA218								

授業概要

「保育」と似た言葉に「育児」という言葉がある。一般的に子どもを育てることは「育児」と言われるが、ここで言う「子ども」とは乳幼児期の子どもであり、「育児」とは乳幼児を育てることを意味し、家庭において多くの場合、母親がその役割を担うものとされている。それに対して「保育」は、家庭の育児を補う場で行われる育児をさしている。現在の日本において乳幼児期の子どもが通う場は、保育所、幼稚園、認定こども園の3種類である。それぞれ所轄する官庁が保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省、認定こども園は厚生労働省と文部科学省の両省であり、保育所は子守的な機関、幼稚園は教育機関、認定こども園がその中間として考えられ、「保育」は「教育」と対立的な概念とみなされる傾向にあった。しかし、『保育所保育指針』に保育所は「養護」と「教育」を一体的に行うものと定義されているように、「保育」は「教育」と対立する概念ではなく、「乳幼児期の発達を保障するための教育」と考えられる。つまり、「保育学」とは「乳幼児期の発達保障に資するための学問」なのである。
本授業においては、次の3点を取り上げる。第一に乳幼児期の発達、第二に保育の歴史と制度、最後に保育内容と保育方法の3点である。
第一の乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
第二の保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
最後の保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

到達目標

（1）乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
（2）保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
（3）保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

この授業を通して、家庭科教師としてどのような授業内容を展開することが中・高校生にとって意義のあることなのかを考えて欲しい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	５０	
上記以外	５０	

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	保育所保育指針		フレーベル館	978-4-577-81241-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	保育学Ａ/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600441	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA218								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	本授業についてのねらいや目的、予定（シラバス参照）について解説し、15回の授業の見通しを立てることを第一の課題とする。次に「保育学」をはどのような学問であるのか理解することを目的と
第2回	発達観	保育するものがどのような発達観をもっているかにより、子供の見方が異なり、保育の仕方が変わってくる。子どもを一人の人間として育てるには、子どもの「育つ力」を理解し、その発達を援助
第3回	胎児と新生児の発達	授業の内容は３点ある。まず胎児期の発達である。人は胎児期にも発達し誕生する。その過程の理解はその後の発達を考える上で大変重要である。次に新生児期の身体的特徴である。成熟した新生児
第4回	乳幼児期の身体発達	乳幼児期の発達について３つの視点から概説する。まず身体の発達である。出生から成人までの発育の仕方は臓器によって異なり、その様相を説明する。次に生理的特徴である。最後に発達の評価で
第5回	乳幼児期の運動発達と欲求	２つのテーマで授業を行う。まず、乳幼児期の運動発達である。子どもは一年の間に、歩き、物をつまめるようになる。その変化について詳細にみる。次に欲求である。欲求の充足は子どもが健康に
第6回	人間関係の中で育つもの	他者の存在の意義を考えていく。その視点は、情緒の発達、言葉の発達、愛着の発達の３点である。
第7回	発達の個別性と保育	発達の方向性と順序性には個人差はないが、その速さは人によって違っている。平均的な発達を知っておくことはではあるが、それにとらわれすぎ、「〇〇才だからこうあるべきだ」という考え
第8回	保育に関わる法律や制度	児童に関する法律には児童福祉法・母子および寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・児童扶養手当法、児童虐待防止法などがある。それらについて簡単な説明を行う。また、児童福祉のための機関
第9回	保育の思想、歴史ー諸外国について	現代の保育にも大きな影響を与えていると考えられるルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテソーリーらの思想を知ることにより、「子ども観」　について考える。
第10回	保育の思想、歴史ー日本について	現在、乳幼児期の子どもが通うところは、保育所、認定こども園、幼稚園の３種類である。その成立の歴史を見るとこの３つに分かれていることの意味が見えてくる。日本の保育史を紹介する。
第11回	保育の内容	保育内容は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」によると、健康、人間関係、環境、言葉、表現の５つの領域からなっている。その各領域について簡単に説明し、小学校教育との接続について考
第12回	保育技術―手遊び,紙芝居、絵本―	保育の中でよく使われる「手あそび」を学ぶ。また、保育教材としての紙芝居や絵本の読み方や子どもへの与え方の解説を行う。
第13回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第14回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第15回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。

担当者から一言

講義名	保育学Ｂ/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600442	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA219								

授業概要

「保育」と似た言葉に「育児」という言葉がある。一般的に子どもを育てることは「育児」と言われるが、ここで言う「子ども」とは乳幼児期の子どもであり、「育児」とは乳幼児を育てることを意味し、家庭において多くの場合、母親がその役割を担うものとされている。それに対して「保育」は、家庭の育児を補う場で行われる育児をさしている。現在の日本において乳幼児期の子どもが通う場は、保育所、幼稚園、認定こども園の3種類である。それぞれ所轄する官庁が保育所は厚生労働省、幼稚園は文部科学省、認定こども園は厚生労働省と文部科学省の両省であり、保育所は子守的な機関、幼稚園は教育機関、認定こども園がその中間として考えられ、「保育」は「教育」と対立的な概念とみなされる傾向にあった。しかし、『保育所保育指針』に保育所は「養護」と「教育」を一体的に行うものと定義されているように、「保育」は「教育」と対立する概念ではなく、「乳幼児期の発達を保障するための教育」と考えられる。つまり、「保育学」とは「乳幼児期の発達保障に資するための学問」なのである。
本授業においては、次の3点を取り上げる。第一に乳幼児期の発達、第二に保育の歴史と制度、最後に保育内容と保育方法の3点である。
第一の乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
第二の保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
最後の保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

到達目標

（1）乳幼児期の発達についてであるが、保育の対象である子どもたちの発達的な変化は人の一生の中で最も大きいものである。その様相を把握していなければ、必要な時期に必要な保育ができない。この授業を通して、子どもの身体的発達、情緒的発達、認知的発達などの知識を身に着けることを目的としている。
（2）保育の歴史と制度であるが、保育の思想や制度の変化などを通して保育環境の問題点を理解することを目的としている。
（3）保育内容と保育方法であるが、子どもを保育するにあたって知っておくべき保育教材や保育の方法について学ぶことを目的としている。

この授業を通して、家庭科教師としてどのような授業内容を展開することが中・高校生にとって意義のあることなのかを考えて欲しい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	５０	
上記以外	５０	

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	保育所保育指針		フレーベル館	978-4-577-81241-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	保育学Ｂ/							担当教員	吉村　啓子※
講義コード	1600442	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA219								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	本授業についてのねらいや目的、予定（シラバス参照）について解説し、15回の授業の見通しを立てることを第一の課題とする。次に「保育学」をはどのような学問であるのか理解することを目的と
第2回	発達観	保育するものがどのような発達観をもっているかにより、子供の見方が異なり、保育の仕方が変わってくる。子どもを一人の人間として育てるには、子どもの「育つ力」を理解し、その発達を援助
第3回	胎児と新生児の発達	授業の内容は３点ある。まず胎児期の発達である。人は胎児期にも発達し誕生する。その過程の理解はその後の発達を考える上で大変重要である。次に新生児期の身体的特徴である。成熟した新生児
第4回	乳幼児期の身体発達	乳幼児期の発達について３つの視点から概説する。まず身体の発達である。出生から成人までの発育の仕方は臓器によって異なり、その様相を説明する。次に生理的特徴である。最後に発達の評価で
第5回	乳幼児期の運動発達と欲求	２つのテーマで授業を行う。まず、乳幼児期の運動発達である。子どもは一年の間に、歩き、物をつまめるようになる。その変化について詳細にみる。次に欲求である。欲求の充足は子どもが健康に
第6回	人間関係の中で育つもの	他者の存在の意義を考えていく。その視点は、情緒の発達、言葉の発達、愛着の発達の３点である。
第7回	発達の個別性と保育	発達の方向性と順序性には個人差はないが、その速さは人によって違っている。平均的な発達を知っておくことはではあるが、それにとらわれすぎ、「〇〇才だからこうあるべきだ」という考え
第8回	保育に関わる法律や制度	児童に関する法律には児童福祉法・母子および寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・児童扶養手当法、児童虐待防止法などがある。それらについて簡単な説明を行う。また、児童福祉のための機関
第9回	保育の思想、歴史ー諸外国について	現代の保育にも大きな影響を与えていると考えられるルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテソーリーらの思想を知ることにより、「子ども観」　について考える。
第10回	保育の思想、歴史ー日本について	現在、乳幼児期の子どもが通うところは、保育所、認定こども園、幼稚園の３種類である。その成立の歴史を見るとこの３つに分かれていることの意味が見えてくる。日本の保育史を紹介する。
第11回	保育の内容	保育内容は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」によると、健康、人間関係、環境、言葉、表現の５つの領域からなっている。その各領域について簡単に説明し、小学校教育との接続について考
第12回	保育技術―手遊び,紙芝居、絵本―	保育の中でよく使われる「手あそび」を学ぶ。また、保育教材としての紙芝居や絵本の読み方や子どもへの与え方の解説を行う。
第13回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第14回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。
第15回	現場実習	現場での実習を通して保育を学ぶ。

担当者から一言

講義名	学校看護論							担当教員	八木　利津子※
講義コード	1600450	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義/		
ナンバリング番号	304TEA220								

授業概要

学校看護論は，教職課程に位置づけられた専門科目である．学校において必要とされる看護のみならず，学校保健活動の中核を担う養護教諭として必要となる「養護」全般についての大要と養護実践の理論と実際について学ぶ科目である．講義や演習を通じて，養護教諭の歴史や役割，職務に関する基本的な事項を学び，養護実践の基本的な方法について知識理解を深め，養護教諭としての専門性の基礎となる資質や能力を養うことをねらいとする．

到達目標

1．養護教諭の役割や職責についての理解を深め、理想とする養護教諭のイメージをつかむ。
2．保健管理や保健教育など養護実践を進める上で必要となる基本的・具体的な知識や技術を身につける。
３．保健室経営の方法がわかる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業時に課す課題，レポート，小テストにより総合的に評価を行う．

授業外学習

事前にテキストを読み，授業中に指示する課題やレポートに意欲的に取り組むこと．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	学校保健の課題とその対応	日本学校保健会		
2	児童生徒等の健康診断マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課		
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	学校看護論							担当教員	八木　利津子※
講義コード	1600450	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義/		
ナンバリング番号	304TEA220								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ，養護の概念	本講義のねらいと受け方，評価基準 養護の概念と養護教諭のイメージ
第2回	養護教諭の役割と職務内容	養護教諭の役割と職務内容，求められる資質・能力
第3回	養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷	学校看護婦から養護訓導、養護教諭へと続く養護教諭の歴史・制度の沿革と子どもの健康課題の変化
第4回	保健管理①救急処置	救急体制の確立 養護診断と救急処置
第5回	保健管理②救急処置演習	救急処置の事例検討
第6回	保健管理③健康診断	健康診断の計画・実施・評価 健康診断の事前事後措置、保健調査
第7回	保健管理④疾病予防	疾病の管理と指導
第8回	保健管理⑤健康観察と環境衛生	健康観察、保健情報の収集および、把握 学校環境衛生検査の実施・評価
第9回	保健管理⑥健康診断の演習	健康診断の模擬演習
第10回	健康相談	健康相談の対象と考え方・進め方
第11回	保健教育①	保健学習と保健指導の特質や内容、保健だよりや掲示物の作成の考え方、進め方
第12回	保健教育②	保健便りの作成・遂行
第13回	保健室経営と組織活動	学校保健の拠点としての保健室、保健室経営計画の立案・実施・評価／学校保健委員会の組織と活動
第14回	理想の保健室	理想とする保健室の立案
第15回	まとめ	養護実践の評価、なりたい養護教諭像

担当者から一言

講義名	学校保健論							担当教員	伊丹　君和／橋本　進一※／八木　利津子※
講義コード	1600460	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA221								

授業概要

学校保健論は，教職課程に位置付けられた専門科目である．学校保健は，地域保健，職域（産業）保健と並び公衆衛生の一分野を担っており，子どもが元気に学校生活を送れるよう日々の健康を守るだけでなく，子どもが自ら健康な生活を実践できるよう教育することにより，子どもの健康を他律的にも自律的にも保障し，その成長・発達を促す目的をもって行われる活動である．この授業では講義を中心に，現代の子どもの発達や健康の実情について理解を深めるとともに，保健管理や保健教育など学校保健に関する基本的な知識や考え方を身につけることをねらいとして行う．

到達目標

1．現代の子どもの健康問題の実情について理解を深める．
2．保健管理や保健教育など学校保健に関する基本的な知識や考え方を身につける．
3．養護教諭としての知識と資質を修得する．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	授業時に課す課題，レポートなどにより総合的に評価する．

授業外学習

事前にテキストを読み，授業中に指示する課題やレポートに意欲的に取り組むこと．　（八木）

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新訂 学校保健	門田新一郎/大津一義	大学教育出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

学校教育に関する基本的な事項を理解していること

履修資格

講義名	学校保健論							担当教員	伊丹　君和／橋本　進一※／八木　利津子※
講義コード	1600460	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304TEA221								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 学校保健の概念と構造及び沿革	本講義のねらいと受け方，評価基準 学校教育における学校保健の位置づけや意義，構成
第2回	学校保健に関わる法制度と組織	学校保健安全法を中心に学校保健に関わる法律の意義と概要 学校保健に携わる関係者とその役割
第3回	学童期の発育発達と健康，教職員の健康	子どもの発育発達，健康，体力の現状 教職員の健康実態とメンタルヘルス
第4回	健康状態の評価	健康診断，保健調査，健康相談，健康観察
第5回	健康状態の管理	心の健康とその対応、発達や行動上の課題と特別支援教育、疾病及び健康障害の管理と指導、感染症とその対応
第6回	健康を維持するための環境づくり	環境衛生
第7回	学校安全	学校安全の概念と構成，救急処置と危機管理
第8回	学校給食	食中毒・食物アレルギーへの対応と食育
第9回	学校保健計画と組織活動	学校保健計画の立案・実施・評価 学校保健委員会の組織と連携
第10回	児童・生徒の心身の発達と健康	児童・生徒の心身の発達と健康
第11回	健康診断	健康診断
第12回	救急処置	救急処置
第13回	疾病管理	心臓疾患，腎臓疾患，アレルギー疾患
第14回	感染症とその対策①	学校での感染症に関する法令，感染症への対応
第15回	感染症とその対策②	対策の概要，定期健康診断における結核検診，予防接種

担当者から一言

講義名	家庭電気・機械/							担当教員	堀江　健二郎※
講義コード	1600470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA125								

授業概要

家庭には多種・多様な電化製品が使用されています。また、自家用車をはじめとする機械製品も生活にはなくてはならないものとなっています。電気の分野においては、オール電化やＩＨ調理機器などの技術開発やソーラー発電などによる省エネルギー開発が進んでいます。機械の分野においてもハイブリッド車や電気自動車さらには電動アシスト自転車等環境への配慮および生活を便利に、より快適にする製品が生活の中に入り込んでいます。さらには、スマートフォンやタブレット端末の普及により情報化社会も急速に進化しています。このような、生活を便利に快適にする機器や製品の基礎知識を習得し、安全に正しい使用法を学ぶとともに、電機・機械・情報の各分野の基礎的知識と技術を学びます。

到達目標

家庭生活で使用されている機械や電気機器の仕組みを学び、常に安全に配慮した活用方法を身に着けさせ、知識と理解を深めさせる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０	実施する。
レポート課題	４０	適宜、課題レポートを作成し提出する。
上記以外	２０	グループワーク、発表。

課題レポートの未提出者は、評価対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて、授業開始前あるいは、事前に講義資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	家庭電気・機械/							担当教員	堀江　健二郎※
講義コード	1600470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204TEA125								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに・本講義内容のガイダンス	①家庭生活における身近な電気・機械にかかわる生活工学全般について興味・関心を持たせる。 ②講義の展開方法と目標について解説する。
第2回	機械の基礎（１）	機械の定義と歴史、機械の運動伝達および機械の要素(ねじ、ばね等)についての解説し、機械の基本を考えさせる。
第3回	機械の基礎（２）	機械材料と力学の基礎を解説し、機械要素の強度について考えさせる。
第4回	機械の基礎（３）	機械とエネルギーと家庭用燃焼器具についての解説し、熱エネルギーについて考えさせる。
第5回	機械の基礎（４）	家庭用ミシンおよび自家用車の基礎的な機構・構造などについて解説する。
第6回	機械の基礎（５）	自動車エンジンと自動車の構造について解説し、自動車のメンテナンスや正しい取り扱いについて考えさせる。
第7回	電気の基礎（１）	電気自動車とハイブリッド車およびこれからのエネルギーと環境について解説し、それらのテーマで討論をとおして考えを深める。（グループワークの活用・レポート提出）
第8回	電気の基礎（２）	電気エネルギーの発生と変換、電気の動力への変換と利用について解説する。
第9回	電気の基礎（３）	電気の熱への変換と利用と電気の光への変換について解説する。
第10回	電気の基礎（４）	電子機器の構造および屋内配線について解説する。
第11回	電気の基礎（５）	我が国エネルギー事情と対策について解説し、今後の電気エネルギーについて討論をとおして考えを深める。(グループワークの活用・レポート提出）
第12回	情報機器の基礎	コンピュータの機能と操作および２進数・１０進数と１６進数および論理回路について解説する。
第13回	情報技術とモラル	高度情報化社会の光と影について解説し、討論をとおして考えを深める。（グループワークの活用・レポート提出）
第14回	バイオミミクリーと生活	自然界に学ぶものづくりについて解説し、自己の考えをまとめる。（グループワークの活用・レポート提出）
第15回	講義のまとめ	本講義のまとめと今後の豊かな生活について、レポートまたは小論文により考えをまとめる。

担当者から一言

講義名	栄養教育実習・事前事後指導（4年次）							担当教員	山川　佐代子※／平木　敦子※／福井　雅英
講義コード	1600480	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	304TEA214								

授業概要

栄養教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価反省を大学において行う。

到達目標

栄養教育の内容の理解。授業実践力の向上。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	実習、事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	栄養教諭論-理論と実際-	金田雅代編著	建帛社	
2	食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

資格取得の手引きの３「各学部・学科・専攻における教育職員免許の取得について」の（４）「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	栄養教育実習・事前事後指導（4年次）							担当教員	山川　佐代子※／平木　敦子※／福井　雅英
講義コード	1600480	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	304TEA214								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	学校経営、教育事務一般に関する理論と実践について担当教諭から	小学校または中学校において、３回生後期から４回生前期に１週間の実習を行う。また、３回生のときに大学において事前指導、４回生のときに事後指導を行う。
第2回	児童生徒への個別的な相談指導の実習	
第3回	児童生徒への教科指導、特別活動指導等の実際、その理論と技法に	
第4回	食に関する指導の連携・調整の実習	
第5回	その他、実習校で計画された実習事項	

講義名	栄養教育実習・事前事後指導（3年次）							担当教員	山川　佐代子※／平木　敦子※／福井　雅英
講義コード	1600490	単位数	2	開講期	後期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	304TEA214								

授業概要

栄養教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価反省を大学において行う。

到達目標

栄養教育の内容の理解。授業実践力の向上。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	実習、事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	栄養教諭論-理論と実際-	金田雅代編著	建帛社	
2	食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

資格取得の手引きの３「各学部・学科・専攻における教育職員免許の取得について」の（４）「教育実習・事前事後指導について」を参照して、履修届けを出すこと。

履修資格

講義名	栄養教育実習・事前事後指導（3年次）							担当教員	山川　佐代子※／平木　敦子※／福井　雅英
講義コード	1600490	単位数	2	開講期	後期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	304TEA214								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	学校経営、教育事務一般に関する理論と実践について担当教諭から	小学校または中学校において、３回生後期から４回生前期に１週間の実習を行う。また、３回生のときに大学において事前指導、４回生のときに事後指導を行う。
第2回	児童生徒への個別的な相談指導の実習	
第3回	児童生徒への教科指導、特別活動指導等の実際、その理論と技法に	
第4回	食に関する指導の連携・調整の実習	
第5回	その他、実習校で計画された実習事項	

講義名	学校栄養指導論							担当教員	平木　敦子※／成田　幸子※／山川　佐代子※
講義コード	1600500	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業概要

管理栄養士免許に必要な科目を修得したことによって培われた栄養学の専門性に加えて、児童生徒の健全な心身の発達のため、さらには生涯を通じた健康づくりのために、食を通じた健康教育の重要性を理解し、教育者として食に関する指導（学校における食育）ができる能力を養う。

到達目標

（１）食に関する指導について、その基礎理論を理解する。
（２）栄養教諭の実践演習として、食に関する指導についての学習指導案を作成する。
（３）模擬授業、相互評価を通し、指導法や指導効果の向上を目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標の（１）から（３）はプレゼンテーション能力（４０%：各１３%)、学習指導案および模擬授業への取り組み（６０%：各２０%）で評価する。

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

第９回以降の実践演習に係る学習指導案の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	学校栄養指導論							担当教員	平木　敦子※／成田　幸子※／山川　佐代子※
講義コード	1600500	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別			
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	栄養教諭と食に関する指導	
第2回	食に関する指導に係る全体的な計画の作成	
第3回	給食の時間における食に関する指導のあり方	
第4回	教科等における食に関する指導のあり方（1）	家庭科、技術・家庭科
第5回	教科等における食に関する指導のあり方（2）	体育科、保健体育科その他教科
第6回	教科等における食に関する指導のあり方（3）	道徳、特別活動、総合的な学習の時間
第7回	児童生徒が楽しく学ぶ学習指導案・教材づくり、評価の考え方	
第8回	実践演習（1）	学習指導案づくり
第9回	実践演習（2）	学習指導案の発表・交流・相互評価
第10回	実践演習（3）	学習指導案の発表・交流・相互評価
第11回	実践演習（4）	模擬授業、評価、反省
第12回	実践演習（5）	模擬授業、評価、反省
第13回	実践演習（6）	模擬授業、評価、反省
第14回	実践演習（7）	よりよい学習指導案づくり
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	博物館学概論							担当教員	市川　秀之／亀井　若菜
講義コード	1600551	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR101								

授業概要

博物館の基本的な問題について講義する。博物館は社会教育施設であるとともに、研究機関としても重要な意味をもつ。博物館の目的、機能、現状、歴史などを講義し、調査研究、資料の整理と収集、公開展示、普及の基本的な考え方を解説する。

到達目標

（1）博物館の目的、機能、現状、歴史などについての基本的な知識の取得
（2）博物館を分析的に見学する能力の取得
（3）展示を主体的に構築する能力
（4）あるべき博物館像を自ら構築すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０	博物館の目的、機能、現状、歴史などについての基本的な知識が取得されているか否かを評価する
レポート課題	２０	レポートは2回。1回目は展示見学レポート（博物館について指定したテーマに基づいて見学する）、2回目は県大ミニ博物館の展示プランを提出
上記以外	４０	毎回提出するレスポンスカードにより授業の理解度を評価する

レポートを全部提出しないものは評価対象としない

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会	芙蓉書房出版	978-4-8295-0551-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメを配布する

前提学力等

特になし。2年次での履修が望ましい。他の博物館関係授業は特別な理由がない場合にはこの授業の履修を前提とする。

履修資格

講義名	博物館学概論							担当教員	市川　秀之／亀井　若菜
講義コード	1600551	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	博物館の目的と機能	授業の進め方について説明・博物館の目的、について講義
第2回	学芸員１	学芸員をめぐる現在の状況・博物館資料の収集と保管・育成、について講義
第3回	学芸員２	資料の調査、研究・展示、普及、教育、について講義
第4回	博物館と文化財保護１	文化財保護の流れ・文化財保護法の制定と経緯、について講義
第5回	博物館と文化財保護２	埋蔵文化財・文化財概念の拡大・世界遺産・博物館における文化財保護、について講義
第6回	自然系博物館	自然系博物館の流れ・産業系博物館・自然保護と博物館、について講義
第7回	博物館と教育	学校と博物館の関係・博物館の取り組み・社会教育と生涯学習・博物館における普及、教育活動、について講義
第8回	博物館と社会福祉	博物館のユニバーサルデザイン化・バリアフリー・触れる展示・回想法、などについて講義
第9回	動物園・水族館	前近代の歴史・前近代の動物園・近現代の水族館・近年の変化・環境とのかかわり、について講義
第10回	博物館の課題と可能性	博物館をめぐる現状・博物館の連携・エコミュージアム、について講義
第11回	博物館の歴史１	欧米の博物館１
第12回	博物館の歴史２	欧米の博物館２
第13回	博物館の歴史３	日本の博物館１
第14回	博物館の歴史４	日本の博物館２
第15回	博物館の歴史５	アジアの博物館

担当者から一言

講義名	博物館資料論							担当教員	東　幸代／上町　達也／浦部　美佐子
講義コード	1600552	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR102								

授業概要

博物館においては調査研究活動が必須要件となる。調査研究活動の意義と内容を明らかにして、その成果を社会に還元する必要性について述べる。また、博物館資料は多種多様である。博物館資料の意義・種類およびその資料化の過程を詳述するとともに、博物館資料の収集・整理・活用について具体的にみていく。

到達目標

1.博物館における調査研究活動を理解する。
2.博物館資料の収集、整理保管などに関する理論・方法を習得する。
3.博物館資料に関する基礎的能力を養う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	小テスト4回(各回25%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学		芙蓉書房	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜資料プリントも配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	博物館資料論							担当教員	東　幸代／上町　達也／浦部　美佐子
講義コード	1600552	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	博物館における調査研究活動の意義	博物館における調査研究活動の意義と必要性
第2回	自然系資料の意義	生物分類学における種の概念と標本の役割
第3回	自然系資料の整理　生物分類の基礎	新種記載の条件と社会における分類学の必要性
第4回	自然系資料の資料化（1）	学名のしくみと博物館における自然史系標本管理、小テスト
第5回	自然系資料の種類	自然系資料の種類と意義
第6回	自然系資料の資料化(2)	植物標本の作成と活用
第7回	自然系資料の活用	博物館の自然系資料を活用した研究活動例､小テスト
第8回	文献・美術資料の意義	文献・美術資料の有する社会的意義
第9回	文献・美術資料の種類	文献・美術資料の具体例とその評価
第10回	文献・美術資料の資料化	資料化の重要性とその手法
第11回	文献・美術資料の活用	文献・美術資料のもつ可能性とその活用方法、小テスト
第12回	考古・民俗資料の意義	考古・民俗資料の有する社会的意義
第13回	考古・民俗資料の種類	考古・民俗資料の具体例とその評価
第14回	考古・民俗資料の資料化	資料化の重要性とその手法
第15回	考古・民俗資料の活用	考古・民俗資料のもつ可能性とその活用方法、小テスト

担当者から一言

講義名	博物館資料保存論							担当教員	野間　直彦／東　幸代／市川　秀之／ 金尾　滋史※／戸田　孝※／橋本　道範※／ 八尋　克郎※／横田　尚美
講義コード	1600553	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR202								

授業概要

博物館の重要な機能は博物館資料を後世に伝えることである。この授業では博物館資料の保存および博物館における保存・展示環境、環境や景観と博物館、エコミュージアムなどについての基礎知識を講義する。琵琶湖博物館において学芸員から講義を受ける２日間の集中講義を含む。

到達目標

博物館資料の保存に関する基礎的知識を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	講義内容の理解度を基準に評価する。
上記以外	80	レスポンスカードの評価。講義内容の理解度を基準に評価する。

授業外学習

適宜課し、授業中に指示する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学		芙蓉書房出版	
2	博物館でまなぶ―利用と保存の資料論		東海大学出版会	
3				

前提学力等

博物館学概論、博物館資料論を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	博物館資料保存論							担当教員	野間　直彦／東　幸代／市川　秀之／ 金尾　滋史※／戸田　孝※／橋本　道範※／ 八尋　克郎※／横田　尚美
講義コード	1600553	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、博物館資料保存の目的と意義	講義全体の進め方を説明する。 博物館の機能の中で重要な位置を占める資料保存について、その概要を講義する。
第2回	エコミュージアム等の活動と地域資源の保存・活用	エコミュージアム（和訳は「生活・環境博物館」など）の発生と日本での受容・変遷を実例をもとに講義する。関連して、環境と文化に関わるさまざまな地域資源の保存と活用について講義する。
第3回	景観・歴史的環境の保存と活用	景観と歴史的環境の考え方、保護のための制度、保存と活用の取り組みの実例について講義する。
第4回	生物多様性の保全・地球環境問題への対応と博物館	現代の二大環境問題である生物多様性の喪失と地球温暖化に対応して、博物館でどのように研究・提案・普及などの取り組みが行われているか講義する。
第5回	木製品・石製品の保存処理	出土した木製品・石製品の保存処理およびその保管について講義する。
第6回	布製品の保存	西洋の衣装とテキスタイルを中心に、その特徴と保存修復について、実演を交えながら講義する。
第7回	紙製品の補修と保存	紙製品の特徴とその補修方法、および保存方法について講義する。
第8回	資料の保全1	資料の状態調査・現状把握の考え方について講義する。
第9回	資料の保全2	資料の修復・修理・梱包・輸送の方法について講義する。
第10回	資料の保全3	生物資料の育成の方法について講義する。
第11回	博物館資料の保存環境1	資料保存の諸条件（温度、湿度、光、振動、大気など）とその影響について講義する。
第12回	博物館資料の保存環境2	生物被害の実態、その防除方法の変遷、IPM（総合的有害生物管理）について講義する。
第13回	博物館資料の保存環境3	災害の防止と対策について講義する。火災、地震、津波、洪水、盗難などの実例に基づき講義する。
第14回	博物館資料の保存環境4	伝統的保存方法について講義する。
第15回	博物館資料の保存環境5	収蔵、展示などの保存環境について総合的に講義する。
担当者から一言		

講義名	博物館情報・メディア論							担当教員	未定＊
講義コード	1600554	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR104								

授業概要

人間の知覚のあり方を踏まえて，博物館におけるメディアの活用を考える。

人が何かを見る・聞く時，外の世界がそのまま脳に映されているのではなく，さまざまな編集・加工がおこなわれている。前半では，視覚聴覚の仕組みとさまざまな錯覚を，メディアを用いて体験しながら，見る・聞くということの不思議を学ぶ。さらに，そのような知覚の不思議を探求するものとして芸術作品を見直し，ヴァーチャルミュージアム等のメディア活用の可能性を考える。

後半は，博物館におけるメディアテクノロジーの活用方法，またデジタル映像の処理やデータベースのあり方について，実際の博物館の事例を参照しながら学ぶ。著作権・個人情報の保護とその扱いについて学ぶ。

到達目標

(1)知覚の複雑さを認識し，創作物の展示やメディア利用にあたって人間の知覚を考慮することができるようになる。
(2)博物館におけるメディアテクノロジーの活用やデジタルデータの扱い，データベースの作り方について，現状と課題を理解する。
(3)知的財産の取り扱いに関するきまりを理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	講義の重要なポイントへの理解度・定着度を評価する。
レポート課題	20	講義の中で小レポートを課し，内容の理解にもとづいた考察を評価する。
上記以外		

授業外学習

講義で紹介する錯覚体験やメディア利用のWeb上の資料を閲覧・体験すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	博物館学III	大堀哲・水嶋英治	学文社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知覚を刺激するミュージアム	平井康之他	学芸出版社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	博物館情報・メディア論							担当教員	未定＊
講義コード	1600554	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	204CUR104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	博物館情報・メディア論とは	メディアを活用した博物館の事例を紹介し，現状と課題を示す。その上で講義の概要を説明し，基本的な考え方と目標を述べる。
第2回	視覚の基本と錯覚	物の形や色などを受容してから脳が認識するまでの流れを解説する。そして，その過程で起きるさまざまな錯覚を紹介し，講義中にメディアを用いて錯覚体験を提供する。たとえば存在しない線分を
第3回	色知覚と色の成り立ち	色の見え方についても，視覚の基本的な流れと錯覚を学び，いくつか錯覚体験を提供する。色の成り立ちや照明についても知覚と関連付けて解説する。
第4回	異なる知覚	色知覚にはいくつかの種類があり，多数派の見え方とは異なる見え方をしている人がいる。色知覚を中心に見え方の違いを解説し，またデモを用いて示す。さらに，赤ちゃんや動物の知覚を参照し，人
第5回	知覚とバリアフリー	異なる知覚のあり方を踏まえて，バリアフリーへの取り組みを紹介する。講義の内容の一部を振り返る小レポートを実施する予定。
第6回	知覚と創作	芸術作品における視覚的な効果の使われ方，鑑賞する人の知覚との関係について学ぶ。さまざまな作品や創作者の言葉を通じて，芸術作品における知覚的探求の内容を考察する。
第7回	知覚とメディア	知覚の特性を考慮しつつ，芸術作品とそれが置かれる場やメディアとの関係を考える。古典的な作品からインスタレーション等の現代的な作品，さまざまなメディアを用いる科学博物館等の取り組みを
第8回	博物館における情報・メディアの意義	博物館そのものがメディアである，という考え方があるように，博物館は情報を伝達するためのさまざまな工夫をおこなっている。メッセージを伝えるメディア，知覚を刺激するメディアとしての博物
第9回	資料のドキュメンテーション	博物館で収蔵する資料について記述する「ドキュメンテーション」で必須の内容や，ドキュメンテーションの規格について解説する。
第10回	データベース	博物館では，デジタル化を含めたデータベースの作成が課題となっている。データベース化の現状と課題を，実例を紹介しながら解説する。
第11回	映像の制作と技術の活用	映像制作は，身近な機材でできるようになっている一方，見えにくいものを「可視化」する工夫や，高精細な３D映像のようなテクノロジーの活用など，さまざまなレベルがある。映像制作の実際につ
第12回	情報の発信	博物館は，インターネットや紙媒体などを利用して，収蔵資料や研究内容について発信する必要がある。情報発信の考え方とその実際について解説する。
第13回	知的財産権	文書・映像等の創作物の作者には，著作権という権利が与えられる。著作権の内容について，また資料を利用する際に許諾を得る方法について解説する。
第14回	まとめと復習	博物館では個人の情報を収集し利用する場合がある。個人情報とは何か，またどのように取り扱うべきかについて解説する。
第15回	テスト	14回までの内容を振り返るペーパーテストをおこなう。

担当者から一言
美術館や自然科学博物館・民族博物館などの博物館を訪れて，技術の使われ方や鑑賞者への案内の工夫などを見てくることをおすすめします。

講義名	博物館教育論							担当教員	斎藤　修啓※
講義コード	1600555	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR204								

授業概要

博物館が行う事業の中で教育普及という事業は、単にひとつの機能というだけではない。特に利用者の立場からすれば、すべての博物館の事業は、教育普及機能との関わりが見られる。この授業では、博物館教育の理論や歴史をふまえたうえで、具体的な事例について検討し、学びの場としての博物館はいかにあるべきかを考える。

到達目標

(1)博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得する。
(2)博物館の教育機能に関する基礎的事項を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	与えられた課題について、授業の内容や先行研究等を参照し、十分に考察・記述できているかを評価する。
上記以外	60	授業内での課題・小レポート60%。 与えられた課題について、十分に考察・記述できているかを評価する。

授業外学習

事前にいくつかの博物館の教育事業を体験しておくことが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会	芙蓉書房出版	978-4-8295-0551-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

博物館学概論を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	博物館教育論							担当教員	斎藤　修啓※
講義コード	1600555	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	現代社会での博物館の役割	現代社会での博物館の役割について学ぶ
第2回	博物館事業における博物館教育の役割	博物館事業における博物館教育の役割について、他の機能と関連づけながら学ぶ
第3回	博物館教育の理論と歴史	博物館教育の理論と歴史について、とくに日本のものについて学ぶ
第4回	博物館教育に関わる人々	博物館教育に関わる人々について学ぶ
第5回	自由な学びの場としての博物館	社会教育の機関であり、生涯学習の場としてその役割が期待されている側面について学ぶ
第6回	学校教育と博物館	学校教育と博物館との連携について、事例を取り上げながら学ぶ
第7回	子どもたちと博物館	子どもたちの博物館利用や、子ども博物館について学ぶ
第8回	博物館ボランティアと友の会	博物館ボランティアと友の会活動の実態について学ぶ
第9回	博物館教育の実践例	博物館教育の実践例について学ぶ
第10回	博物館と地域社会	博物館と地域社会との連携について、事例を取り上げながら学ぶ
第11回	学芸員の仕事	学芸員の仕事について、とくに教育活動に注目して学ぶ
第12回	教育の視点で見た展示普及	教育の視点で見た展示普及について学ぶ
第13回	博物館教育の評価	博物館教育の評価について学ぶ
第14回	日本の博物館と海外の博物館	日本の博物館と海外の博物館について、事例を取り上げながら学ぶ
第15回	博物館教育の課題と展望	これまでの授業を振り返りつつ、博物館教育の課題と展望について考える

担当者から一言

講義名	博物館実習							担当教員	市川　秀之／東　幸代／上町　達也／ 浦部　美佐子／亀井　若菜／小泉　尚嗣／ 野間　直彦／原田　英美子
講義コード	1600556	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	404CUR301								

授業概要

近隣の博物館または出身府県の博物館において、博物館資料の取り扱いから展示の実現まで多様な実務について実習する。授業ではその準備として実務に必要な基本的事項について実習し、また事後には実習の成果を発表し反省点などをまとめる。

到達目標

（1）博物館の実務に必要な技術・知識の取得
（2）展示を実際に構築していく能力

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	４０	実習日誌（館務実習の成果）およびレポートの内容（見学など）を評価する。
上記以外	６０	ミニ博物館の内容・取り組み方・各実習での成果品の状況などを評価する

１回目の授業より一度でも無断での欠席・遅刻をした者は単位を認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするものは必ず事前に連絡すること。　また後期の1回目（月曜３・４限）のみ館務の事後学習として授業をおこなうのでかならず出席すること。

授業外学習

館務実習は博物館という職場にお邪魔して実習をさせていただいているという意識を強くもつこと。大学での授業はそのための準備でもあり、館務実習同様のモラルを求める。無断での遅刻・欠席などは厳禁である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

４回生、「博物館学概論」・「博物館資料論」・「博物館情報・メディア論」・「生涯学習論」を含む10単位以上の資格関係科目の単位取得者。
例外的に受講を認めることもあるが、かならず事前に担当教員に相談すること。

履修資格

講義名	博物館実習							担当教員	市川　秀之／東　幸代／上町　達也／ 浦部　美佐子／亀井　若菜／小泉　尚嗣／ 野間　直彦／原田　英美子
講義コード	1600556	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	404CUR301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、実習先割り振り、展示実習班分け	ガイダンス、実習先割り振り、展示実習班分けおよび展示テーマの決定
第2回	展示案作成、展示実習準備	ミニ博物館の展示準備を班ごとにおこなう
第3回	パンフレット・ポスター作成、展示実習準備	ミニ博物館の展示準備を班ごとにおこなう
第4回	展示品・キャプション作成、展示実習準備	ミニ博物館の展示準備を班ごとにおこなう
第5回	展示実習準備	ミニ博物館の展示準備を班ごとにおこなう
第6回	植物の標本製作法１	（野間）野外で植物（草本、木本）を採集し、おしば標本を作製、送風乾燥機にかける。図鑑を使って種を同定する。
第7回	展示架設実習（交流センター・多賀町博）	ミニ博物館の展示作業をおこなう
第8回	民具実習1	民具の調書作成をおこなう
第9回	展示架設実習（交流センター・多賀町博）	ミニ博物館の展示替えの作業をおこなう
第10回	植物の標本製作法２	（野間）乾燥したおしば標本を台紙に貼りつけ、ラベルを記入して完成させる。その種の利用法など人間との関わりを調査する。
第11回	（環境科学）植物のDNA解析１(人間文化）民具実習２	（環境科学・原田）DNAバーコーディング法による植物種の判別を行う (人間文化・市川）民具の調書作成と写真撮影をおこなう
第12回	（環境科学）植物のDNA解析２・（人間文化）古文書実習１	（環境科学・原田）DNAバーコーディング法による植物種の判別を行う （人間文化・東）古文書整理の作業内容把握とラベリングをおこなう
第13回	（環境科学）貝の標本作製 （人間文化）古文書実習２	（環境科学・浦部）貝の採集と種の同定・標本作成をおこなう （人間文化・東）古文書調書作成作業をおこなう
第14回	（環境科学）活断層のトレンチ調査とその模型作成	（環境科学・小泉）活断層の周辺に細長い溝（トレンチ）を掘って，活断層が過去のいつ頃に何回動いたか（地震を起こしたか）を調べるのが活断層のトレンチ調査である．この調査の概要について学
第15回	館務実習にむけて	館務実習への心構えなど

担当者から一言
授業や館務実習に際しては、実習にふさわしい服装・靴で出席すること。力仕事やはしごを用いた高所での作業、絵の具などによる汚れも考えられる。また資料を傷めるため、落ちやすい装飾品（ネックレス・ネクタイなど）の着用やマニキュア、香水などは認めない。

講義名	インターンシップＡ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601020	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR201								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で５日間以上９日間以下の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。
大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート　①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）　実習報告レポート　＋　できればＰＰ報告作成
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入企業等担当者の評価書

ガイダンス、事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。
スケジュール管理をすること

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップA							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601020	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップについて知る インターンシップの目的・意義と申込方法の理解　ガイダンスブックと応募票配付
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類受付（書類の点検・確認指導） 事前学習の方法指導とレポートの確認指導、事前研修の日程確認、保険指導
第3回	事前研修Ⅰ	事前研修Ⅰ（終日）就業体験、就職活動の前の社会人マナー講習 受入企業との就業体験前の連絡などの指導と確認
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験直前の指導、手続き関ｊ系と諸注意 実習日誌配付、記入についての指導、報告書・報告会の連絡
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習（５～９日間） 実習日誌の記入
第6回	報告書提出	実習終了後、報告レポートの作成提出 できれば、ＰＰ報告作成して提出
第7回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション インターンシップ体験報告、「就職」「仕事」についてグループディスカッション

担当者から一言
大学在学中に、就業体験できる貴重な機会である。企業について知ることができ、以後の就職活動の準備となる。

講義名	インターンシップＢ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601030	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR202								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で１０日間以上１４日間以下の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。
大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）　実習報告レポート　＋　できればＰＰ報告作成
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入企業等担当者の評価書

ガイダンス、事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。
スケジュール管理をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップＢ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601030	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップについて知る インターンシップの目的・意義と申込方法の理解　ガイダンスブックと応募票配付
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類受付（書類の点検・確認指導） 事前学習の方法指導とレポートの確認指導、事前研修の日程確認、保険指導
第3回	事前研修Ⅰ	事前研修Ⅰ（終日）就業体験、就職活動前の社会人マナー講習 受入企業との就業体験前の連絡などの指導と確認
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験直前の指導、手続き関係と諸注意 実習日誌配付、記入についての指導、報告書・報告会の連絡
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習（１０日～１４日間） 実習日誌の記入
第6回	報告書提出	実習終了後、報告レポート作成提出 できれば、ＰＰ報告作成して提出
第7回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション インターンシップ体験報告、「就職」「仕事」についてグループディスカッション

担当者から一言
大学在学中に、就業体験できる貴重な機会である。企業について知ることができ、以後の就職活動の準備となる。

講義名	インターンシップＥ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601033	単位数	3	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR203								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で１５日間以上の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。
大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う。１５日間以上のものを「中期インターンシップ」と言う。自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート　①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）実習報告レポート　＋　できればＰＰ報告作成
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入企業等担当者の評価書

ガイダンス、事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。
スケジュール管理をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

副専攻科目（地域学）の履修と合わせて受講する場合と
単独で「インターンシップＥ」を受講する場合がある。（いずれの場合も応募受付は、他のインターンシップと同様である。）

履修資格

講義名	インターンシップＥ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601033	単位数	3	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	303CAR203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップおよび中期インターンシップについて知る。 インターンシップの目的・意義と申込方法の理解、ガイダンスブックと応募票配付
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類受付（書類の点検・確認指導） 事前学習の方法指導とレポートの確認指導、事前研修の日程確認、保険指導
第3回	事前研修Ⅰ	事前研修Ⅰ（終日）就業体験、就職活動の前の社会人マナー講習 受入企業との就業体験前の連絡などの指導と確認
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験直前の指導、手続き関係と諸注意 実習日誌配付、記入についての指導、報告書・報告会の連絡
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習（１５日間以上） 実習日誌の記入
第6回	報告書提出	実習終了後、報告レポート作成提出 できれば、ＰＰ報告作成して提出
第7回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション インターンシップ体験報告、「就職」「仕事」についてのグループディスカッション

担当者から一言
大学在学中に就業体験できる貴重な機会である。１５日間の長期間を費やすことで、短期間のインターンシップに比べ、実習内容の豊富さと体験の深まりが得られる。

講義名	ボランティア活動（前期）							担当教員	福井　雅英／鵜飼　修
講義コード	1601060	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	103CAR101								

授業概要

【復興支援活動】
東日本大震災などの災害救助援助法が適用される災害に対する復興支援活動にボランティアとして従事したことを、大学が単位として認定します。
現地での活動経験は、自分自身のかけがえのない体験、様々な人とのつながりの創造になるとともに、単位認定により就職活動等での自己アピールのひとつとすることが可能です。
【学校ボランティア活動】
学校や教育委員会から要請のあった教育支援活動など教育現場等で行なうボランティア活動に対して単位を認定します。教員を目指す学生にとって、大学の早い時期から教育現場を体験しておくことは、子どもを理解したり、学校教育の状況を把握する貴重な機会となります。

＜受講の手順＞各書式は添付ファイル参照
①履修登録する

到達目標

・被災地域でボランティア活動を実践できる
・体験を通じた「つながり」が形成できる
・子どもとのふれあいを通じて、子どもとの関わり方を理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		＜ボランティア活動報告書の書式＞ Ａ４用紙で表題に「平成　年度 ボランティア活動報告書」と記載の上 １．　所属学部（研究科）学科（専攻）
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ボランティア活動（前期）							担当教員	福井　雅英／鵜飼　修
講義コード	1601060	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	103CAR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ボランティア活動	ボランティア活動の計画、実施、報告

担当者から一言

講義名	ボランティア活動（後期）							担当教員	福井　雅英／鵜飼　修
講義コード	1601070	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	103CAR101								

授業概要

【復興支援活動】
東日本大震災などの災害救助援助法が適用される災害に対する復興支援活動にボランティアとして従事したことを、大学が単位として認定します。
現地での活動経験は、自分自身のかけがえのない体験、様々な人とのつながりの創造になるとともに、単位認定により就職活動等での自己アピールのひとつとすることが可能です。
【学校ボランティア活動】
学校や教育委員会から要請のあった教育支援活動など教育現場等で行なうボランティア活動に対して単位を認定します。教員を目指す学生にとって、大学の早い時期から教育現場を体験しておくことは、子どもを理解したり、学校教育の状況を把握する貴重な機会となります。

＜受講の手順＞各書式は添付ファイル参照
①履修登録する

到達目標

・被災地域でボランティア活動を実践できる
・体験を通じた「つながり」が形成できる
・子どもとのふれあいを通じて、子どもとの関わり方を理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		＜ボランティア活動報告書の書式＞ Ａ４用紙で表題に「平成　年度 ボランティア活動報告書」と記載の上 １．　所属学部（研究科）学科（専攻）
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ボランティア活動（後期）							担当教員	福井　雅英／鵜飼　修
講義コード	1601070	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	103CAR101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ボランティア活動	ボランティア活動の計画、実施、報告

担当者から一言

講義名	地域行動論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1901010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

デザイン思考の理念・手法を用いた問題解決デザインのケースワークを通じて、様々な問題に創造的な解決策を提示する能力の修得を目指す。具体的には、デザイン思考が求められる社会的背景および、その理念と意義を理解し、具体的なケースを用いてデザイン思考の手法を理解し、自らが活用できるようワーキングを行い、課題に対して創造的な解決方法の提示を試みる。

到達目標

(1)デザイン思考の理念及び手法を理解している
(2)課題解決にデザイン思考等の手法を用いることができる
(3)課題解決にあたって、デザイン思考等の手法を用いて創造的な提案ができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	(1)デザイン思考の理念及び手法を理解している：ミニレポート50%
上記以外	50	(2)課題解決にデザイン思考の手法等を用いることができる：理解度確認中間ふりかえり20% (3)課題解決にあたって、デザイン思考等の手法を用いて創造的な提案ができる：30%

授業外学習

★授業は、毎回ワークシートを配布し、授業時間中に記入し提出する形で行います。
★成果物を作成するため時間外の活動が生じる場合があります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン著　千葉敏生訳	ﾊﾔｶﾜﾉﾝﾌｨｸｼﾞｮﾝ文庫	4150504075
2				
3				

★授業で貸し出しますが、自分で購入できる人は購入してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

★参考VTR（第1回の時に上映します）：https://www.ted.com/talks/tim_brown_urges_designers_to_think_big?language=ja

前提学力等

近江楽士（地域学）副専攻科目「地域診断法」、「システム思考法」を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	地域行動論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1901010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス：デザイン思考とは何か	デザイン思考のウォーミングアップ
第2回	デザイン思考を実践するポイントとは（第1章）	
第3回	ニーズを需要に変える方法（第2章）	
第4回	デザイン思考におけるプロセス（第3章）	
第5回	プロトタイプ製作の意義（第4章）	
第6回	デザイン思考の演習：課題の本質を考える～観察、洞察、共感	
第7回	デザイン思考の演習：課題解決の提案と発表・評価	
第8回	理解度確認中間ふりかえり	
第9回	問題解決デザインの事例とポイント　1	【2017年度実施・変更の可能性アリ】「夢のタネいろどり」上勝町　葉っぱビジネス
第10回	問題解決デザインの事例とポイント　2	【2017年度実施・変更の可能性アリ】海士町「島の幸福論」
第11回	問題解決デザインの事例とポイント　3	【2017年度実施・変更の可能性アリ】田舎の埋もれた宝を“デザイン”の力で輝かせる男！
第12回	問題解決デザインの事例とポイント　4	【2017年度実施・変更の可能性アリ】年商4000万円の農家続出　ニッポン農業の未来はココに！
第13回	問題解決デザインの事例とポイント　5	【2017年度実施・変更の可能性アリ】進化を続ける「道の駅」
第14回	問題解決デザインの提案作成	
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言
★デザインシンキング、問題解決デザインの手法は、どのような立場でも応用可能な思考方法です。変化する時代の中で、しなやかに生きていくための柔軟な思考方法を身につけましょう。

講義名	地域実践学Ⅰ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1901021	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域における情報発信にチャレンジする。
具体的には、対象とする地域団体（行政、企業、NPOなど）の要請を受け、情報誌等の企画・制作・発行を行う。情報発信における、企画、取材、編集・デザイン、校正、発行のノウハウを実践的に学修する。

・開講日程及び開講の形態はプロジェクトやチームの状況に合わせて相談しながら設定する。
・チームに分かれてのフィールドワークや制作・ワークショップ等を行う。
・優れた提案や企画については、連携企業や関係団体の支援を得ながら現実に事業化（起業支援・商品化等）することも想定している。
・以上の事を含めて詳細は年度当初に開催するガイダンスで説明する。

なお、授業計画は目安であり、状況に合わせて臨機応変に対応する。

到達目標

(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している
(2)地域との適切な対話が出来る。
(3)地域デザインのノウハウを用いることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：30% (2)地域との適切な対話ができる：40% (3)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物50%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

時間外の活動が生じる場合がある。
学外で行われる講座の聴講等、学外での授業がある。

履修資格

講義名	地域実践学Ⅰ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／森川　稔
講義コード	1901021	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：地域デザインとは	
第2回	コミュニケーションノウハウ1	
第3回	コミュニケーションノウハウ2	
第4回	構想ノウハウ1	
第5回	構想ノウハウ2	
第6回	実践ノウハウ1	
第7回	実践ノウハウ2	
第8回	中間ふりかえり	
第9回	地域デザインの提案（地域実践活動）1	地域団体と連携
第10回	地域デザインの提案（地域実践活動）2	地域団体と連携
第11回	地域デザインの提案（地域実践活動）3	地域団体と連携
第12回	地域デザインの提案（地域実践活動）4	地域団体と連携
第13回	地域デザインの提案（地域実践活動）5	地域団体と連携
第14回	地域デザインの提案の発表	地域団体と連携
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言

講義名	地域実践学Ⅱ/							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／森川　稔
講義コード	1901031	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域における居場所づくりにチャレンジする。超高齢化、人口減少社会における地域の活力創造のノウハウを実践的に学修する。具体的には地域の団体（自治体、企業、NPO等）と連携し、その要請に応える形でコミュニティ・カフェ等の居場所づくりを実践する。実践を通じて、地域との対話力、企画・提案力、実施ノウハウを学ぶ。

・開講日程及び開講の形態はプロジェクトやチームの状況に合わせて相談しながら設定する。
・チームに分かれてのフィールドワークや制作・ワークショップ等を行う。
・優れた提案や企画については、連携企業や関係団体の支援を得ながら現実に事業化（起業支援・商品化等）することも想定している。
・以上の事を含めて詳細は年度当初に開催するガイダンスで説明する。
以下の授業計画は目安。状況に応じて臨機応変に対応する。
受講生がこの取り組みを通じて起業することも推奨する。その場合は別途ノウハウを教授する。

到達目標

(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している
(2)地域と適切な対応を行うことが出来る
(3)地域デザインのノウハウを用いることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)地域デザインの理念及びノウハウを理解している：30% (2)地域と適切な対話を行うことが出来る：40% (3)地域デザインのノウハウを用いることができる：成果物30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

時間外の活動が生じる場合がある。
学外で行われる講座の聴講等、学外での授業がある。

履修資格

講義名	地域実践学II /							担当教員	上田　洋平／鵜飼　修／森川　稔
講義コード	1901031	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション：地域デザインとは	
第2回	コミュニケーションノウハウ1	
第3回	コミュニケーションノウハウ2	
第4回	構想ノウハウ1	
第5回	構想ノウハウ2	
第6回	実践ノウハウ1	
第7回	実践ノウハウ2	
第8回	中間ふりかえり	
第9回	地域デザインの提案（地域実践活動）1	地域団体等と連携
第10回	地域デザインの提案（地域実践活動）2	地域団体等と連携
第11回	地域デザインの提案（地域実践活動）3	地域団体等と連携
第12回	地域デザインの提案（地域実践活動）4	地域団体等と連携
第13回	地域デザインの提案（地域実践活動）5	地域団体等と連携
第14回	地域デザインの提案の発表	地域団体等と連携
第15回	ふりかえりとまとめ	

担当者から一言